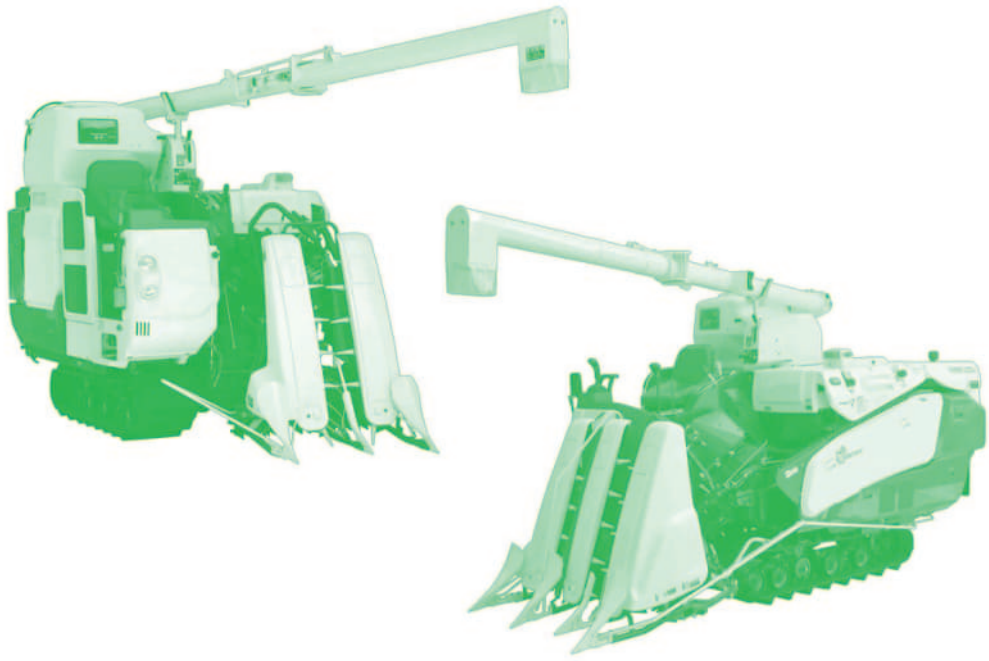
コンバイン

取扱説明書

V220・321・323



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに，この取扱説明書をよくお読みいただき，安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は５ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，つぎのように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，つぎのように構成されています。まず，**安全作業のために** からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-24)

（安全作業説明編）

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．機械の使用目的について…… 1
3．仕様（装備）について…… 2
4．用語について…… 3
5．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき……5

1．各部の名称…… 5
1．３条型グレンタンク仕様…… 5
2．２条型ホッパ仕様…… 6
2．運転装置の取扱い…… 7
1．スイッチ・計器関係…… 7
2．ペダル・レバー関係……15

運転のしかた……24

1．運転まえの点検……24
2．エンジンの始動と停止……26
1．エンジン始動のしかた……26
2．エンジン停止のしかた……27
3．走行・停車のしかた……27
1．走行のしかた……27
2．停車のしかた……29
4．自動車への積込み・積降ろし……30
1．自動車・アユミについて……31
2．機械の積込み要領……31
5．ほ場への出入り……32
1．ほ場への出入りのしかた……32

作業のしかた……33

1．作業まえの準備……33
1．作物の条件について……33
2．ほ場の条件について……33
3．ほ場の準備……34
4．機械の準備……34
2．刈取り作業のしかた……38
1．刈取り操作の手順……38
2．作業速度の選びかた……41
3．刈取部スライドの使い方［**2条型**］……42
4．ほ場の刈取り手順……43
5．モミ袋の交換のしかた［**ホッパ仕様**］…47
6．こく粒の排出操作方法
［**グレンタンク仕様**］……47
7．グレンタンク補助樋口の取扱い
［**グレンタンク仕様**］……50
8．ニューツインハーモニー……50
9．リフトシャットの取扱い……51
10．トルクリミッタの取扱い……52
11．手こぎ作業……53
12．エンジン停止スイッチの取扱い……54
13．エンジン自動停止の取扱い……54
14．夜間作業……55
15．刈取り作業終了後の取扱い……56
16．警報装置について……57
3．ワラ処理部の取扱い……58
1．カッタ作業……58
2．排ワラ作業……59
3．中割り作業……59

自動装置について……60

1．こぎ深さ自動制御……60
1．運転装置……60
2．こぎ深さセンサの調整……60
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……61
2．方向自動制御［ディーラーオプション］…61
1．運転装置……61
2．作業のしかた……61
3．方向自動制御の使えない条件……62
3．刈高さポジションコントロール……62
1．運転装置……62
2．自動での作業のしかた……63
3．手動での作業のしかた……63
4．排出オーガ自動制御
［グレンタンク仕様］……63

1．運転装置……64
5．送じん量自動調節……64
6．マイコン（マイクロコンピュータ）……65
手入れのしかた……**66**
1．定期点検整備……66
「定期点検整備表」……66
2．給油・注油・給水のしかた……68
「給油・注油・給水表」……69
1．燃料の補給……70
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換……71
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……73
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…75
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換…75
6．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…77
7．搬送HSTギヤケースのオイルの点検・交換…77
8．グレン入力ギヤケース**「グレンタンク仕様」**……78
9．トルクリミッタケース［**3条型**］……78
10．スターホイルギヤケース［**2条型**］……79
11．集中注油タンク……79
12．ローラ，アイドラのグリスアップ……80
13．こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンの注油……80
14．排ワラチェンの注油……80
15．その他の注油箇所……81
16．集中注油の使いかた……82
3．各部の点検と掃除のしかた……84
1．ラジエータ吸気部の掃除……84
2．エアクリーナの掃除……84
3．燃料フィルタの掃除・交換……85
4．燃料のエア抜きのしかた……86
5．ヒューズの交換……87
6．電気配線の点検と掃除……89
7．バッテリの点検と充電……89
8．刈取部サイドカバー右・左の外しかた…96
9．引起しカバーの外しかた……96
10．グレンタンクの回動のしかた……97
11．こぎ胴部の開閉のしかた……99
12．カッタ部の開閉のしかた…… 100
13．切替カバーの開閉のしかた…… 101
14．脱こく部の掃除のしかた…… 102
15．脱こく内部の掃除…… 102
16．揺動流板の掃除…… 107
17．グレンタンク部の掃除…… 111
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 113
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 113
2．爪の交換のしかた…… 121
3．ホース類の点検と交換…… 121
4．ワラ切カマの手入れ…… 122
5．こぎ歯の点検と交換…… 124
5．各部の点検と調整のしかた…… 125
「レバー・ペダルの点検・調整」…… 126
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 126
2．脱こく・刈取クラッチレバー…… 127
3．こく粒排出レバー［**グレンタンク仕様**］…… 128
4．排ワラ切替レバー…… 128
「ベルトの点検・調整」…… 129
5．エンジンファンベルト…… 129
6．走行ベルト…… 130
7．こぎ胴ベルト…… 131
8．１番ラセン駆動ベルト…… 131
9．カッタベルト…… 132
10．選別ベルト…… 132
11．穂先排ワラベルト…… 133
12．排ワラ駆動ベルト…… 133
13．グレン入力ベルト［**グレンタンク仕様**］…… 134
14．搬送HST入力ベルト…… 134
15．かき込みベルト（刈取部）…… 135
「チェンの点検・調整」…… 137
16．株元搬送チェン…… 137
17．こぎ深搬送チェン…… 138
18．穂先搬送チェン…… 139
19．かき込み搬送チェン（右，左）…… 140
20．脱こくフィードチェン…… 141

21. 排ワラチェン…… 141
「クローラの点検・調整」…… 142
22. クローラ…… 142
「刈刃の調節」…… 143
23. 刈刃…… 143

長期格納のしかた ……146
1．機械の掃除と洗浄…… 146
2．錆止めと注油…… 146
3．エンジンの手入れ…… 146
4．点検・整備…… 146
5．格納…… 147
6．再使用にあたって…… 148

不調時の処置 ……149
1．エンジン部…… 149
2．走行・運転操作部…… 151
3．電気・自動制御部…… 151
4．刈取部…… 152
5．脱こく部…… 153
6．ワラ処理部　…… 155
7．グレンタンク部［グレンタンク仕様］… 155

付　　表 ……156
1．主要諸元…… 156
2．ベルト一覧表…… 158
3．主な消耗部品…… 159
1．爪関係…… 159
2．カッタ関係…… 161
3．ヒューズ・ランプバルブ…… 161
4．刈刃・カマ関係…… 162
4．アタッチメント（別売り）…… 164
5．付属品一覧表…… 164
6．潤滑油について…… 165
1．エンジンオイル…… 165
2．油圧作動油…… 165
3．ギヤオイル…… 165
7．コンバイン関連商品…… 166

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前につぎのことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）

⚠１日の作業が終わったら……（安-17）

⚠長期格納するときは……（安-18）

2．表示ラベルについて……（安-19）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

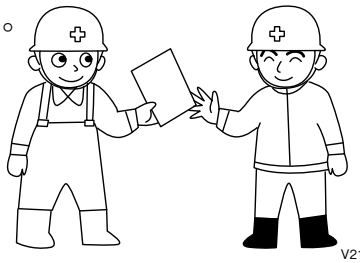
安全作業のために

1．安全作業のしかた

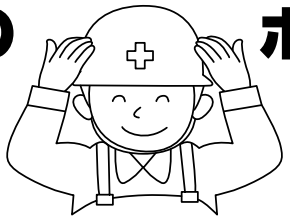
・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前につぎのことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ●運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V207
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V208	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。  V209
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V210	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

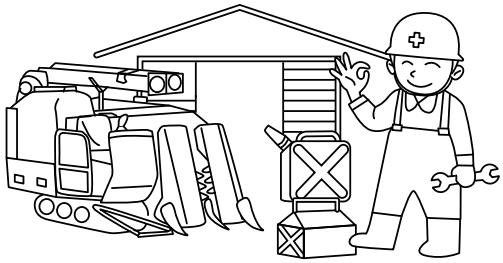
安全作業のポイント

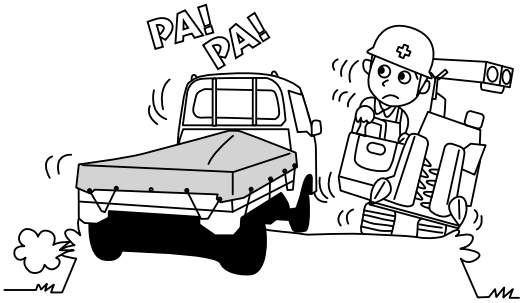

V211

●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
●給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
●刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性があるので，業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。


V277



V278

エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動はシートに座って行う。
●始動のときは周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●刈取部先端部にバンパを取付ける。
●刈取スライドを右セットにする。［２条型］
●補助モミ受台［ホッパ仕様］，ナローガイド，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納する。
●機械に子供など，人や物をのせない。
●走行する前にホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
●発進時は，周囲をたしかめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にする。
●運転中は子供など，人を機械に近づけない。
●排出オーガ［グレンタンク仕様］は折りたたむ。

道路（公道）走行

●ナンバープレートの交付を受ける。
●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●傾斜地では駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは車止めをする）
●機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る。
●副変速レバーを《標準》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- アユミの上ではジャストディレクタを操作しない
- 機械から降りて行う。



V279

ほ場作業　ほ場の出入り

- ホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，《標準》であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用し，機械から降りて行う。
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う。



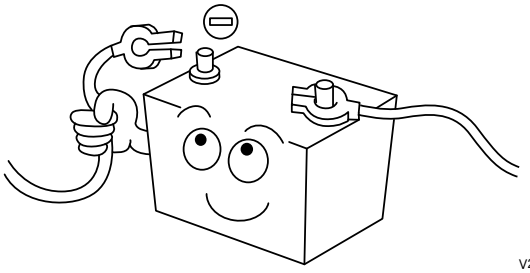
V214

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガ［グレンタンク仕様］の排出口やホッパ［ホッパ仕様］のシャッタ内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。［グレンタンク仕様］
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜ際での旋回時は周囲を確認する。
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する。［ノッタ仕様］
- ノッタのそばに手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 脱こく･刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに機械を停止しない。


V215

作業途中の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- カッタやグレンタンクを回動したときはストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

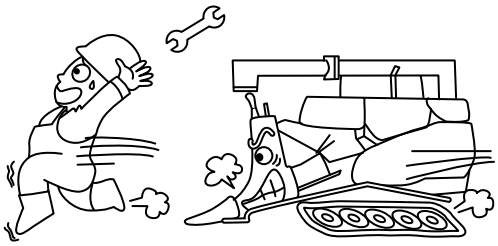
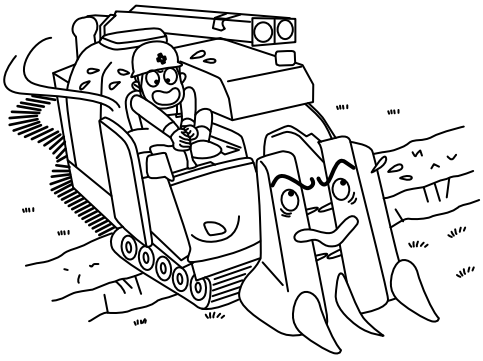
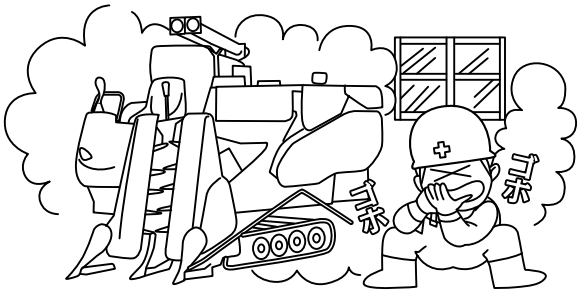
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取る。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは冷えるまで直接触れない。
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておく。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。

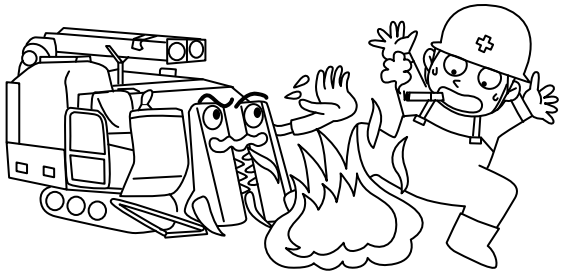
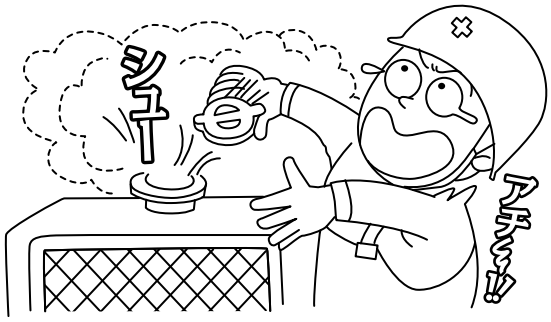
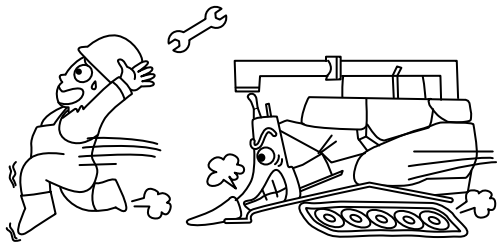
⚠作業前の一般的な注意事項

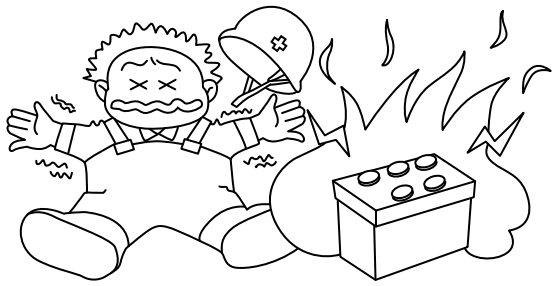
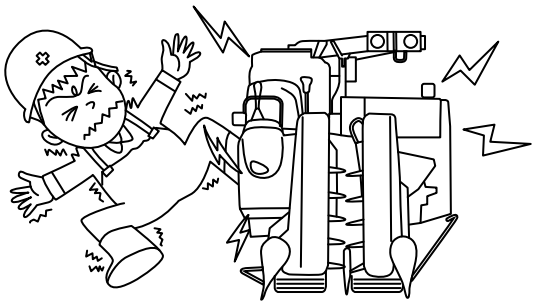
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。  V216
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	人身事故の原因となることがあります。  V280
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。  V281
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282

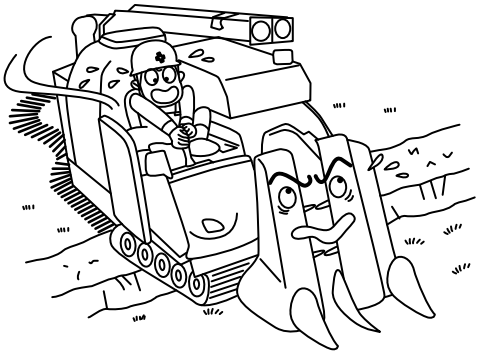
⚠点検・整備および掃除をするときは……

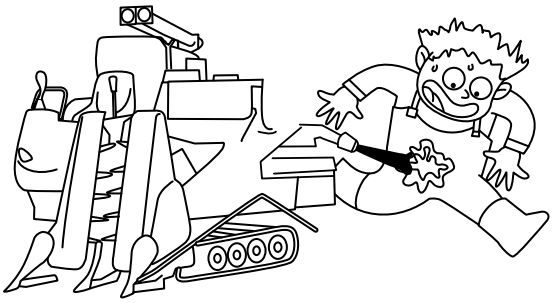
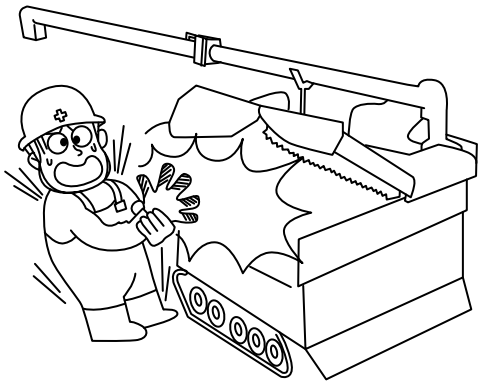
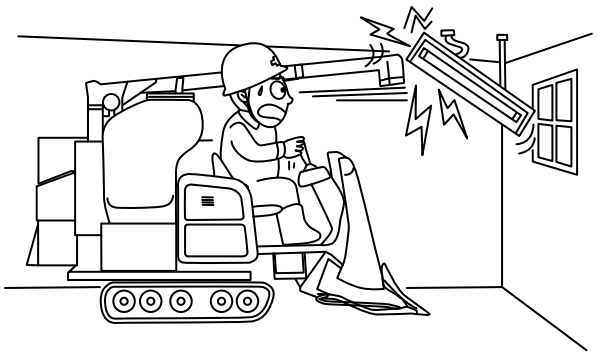
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふき取る。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ●燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。  V283
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠注意 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。  V280

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して死亡するおそれがあります。  V222
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください 。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，死亡するおそれがあります。  V223
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください 。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用してください。 ●⊕，⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  V284

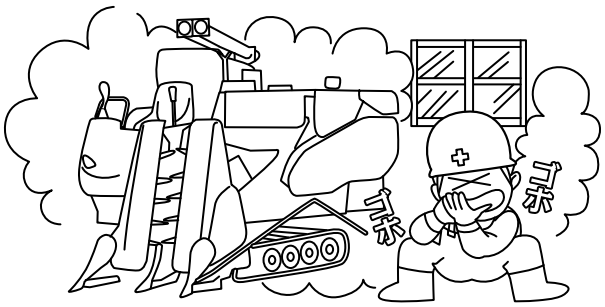
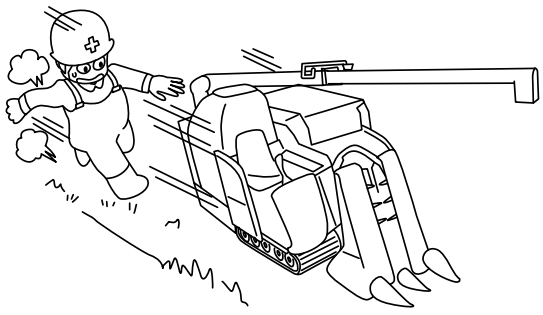
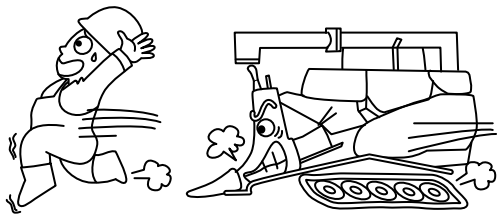
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。  V285
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除いてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。  V216
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。  V281

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ●もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。  V287
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  V288
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線などに引っかけないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っかけて損害事故を起こすことがあります。  V229

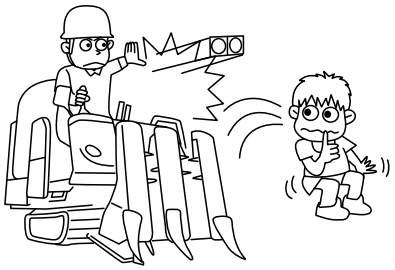
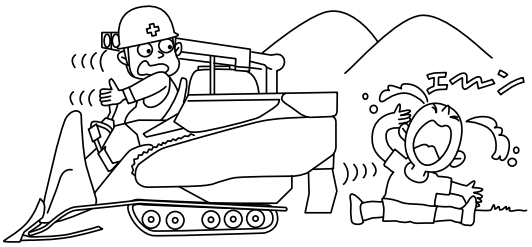
⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

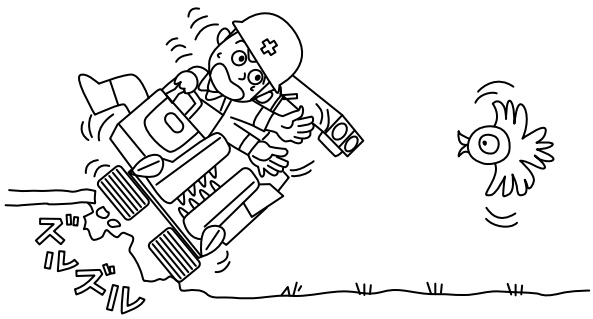
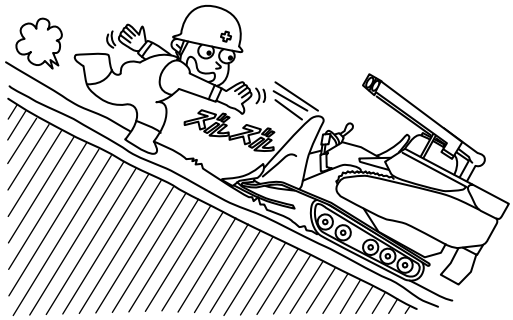
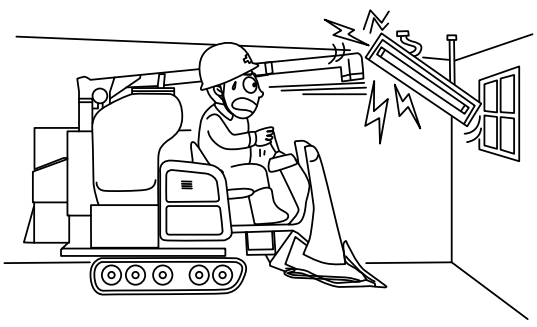
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆主変速を《中立》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。 ●主変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V230
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V289
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速レバーを《中立》，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。  V290

⚠路上走行をするときは……

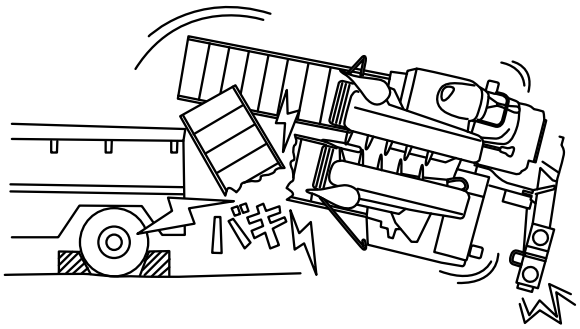
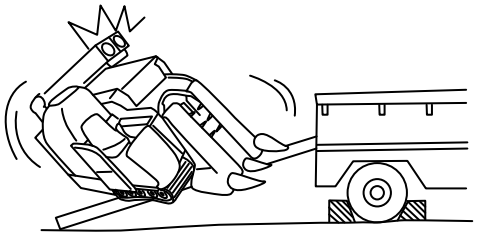
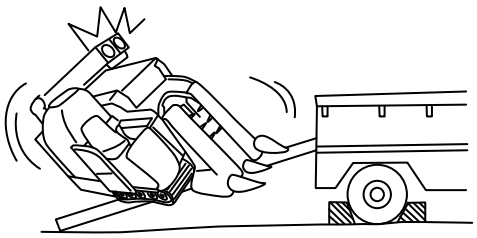
必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ 守らないとこんな事故が！

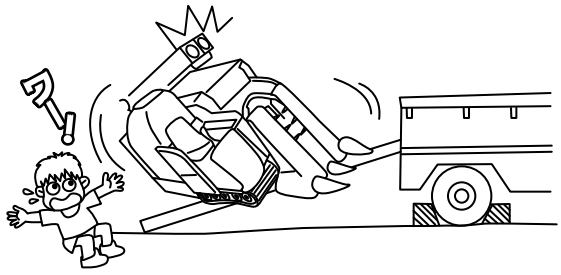
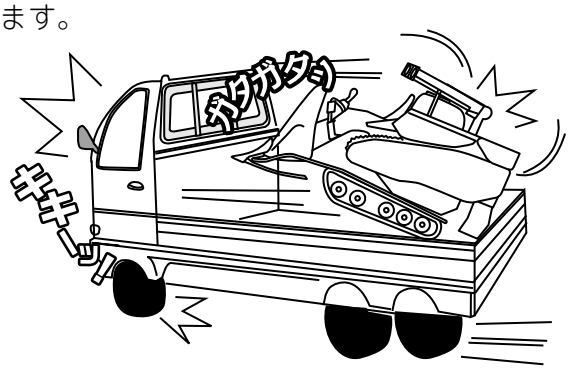
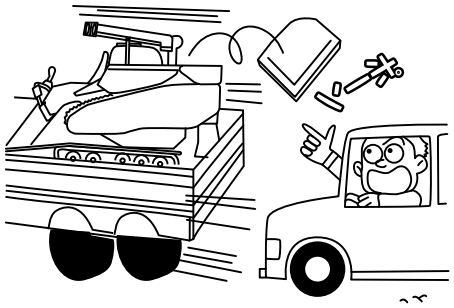
⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V233
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V307
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。  V309
⚠注意 ◆走行時は，補助モミ受台［ホッパ仕様］，ナローガイド，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納し，刈取スライドを右セット［２条型］にしてください。 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しないでください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を30㎝程度上げてください。 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V308

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しないでください。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行してください。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。  V294
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ●坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ●急傾斜地を走行しないでください。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。  V310
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●刈取部は下げておいてください。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。  V311
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。  V229

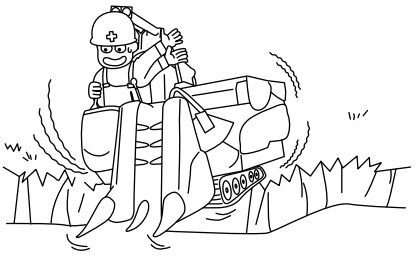
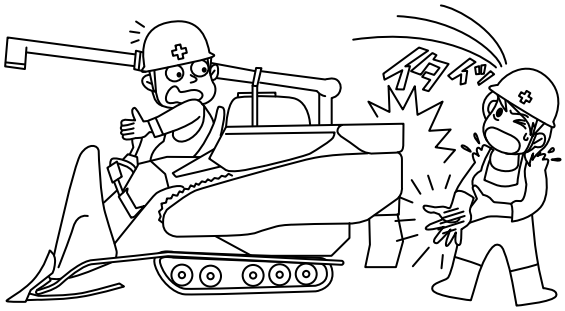
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。 ◆アユミはじゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。  V295
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真っ直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。	
⚠注意 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で副変速は《標準》で行なってください。 ◆［方向自動付き（ディーラーオプション）］は自動スイッチを《切》にしてください。 ●こぎ深さ自動スイッチも《切》にしてください。 ◆刈取スライドを右セットにしてください。［２条型］	転倒のおそれが増し，傷害事故の原因となります。  V296
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真っ直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。 ●アユミの上では，急なマルチステアリングレバーの操作や主変速レバー，副変速レバー，走行クラッチペダル，左右水平，ブレーキロックレバー，ジャストディレクタの操作はしないでください。 ◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。  V296

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	転倒事故に巻込まれるおそれがあります。  V297
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，刈取部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープかけフック（４箇所)］にロープをかけてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落のおそれがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。  V299
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300

⚠ほ場で作業をするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●アユミ上では進路変更しない。 ●ホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出して行ってください。 ●機械から降りて行ってください。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。  V301
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜが崩れないことを確認して行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。  V302
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。  V248
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にして行ってください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。  V249

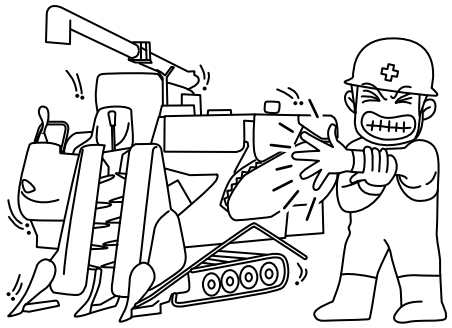
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まりなどの除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。

傷害事故を引起こすことがあります。



V303

⚠警告

◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

◆補助者は，機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。

◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こく・刈取クラッチレバー操作をしてください。

◆カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。

◆エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけないでください。

◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。

◆作業中は機械に人を近づけないでください。

◆モミ袋を交換するとき，モミ排出作業を行うときは機械を止め，駐車ブレーキをかけて行ってください。

◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。

●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。

◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。

◆運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業をしてください。

傷害事故を引起こすことがあります。



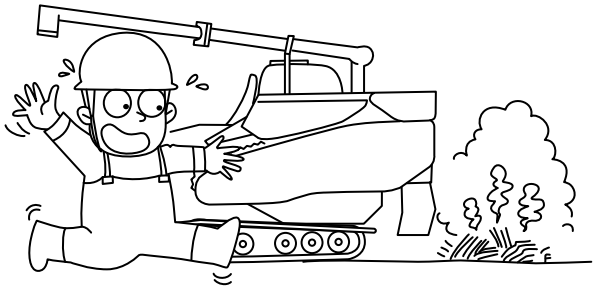
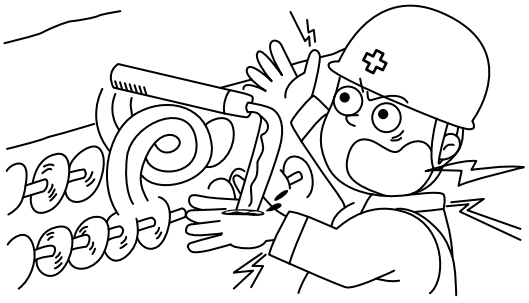
V251



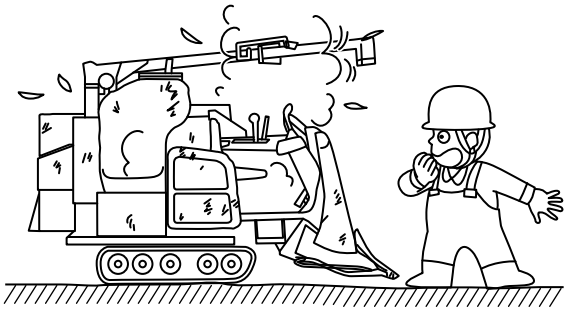
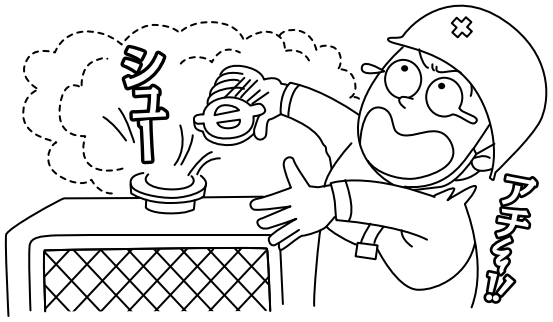
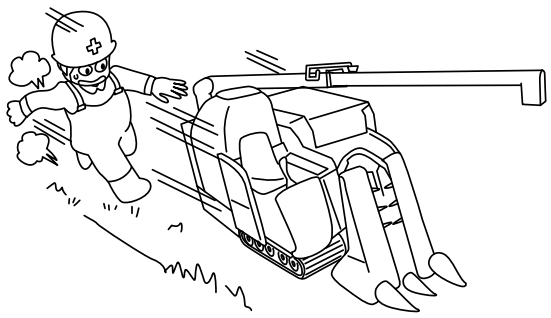
V252



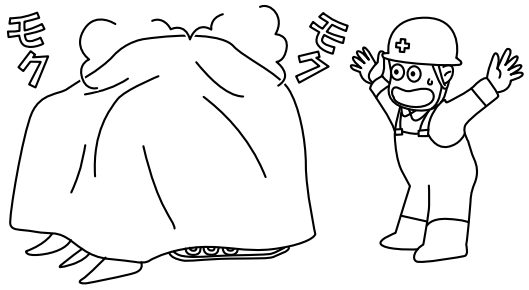
V253

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしないでください。	マフラの排気で火災になることがあります。  V304
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠注意 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止してください。 ●カッタを開いたときは，ストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。  V254
⚠注意 ◆排出オーガ［グレンタンク仕様］の排出口やホッパ［ホッパ仕様］のシャッタ内には手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたり，シャッタ［ホッパ仕様］に手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガ［グレンタンク仕様］が周囲の人に当たり，負傷したりすることがあります。  V256  V257

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。  V305
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  V289
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。  V259

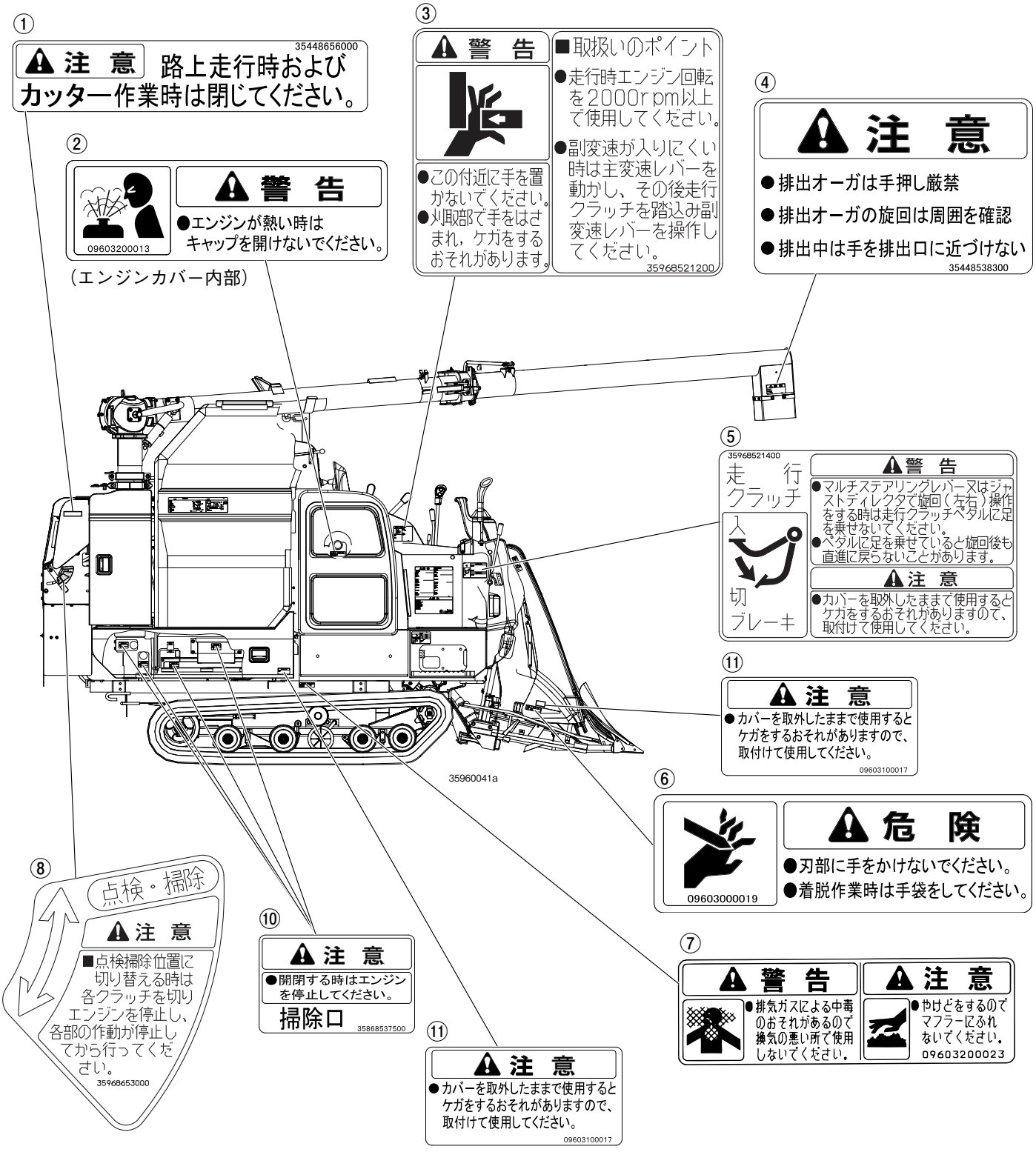
⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をしてください。 ◆燃料コックを閉じてください。		思わぬ火災事故を起こす場合があります。  V260
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておいてください。		機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。  V261
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。  V262		整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼り付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

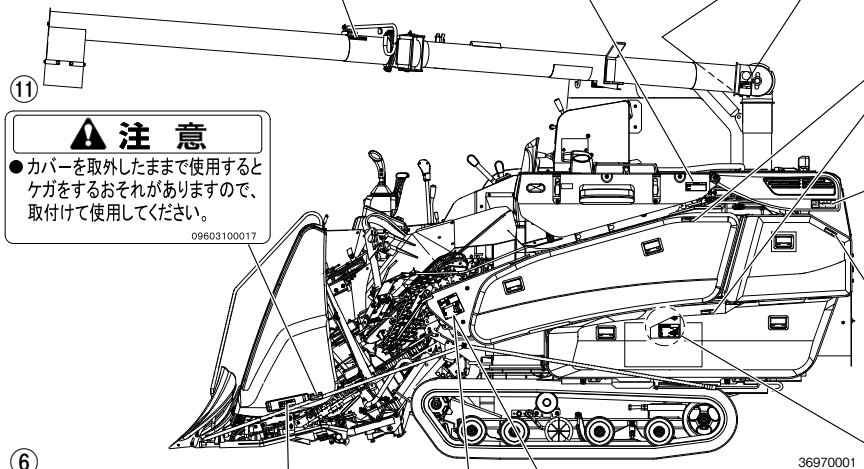


㉘
⚠ 注 意
●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。
取扱のポイント 折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。
35538856200

⑨
⚠ 注 意 35968525100
●こぎ胴部を開閉する時はエンジンを停止してください。
●こぎ胴部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
●こぎ胴部を開閉する時は人を近づけないでください。
●こぎ胴部の開閉はゆっくり行なってください。

⑩
⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

⑪
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017


36970001

⑪
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑰
⚠ 危 険
● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。
35518658000

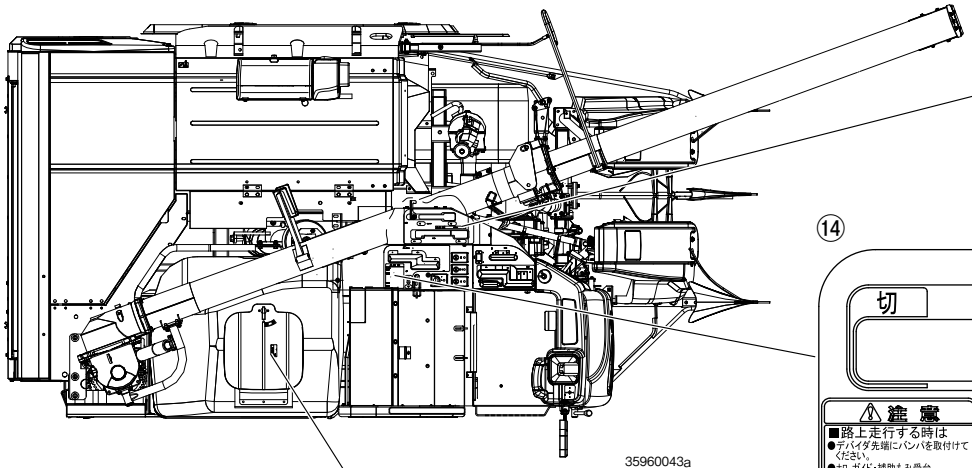
⑪
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑥
⚠ 危 険
09603000019
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

⑫［２条型のみ］
⚠ 警 告
○わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
○手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。
手こぎ作業取扱要領
手こぎ作業をする時は、入口ガイドを矢印の方向に上げてください。
入口ガイド
入口レール
35968527700

⑬
⚠ 注 意
■フィン調節時は、各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。
フィン調節
1. チョウナットを外し、点検蓋を外します。
2. 作物の条件によりフィン調節レバーで下記の方向に調節します。
「閉」方向調節
● 選別が悪い時。
● 小枝梗が多い時。
「開」方向調節
● 機外飛散が多い時。● 脱ぶが多い時。
フィン調節レバー
チョウナット
点検蓋
閉
開
稲・麦標準
35968528700

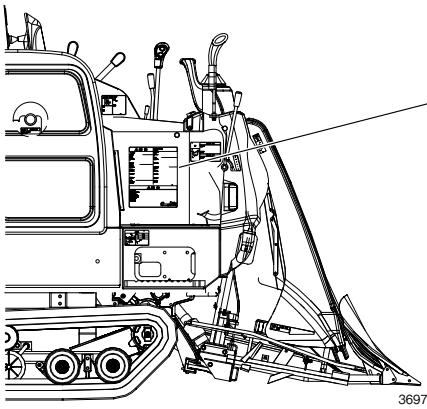
㉚［３条型のみ］
⚠ 警 告
35878524000
● ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
● 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。


35960043a

㉖
レバーが戻る時は固定してください。
作業 手もとナローガイド 収納
⚠ 注 意 路上走行時は収納してください。
排ワラ切替
カッタ
排ワラ

⑭
脱こく・刈取クラッチ
切
脱こく入
刈取入
⚠ 注 意
■路上走行する時は
●デバイダ先端にバンパを取付けてください。
●ローガイド・補助もみ受台（ホッパ仕様）を折りたたんでください。
●脱こく・刈取クラッチレバー方向自動スイッチを『切』、刈取スライド付きは『右セット』にしてください。
●排出オーガ先端部を折りたたんでください。（グレンタンク仕様）
●公道を走る時は、カッタ以外の作業機は取外してください。
エンジンカバー
固定
解除

⑮
⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015


36970002

⑯

⚠ 警　告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
- ●機械の周囲から人を遠ざけてください。
- ●各部のカバーをすべて取付けてください。
- ●座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- ●変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- ●屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
- ●機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- ●エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- ●発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- ●緊急停止が必要なときは、クラッチペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- ●刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『籾』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- ●詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
- ●発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- ●傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

- ●軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- ●あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は
- ●平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- ●機械から離れるときはキーを抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

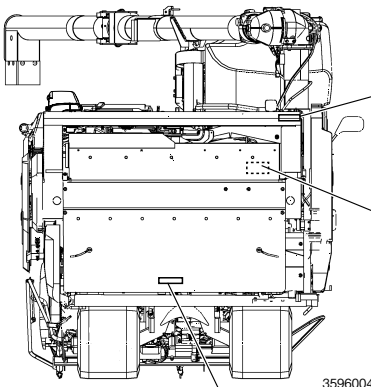
■清掃・点検・整備・燃料補給
- ●エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- ●火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- ●刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックしてください。
- ●火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- ●燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- ●こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

36098526000

⚠ 警　告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は
- ●平坦な硬い場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- ●積込む前にホッパ，およびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ●アユミの長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用し、自動車の後輪に車止めをしてください。
- ●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒することがあります。
- ●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から積降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で行なってください。
- ●ノッタ仕様の場合は、積込むときは後進で、積降ろすときは前進で行ってください。
- ●積込み・積降ろしは、副変速レバー《標準》の位置で行なってください。
- ●積込む場合、マルチステアリングレバーを《上る》に操作して，刈取部を上げてください。積込みが終わったら、刈取部を一杯下げてください。




35960044a

⑰

⚠ 危　険

- ● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- ●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑱

⚠ 注　意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

35728592000

（カッタを開いた内側）

⑲

⚠ 注　意　回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

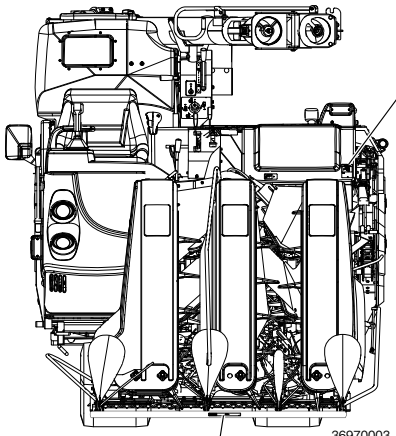
09603100020

⑳

⚠ 警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034



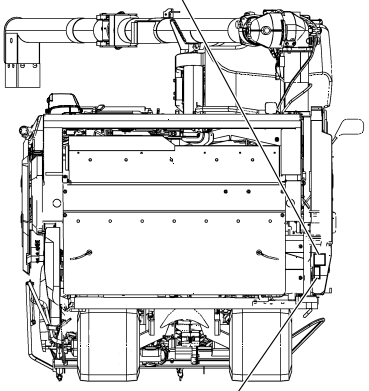
36970003

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



35960044a

㉑

⚠ 注 意 路上走行時は装着してください。

09603100023

㉒

⚠ 警 告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

3587842000

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

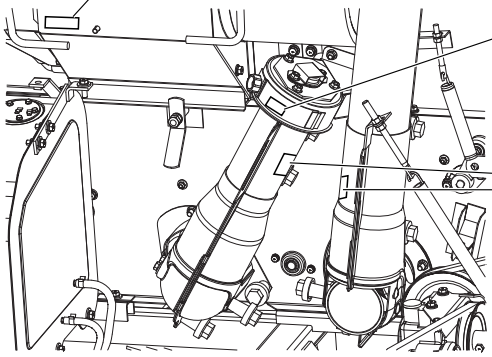
09603100017

⑮

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



35960145

㉔

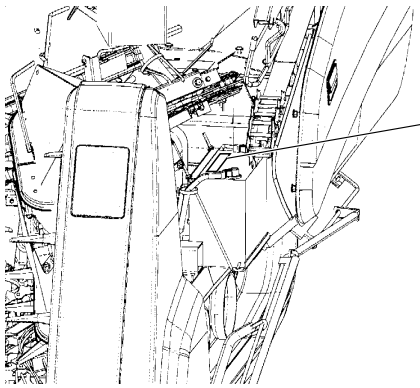
⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



35960048

㉕



㉒

⚠ 警 告

火気厳禁

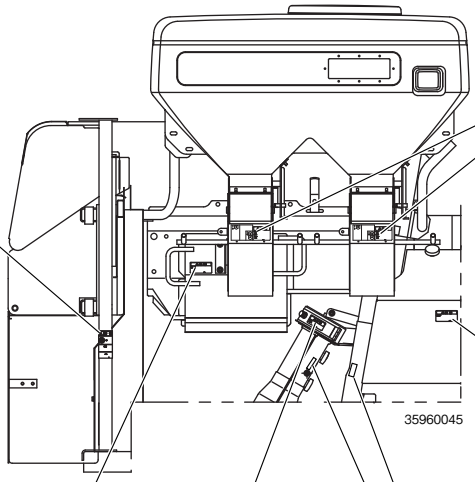
●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000

［ホッパ仕様］

A



㉓

⚠ 注 意

●樋口の中に手を入れないでください。
●シャッタレバーで、手をたたかれないようにしてください。

35448531200

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

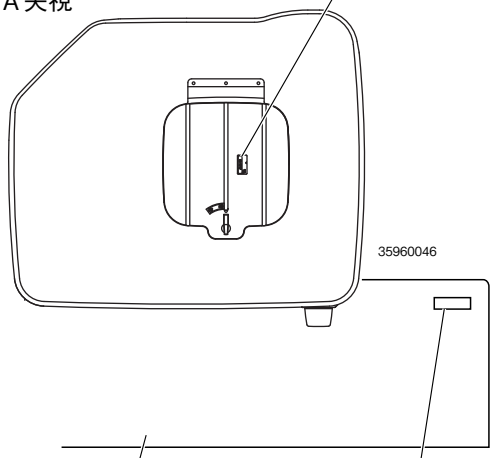
⑮

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

A 矢視



㉔

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

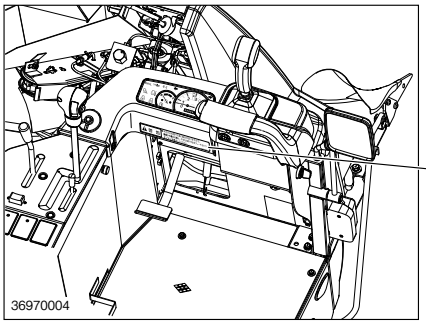
掃 除 口

35868527100

㉗

35448528100

⚠ 注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。



㉙

⚠ 警 告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、**機械から離れる時**は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ**エンジンを停止**してください。

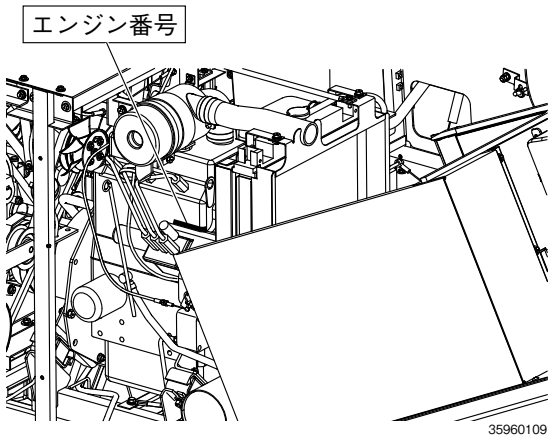
09603200052

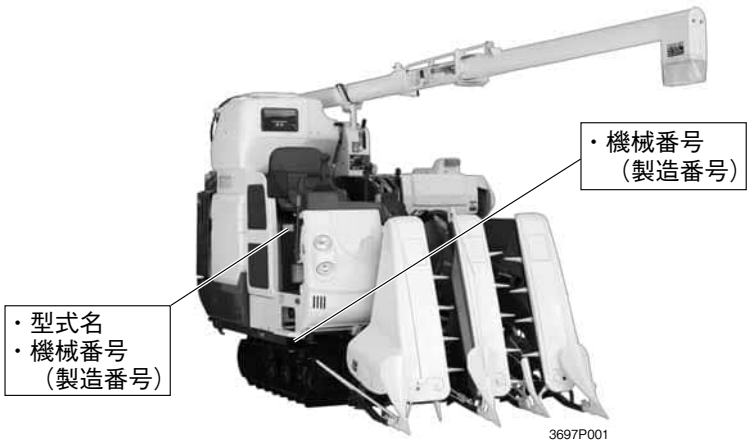
No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	チュウイマーク	3544　8656　000	共通１枚
②	ケイコクラベルラジエータ	0960　3200　013	共通１枚
③	ケイコクラベル	3596　8512　200	共通１枚
④	チュウイラベル	3544　8538　300	グレンタンク仕様１枚
⑤	トリアツカイマーク	3596　8521　400	共通１枚
⑥	キケンラベルカリハ	0960　3000　019	共通２枚
⑦	ケイコクラベルハイガス	0960　3200　023	共通１枚
⑧	チュウイラベル	3596　8653　000	共通１枚
⑨	チュウイラベル	3596　8525　100	共通１枚
⑩	チュウイラベル	3586　8537　500	グレンタンク仕様６枚
⑪	チュウイラベルカバー	0960　3100　017	グレンタンク仕様８枚 ホッパ仕様７枚
⑫	ケイコクマークチェン	3596　8527　700	２条型のみ
⑬	トリアツカイマーク	3596　8528　700	共通１枚
⑭	トリアツカイマーク	3697　8532　000	共通１枚
⑮	チュウイラベルカイヘイ	0960　3100　015	共通２枚
⑯	ケイコクラベル	3609　8526　000	共通１枚
⑰	キケンラベルコギドウ	3551　8658　000	共通１枚
⑱	チュウイマーク	3572　8592　000	共通１枚
⑲	チュウイラベルカッタカバー	0960　3100　020	共通１枚
⑳	ケイコクラベルコギドウ	0960　3200　034	共通１枚
㉑	チュウイラベルバンパC	0960　3100　023	共通１枚
㉒	ケイコクラベル（ケイユ）	3587　8542　000	グレンタンク仕様１枚 ホッパ仕様１枚
㉓	チュウイマーク	3544　8531　200	ホッパ仕様２枚
㉔	チュウイラベル	3586　8527　100	グレンタンク仕様２枚 ホッパ仕様２枚
㉕	キケンラベルバッテリ	0960　3000　017	共通１枚
㉖	トリアツカイマーク	3596　8532　100	共通１枚
㉗	チュウイマーク	3544　8528　100	ホッパ仕様１枚
㉘	チュウイラベル	3553　8556　200	グレンタンク仕様１枚
㉙	ケイコクラベルストップ	0960　3200　052	共通１枚
㉚	ケイコクラベルチェン	3587　8524　000	３条型のみ

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。





・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

2．機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，人身事故の原因になることがあります。

3. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，つぎのようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，つぎの表でお確かめください。

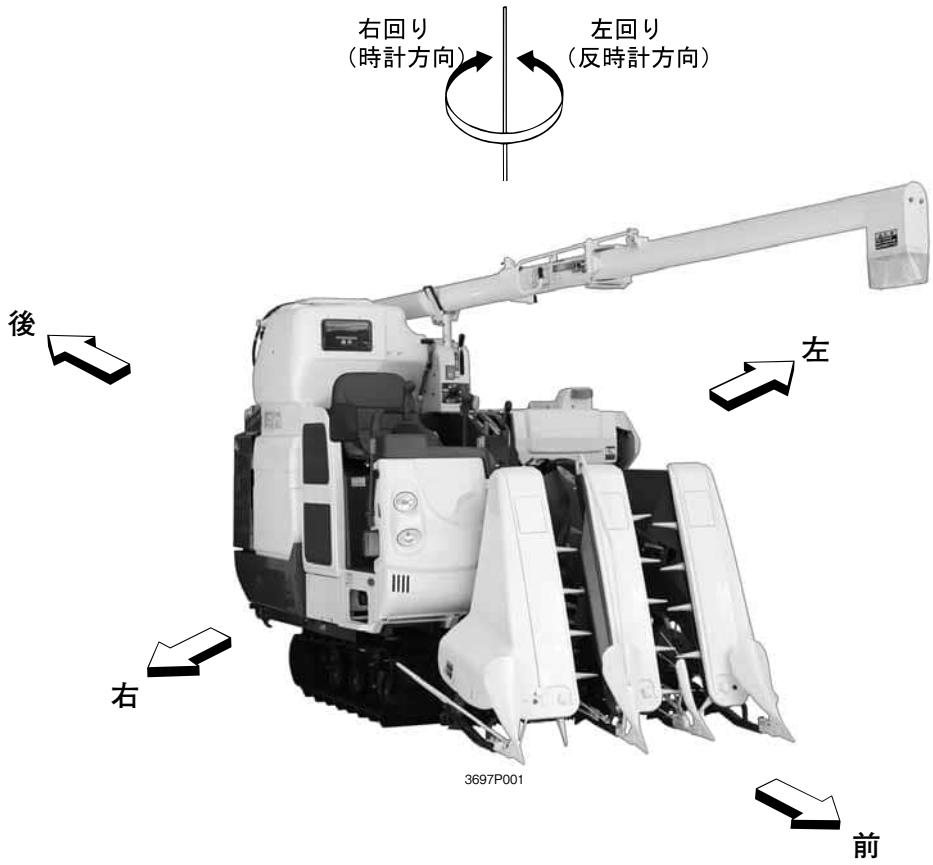
名称	仕様／区分	エンジン S773L-D-1602	エンジン S773L-D-1602	エンジン S773L-D-1603	HST+副変速2段	クローラ 標準 330㎜	クローラ 湿田 380㎜	座席DXシート	集中注油	引起しカバー前止め	新緊急停止スイッチ	マルチステアリング	負荷モニタ	籾充填モニタ	ニューコンポアップ	ニューツインハーモニー	強制かき込み	倒伏スイッチ	リフトシャット	刈高さポジションコントロール	撥水揺動	揺動スライドオープン	グレンタンクサイドオープン	二段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化 こぎ深さ自動	選別自動層厚感知	オーガ自動旋回・収納	送塵量自動調節	ホッパ200L	グレンタンク600L	ディスクカッタ 17枚刃	ディスクカッタ 33枚刃
三菱V321	V321GC		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V321GCB		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
	V321GYC		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V321GYCB		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
三菱V323	V323GC			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V323GCB			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
	V323GYC			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V323GYCB			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
三菱V220	V220C	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	
	V220CB	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○		○
	V220YC	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	
	V220YCB	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○		○
	V220GC	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V220GCB	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
	V220GYC	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	V220GYCB	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○

C＝17枚刃カッタ付　　CB＝33枚刃カッタ付

Y＝湿田クローラ・380㎜　　G＝グレンタンク

4. 用語について

(1) この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は，図示のとおりです。



(2) **形式別表示**

・この取扱説明書は，グレンタンク仕様を基本に説明してあります。グレンタンク仕様機と取扱いかたが異なる場合は，その都度［**ホッパ仕様**］などで記載して追加説明しています。

型式名（仕様）	本文表示
323型	［**３条型**］
321型	
220型	［**２条型**］
グレンタンク仕様	［**グレンタンク仕様**］
ホッパ仕様	［**ホッパ仕様**］

(3) **マークの説明**

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄をつぎのマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を，３段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

5. 小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1. 小型特殊自動車の届出

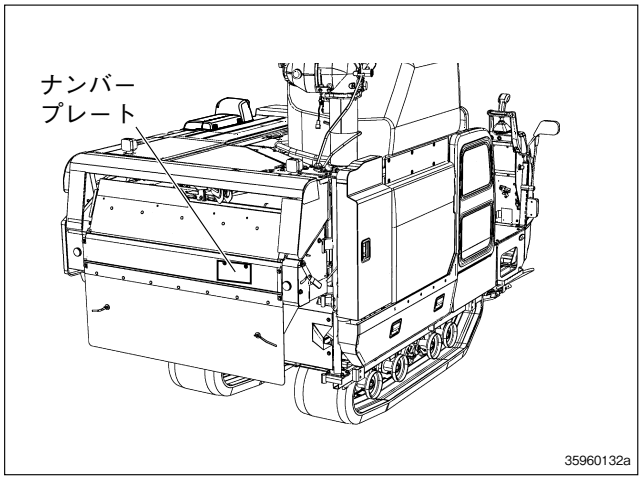
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（「**お買いあげ先**」で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

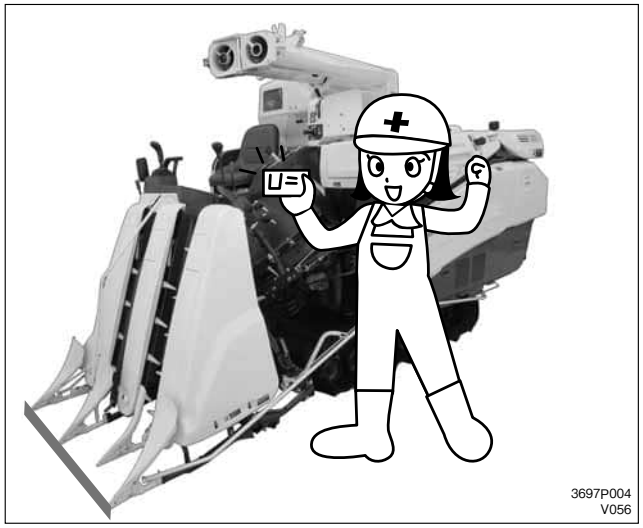
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ 「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.7m以下
	全　幅	1.7m以下
	全　高	2.0m以下 （注１）
最 高 速 度		15㎞／ｈ以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし，キャビンを除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下。

❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

❹ 任意保険のお勧め

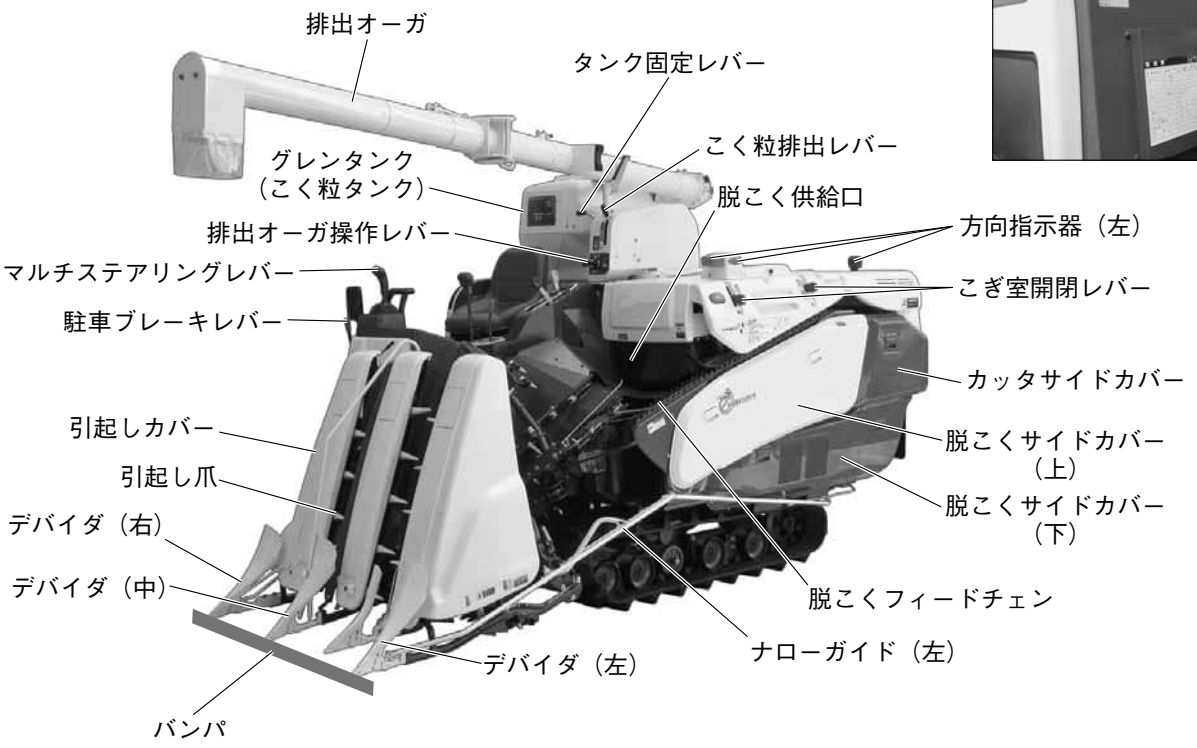
万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

1．各部の名称

1．3条型 グレンタンク仕様



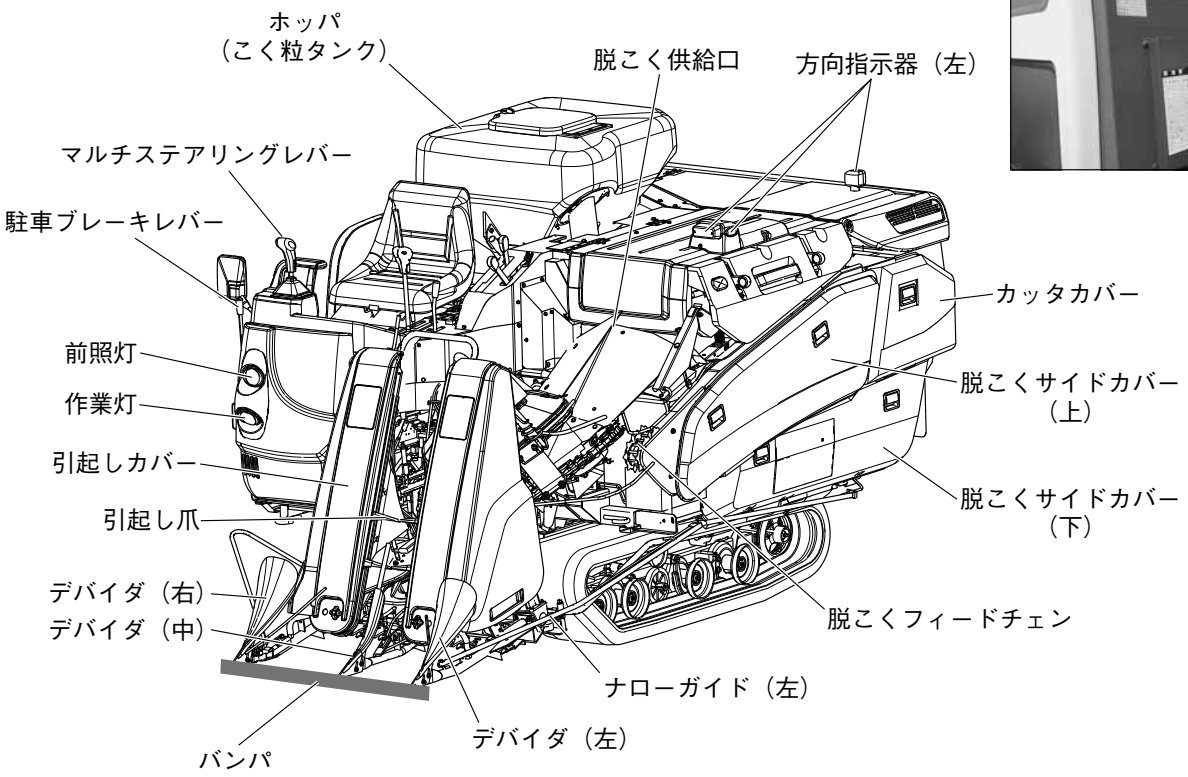


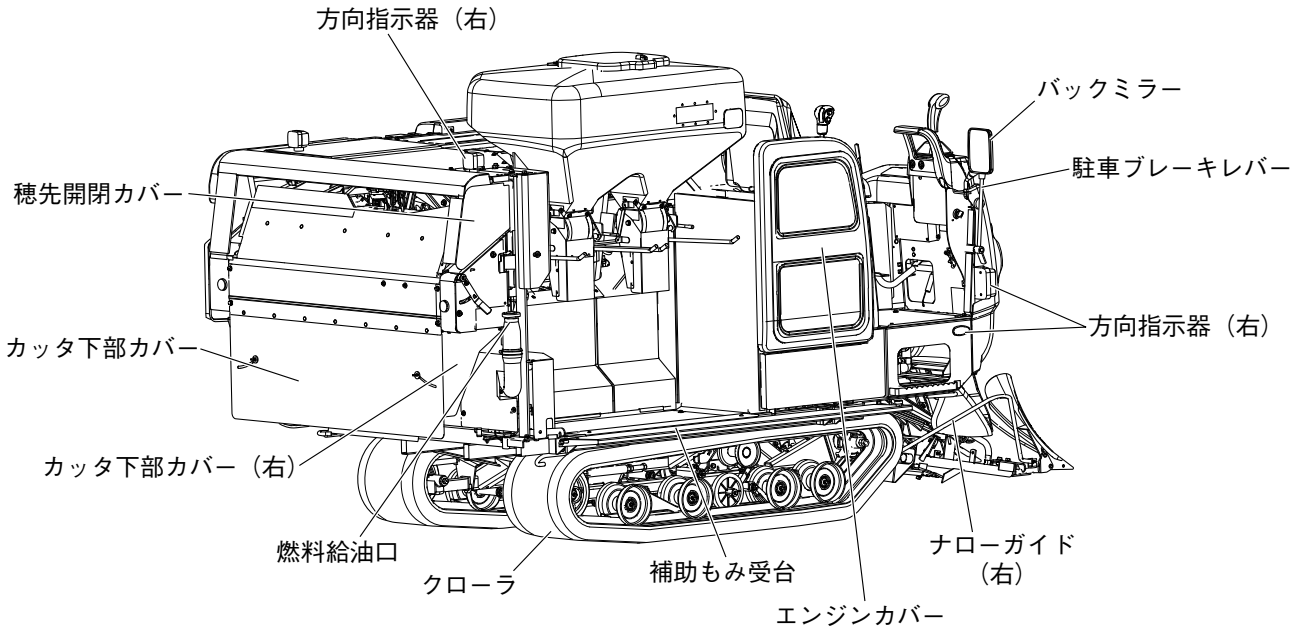


3697P002
3697P005

2. 2条型 ホッパ仕様



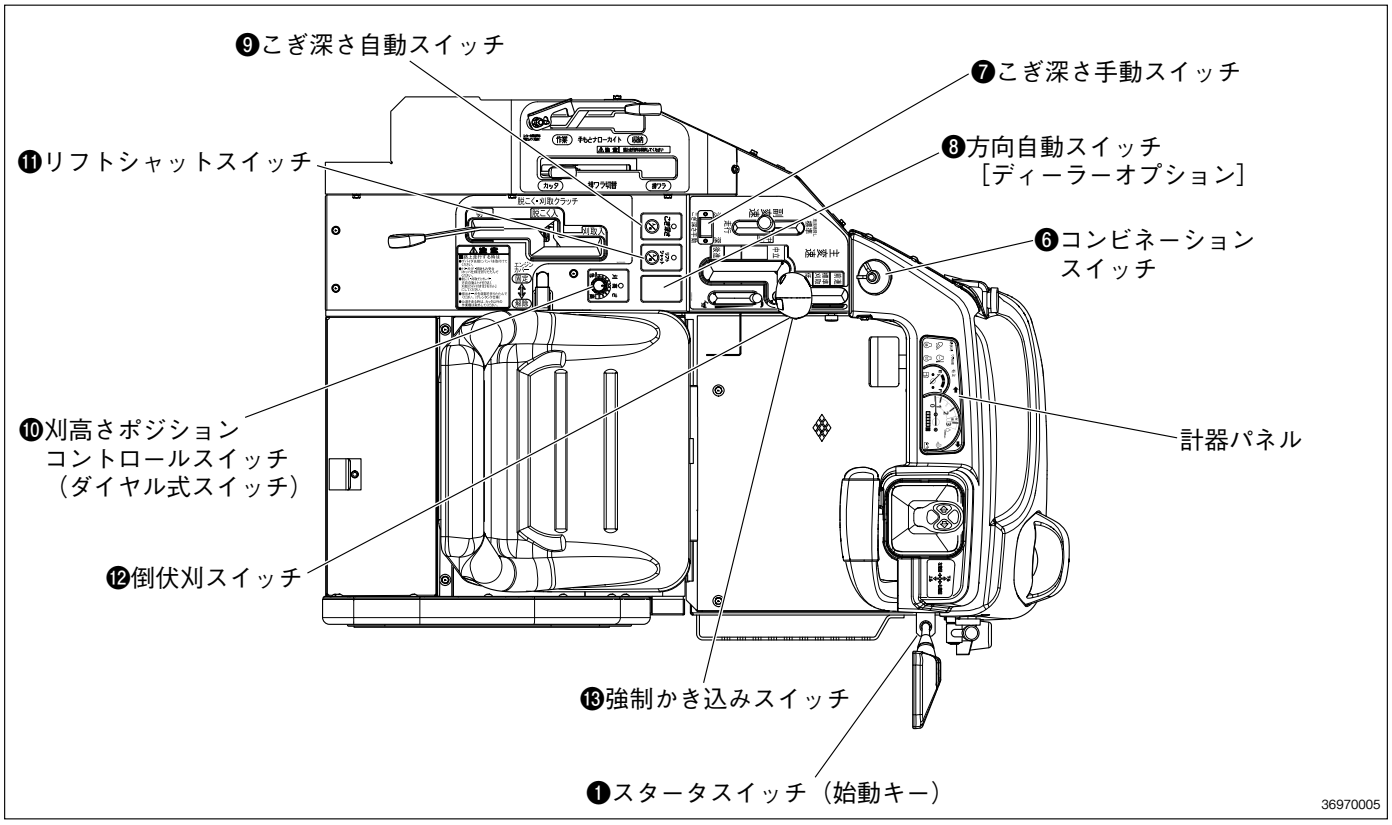


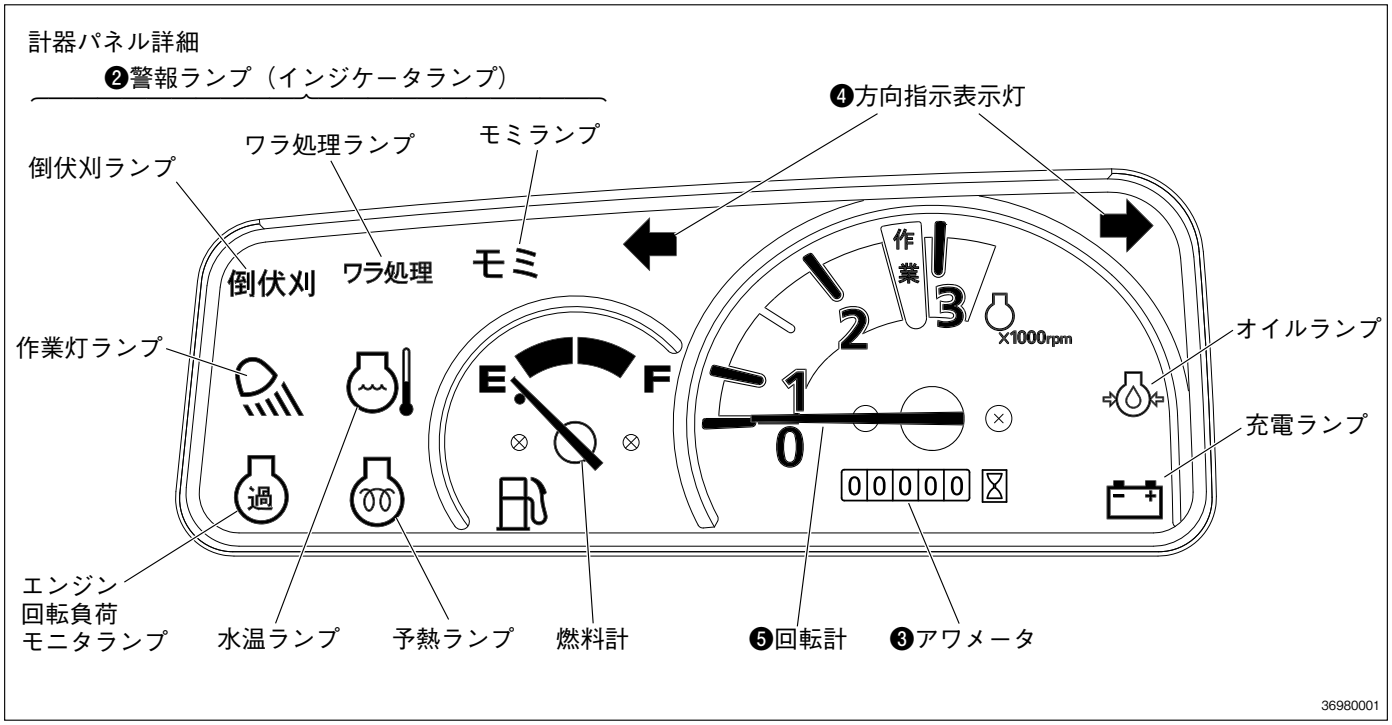


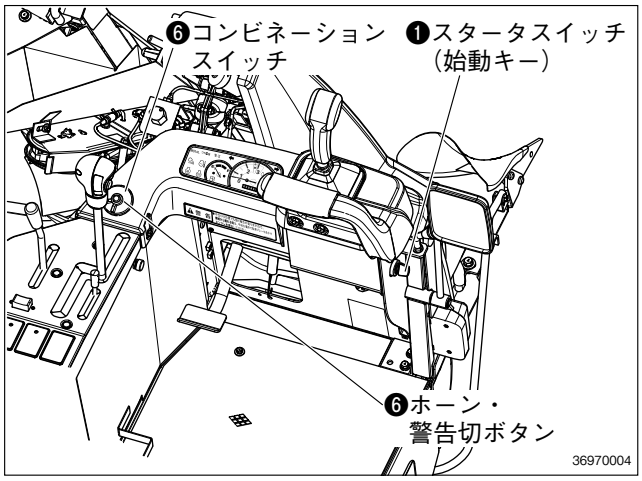
36970006
36970007

2. 運転装置の取扱い

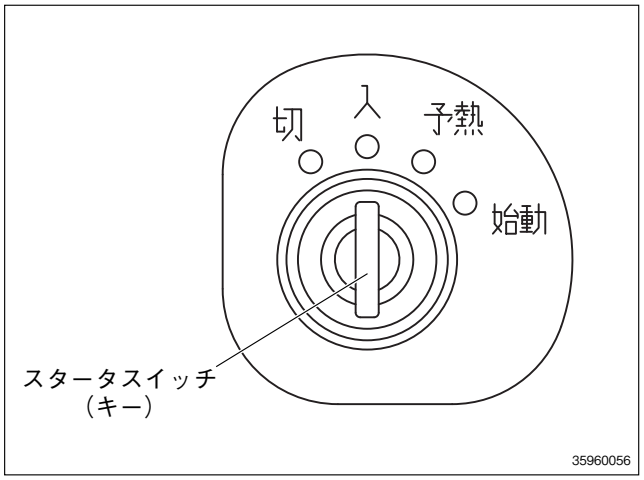
1. スイッチ・計器関係







❶　スタータスイッチ（始動キー）



《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《入》（運転）……電源入（運転中）

《予熱》……エンジンの燃焼室内が予熱されます。

手を放せば自動的に**《入》**位置に戻ります。

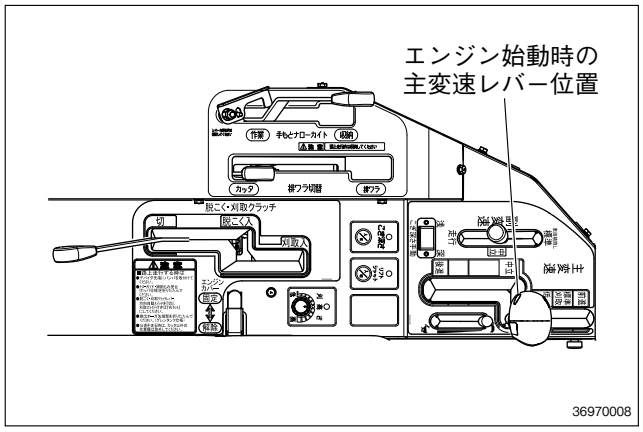
《始動》……エンジン始動

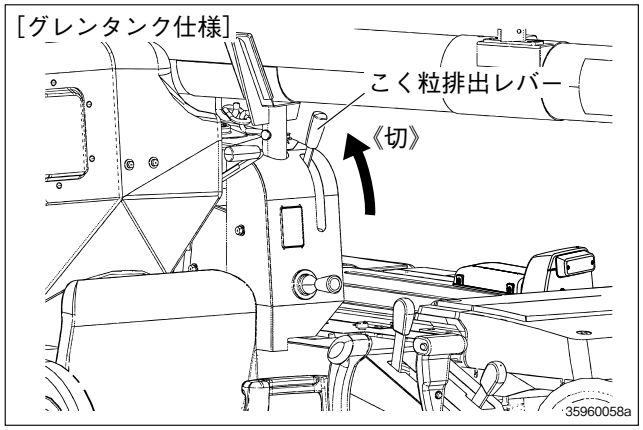
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。

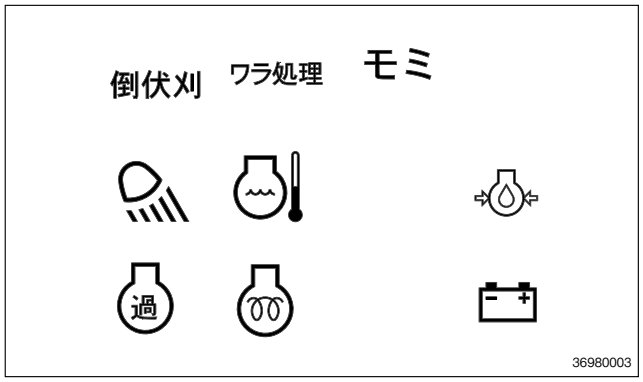
取扱いのポイント

- **寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスタータスイッチを《予熱》位置（このとき予熱ランプが点灯します）で約６秒予熱したあと《始動》位置にしてください。**
- **脱こく・クラッチレバー（[グレンタンク仕様]は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（走行クラッチペダルを踏込むと主変速レバーは《中立》になります。）**





❷　警報ランプ（インジケータランプ）



⑴ **予熱ランプ**



スタータスイッチを《**予熱**》または《**始動**》位置にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

⑵ **水温ランプ**



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に水温ランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィンなどのラジエータ吸気部・エンジンファンベルトの張り，エンジンオイル量，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。（[手入れのしかた]の項を参照してください。）**

⑶ **オイルランプ**



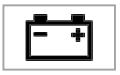
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると，１回点灯し，直ぐに消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（[エンジンオイルの点検，交換]の項参照）**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

⑷ **充電ランプ**



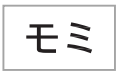
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（129ページ）**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑸ **モミ処理ランプ**



刈取り作業中，ホッパおよびグレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に赤点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止しホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **警報ブザーはコンビネーションスイッチのホーン・警報切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けるとエンジンが停止します。**
- **［グレンタンク仕様］は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込みエンジン始動したのち，モミ排出場所まで移動し，グレンタンク内のモミを排出してください。**
- **［ホッパ仕様］は，ホッパ内のモミを袋に排出してから，エンジンを始動してください。**

⑹ **ワラ処理ランプ**



脱こくフィードチェン終端部，または排ワラチェン終端部に詰まり発生や，排ワラ切替カバーが後方に開いていると，ワラ処理ランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。また，排ワラ切替カバーをカッタ・排ワラ作業状態にしてください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**

⑺ **エンジン回転負荷モニタ**

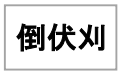


エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジン負荷を軽くするとブザーは鳴り止みます。**

⑻ **倒伏刈ランプ**



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈ランプが点灯し刈取部の速度が通常より速くなります。

刈取部または，脱こくフィードチェン搬送部の前に詰まりが発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取りで刈取部速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》にしても，それ以上速くはなりません。**

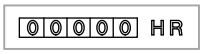
⑼ **作業灯ランプ**



スタータスイッチを《**入**》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

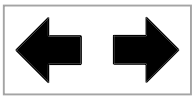
❸ **アワメータ**



エンジン稼動時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行ってください。**

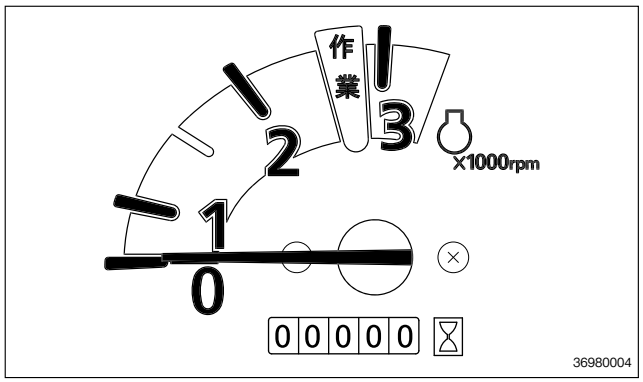


❹ **方向指示表示灯**

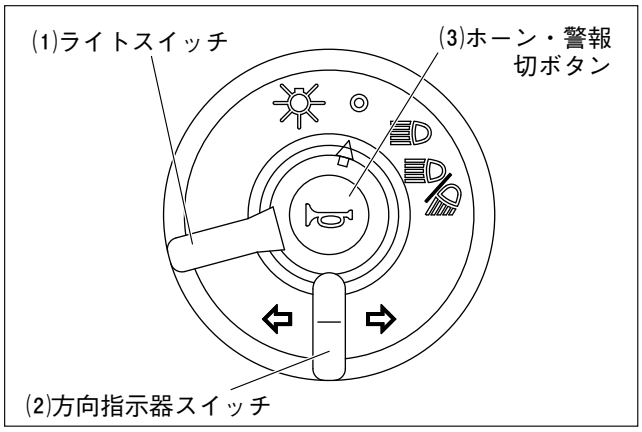
・方向指示器スイッチを操作すると点滅します。

❺ **回転計**

エンジンの１分間の回転数を表示します。



❻ コンビネーションスイッチ



(1) **ライトスイッチ**

《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≣D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯および作業灯が点灯します。

(2) **方向指示器スイッチ**

・方向指示器（右），（左）を点滅させます。

・右折，左折のときに使用します。

(3) **ホーン・警報切ボタン**

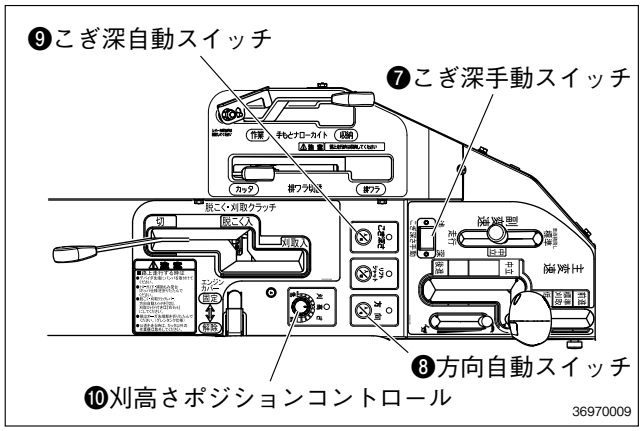
・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーン・警報切ボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミセンサ（満杯）で，警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

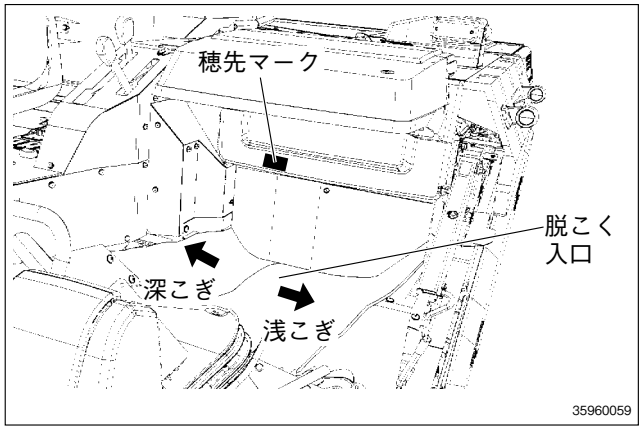
●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。下記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する
・ワラ処理ランプ点灯・点滅 ・倒伏刈ランプ点滅 ・モミ処理ランプ点灯	脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてスタータスイッチを《切》にする
・エンジン回転負荷モニタ（ランプ）点滅	走行速度を下げる



❼ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。



❽ 方向自動スイッチ［ディーラーオプション］

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，61～62ページ参照）

❾　こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，60～61ページ参照）

❿　刈高さポジションコントロールスイッチ（ダイヤル式スイッチ）

スタータスイッチ《**入**》位置にすると，ランプが点灯し刈高さポジションコントロールが「**入**」になります。

点灯状態から再びダイヤルを押すとランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは働きません。

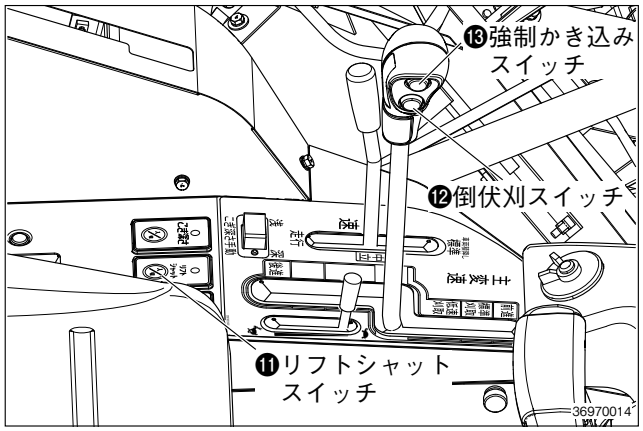
・刈高さポジションコントロールは刈取部を機械に対して一定の高さに保つ機能です。
・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。
・刈高さダイヤルは，通常《**標準**》（●マーク）位置で使用します。（詳細は，62～63ページ参照）

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，スイッチを押して《切》で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

⓫　リフトシャットスイッチ

刈取部を上げると刈取搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチを《**入**》にするとランプが点灯します。



取扱いのポイント

- **あぜ際や枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**

⓬　倒伏刈スイッチ

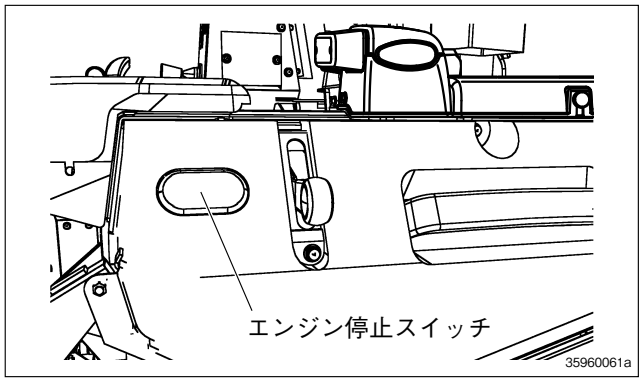
倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。（詳細は50ページ）

⓭　強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバーが《**刈取 入**》位置のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押している間，作動します。（詳細は51ページ）

⓮　エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などの万一のトラブル時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。

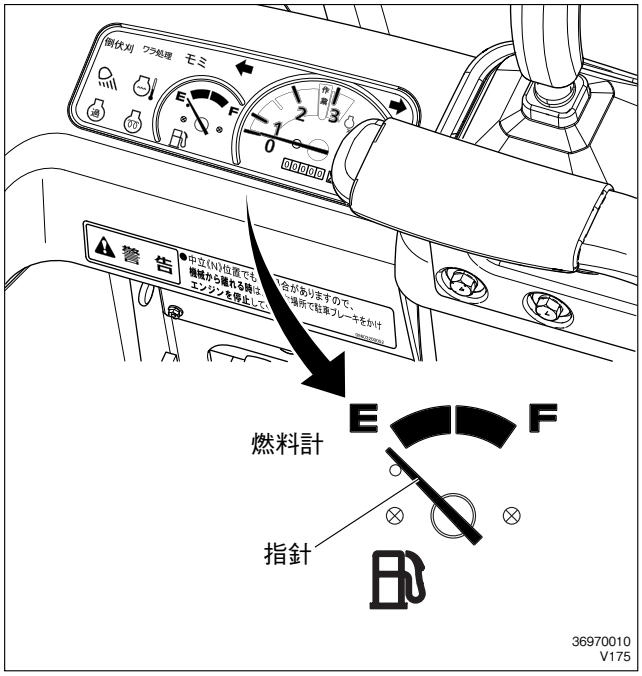


取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリ放電の原因になります。**
- **エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

⓯ 燃料計

燃料の残量を指針の位置で示します。《F》が満量（25L）を示し，指針が《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。



取扱いのポイント

- **指針が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。**

⓰ 油圧固定スイッチ

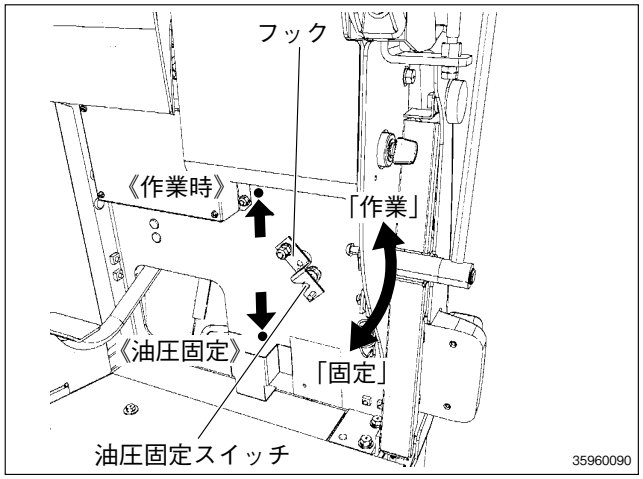
⚠警告 傷害事故防止のために

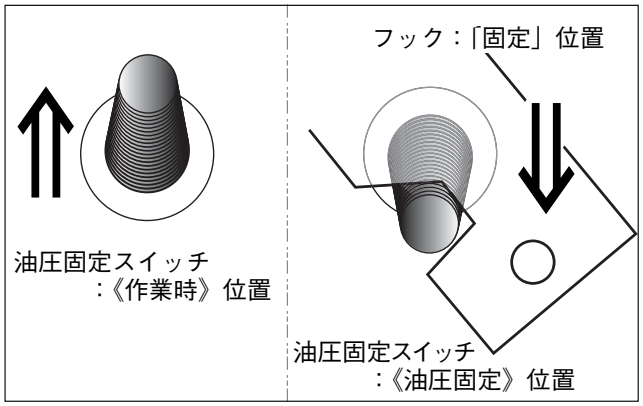
◆刈取部を上げて，その下で整備などするときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

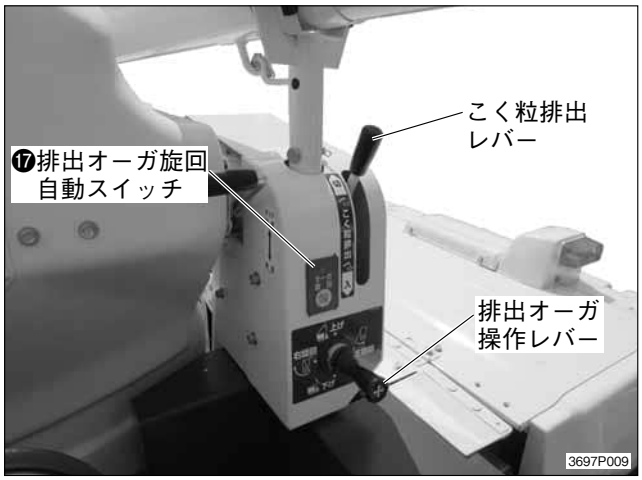
刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

- 《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。
- 作業時には，油圧固定スイッチを《**作業**》の位置で使用します。





⑰ 排出オーガ旋回自動スイッチ［グレンタンク仕様］



・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機械後方まで，自動的に旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

取扱いのポイント

●スイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。
●旋回自動および収納が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

⑱ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回操作（方向修正）時に走行クラッチペダルに足を乗せないでください。ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

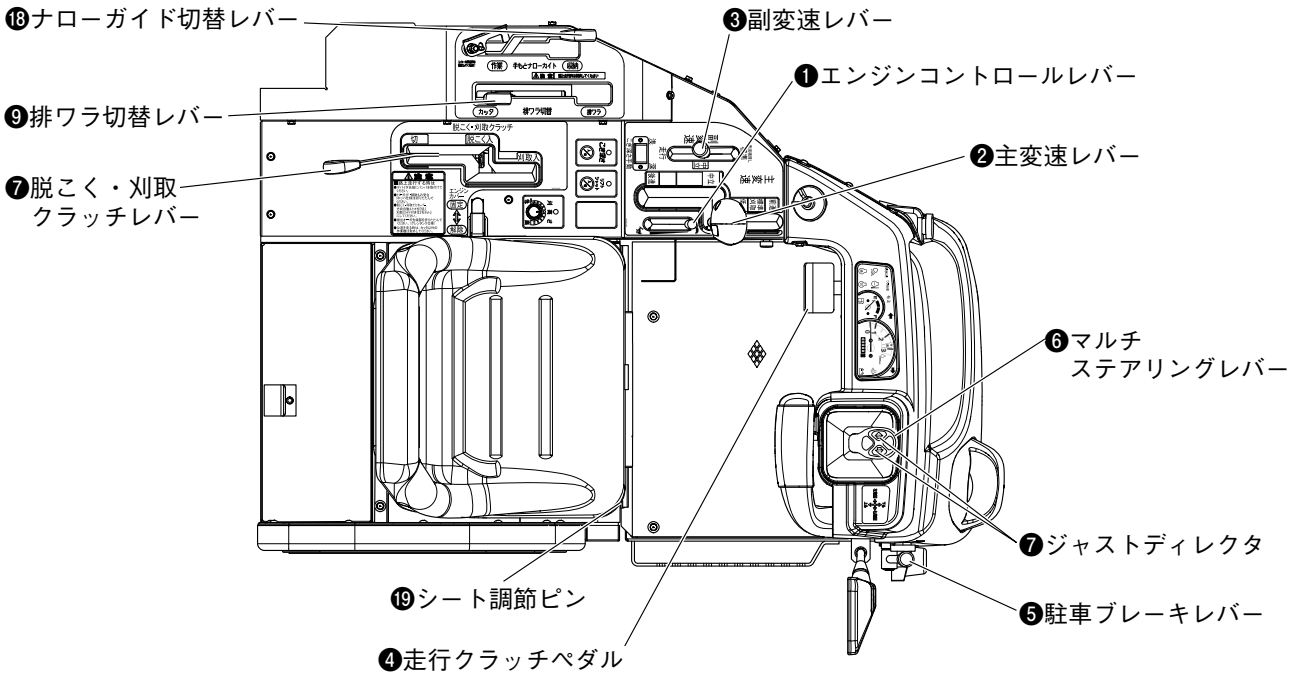


・ジャストディレクタ《**右**》を押すと右方向に，《**左**》を押すと左方向に機械の進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

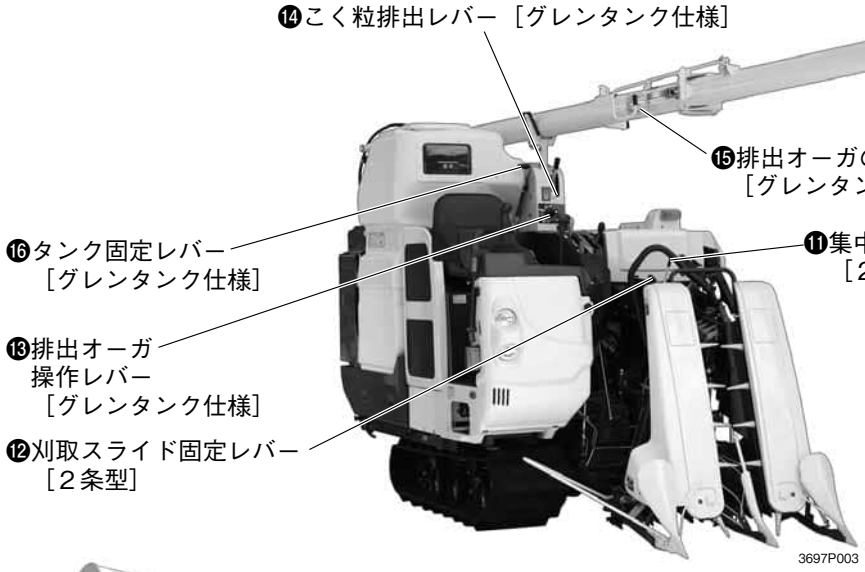
取扱いのポイント

●ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。
●ジャストディレクタは旋回力が小さいので旋回には使用できません。

2. ペダル・レバー関係



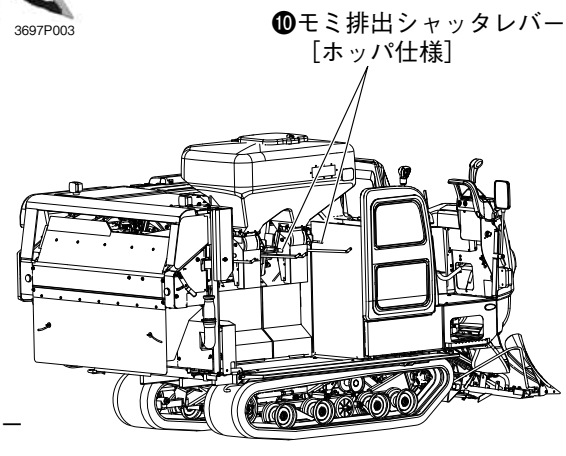
36970005



3697P003



3697P002



36970007

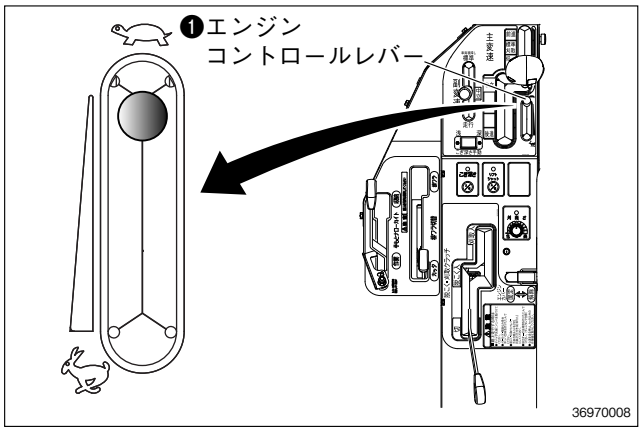
❶ エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」のときは……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



取扱いのポイント

●走行時および，マルチステアリングレバーを操作するときは，エンジン回転「2000rpm以上」で使用してください。それ以下で使用すると正常に作動しないことがあります。

❷ 主変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に増減速操作しないでください。

◆前後進の切替えは，機械が停止してから行ってください。

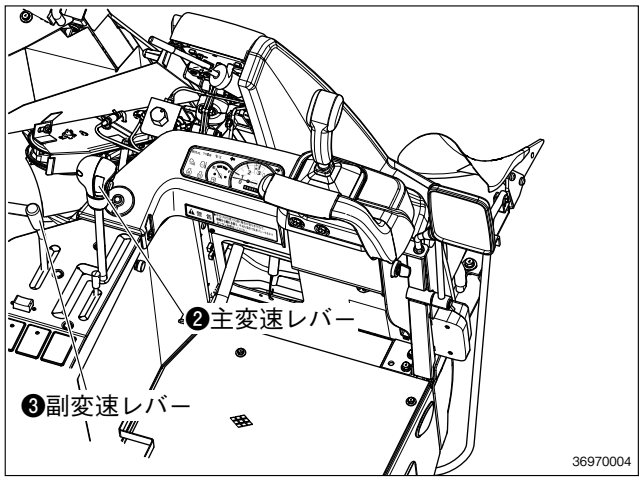
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

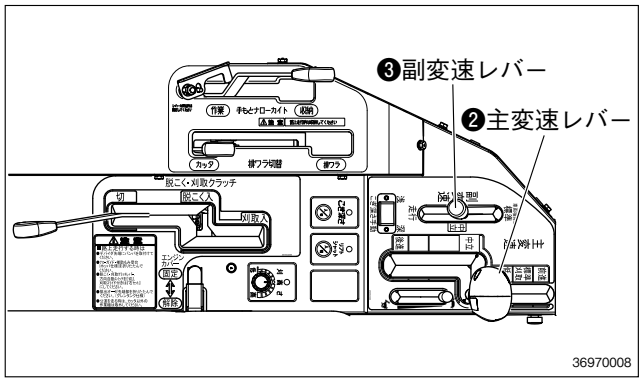
◆機械から離れるときは，《中立》でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立位置**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。

・走行クラッチペダルを踏むと，主変速レバーは《**中立**》位置に戻ります。





作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	標準	［中立］から［前進・低速］
積降ろし		［中立］から［後進・低速］
路上，ほ場走行(前進)	標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
倒伏刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
集中注油	中立	［中立］から［標準刈］

❸ 副変速レバー

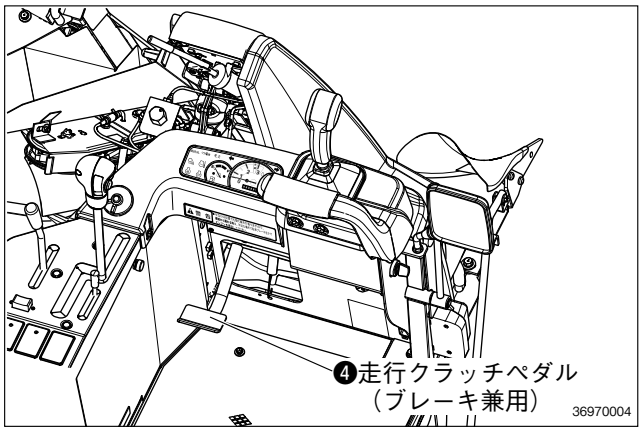
作業目的や刈取り条件により《**標準**》,《**走行**》の２段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準**》位置で行います。
・刈取り作業は,《**標準**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はできません。
・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準**》で走行します。

❹ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。
◆通常の停止は主変速レバーの操作で停止してください。
◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

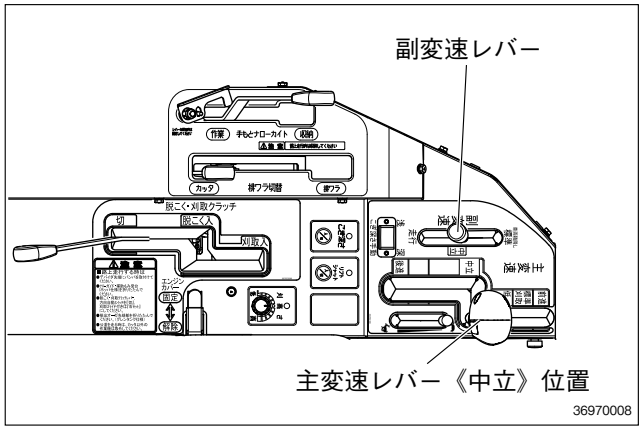


機械の始動，副変速レバーの操作に使用します。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻り，トランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

⑴ エンジンの始動に使用します。

・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。



⑵ 機械の副変速レバーの操作に使用します。

・副変速レバーを操作するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルを踏んだままだと，主変速レバーは操作できません。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

❺ 駐車ブレーキレバー

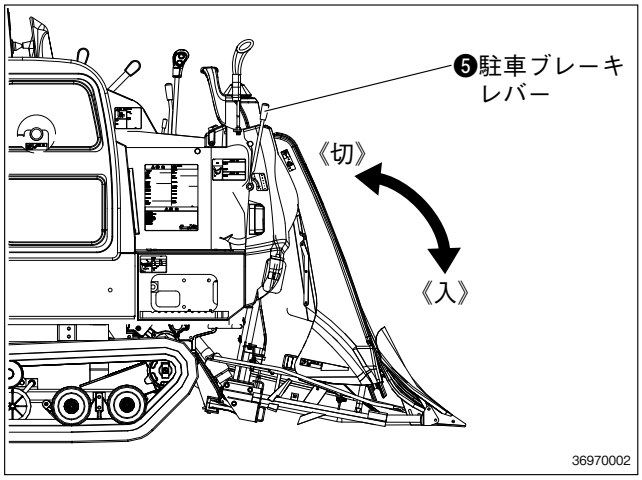
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「車止め」をしてください。

◆駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。

・駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒すと駐車ブレーキがかかります。

・駐車ブレーキレバーは主変速レバーと連動していますので，運転席から降りて，機械の停止操作を行うときにも使用します。



取扱いのポイント

●駐車ブレーキレバーを《入》方向に倒すと主変速レバーが《中立》位置に戻りますので，再発進するときは駐車ブレーキレバーを《切》にしてから，主変速レバーを操作してください。

❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

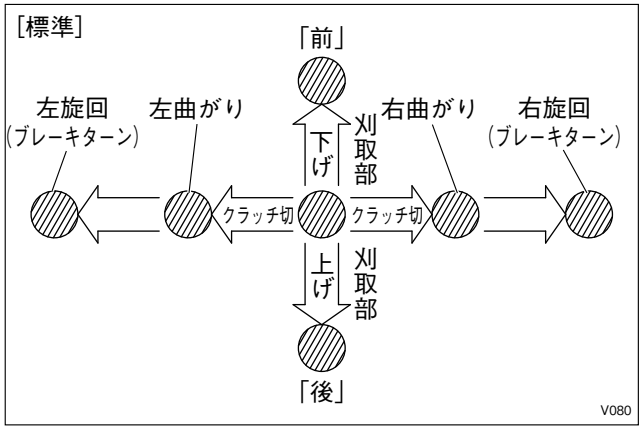
◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。また，急旋回はしないでください。

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。
レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。

・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

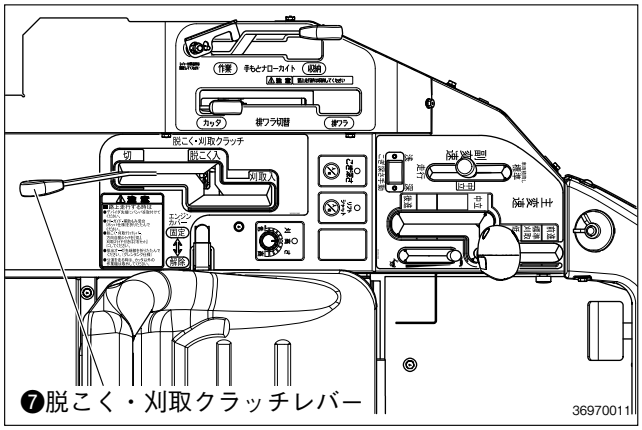
●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ 脱こく・刈取クラッチレバー

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆脱こく・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。
>
> ◆エンジンを始動する場合は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく 入**》位置にすると脱こく部が作動します。

・脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置にすると，脱こく部に連動して刈取部が作動します。また脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にすると，刈取部と脱こく部が停止します。



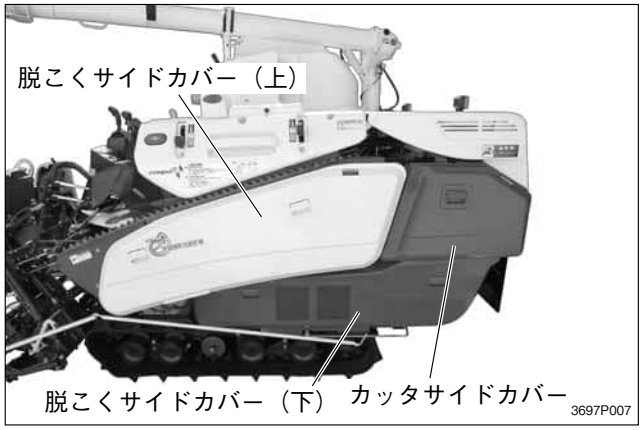
取扱いのポイント

- **刈取り作業を行うとき，回転計の「作業」以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
- **刈取・脱こく運転中，走行クラッチペダルを踏むと，走行は停止し，同時に刈取部とフィードチェンも停止します。(脱こく部は止まりません)**
- **エンジンを始動するときは，脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）が《入》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。**

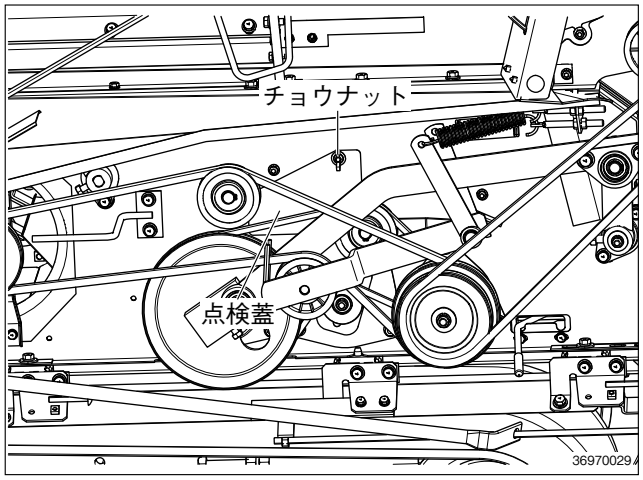
❽ フィン（選別量）調節レバー

作物や刈取りの条件により，モミに枝梗の付着や稈切れ混入が多い場合や収穫量が少ない場合に調節するレバーです。

(1) 脱こくサイドカバー（上），カッタサイドカバー，脱こくサイドカバー（下）を外します。



(2) チョウナットを外し，点検蓋を外します。



取扱いのポイント

- **レバーを操作するときは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジン停止し，行ってください。**
- **シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，ときどき同じ方法でレバーを操作してください。**

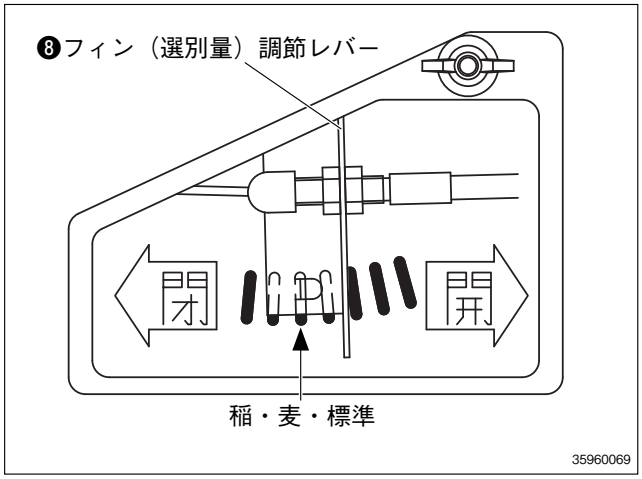
⑶ 作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向調節

・選別が悪いとき。　　・小枝梗が多いとき。

「開」方向調節

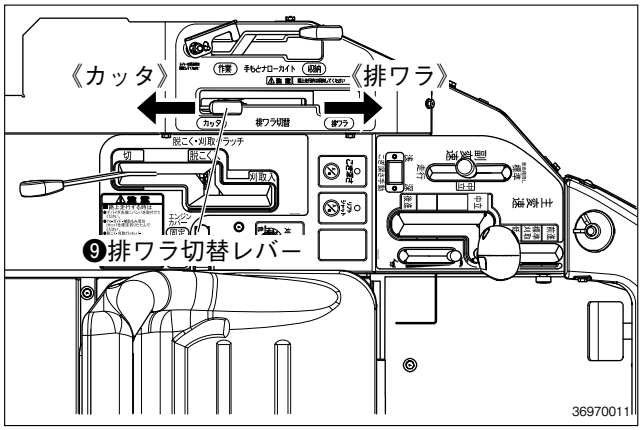
・機外飛散が多いとき。　・脱ぷが多いとき。



⑷ 調節後は点検蓋，脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取付けてください。

❾ 排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。切替え操作は作物が搬送中にないことを確認してから行います。



《カッタ》……ワラをカッタで切断します。

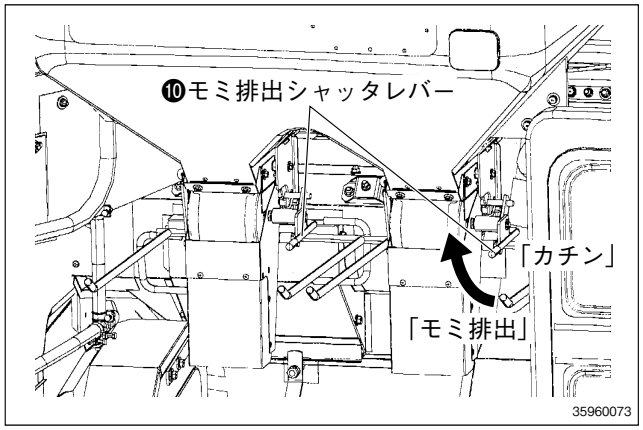
《排ワラ》……結束作業，ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する。

❿ モミ排出シャッタレバー［ホッパ仕様］

⚠注意 傷害事故防止のために

◆樋口の中に手を入れないでください。

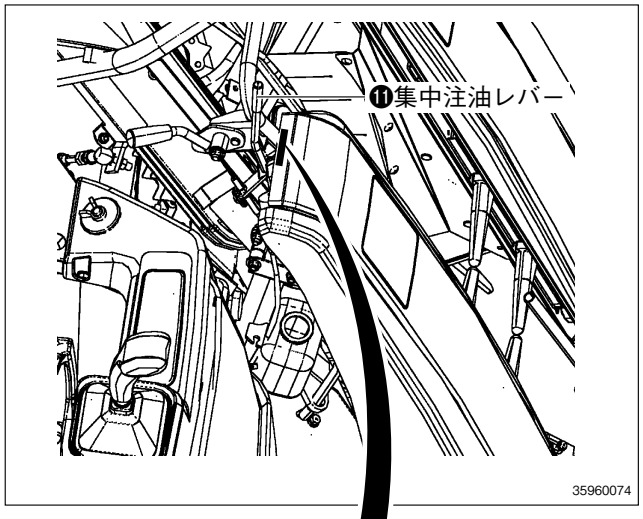
・モミを排出状態にセットするレバーです。モミ排出シャッタレバーを**「カチン」**と音がするまで引上げて**「モミ排出状態」**にセットします。

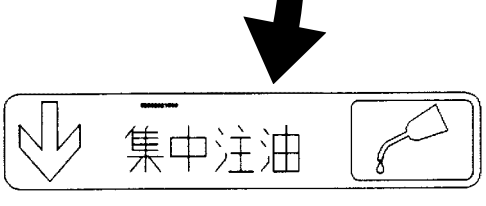


⓫ 集中注油レバー

刈取部に集中注油するレバーです。

［3条型］は脱こくフィードチェン部および排ワラチェン部にも注油します。





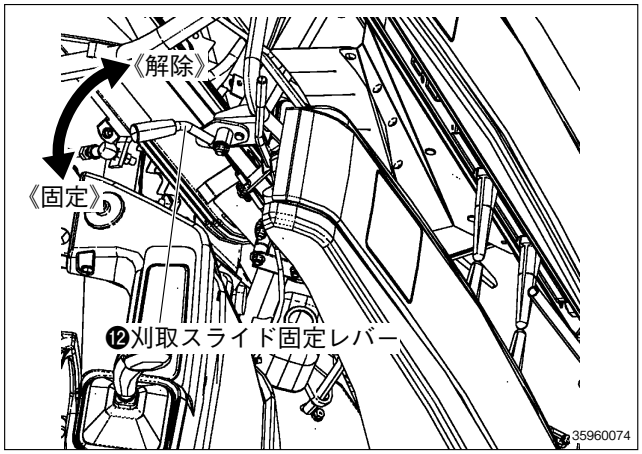
⑫ 刈取スライド固定レバー［２条型］

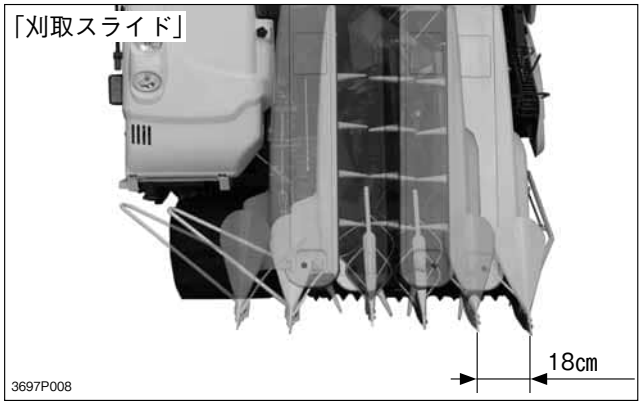
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を動かす（スライドさせる）ときには，刈取部を上げエンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にして，フックをかけてください。

刈取スライド固定レバーを持上げて，ロック（固定）を《**解除**》することにより刈取部を手動で横移動させるレバーです。

移動させた後は刈取スライド固定レバーで刈取部が《**固定**》（ロック）されていることを確認します。

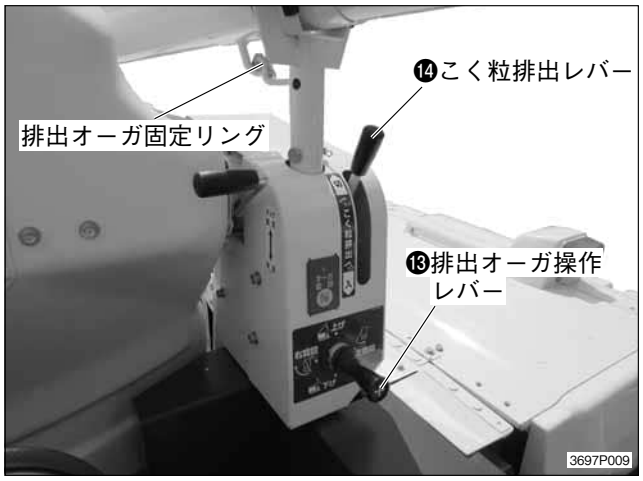




取扱いのポイント

- 刈取スライドは右端または左端で固定して使用します。
- 刈取スライドを作動させるときは，刈取部をデバイダ先端で10～15cm上げて行ってください。
- 刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。

⑬ 排出オーガ操作レバー［グレンタンク仕様］



⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガを旋回するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して排出オーガを「上げ」てから周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを「**上げ**」，「**下げ**」および「**左旋回**」，「**右旋回**」させるレバーです。

⑭ こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。
- エンジンを始動するとき，こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。

⓯ 排出オーガの延長折りたたみ操作レバー［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

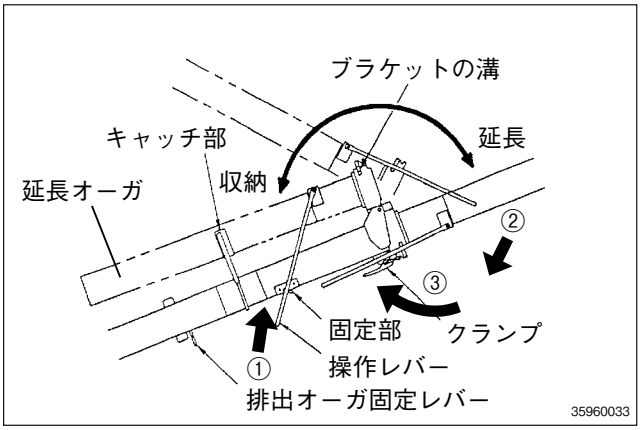
◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

◆路上走行するときは，排出オーガを折りたたんで固定し走行してください。

［延長のしかた］

① 操作レバーを固定部より外し，支点ピンに操作レバーをかけ排出オーガを延長方向へ回します。

② 操作レバーをフックにかけ直し排出オーガを回して「**延長状態**」でクランプをかけ「**固定**」します。



［折たたみかた］

① クランプを「**解除**」し，操作レバーをフックにかけて排出オーガを収納方向へ回します。

② 操作レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

③ 操作レバーを固定部にかけて固定します。

⓰ タンク固定レバー［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

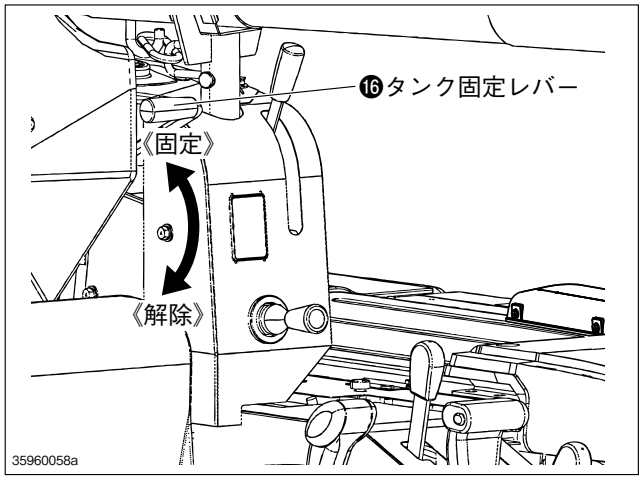
◆タンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態でタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されている事を確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

グレンタンク回動部を固定するレバーです。

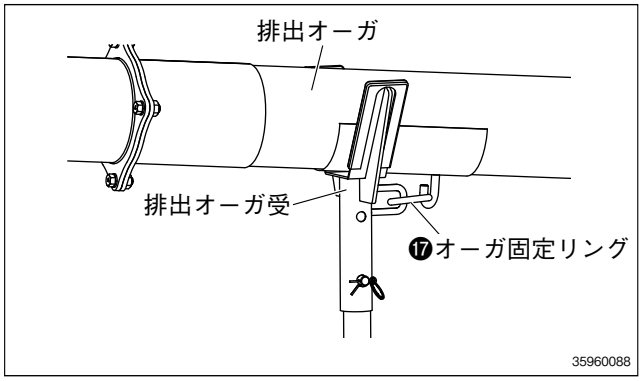
※グレンタンクの回動は97～98ページ参照。



⑰　排出オーガ固定リング［グレンタンク仕様］

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

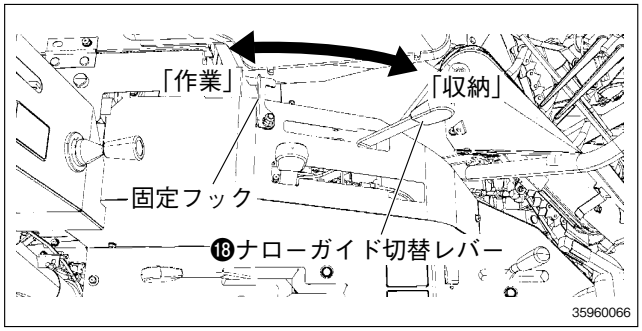
排出オーガを操作をする前に，排出オーガ固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，排出オーガ固定リングをフックにかけておきます。

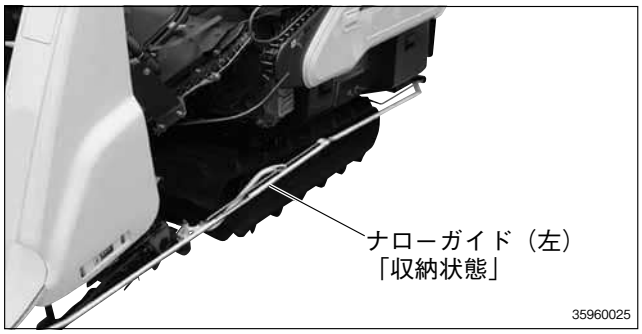


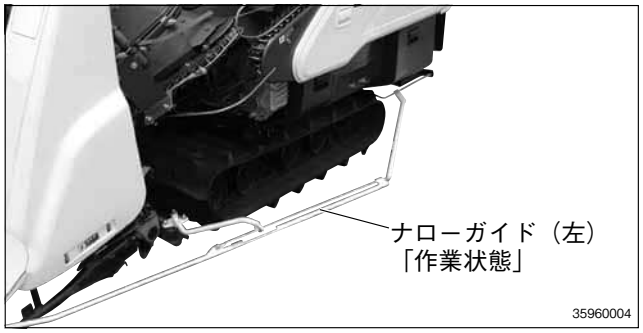
⑱　ナローガイド切替レバー

ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。
・作業時，ナローガイド切替レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》位置にしてください。
・公道走行時は《**収納**》位置にします。



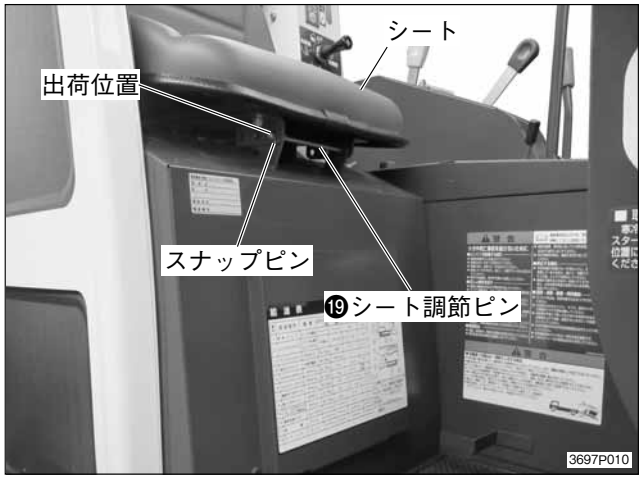




⑲　シート調節ピン

シートの前後位置がシート調節ピンで３段階に調節できます。

スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆異常が見つかった場合は，処置が完了するまで使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー ラジエータフィン オイルクーラフィン	・エンジンカバーの内側にゴミが溜まっていませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・ゴミを取除く。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	84
マフラやエンジン回り，サイドカバー(上)(下)	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓がゆるんでいれば増締めする。 ・直らないときは，点検を受けてください。	68～82
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースの交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	121
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	89

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	84〜85
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがオイルレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	71〜72
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	73〜74
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。 タンク容量：25 L	70
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油する	80，82
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	11 87〜89
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	11 87〜89
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	87〜89
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。 （エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。	8〜11, 57 149〜151
回転計	・正常に作動しますか。 （エンジン始動で）	・点検を受けてください。	10
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。	18
走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・走行クラッチペダルの調整をしてください。	17
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	125〜145

2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動はシートに座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《中立》にして，脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）が《切》で駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

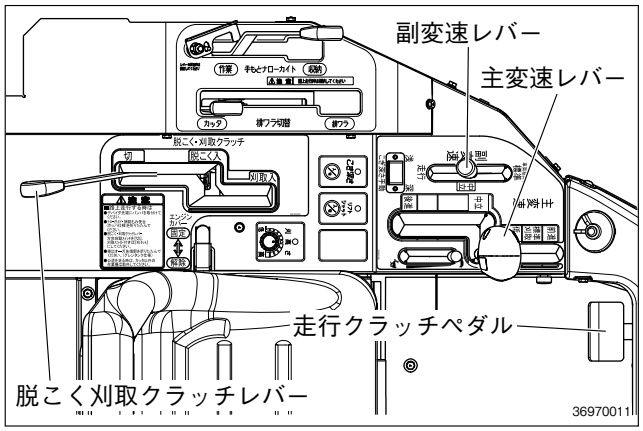
⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

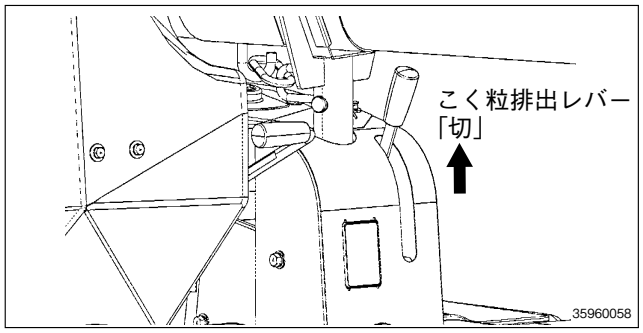
1. エンジン始動のしかた

❶ 体格に合わせシート調節ピンで着座位置を調節します。(23ページ参照)

❷ 主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**中立**》位置にします。

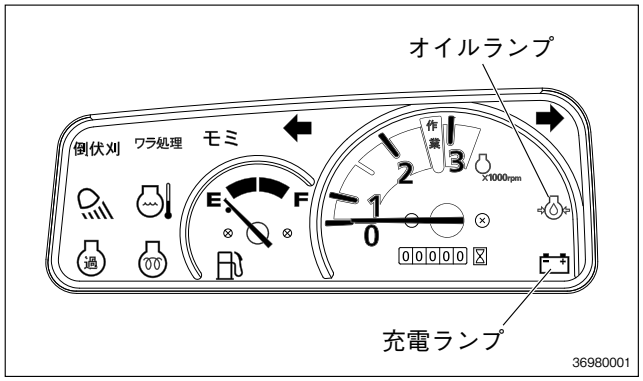


❸ 脱こく・刈取クラッチレバーが（[**グレンタンク仕様**] は更にこく粒排出レバー）が《**切**》位置にあることを確認します。



❹ エンジンコントロールレバーを《🐇》(**高速**) 位置にセットします。

❺ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**オイル**」，「**充電**」のランプが点灯することを確認します。



❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置（このとき予熱ランプが点灯します）に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を低回転「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーを《中立始動》（前進側中立位置）にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。**
- **セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。**

2．エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にします。

❷ スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

1．走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

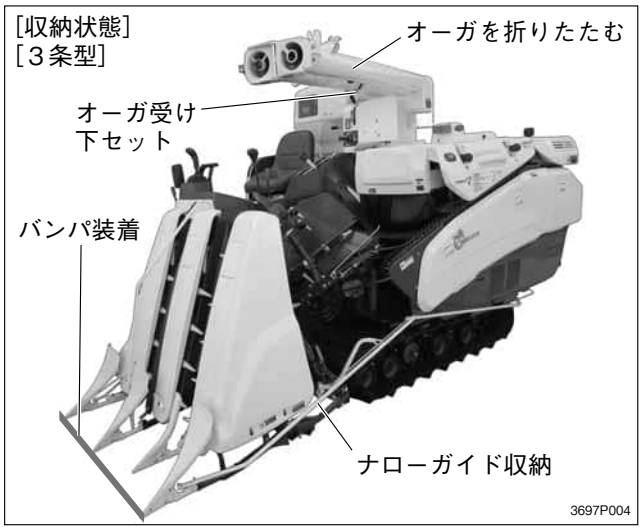
◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物などにあてないようにしてください。
◆あぜ越え，路上走行などではジャストディレクタを使用しないでください。

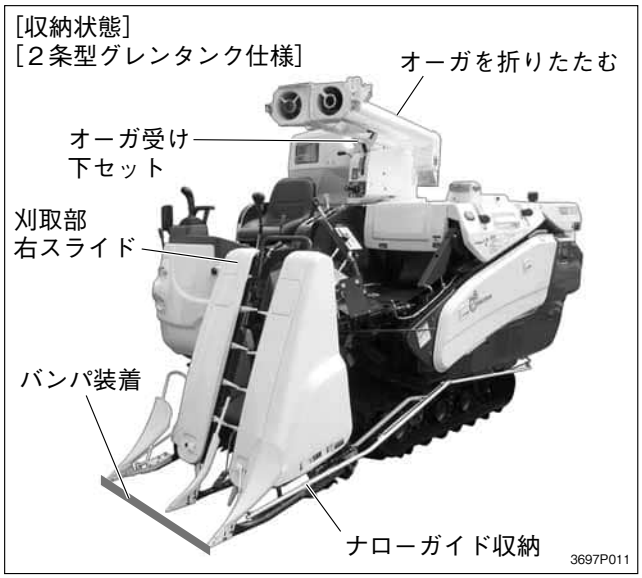
⚠注意 傷害事故防止のために

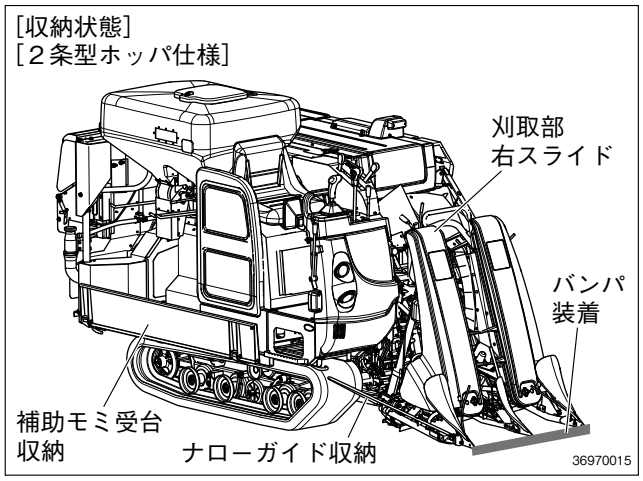
◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- ホッパおよびグレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんで固定リングをフックにかけ固定します。［グレンタンク仕様］
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。［グレンタンク仕様］
- 補助モミ受台［ホッパ仕様］を収納します。
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。［ディーラーオプション］
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。

●防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション]
●刈取スライドを右スライドにし固定します。[２条型]
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。

❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。







❷ 公道を走行するときは，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタなど）**を取外します。
❸ ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出します。
❹ オーガ受けを「**下セット**」位置にします。排出オーガの「**排出オーガ固定リング**」がかかっていることを確認します。
❺ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にし，方向自動スイッチ［**ディーラーオプション**］を《**切**》にして，防じんカバー［**ディーラーオプション**］を下げてからエンジンを始動します。
❻ エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。
❼ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**30㎝**」程度上げ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》にし，フックをかけて刈取部を固定します。
❽ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。
❾ 駐車ブレーキを「**解除**」します。
❿ 主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。
⓫ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器の点灯で合図をします。
⓬ 発進するときや作業開始するときはホーンで合図をします。
⓭ 発進するときや作業開始の合図は，ホーンで行います。
⓮ 路上走行時，作業灯は消灯します。

取扱いのポイント

●**副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んで行なってください。**

2．停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》《中立》，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，キースイッチからキーを抜取ってください。

◆燃えやすいものの近くには，止めないでください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転を低速回転にセットし，５分間程度空運転を行います。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にして，エンジンを停止します。

❺ 副変速レバーを《**標準**》に入れます。

❻ 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

●**ブレーキロックを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**

4. 自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，つぎのことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

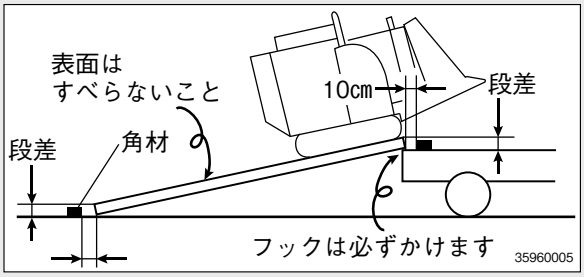
◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

●アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央に真っ直ぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落するおそれがあります。

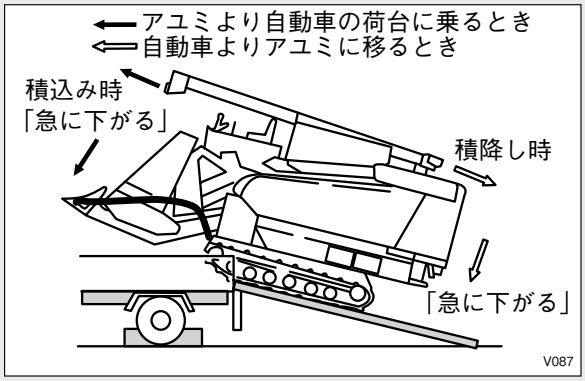
・主変速レバー・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・ジャストディレクタ
・ブレーキペダル
・駐車ブレーキレバー

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行なってください。

◆機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆運転者は機械が自動車に乗る直前や降りた直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づき，駐車ブレーキレバーを《入》にし，機械を停止させてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

●ホッパおよびグレンタンク内のこく粒はすべて排出します。

●バンパを取付けます。

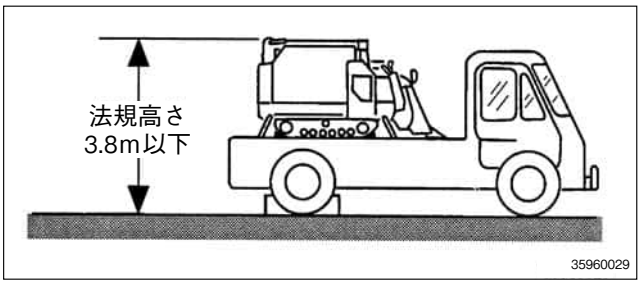
●ナローガイド，補助モミ受台［ホッパ仕様］を収納します。

●排出オーガを「下セット」にし，いっぱいに収納します。[グレンタンク仕様]
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを《固定》します。[グレンタンク仕様]
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●刈取スライドを左スライドに《固定》します。[2条型]

1．自動車・アユミについて

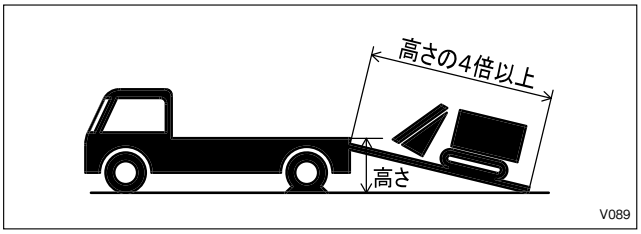
❶ 積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「車止め」**をします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	50cm以上
数量	２枚
強度	１枚が1,000kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に**「段差」**のないようにかけ，**「横ずれ」**したり，**「外れ」**たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ 刈取部を**「右スライド」**[**2条型**]し，ナローガイド，補助モミ受台[**ホッパ仕様**]，排出オーガ[**グレンタンク仕様**]を収納します。(収納状態)

❷ エンジンを始動し，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を**「2000回転」**程度にセットします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速レバー《**前進**》の低速，副変速レバー《**標準・車両積降ろし**》で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速レバー《**後進**》の低速，副変速レバー《**標準・車両積降ろし**》で行います。

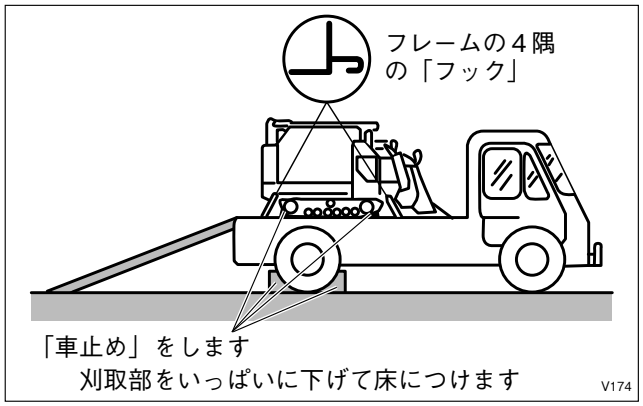
❻ 積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに**「車止め」**をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



取扱いのポイント

●２条型は刈取部スライド装置を装備していますので，路上走行やトラック積込みのとき，右スライドに固定してください。

5．ほ場への出入り

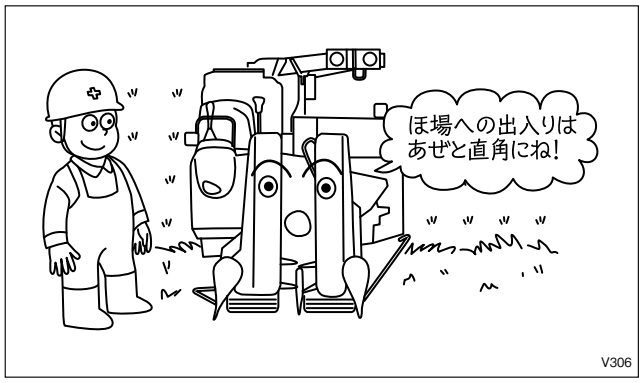
⚠警告　傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。
●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。
◆ほ場への出入りする前に，ホッパおよびグレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。
◆方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にしてください。［ディーラーオプション］
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

⚠注意　傷害事故防止のために

●補助モミ受台［ホッパ仕様］を収納します。
●排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックにかけ固定します。［グレンタンク仕様］
●排出オーガを「下セット」にし，オーガ固定リングをフックにかけ固定します。［グレンタンク仕様］
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。［グレンタンク仕様］
●方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。［ディーラーオプション］
●刈取りスライドを右スライドにし固定します。［２条型］

1．ほ場への出入りのしかた



❶　刈取部を上げ，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速レバーを《**標準・車両積降ろし**》位置，主変速レバーを《**前進**》の低速または《**後進**》の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷　アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

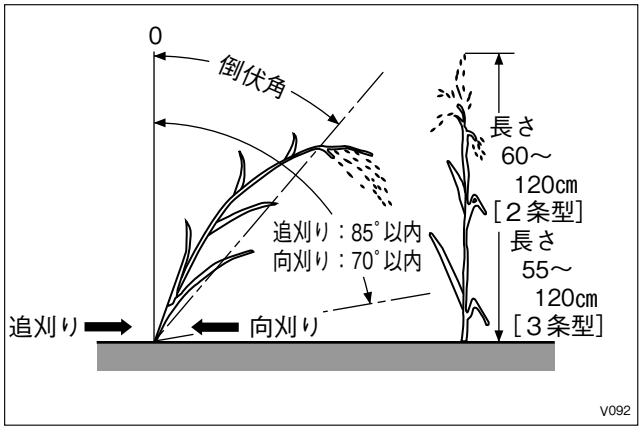
作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…60～120㎝まで刈取りできます。[**２条型**]
　　55～120㎝まで刈取りできます。[**３条型**]

・倒れ（倒伏角）
　…追刈り：85°以内まで刈取りできます。
　　向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，つぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。
・能率があがらない
・選別不良
・詰まりやすい
・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

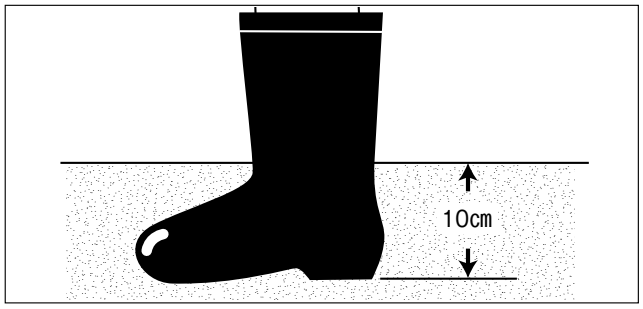
病害虫に侵された作物の刈取りは，つぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は「**手刈り**」をしておきます。

・こく稈が折れやすい
・刈取り・搬送部の詰まり
・脱こく部の詰まり

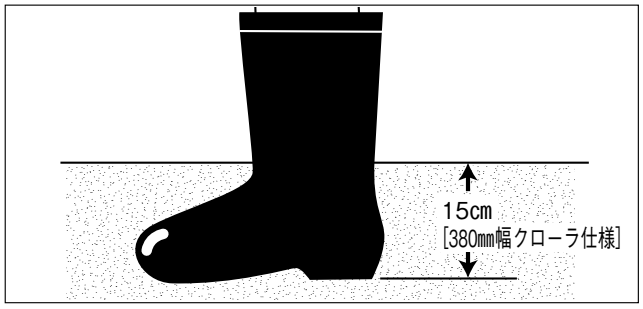
2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**10㎝**」までは作業ができます。



・クローラ（オプション仕様）によっては，下記沈下量までは作業ができます。

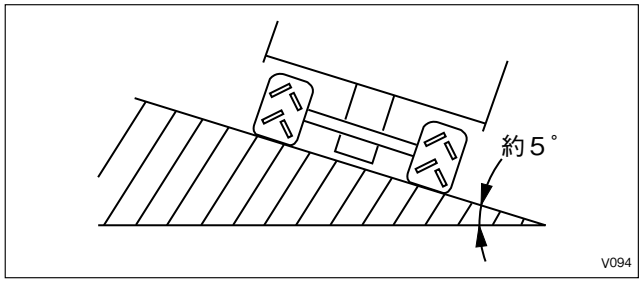


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５°以上では作業できません。



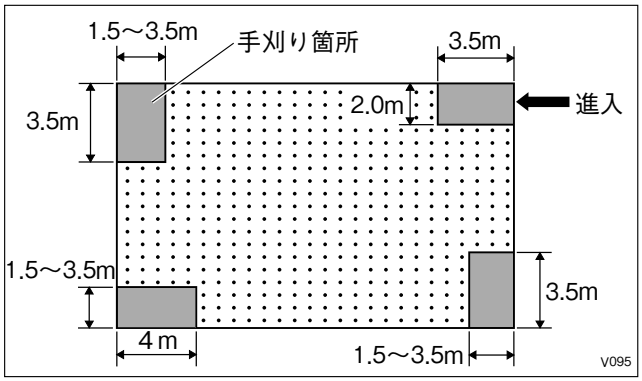
取扱いのポイント

●適応範囲を越えての作業はできません。行わないでください。
●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3. ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。

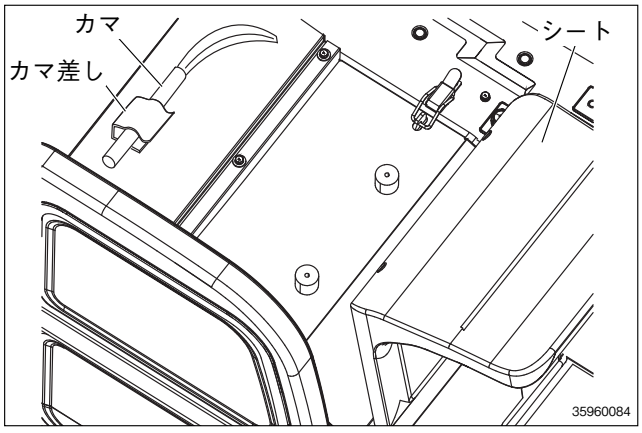


取扱いのポイント

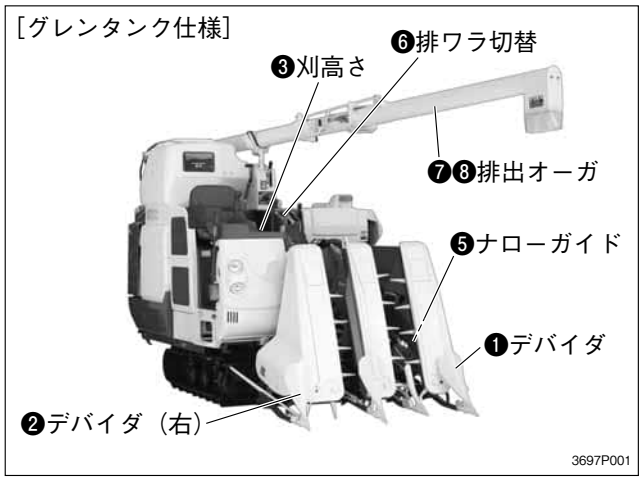
- **強制かき込みスイッチを使用することにより四隅の手刈り面積を少なくできます。**
- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜ際いっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**

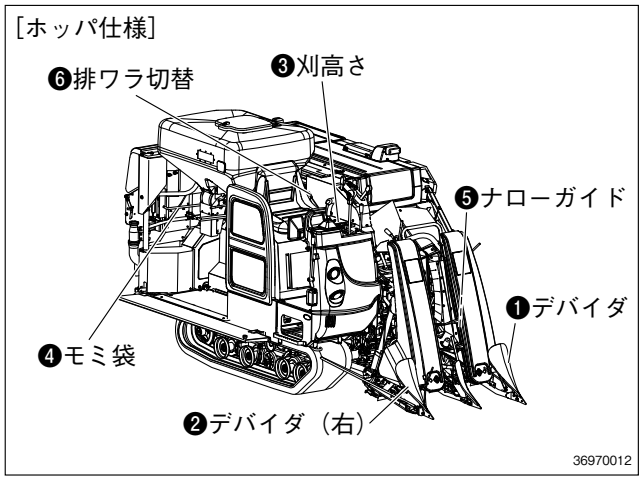
・カマ差しは，シート後方にあります。

・カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。



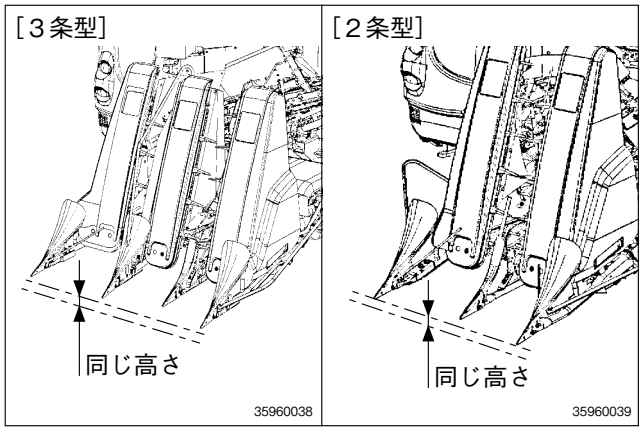
4. 機械の準備





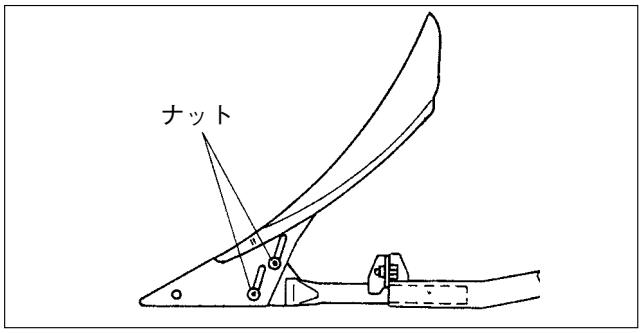
❶ デバイダの調整

(1) デバイダ先端の高さを全て同じにします。



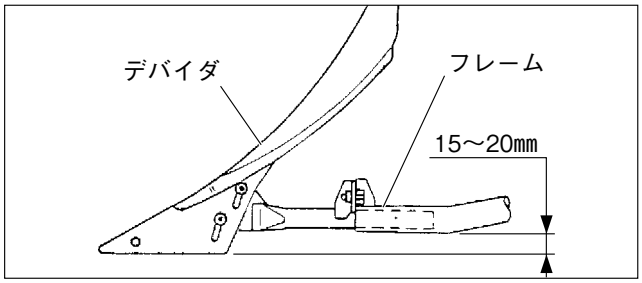
(2) 刈取部を下げたとき，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合やデバイダ先端が地面より離れている場合はデバイダの取付け位置を調整します。

・取付ナットをゆるめ，長穴部で調整し確実に締付けます。



取扱いのポイント

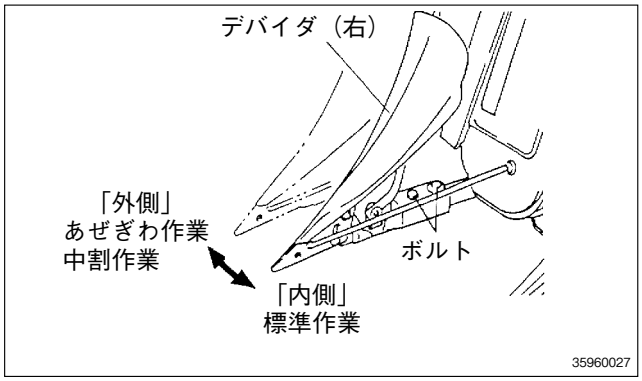
●湿田での作業時は，デバイダをフレームより「15～20㎜」下げて作業してください。



❷ デバイダ（右）の調整

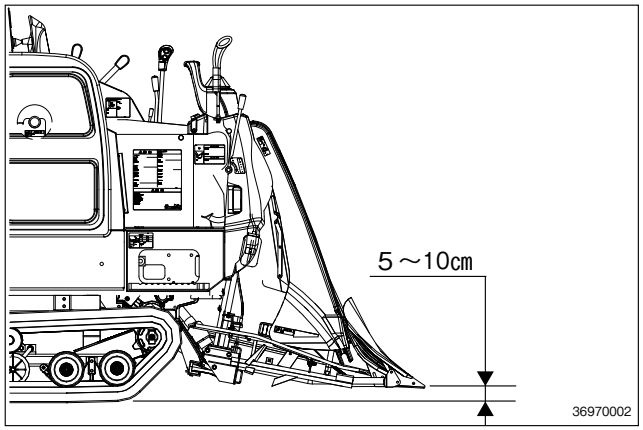
・デバイダ（右）は「**内側**」位置が標準です。

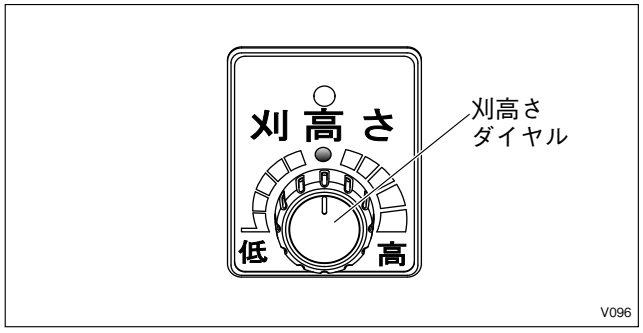
・中割作業やあぜ際作業をするときは，２本のボルトをゆるめて「**外側**」位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❸ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「**５～10㎝**」になるように刈高さダイヤルで調整します。(63ページ刈高さポジションコントロール参照)





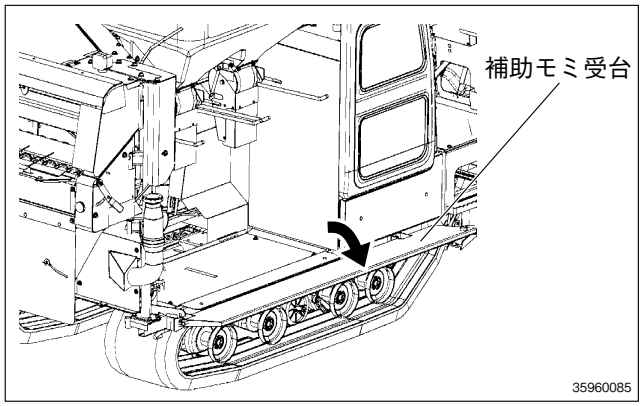
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ モミ袋の取付け［ホッパ仕様］

⚠注意 傷害事故防止のために

◆シャッタを閉じるときは，モミ排出シャッタレバーで手をたたかれないようにしてください。

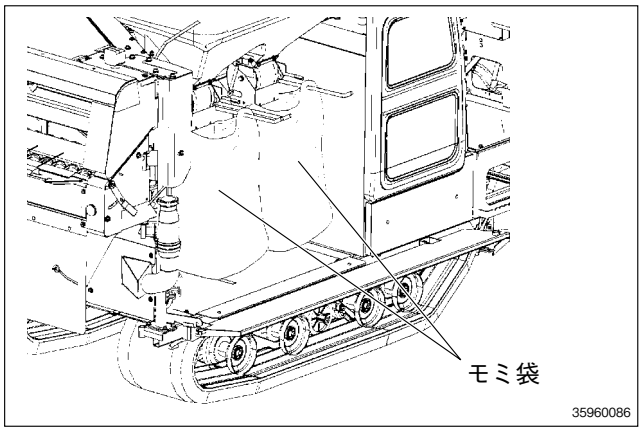
(1) 補助モミ受台を作業位置に開きます。



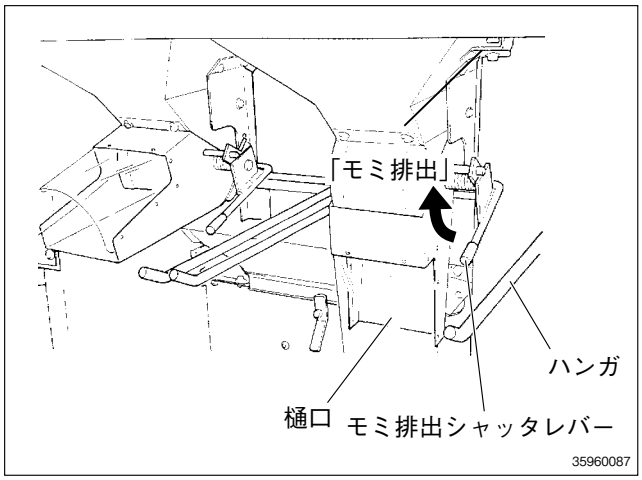
取扱いのポイント

●回り刈りや中割り刈りを行う場合は補助モミ受台を収納してください。収納せずに作業を行うと作物やあぜに引っかかるおそれがあります。

⑵ モミ袋のファスナを開き，１組のハンガに**10枚程度**のモミ袋をかけます。



⑶ １番外側のモミ袋は樋口に差込みモミ排出シャッタレバーを「**カチン**」と音がするまで引上げて「**モミ排出状態**」にセットします。

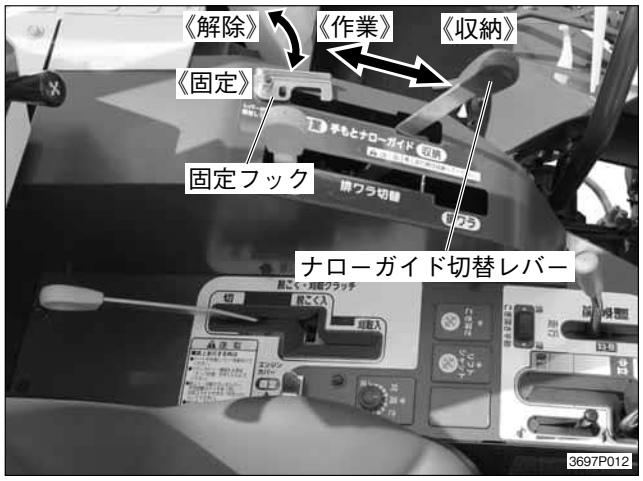


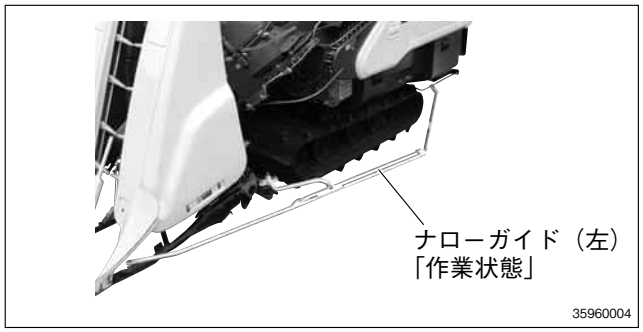
❺ ナローガイドの調節

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。

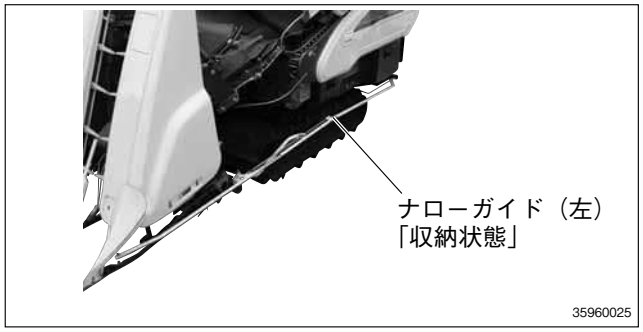
・通常，固定フックは《**解除**》の位置で作業します。

・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。



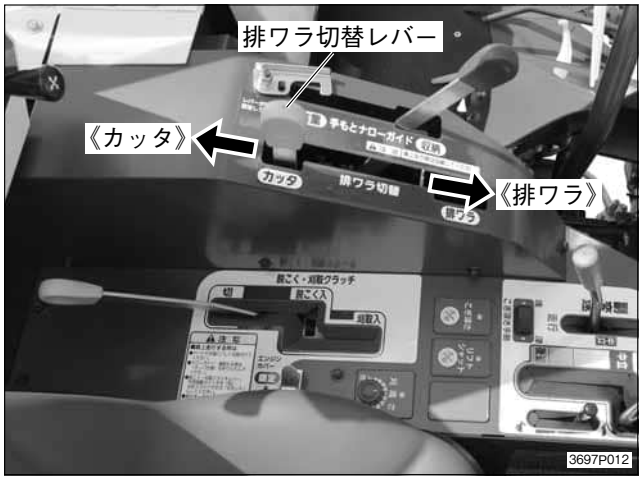


・右まわりあぜ際刈取りなど，障害物があるときは収納してください。



❻ 排ワラ切替え

・作業内容に合わせて《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



❼ 排出オーガ受のセット［グレンタンク仕様］

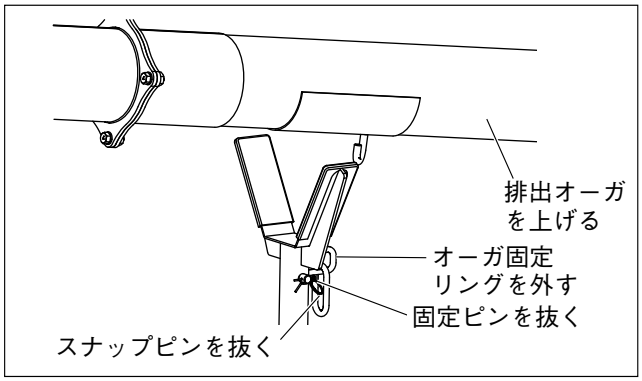
> ⚠**注意** 傷害事故防止のために
>
> ◆刈取作業時には，排出オーガを排出オーガ固定リングで固定してください。
>
> ◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にして折りたたんでください。

工場出荷時に排出オーガ受は「**下セット**」で出荷されています。

(1) オーガ固定リングをフックから外し排出オーガを「**上げ**」ます。

(2) 排出オーガ受を止めている固定ピンからスナップピンを抜き，固定ピンを排出オーガ受から抜きます。

「**出荷状態（下セット）**」

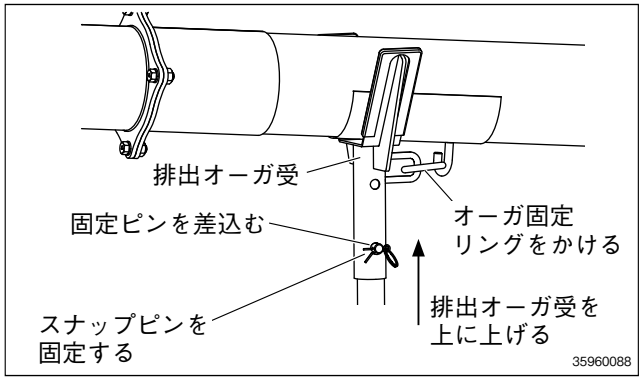


(3) 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴に合わせます。

(4) 固定ピンを差込んで，スナップピンで止めます。

(5) 排出オーガを「**下げ**」フックにオーガ固定リングをかけます。

「**上位置セット**」



❽ 排出オーガの延長［グレンタンク仕様］

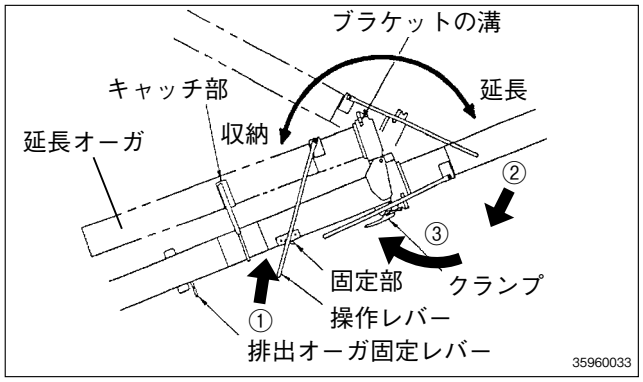
> ⚠**注意** 傷害事故防止のために
>
> ◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車し，エンジンを停止して，排出オーガが固定されていることを確認してください。
>
> ◆排出オーガを延長するとき，オーガの内側に手を入れないでください。

「**延長のしかた**」

① 操作レバーを固定部より外し，延長オーガを押出します。

② レバーをブラケットの溝に差込み，オーガを右に回します。

③ 「**延長状態**」でクランプをかけ，「**固定**」します。



「折りたたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定レバーで固定して，「**延長と逆順**」に行います。

① クランプを「**解除**」し，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーをブラケットの溝より外して手前に引いて，延長オーガをキャッチ部に入れ「**収納状態**」を確認します。

③ レバーを固定部にかけて固定します。

2. 刈取り作業のしかた

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1. 刈取り操作の手順

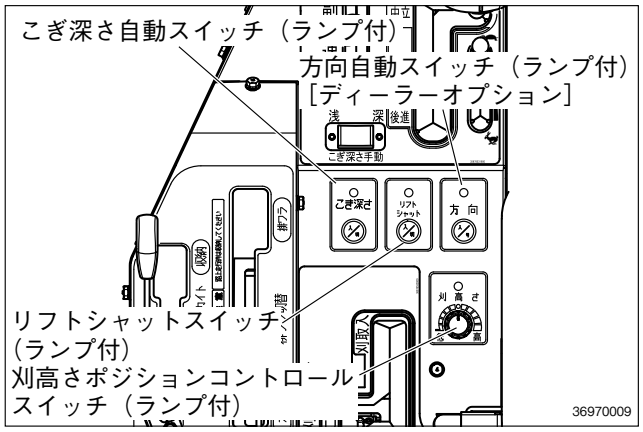
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを低速から順次速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

❷ こぎ深さ自動スイッチのランプが点灯していることを確認します。



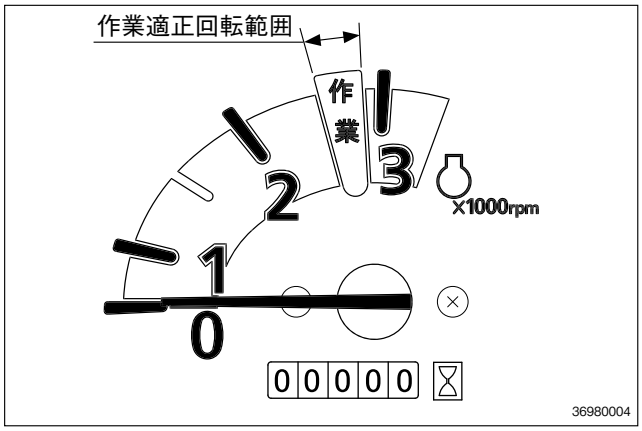
各自動装置の取扱いは60～65ページを参照します。

❸ リフトシャットスイッチを作業に応じて《**入**》または《**切**》にします。

❹ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。（41ページ参照）

❺ エンジン回転を調整します。

脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置に入れ，回転計の指針が「**作業適正回転範囲の上限**」になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



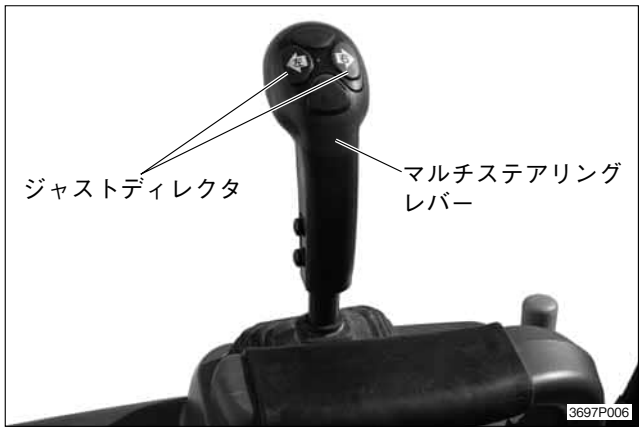
取扱いのポイント

- **刈取り作業中は，「作業適正回転範囲」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**

❻ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（作業速度の選びかた41ページ参照）

❼ 方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

・方向自動制御を使用する場合は，「**方向自動制御の取扱い**」の項61～62ページを参照。



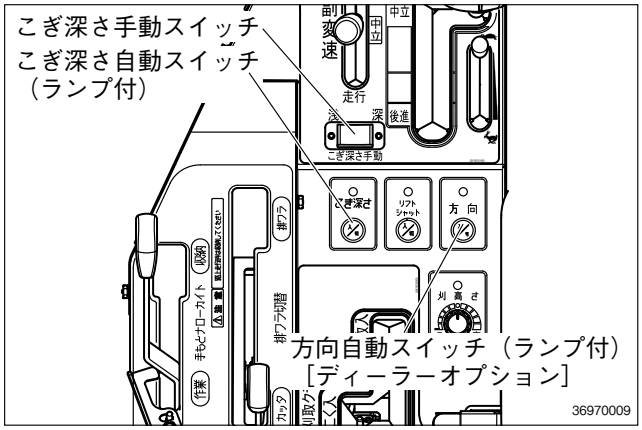
取扱いのポイント

- **ジャストディレクタで方向修正を行うとスムーズに行えます。**

❽ **適正こぎ深さの調整**

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が「**穂先マーク**」の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項60～61ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❾ 作業中は，回転計の指針が，「**作業適正回転範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。
（10ページ参照）

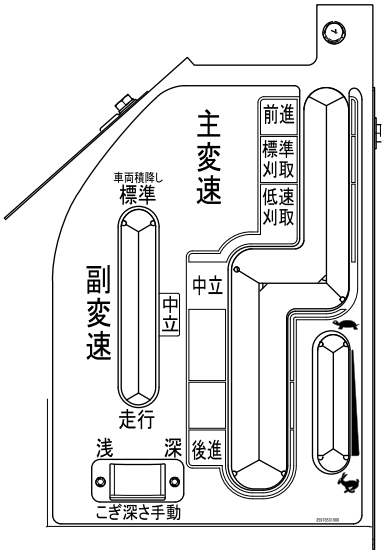
取扱いのポイント

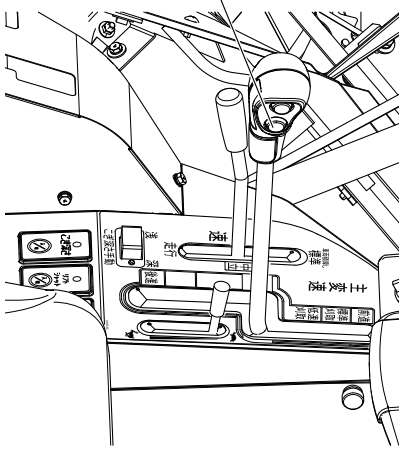
- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

2．作業速度の選びかた

・作業の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">使用条件
（作物の状態）</th><th colspan="3">変速レバー位置</th></tr>
<tr><th>副変速</th><th>倒　伏
スイッチ</th><th>主　変　速</th><th>各レバー略図</th></tr>
<tr><td>①</td><td>1．直立。
2．中倒伏の場合。</td><td>標準</td><td>《切》</td><td rowspan="6">「中立」位置から発進してください。

「標準刈取」の範囲で刈取作業を作業を行い，稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。</td><td rowspan="7">

36970013
倒伏刈スイッチ

36970014</td></tr>
<tr><td>②</td><td>1．倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。</td><td>標準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>③</td><td>1．全倒伏の場合。
2．周囲刈りで，低速作業をする場合。
3．稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。</td><td>標準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>④</td><td>1．脱粒しやすい品種を刈取る場合。
2．倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。
3．根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。</td><td>標準</td><td>《切》</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>1．④の２，３の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。</td><td>標準</td><td>《入》</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>1．路上走行
2．長距離の走行</td><td>走行</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>1．積込み，積降ろし
2．あぜ越え</td><td>標準</td><td>ー</td><td>「中立」から低速，エンジン2000回転程度</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>1．集中注油</td><td>中立</td><td>ー</td><td>「中立」から「標準刈取」</td></tr>
</table>

3．刈取部スライドの使い方［2条型］

この装置は刈取部を左右に18㎝スライド（横移動）でき，刈取部を右側に移動することにより**「中割り刈り」**や**「あぜ際（左回り）刈り」**ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

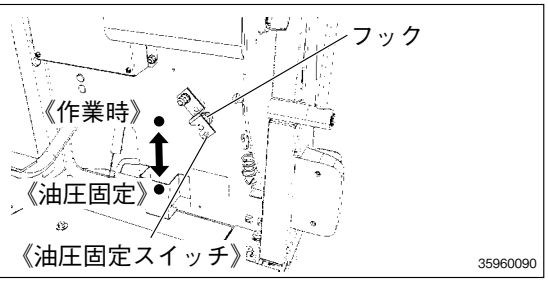
◆刈取部をスライドさせるときは，平坦な場所で行ってください。

◆刈取部をスライドさせたときは刈取スライド固定レバーで確実に《固定》してください。

「刈取部スライド（横移動）のしかた」

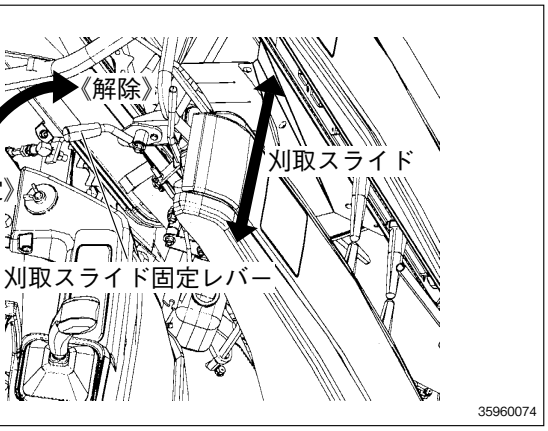
❶ 駐車ブレーキをかけます。

❷ エンジンを始動し，刈取部をデバイダの先端で10～15㎝程度上げて，油圧固定スイッチを**《油圧固定》**にし，フックをかけてエンジンを停止します。



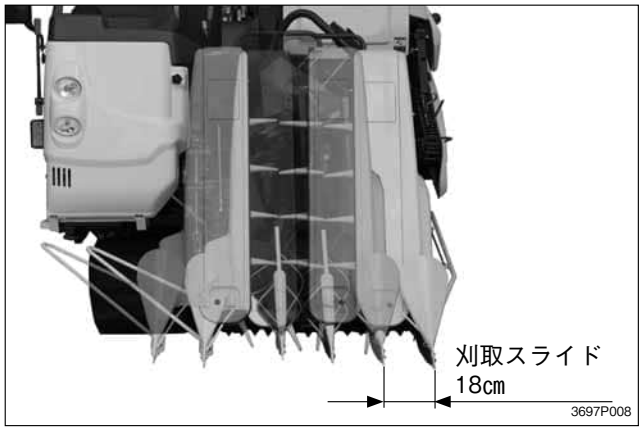
❸ 刈取スライド固定レバーを持上げると，刈取スライド固定レバーが**《解除》**方向に動き，刈取スライドの**《固定》**が外れます。

《解除》の状態で刈取部を左端または右端に手動でスライドさせます。



❹ 刈取部が右端または左端に移動したら刈取スライド固定レバーを離します。

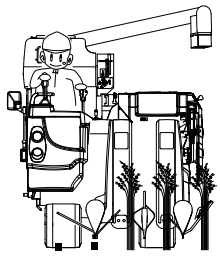
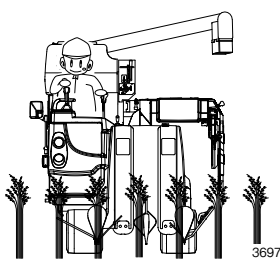
❺ 刈取スライド固定レバーが**《固定》**方向に動き，刈取スライドは自動的に固定されます。



取扱いのポイント

- **刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。**
- **刈取スライド固定レバーが《解除》しにくいときは，刈取部を少し揺らしてください。**
- **刈取部が端に移動し，刈取スライド固定レバーが《固定》位置まで下がったことを確認してください。**

「作業のしかた」

スライド位置	通常作業
左スライド（通常）	・通常の左回り刈り ・麦うね ・点検整備時
右スライド	・中割り ・あぜ際（左回り）刈り ・路上走行 ・トラック運搬

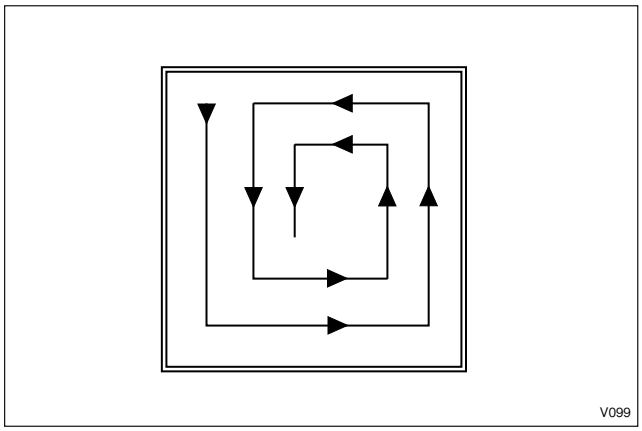
4. ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，**「左回り刈り」**が基本です。

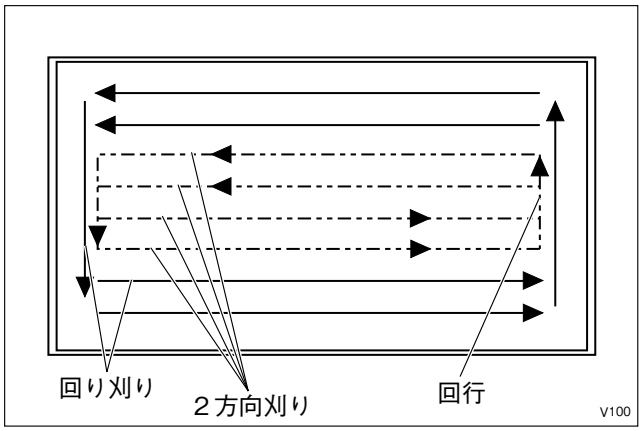
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

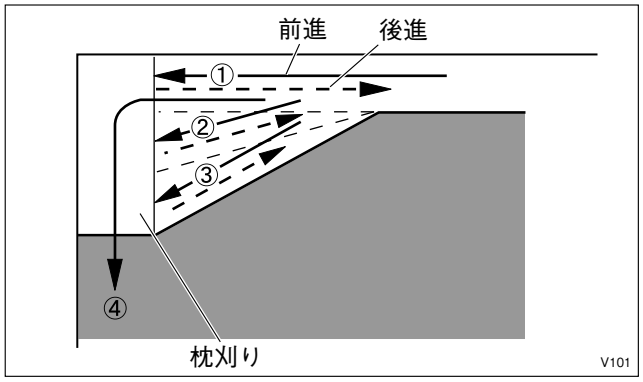


⑶ あぜ際刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

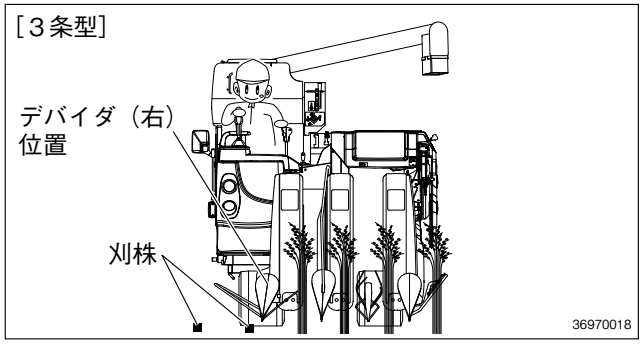


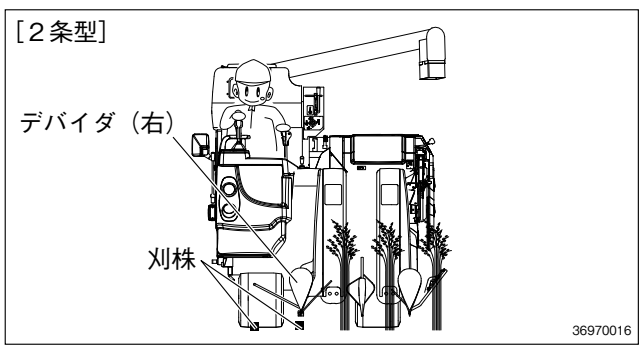
取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

⑸ 条合わせ刈り

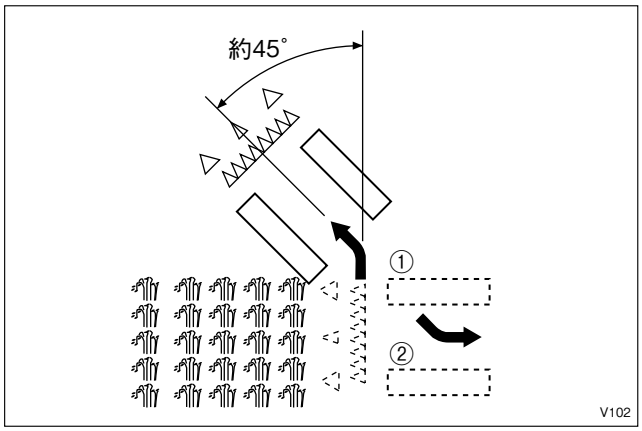
・デバイダ（右）を基準に**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。





⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。
・エンジン回転はそのままで，連続作業の状態で旋回します。（湿田では，大きく旋回します。）左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，つぎの刈取る方向に機械が真っ直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

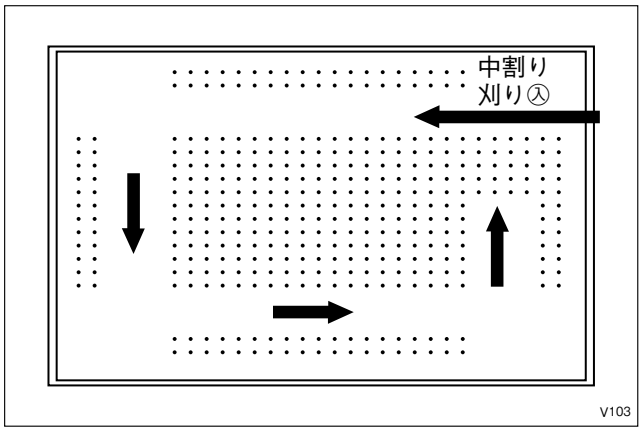


取扱いのポイント

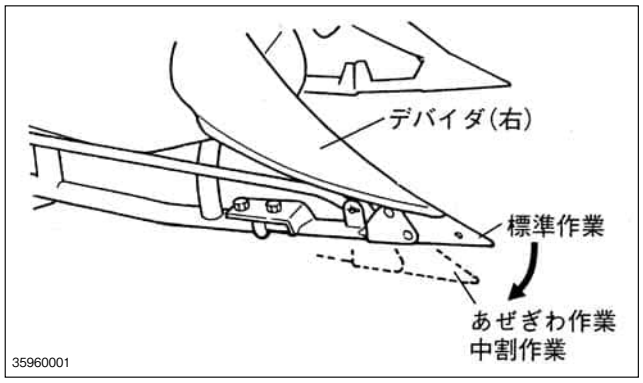
●旋回のときには，エンジン回転を下げたり，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

❷ **３条型の中割り刈り**

・あぜ際刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，「**低速**」で行います。



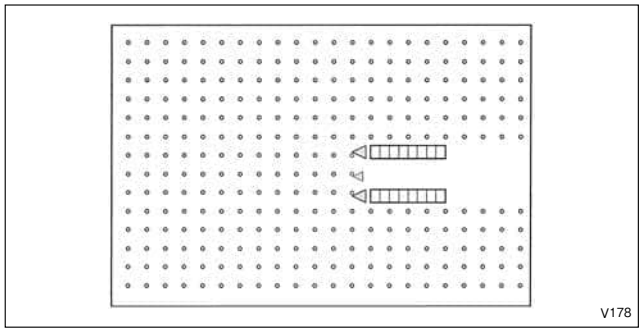
⑴ デバイダ（右）を，あぜ際作業，中割作業位置にセットします。



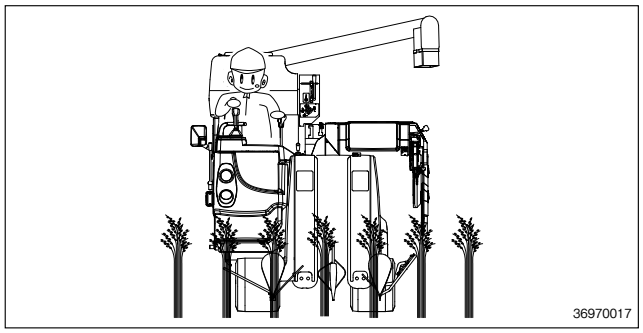
⑵ デバイダ（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ **２条型の中割り刈り**

・広いほ場を能率良く刈取り作業を行う場合は「**中割り刈り**」をして分けて刈取ります。



⑴ 刈取部を「**右スライド**」させて固定します。
・補助モミ受台を折たたみます。[**ホッパ仕様**]
⑵ デバイダ（右）を刈取る株元の右側に合わせて刈取ります。



取扱いのポイント

●倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。
●カッタ下部カバーを中割り位置にしてください。
（59ページ参照）

❹ ３条型の右回り刈り

⑴ まわりのあぜが高く，あぜ際まで植付けされているときは，あぜ際の３条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

⑵ 残した３条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左)**」を収納し，「**デバイダ（左)**」をあぜに突込まないようにします。

❺ ２条型の右回り刈り

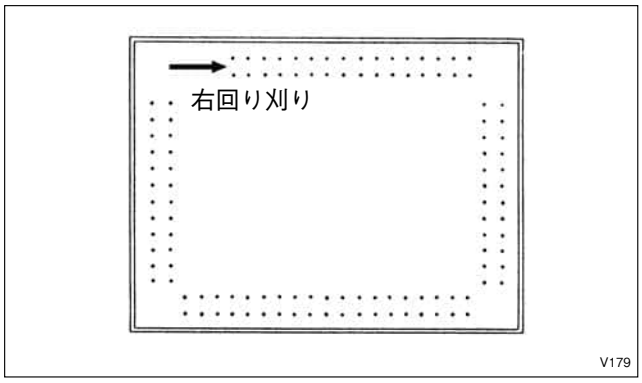
まわりのあぜが高く，左回り刈りできないとき，右回りであぜ際を刈取ります。

⑴ 刈取部を「**右スライド**」させ，あぜ際の２条を残して「**中割刈り**」します。

⑵ 中央部は刈取部を「**左スライド**」し「**左回り**」刈りします。

⑶ 残した２条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑷ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは刈取部を「**左スライド**」させ，「**ナローガイド左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

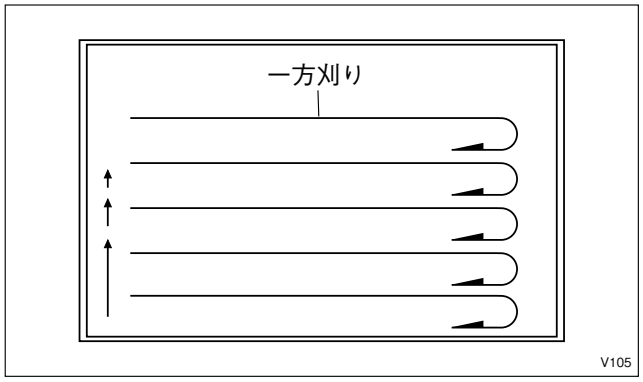


取扱いのポイント

- **ほ場の状態によっては，最初のあぜ際を「右回り」で刈取り，つぎから正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**
- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側２条を残して刈取り，最後に右回りで外側２条を刈取ります。**
- **右回り刈りのときは補助モミ受台を折りたたんでください。[ホッパ仕様]**
- **ナローガイドを収納してください。**

❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



⑴ **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは下およびつぎページの図表を参考にして行います。

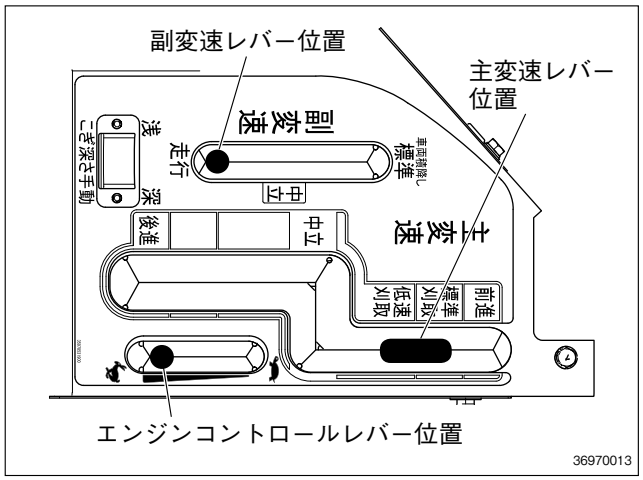
１．倒伏，中倒伏の場合は副変速《**標準**》で，倒伏スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏とも，主変速レバーは，《**標準刈取**》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

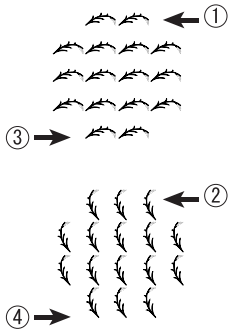
２．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈りまたは・③追い刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーが低速刈以下では搬送乱れが発生することがありますので，刈取り作業はしないでください。**

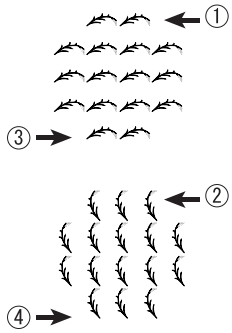


［方向自動を使用しないとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

［方向自動で刈取りするとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの不具合につながることがあります。**
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業してください。**

5．モミ袋の交換のしかた［ホッパ仕様］

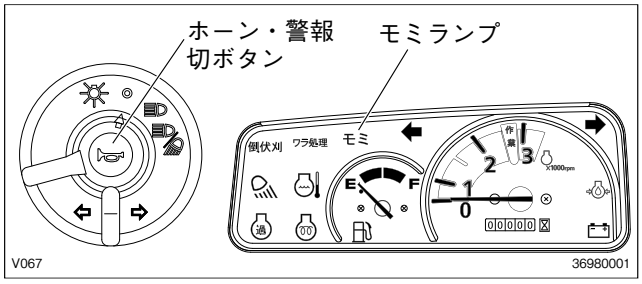
⚠注意 傷害事故防止のために

◆モミ袋の交換は機械を停止して行ってください。

❶ モミ袋の交換

⑴ モミ袋がいっぱいになり，さらにホッパ内にこく粒がたまると，メインパネルのモミランプが点灯し，警報ブザーの「**断続音**」で警報します。

⑵ 警報ブザーが鳴ったら，直ちにモミ袋を交換します。警報ブザーはコンビネーションスイッチのホーン・警報切ボタンを押すと鳴り止みます。

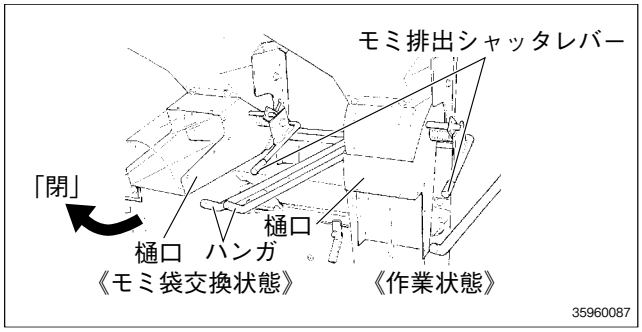


取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けますと，エンジンが停止します。
モミをモミ袋に排出し，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでエンジンの始動を行ってください。

❷ モミ排出シャッタ操作方法

モミ排出シャッタを「**閉**」にするには，樋口を手前に引上げます。



6．こく粒の排出操作方法［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

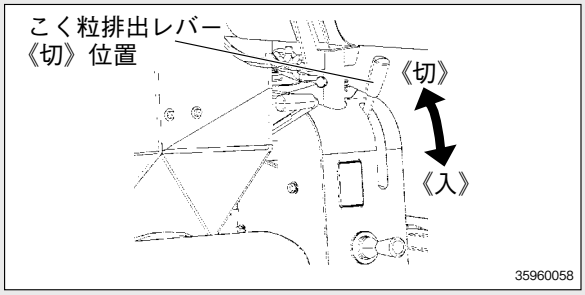
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。

◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》にしエンジンを停止してください。



⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。

◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。

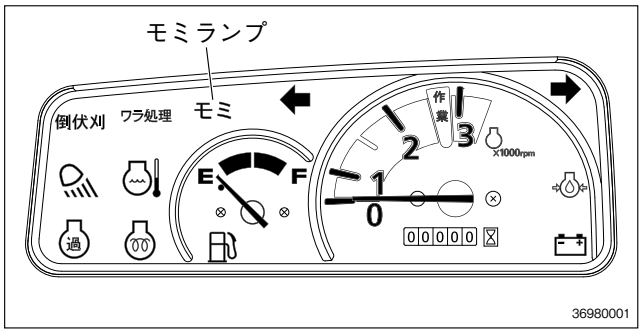
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。

❶ グレンタンクのモミ警報

⑴ グレンタンクにこく粒が充満すると，モミランプの「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で警報します。

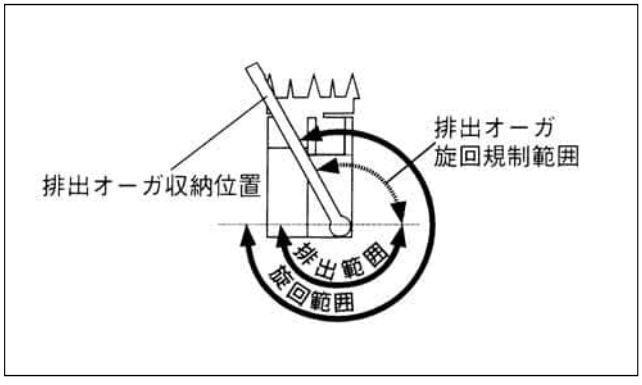
⑵ 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報切ボタンを押すと止まります。



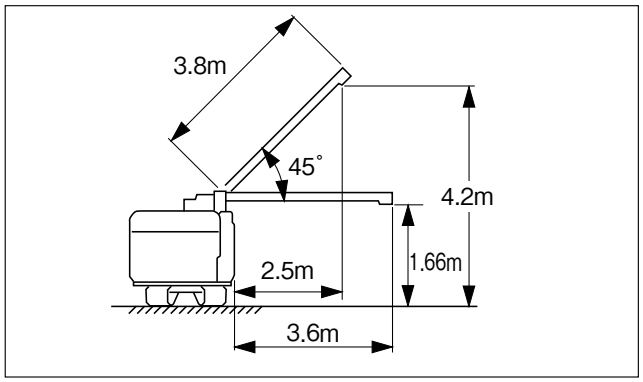
取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしないとエンジンの再始動ができません。

❷ こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

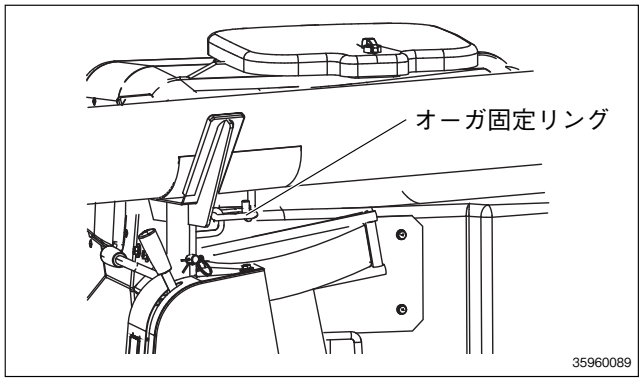


「排出オーガ高さと距離」



❸ こく粒排出操作手順

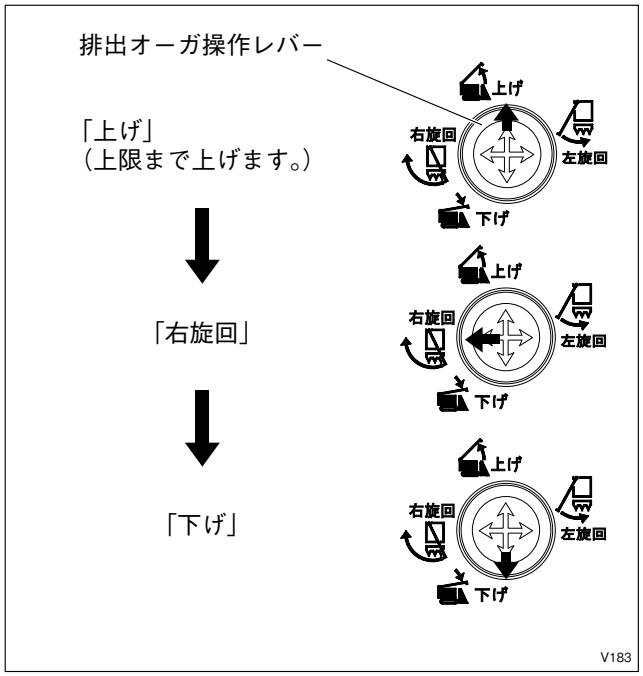
⑴ **排出オーガ固定リングを外す。**



⑵ **こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。**

位置セットする場合，「**手動**」と「**自動**」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき

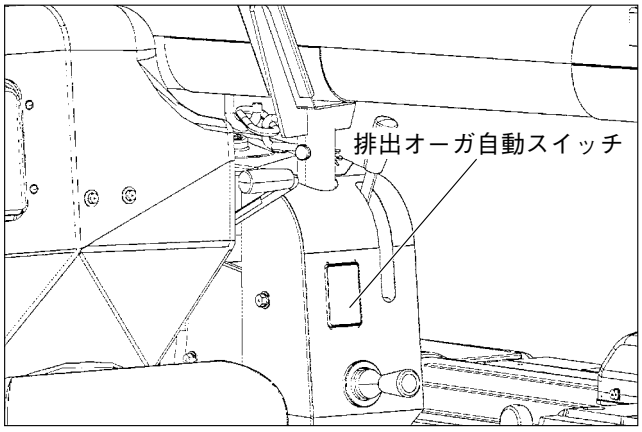


自動操作のとき　［排出時］

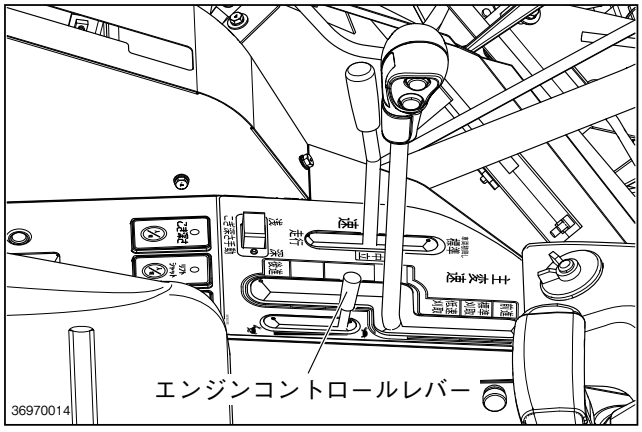
・排出オーガ自動スイッチを「**押**」す。

……自動旋回開始

→ 真後で停止→手動で高さを合わせる

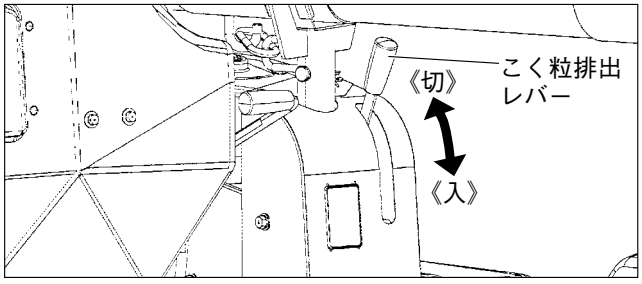


(3)　エンジンコントロールレバーを「高速」セット



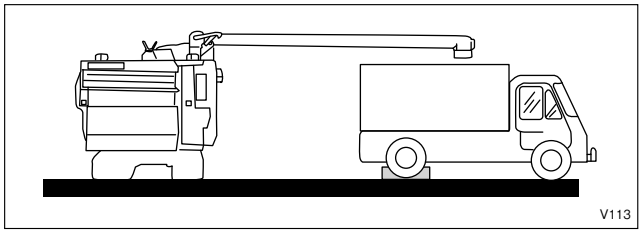
(4)　こく粒排出レバーを《入》にする。

……こく粒排出開始



(5)　こく粒排出レバーを《切》にする。

……こく粒排出終了



(6)　エンジン回転を下げます。

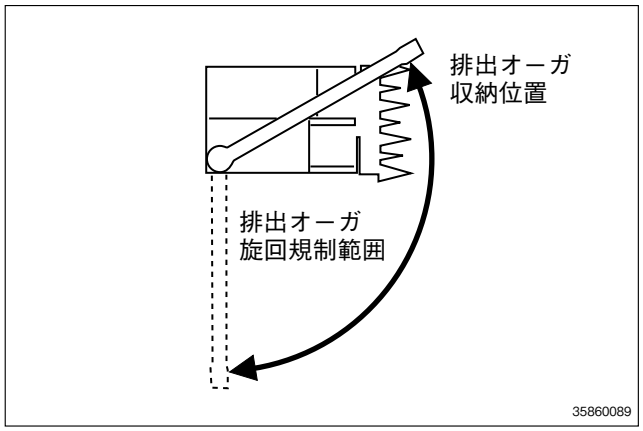
収納する場合，「**手動**」「**自動**」の二通りの操作が可能です。

(7)　オーガ排出位置セットと逆の手順で収納します。

(8)　排出オーガの固定リングをかけます。

取扱いのポイント

- **こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行ってください。**
- **排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行ってください。**
- **機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，排出オーガ受に納まらない場合がありますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。**
- **排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。**
- **排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行ってください。**
- **排出オーガ旋回規制範囲では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。**
  また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



7．グレンタンク補助樋口の取扱い［グレンタンク仕様］

故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

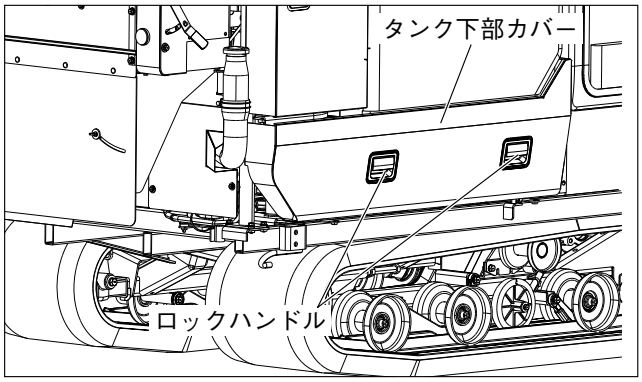
⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取出すときは，エンジンを停止してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

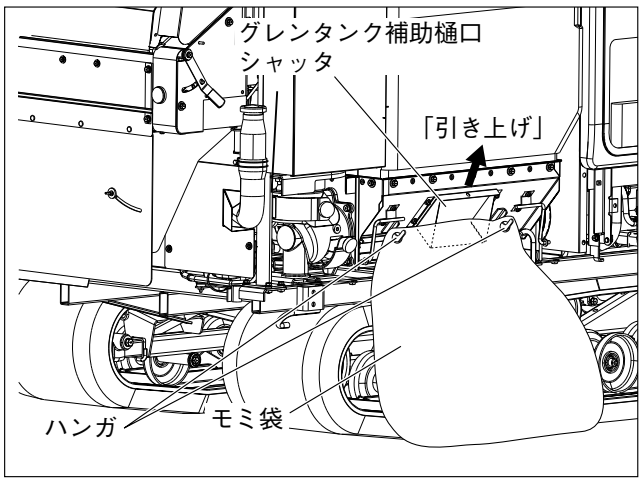
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ タンク下部カバーロックハンドルのロックを解除して，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，タンク下部カバーを取付けます。

8．ニューツインハーモニー

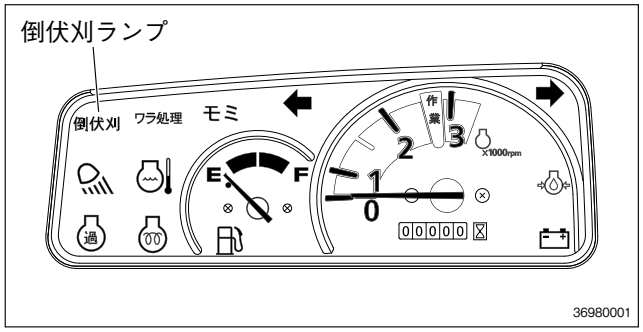
⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，フィードチェンが突然回転するおそれがあります。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてからエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆脱こく・刈取クラッチレバー《脱こく 入》位置でフィードチェンが回転しているときに脱こく・刈取クラッチレバーの《刈取 入》操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。
・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。



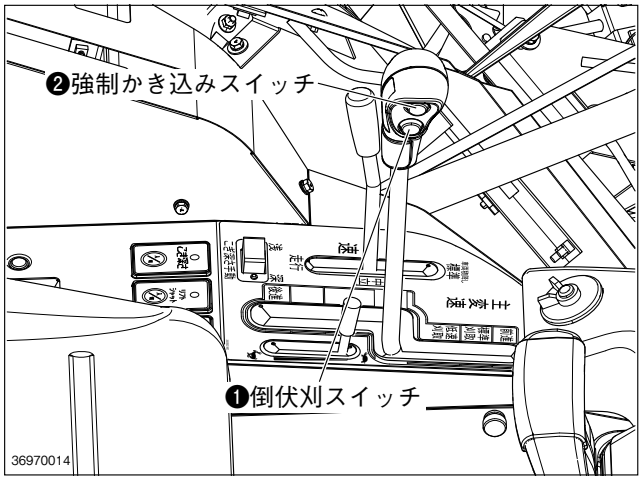
❶ **倒伏刈スイッチ**

「**入**」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

「**切**」……再度押すと通常の状態に戻ります。

❷ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバー《刈取 入》位置のときに，走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。



取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》位置にすると，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。**
  走行停止状態では刈取部および脱こくフィードチェン搬送は停止します。
- **刈取り作業中は，強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **ほ場端などでの刈上げの際は，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**
- **ほ場進入（機械前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取りすると，搬送がスムーズに行えます。**

9. リフトシャットの取扱い

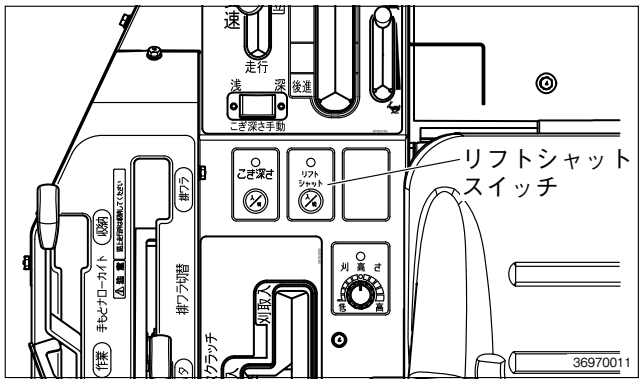
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にして脱こく・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。
強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく搬送部は回転します。



つぎの場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

- **手刈りのしていないほ場の回り刈り作業**
- **あぜ越え直後からの刈取り作業**
- **あぜ際などを高刈りする場合**
- **湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合**

10. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

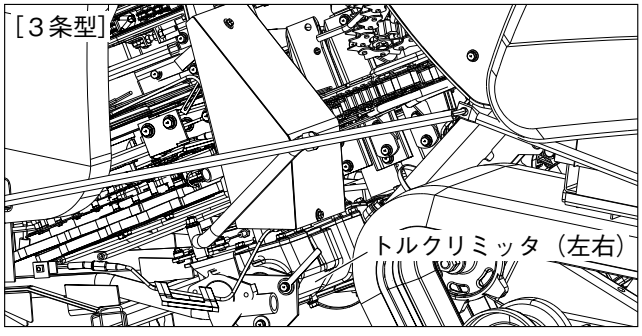
◆詰まりなどの異常が発生したときに詰まったワラクズなどを取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジン停止して各部の回転が止まってから行ってください。

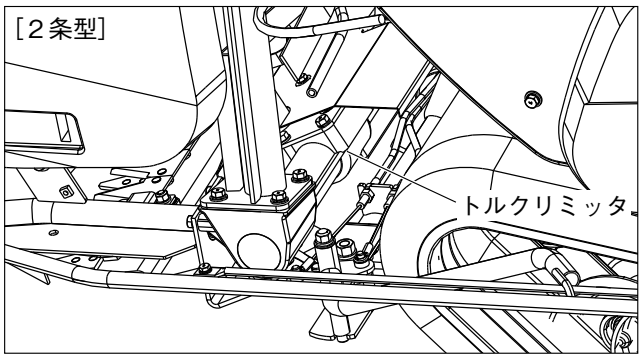
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，油圧固定レバーをかけてください。さらに刈取部の下に「固定脚」などをかませて作業してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。





❶ トルクリミッタの作動

	設置箇所	トルクリミッタの作動
3条型	トルクリミッタケース（左右各1箇所）	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき
2条型	スターホイル（左）下部（スターホイルギヤケース内）	

❷ トルクリミッタの処置

⑴ 作業中，刈取部および脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まりなど）が発生したときは，「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

⑶ エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部の下に「**固定脚**」をかませエンジンを停止します。詰まり箇所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ エンジンを始動し，主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にし，エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》にします。主変速レバーを《**低速**》にし，搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

11．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。
●機械を走行しながらの手こぎ作業は，しないでください。
●機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）
◆脱こく・刈取クラッチレバーは，周囲の人に合図をしてから《入》にしてください。
◆手こぎ作業するときは，手袋を使用しないでください。
◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，はち巻き，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。
◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し，機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

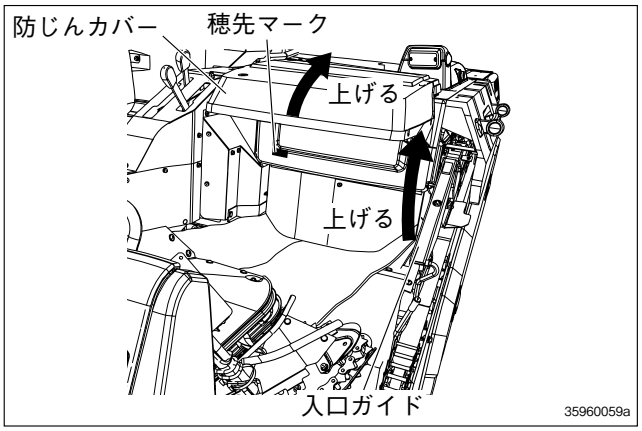
❶ 主変速レバーを《**中立**》および駐車ブレーキを《**切**》にします。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❹ 防じんカバーを上方に開きます。[ディーラーオプション]

❺ 入口ガイドを持ち上げます。（[**2条型**] のみ）



❻ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく 入**》にし，エンジン回転を「**作業適正回転範囲**」の上限にセットします。

❼ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

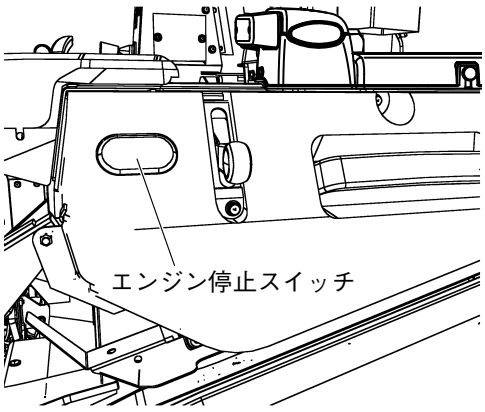
❽ 手こぎ作業が終わったら，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にして，入口ガイド（[**2条型**] のみ），防じんカバー［**ディーラーオプション**］を元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

●**バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。**
●**脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にすると，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
●**防じんカバー［ディーラーオプション］を開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損するおそれがありますので，元の位置に戻してください。**
●**脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》にすると，走行停止状態では刈取部およびフィードチェン搬送は停止します。**

12. エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**
- **エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**

13. エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

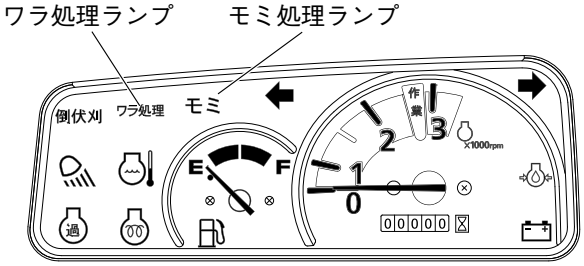
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，コンポアップ操作でこぎ胴部を持ち上げてください。(99～100ページ参照)

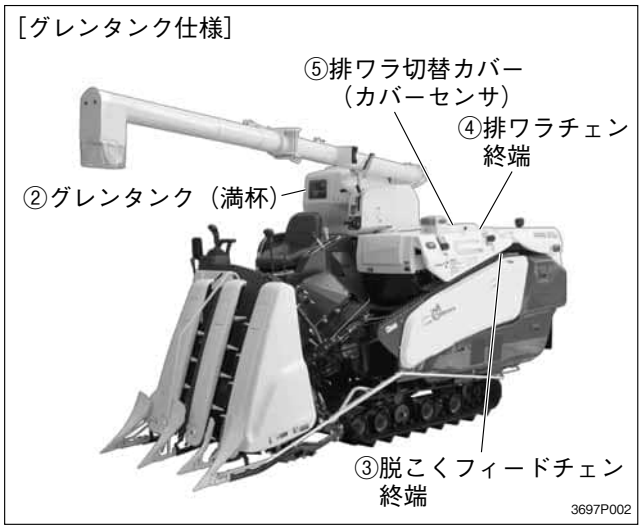
◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，カッタを開きストッパをかけてから行ってください。(100～101ページ参照)

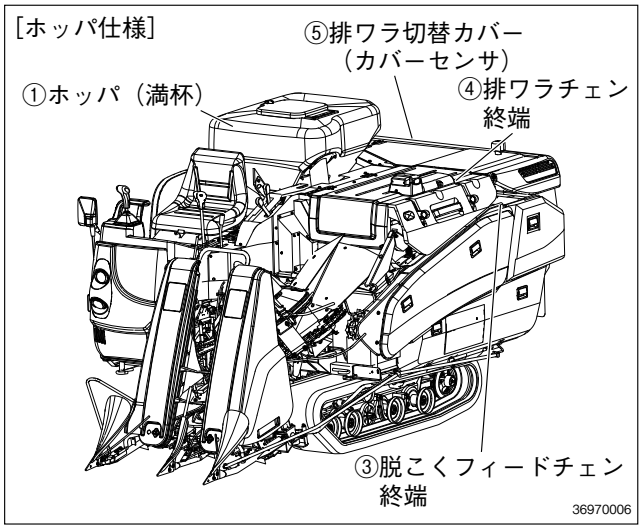
◆詰まりを取除いた後の回転確認は全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉め機械の周囲に人がいないことを確認した後，低速回転で確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐため，つぎの箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプまたはモミ処理ランプが点灯してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	ホッパ	満杯	満杯センサ
②	グレンタンク	満杯	満杯センサ
③	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(脱こくフィードチェン)
④	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(排ワラチェン)
⑤	排ワラ切替カバー	後方に開いた状態	カバーセンサ







❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてから詰まりを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**中立**》にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでエンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置にして，主変速レバーを《**前進**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴を閉じるときは，脱こくフィードチェン・排ワラチェン部のワラを取除いてから行ってください。**

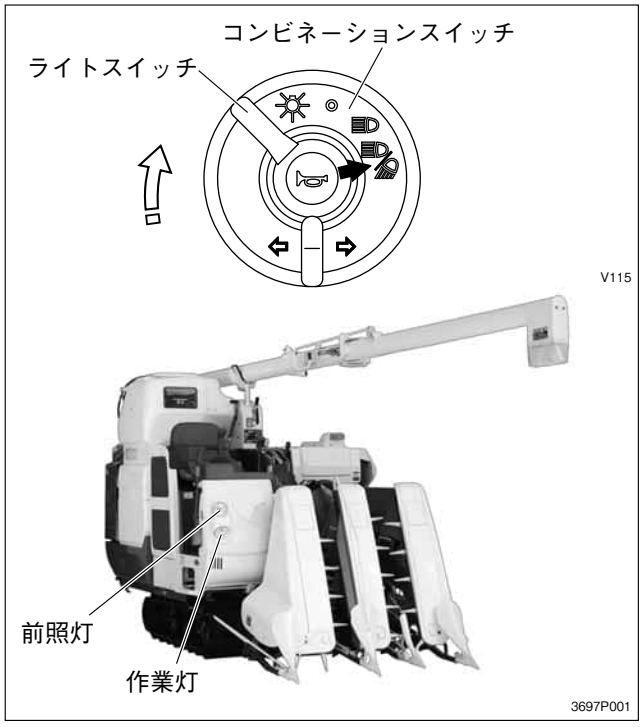
14. 夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆夜間作業を行うときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチで，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯し，２段回すと作業灯も点灯します。



取扱いのポイント

- **アタッチメント部品（別売り）として，以下３点の作業灯を準備致しておりますのでご利用ください。**
  ①オーガ先端部
  ②脱こく入口部
  ③ホッパシャッタ部（ホッパ仕様）

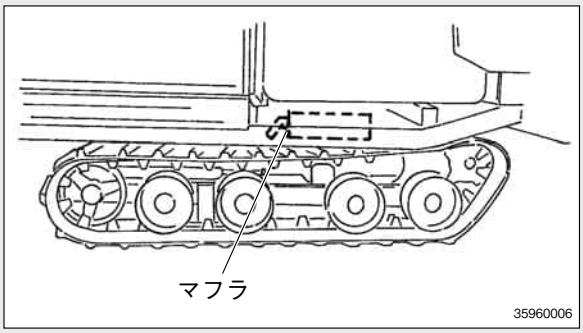
15. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ 作業後の手入れ

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油します。

取扱いのポイント

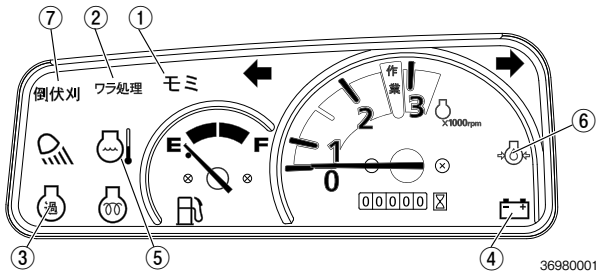
●脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。

●水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

16. 警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



	名　称	現　　象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モ　ミ	満　杯	点灯	断続音の断続	－	警報切ボタン「**押す**」または脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	9 47～49
				断続音の連続	ランプ点灯後60秒または20m走行後停止			
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	10 99～100
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラ切替板（オープン）					排ワラ切替カバーを閉め，作業状態（カッタまたはドロッパ）とします。	101
		ノッタひも切れ	点滅		－		ノッタの結束ひもが切れているか，なくなっていますので点検します。	**ノッタの取説参照**
③	負　荷 モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	10，16
④	充　電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**入**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	9，129
⑤	水　温	オーバーヒート	点灯	「**低速運転**」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	9，73～74 84，129
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	9 71～72
⑦	倒伏刈	刈取部またはフィードチェン部の詰まり	点滅	断続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	・刈取部またはフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・ＨＳＴ駆動モータ，ＨＳＴ回転センサの配線接続部の外れがないか点検してください。	10 54～55

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタを開き，ストッパをかけてワラなどを取除いてください。

◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

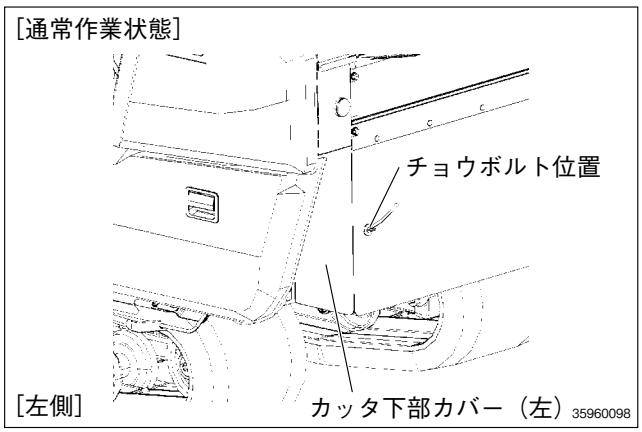
取扱いのポイント

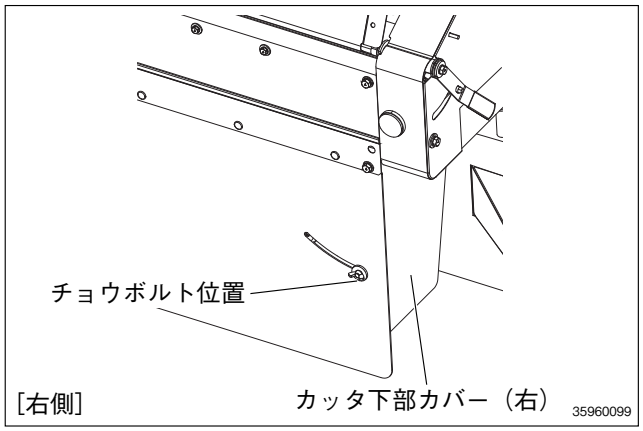
- **排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。**
- **排ワラ切替レバーの操作が重くなってきたときは，エンジンを停止し，排ワラレール部に注油してください。(81ページ参照)**

1．カッタ作業

❶　カッタ下部カバー（右）（左）を**「通常作業状態」**にセットします。

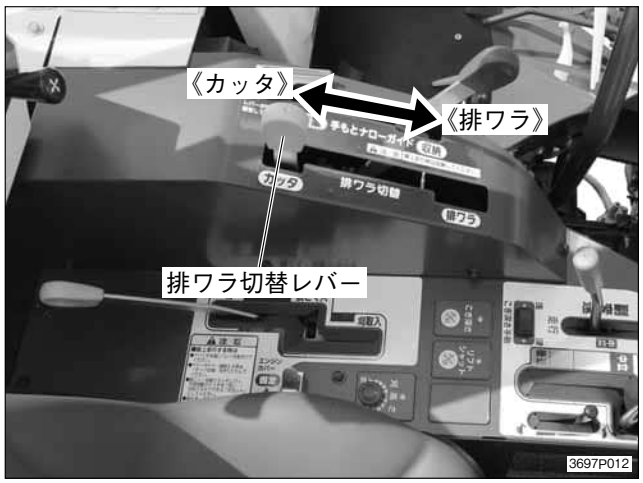
※工場出荷時は下部カバーが**「通常作業状態」**にセットしてあります。



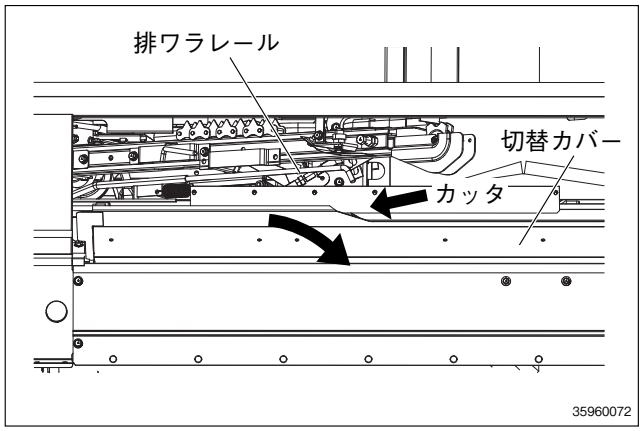


・各々のチョウボルトをゆるめて，カッタ下部カバー（右）を開き（閉じ）チョウボルトを締めます。

❷　排ワラ切替レバーを**《カッタ》**位置にします。



・排ワラレールが前方にスライドし，切替カバーが開いて，排ワラがカッタに入ります。



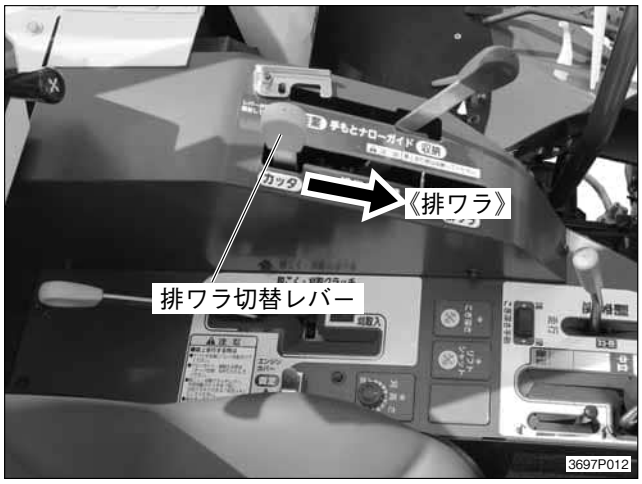
取扱いのポイント

- **刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行ってください。**
- **倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形するおそれがありますので，50 a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。**
- **カッタの点検，掃除はカッタを開き，ストッパをかけてから行います。（開きかたは，100〜101ページ参照）**

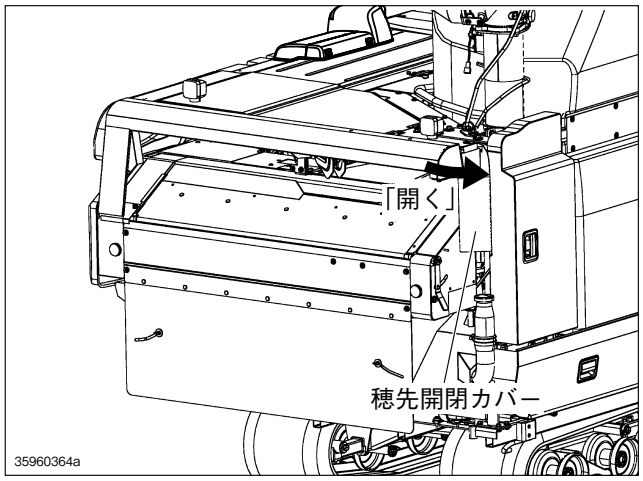
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ 排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



❷ 穂先開閉カバーを開きます。

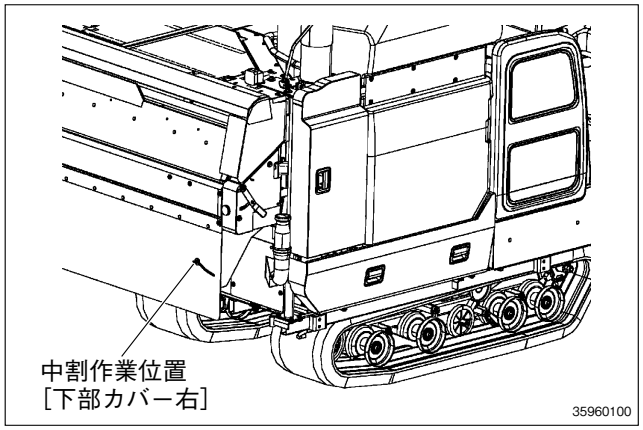


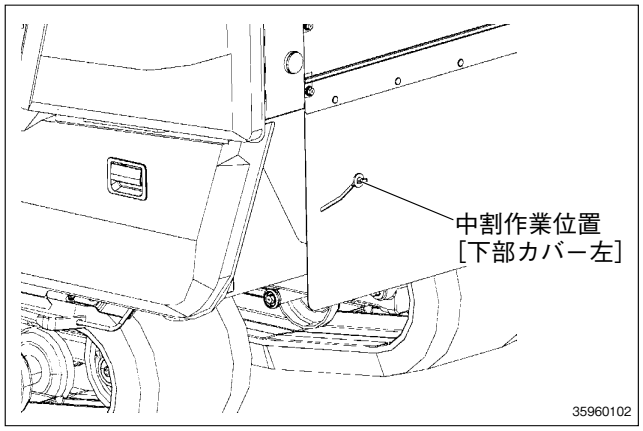
取扱いのポイント

- **ノッタおよびドロッパは別売です。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。**

3．中割り作業

下部カバー（右），（左）を中割り作業位置にして行ってください。



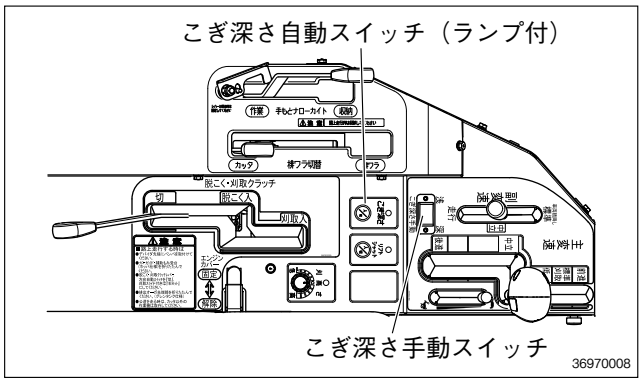


自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1．運転装置



こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

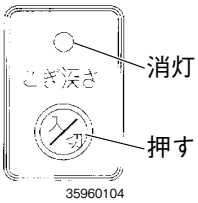
・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

ただし，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を**「解除」**してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

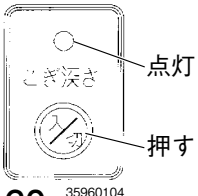
❶　こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを**《入》**位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・**「切」**……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



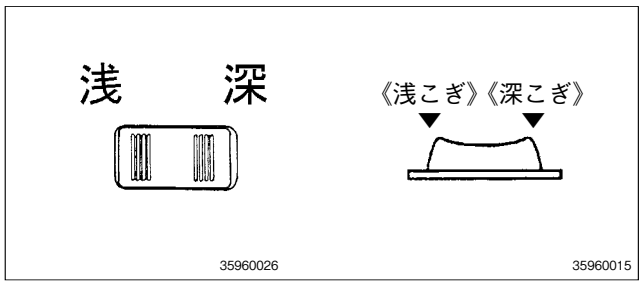
・**「入」**……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。



❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。





《深こぎ》……**《深こぎ》**側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……**《浅こぎ》**側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

❸　ヒューズ

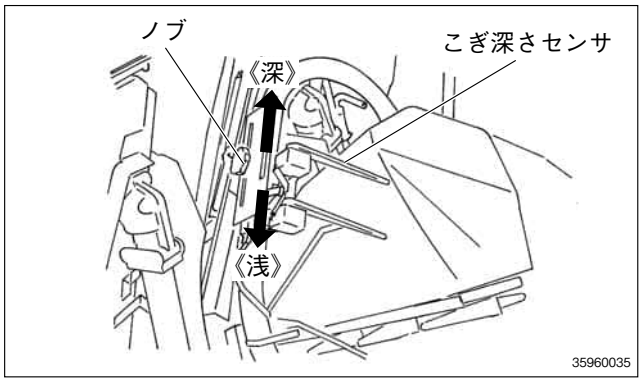
取扱いは，87～88ページを参照します。

取扱いのポイント

●こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯しても，こぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のときは**「標準」**（合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・つぎのようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。
こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを《**深**》方向へ移動します。
こぎ深さを「**浅く**」したいときは，《**浅**》方向へ移動します。
・調整後は，ノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態では，こぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。
○倒伏角45°以上の倒伏作物
○腐れ状態の作物
○雑草が多いとき
○作物の長さが極端に変動するとき

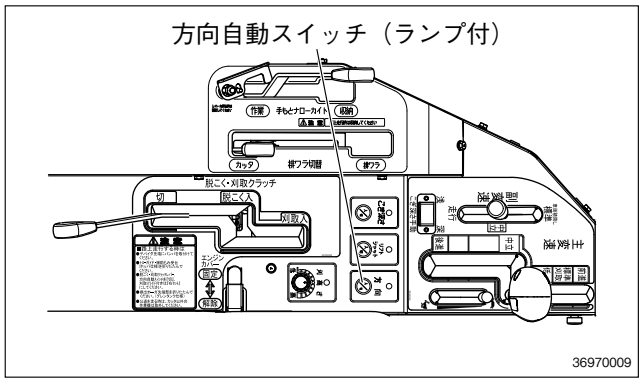
2．方向自動制御 [ディーラーオプション]

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動走行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠警告 傷害事故防止のために

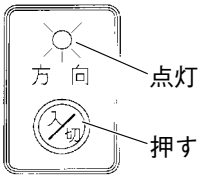
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1．運転装置

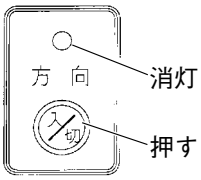


❶ 方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すと，ランプが消え，方向自動制御は作動しません。



❷ ヒューズ

取扱いは，87～88ページを参照します。

取扱いのポイント

●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴ 方向自動スイッチを「**入**」（ランプ点灯）にします。

⑵ 機械が条列に真っ直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに，方向自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にする必要はありません。

取扱いのポイント

- **条合わせは機械が条列に真っ直ぐになるようにしてください。斜めになったときは，条外れすることがあります。**

3．方向自動制御の使えない条件

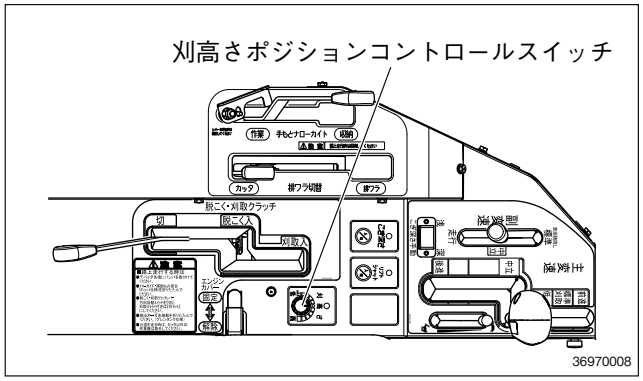
つぎの条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 斜め刈り，横刈り，中割り
- あぜ際刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株，孫株が多いとき
- 植付条間が28㎝未満の場合
- 植付条間が33㎝を超える場合
- 倒伏材は，「**作業のしかた**」の（45～46ページ）を参照

3．刈高さポジションコントロール

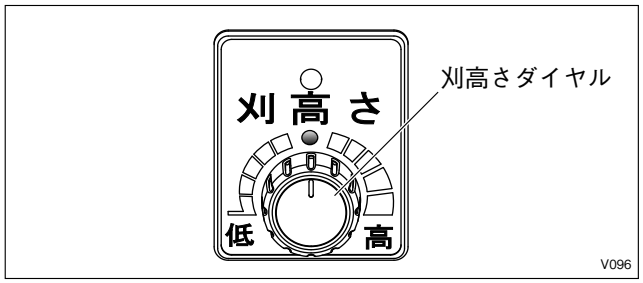
刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の高さを調節することができます。

1．運転装置



❶ 刈高さダイヤル

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常，《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，87～88ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，刈高さダイヤル《切》（ランプ消灯）で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2. 自動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》（ランプ消灯）と脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》位置状態では，この機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

⑴ 刈高さダイヤルを標準《●》位置にセットします。

⑵ 脱こく・刈取クラッチレバー《**刈取 入**》位置でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

⑴ 刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

⑵ 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

⑴ 刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

⑵ 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

●刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも「上げ」操作すると，ポジションコントロールが解除されます。再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを「下げ」操作してください。

●刈高さポジションコントロールランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを「下げ」に操作しても，刈高さセット位置以下には下がりません。

3. 手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4. 排出オーガ自動制御

［グレンタンク仕様］

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。

◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》にしエンジンを停止してください。

◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。

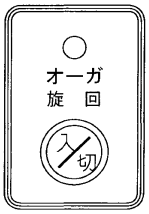
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

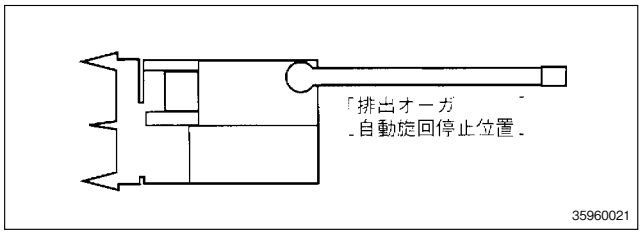
1．運転装置



❶　オーガ旋回自動スイッチ

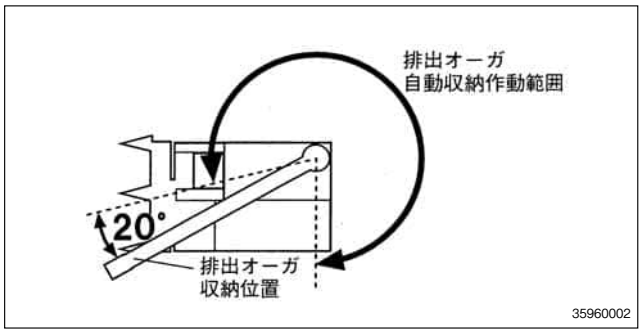


・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。



取扱いのポイント

●自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。



●自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを解除してから行ってください。

●スイッチを「入」にして，作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

●自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

❷　ヒューズ

取扱い方は，87〜88ページを参照します。

5．送じん量自動調節

・送じん量は《標準》位置で出荷しています。送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



取扱いのポイント

●ほ場や材料の条件に合せて，自動初期位置を変えることができます。

●モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を手動調節することができます。

作業状態	送じん量調節位置
こぎ室で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》出荷状態
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。

固定ノブを取外し，マーカーボルトを固定します。取外した側のボルトを付属品のチョウナットとワッシャで固定します。



送じん量調節位置を《**標準**》での固定位置



送じん量調節位置が《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**少ない**》のときの固定位置



6. マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

・エンジン停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［**ディーラーオプション**］
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・ニューツインハーモニーシステム
・排出オーガ自動旋回（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所



❷ ヒューズ

「**マイコン電源**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（87～88ページ参照）

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品などを破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処分について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

◆機械から廃液を抜く場合は，適切な容器で受けてください。

◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買いあげ先」，または産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

●結束部の結節部完備（ノッタ部）[ディーラーオプション]　●エンジン本体　●トランスミッション
●ギヤ（ベベルギヤ含む）を内蔵したケース類　●油圧系統（HST含む）　●電気部品と電気系統
●刈取部の動力伝達系統　●燃料系統

取扱いのポイント

●分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については，「お買いあげ先」で行なってください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	300	400	500	600	格納時		
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●	●		●	●	●	●	●			71～72
	エンジンオイルフィルタ	交換				●			●		●		●			☆72～73
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○										●		73～74
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○						●			●			84～85
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○				○				●					☆85～86
	ラジエータ	点検・掃除	○	○		○								○		84
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○	○	○	○	●	○	○	●			☆129
	燃料ホース	点検・交換	○	●（110時間または２年毎で早い方）											燃料漏れ点検	☆121
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○											○		89～95
	電気配線(配線･接続部のゆるみ,損傷)	点検・修理	○	○										○	損傷の場合交換	☆89
	計器，スイッチ類	点検	○	○												7～14

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	300	400	500	600	格納時		
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○			●				●						☆75～76
	油圧オイルフィルタ	交換				●				●			●			☆75～76
	油圧ホース	点検・交換	○	●（110時間または２年毎で早い方）											油漏れ点検	☆121
	走行クラッチペダル・駐車ブレーキレバー	点検・調整	○			○	○		○	○	○	○	○			126
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●			●			☆75
	走行ベルト	点検・調整・交換	○			○				●			●	●		☆130
	脱こく・刈取クラッチレバー	点検・調整	○													☆127
	HSTオイルフィルタ	交換				●				●			●			☆77
	クローラ	点検・調整	○	○												142
	ローラ，アイドラ	点検・調整・補給	○	作業後○		（グリスアップは50a(アール)作業毎,および格納時に行います。湿田作業をした場合は50aに満たなくても行います。）										80
	ブレーキシュー	交換	●（400時間または２年毎で早い方）													☆－
	操作ワイヤ	点検・交換	○									●				☆－
刈取部	トルクリミッタケース［3条型］ スターホイルギヤケースオイル［2条型］	点検・補給	○													☆78～79
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	●			☆135，136
	株元搬送チェン（右)［3条型］	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆137
	株元搬送チェン（左)［3条型］	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆137
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆138
	穂先搬送チェン，かき込み搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●	○		●			☆139，140
	刈刃	点検・調整・交換	○	○		○	○		●		●		●	○		143～145
	集中注油タンク	点検・補給	○	○											エンジンオイル	79
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○			●			●			☆127
脱こく部	脱こくギヤケース	点検・補給	○													☆77
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●						☆77
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆127
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆131
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆132
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆133
	搬送HST入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆134
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○	○		○	○	●	○	○			☆141
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○	○		○	○	●	○	○			☆141
	穂先排ワラベルト（突起付）	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆133
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		104
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○			○						●				124
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●		●		●			122～124
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●		○		102～104
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○											○		104～105
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		104
カッタ部	カッタ刃	点検・交換	○	●（100時間ごと）												113～120
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○	○	○	○	○	●	○	○	●			☆132
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○													128
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○													☆78
	グレンタンク	点検・掃除	○											○		111～112
	こく粒排出ベルト	点検・調整・交換	○	○		○	○	○	○	●	○	○	●			☆128
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○	○	○	○	●	○	○	●			☆134
	縦ラセン筒上部，下部	点検・掃除	○											○		111～112

参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理）については「**お買いあげ先**」で行ってください。

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検」**および**「定期点検整備表」**に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときは，「お買いあげ先」または「産業廃棄物処理業者など」に相談して，所定の規則に従って処理してください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油さしを常備してください。**



⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料漏れがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいにふき取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じてください。
◆使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
◆刈刃，チェンなどに注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。

「給油・注油・給水表」

No.	給油箇所	種類	種類		容量（L）		備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号	220型	321型 323型	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	25		
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	4.2		
③	ラジエータ（補助タンク含む）	冷却水	－	－	3.9		
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－4以上	80W	5.7		
⑤	油圧オイルタンク	※油圧作動油	GL－4以上	10W－30	11		
⑥	トルクリミッタケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	右側：1.0 左側：1.0		刈取搬送部左右各１ヶ ［３条型］
⑦	スターホイルギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.25		［２条型］
⑧	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.3		［グレンタンク仕様］
⑨	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	0.7		
⑩	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.55		
⑪	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.25		

※は，スーパーマルチSTOUオイル使用可

指定オイル

- **ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル**
- **油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル**
- **ギヤオイル…… 純正油 または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル**

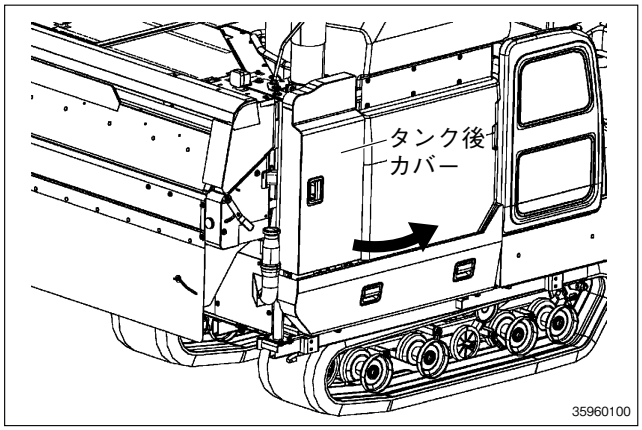
取扱いのポイント

- **燃料タンク，集中注油タンク以外は，工場出荷時の容量です。**
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
  但し，レベルゲージまたは検油栓のない箇所は，全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。
- **使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（165ページ）を参照してください。**

1．燃料の補給

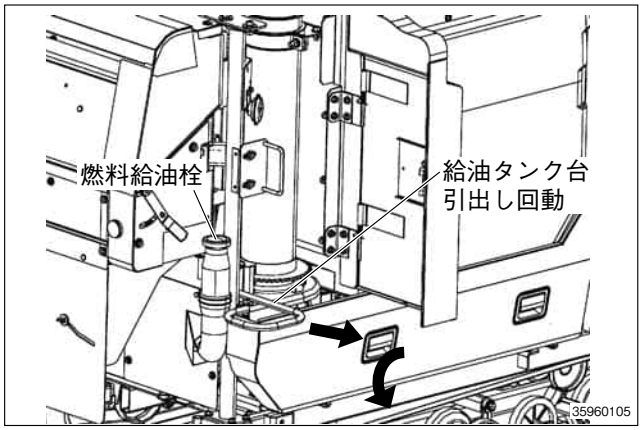
［グレンタンク仕様］

❶　タンク後カバーを開けます。



❷　給油タンク台を引出し向って左に回動して，補給用タンクの置き台として使用します。

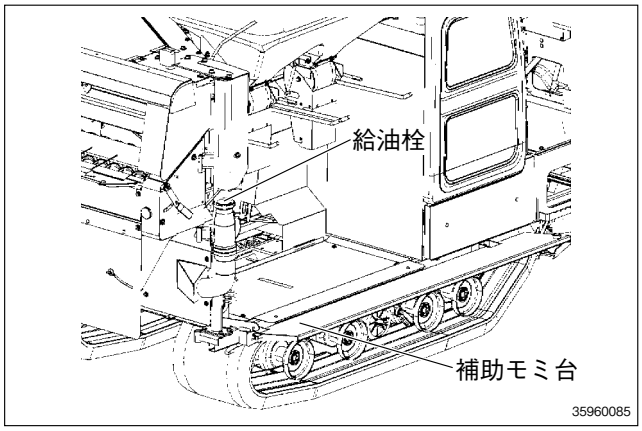
燃料給油栓を外して，給油口から補給します。



❸　燃料補給後は，元どおり給油タンク台を収納し，タンク後カバーを閉じます。

［ホッパ仕様］

❶　補助モミ台を補給用タンク置き場にし，燃料給油栓を外して，給油口から補給します。



燃料は，「**ディーゼル軽油**」を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

・タンク容量……25.0Ｌ

・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

取扱いのポイント

- **燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。****（86ページ参照）**
- **燃料補給後は，給油栓を確実にしめて，タンク後カバーを閉じてください。**
- **流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。**

2. エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

❶ エンジンオイルの点検

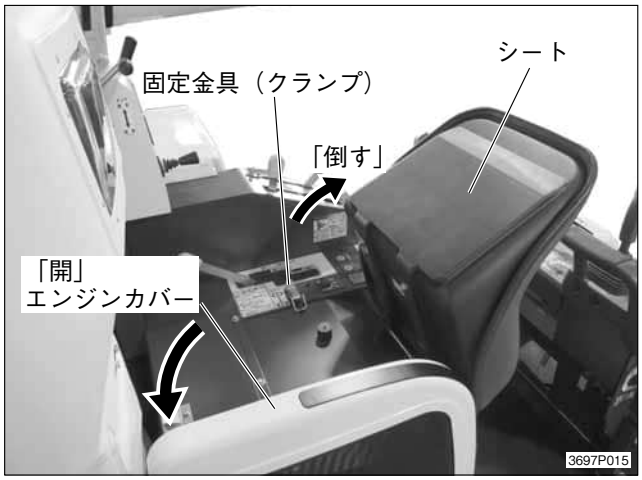
⑴ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを回動します。(97～98ページ参照)

⑵ エンジンカバーを開きます。

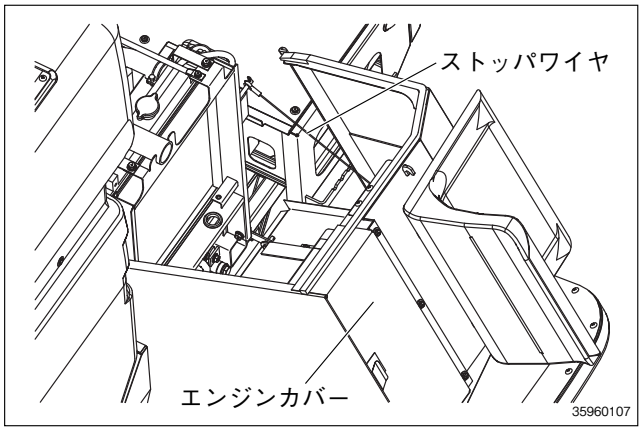
① シートを前方へ倒します。

② 固定金具（クランプ）を外しエンジンカバーの固定を解除します。

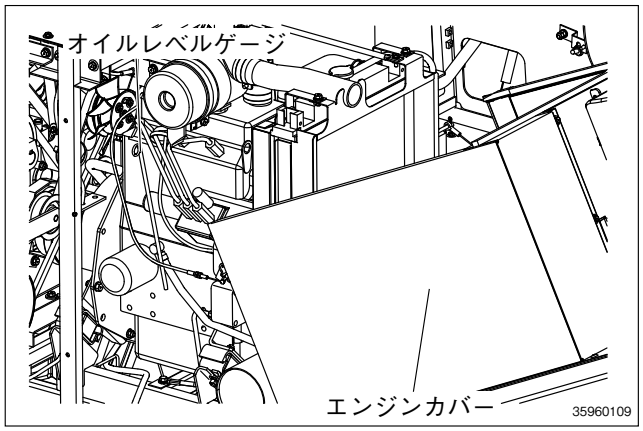
③ エンジンカバー端部を両手で持って，ゆっくり「**開**」方向に回動させます。

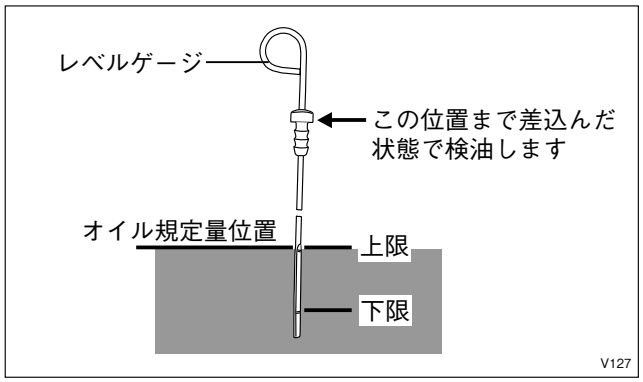


④ エンジンカバーが一定の位置まで開くと，ストッパワイヤによりそれ以上開かなくなります。



⑶ オイルレベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油栓より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも調べます。





⑷ 点検後はエンジンカバーを閉じます。

① エンジンカバー端部を両手で持って持上げ閉じます。

② エンジンカバーを片手で押さえながら固定金具（クランプ）をロック（固定）します。



③ シートを使用位置へもどします。

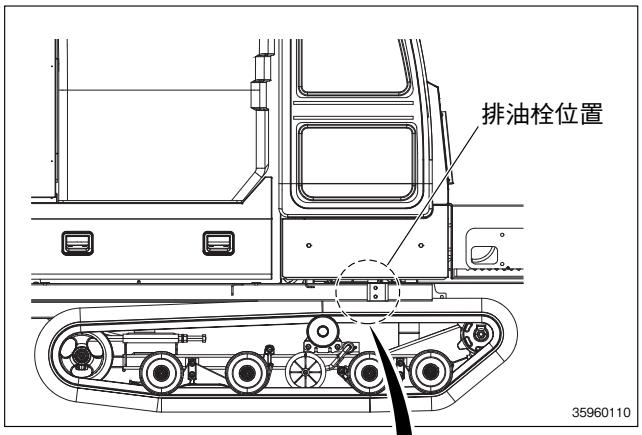
⑸ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを元どおり閉じます。

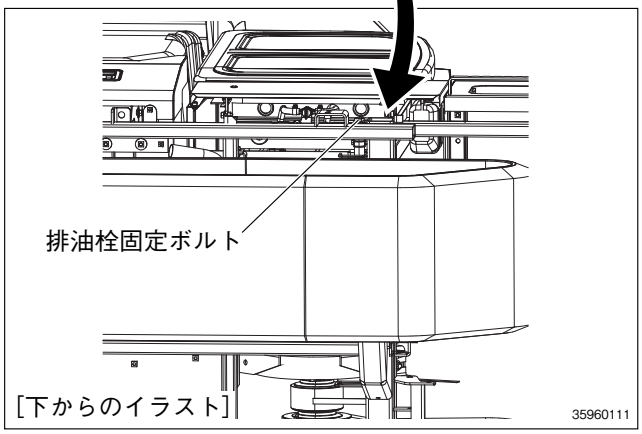
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。**
- **また，エンジンカバーに固定金具（クランプ）をかけ，確実に閉じてください。**

❷ エンジンオイルの交換

⑴ エンジンの給油栓を外し，排油栓固定ボルトを取外し，ホースを下向きにしてオイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。





取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

⑵ オイルを抜き終わったら排油栓を取付け，新しい**「エンジンオイル」**を給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。

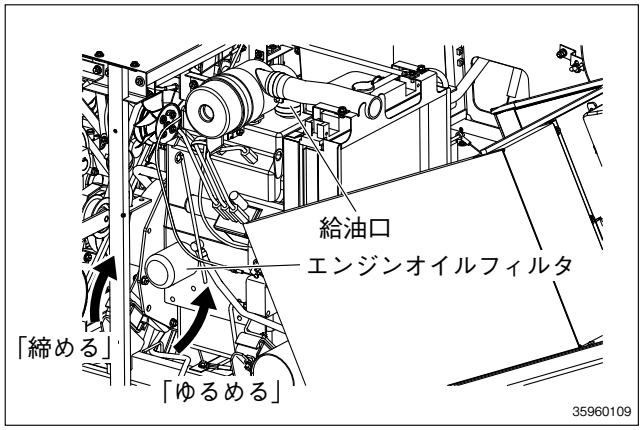
- **エンジンオイル……** **純正油** **または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル**
- **オイル量……4.2 L**

⑶ 給油口を取付けエンジンカバーを閉じてからエンジン始動しオイルインジケータランプが消えるまで低速回転で運転します。

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

⑴ **［グレンタンク仕様］**は，グレンタンクを回動します。（97～98ページ参照）
エンジンカバーを開きます。



⑵ エンジンオイルフィルタを**「ゆるめる」**方向に回して外します。

⑶ 新しいフィルタと交換し**「締める」**方向に回して固定します。

⑷ 交換後は元どおり，エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **オイルフィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので，購入のうえ交換します。**
- **オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「お買いあげ先」へお申し付けください。**
- **オイルフィルタを交換したときは，エンジンオイルフィルタの容量分オイル量が多く入るので，オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定量位置まで補給します。**

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

⚠警告 火傷防止のために

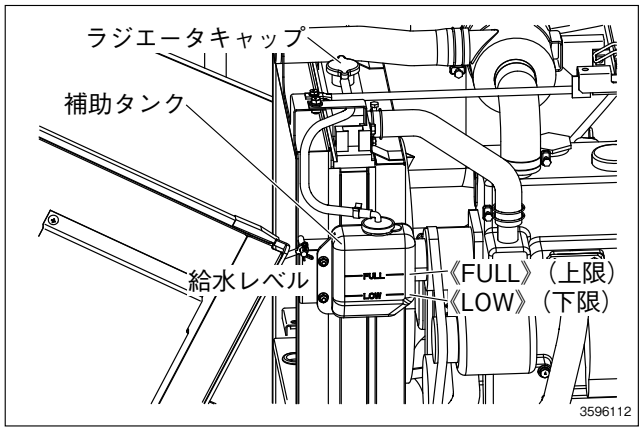
◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

・エンジンが冷えているとき，エンジンカバーを開き補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の中間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

・ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの**「給水レベルの上限と下限の中間」**位置まで給水します。

・冷却水……清水（水道水）

❸ 点検・交換後は元どおりラジエータキャップを閉めて，エンジンカバーを閉じます。

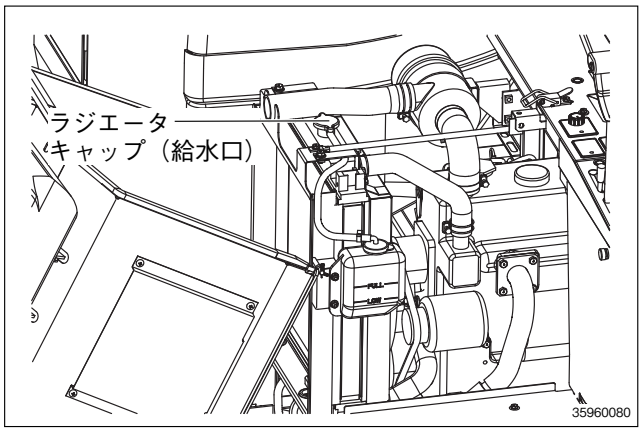
取扱いのポイント

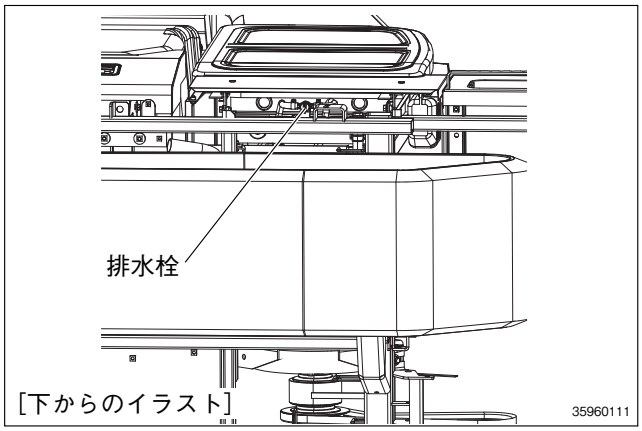
- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**

●**補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
●**補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**

❹ ラジエータ冷却水の交換

⑴ エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓を外し排水口から排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。





⑵ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部に洗浄します。
・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。
⑶ 排水が終わったら排水栓を閉めます。
　ラジエータ給水口の口元いっぱいまで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めカバーを取付けます。
⑷ **不凍液の注入**
　工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度−25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	−5	−10	−15	−20	−25	−30
不凍液濃度 %	20〜25	25〜30	30〜35	35〜40	40〜45	45〜50

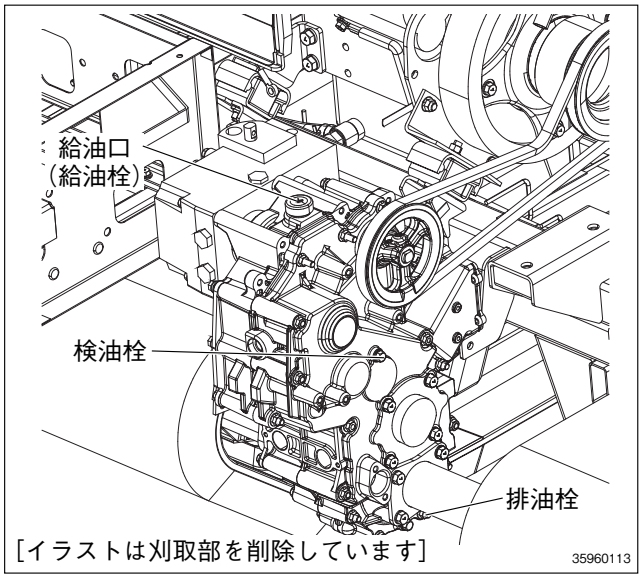
・不凍液は**「ロングライフクーラント」（PT）**を使用しますので**「お買いあげ先」**で交換してください。
冷却水量・・・3.9 L（補助タンク0.5 L 含む）
⑸ 交換作業が終わったらエンジンカバーを元どおり閉じます。

取扱いのポイント

●**冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
●**不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」を行ってください。**

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換

・オイル交換は「**お買いあげ先**」にて行います。



❶ 点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

❷ 交換

オイル交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

⑵ 給油するときは排油栓を締め，給油口より検油栓からオイルが出る程度まで給油します。

・ギヤオイル… 純正油 または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル

・オイル量…5.7 L

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

●［2条型］の場合，刈取部を右スライドで固定し，こぎ深さを最も浅い位置にすると刈取部左側から点検，交換が容易に行えます。

5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部を下げ，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。

・油圧作動油量の点検，およびフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

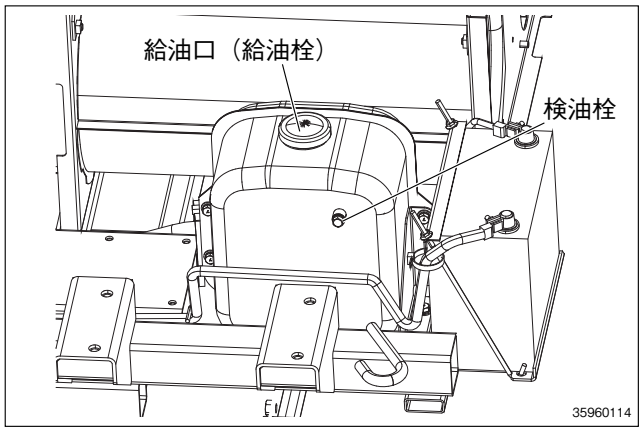
・不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 油圧作動油の交換

・油圧作動油… 純正油 または，使用オイル表（165ページ）の指定オイル

・オイル量……11.0 L

（10分程度運転後のオイル補充分を含む）

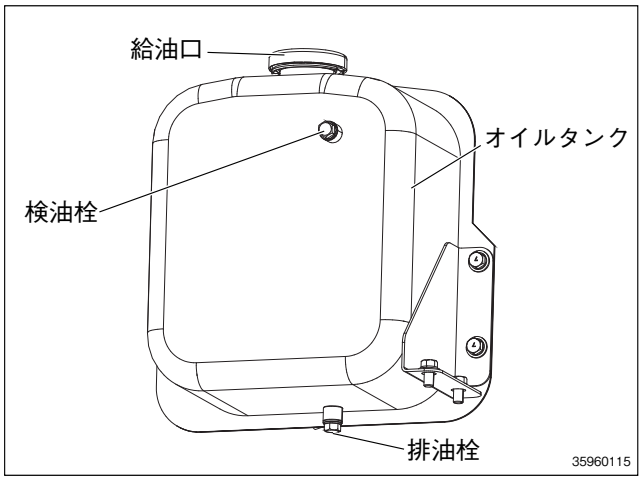


❸ 油圧作動油の抜取り要領

⑴ エンジンを始動し，刈取部を下げ，排出オーガを収納状態［**グレンタンク仕様**］にしてエンジンを停止します。

⑵ 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

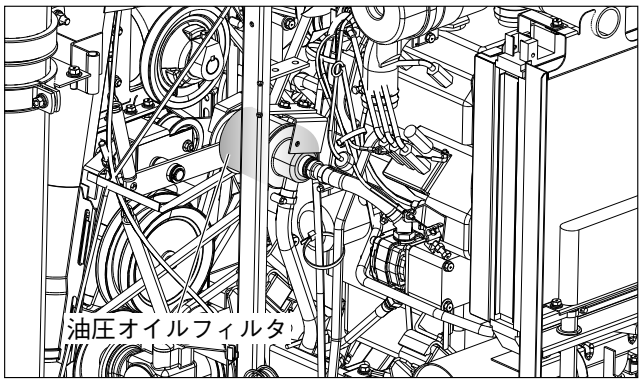
⑶ オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

⑴ 油圧作動油のオイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

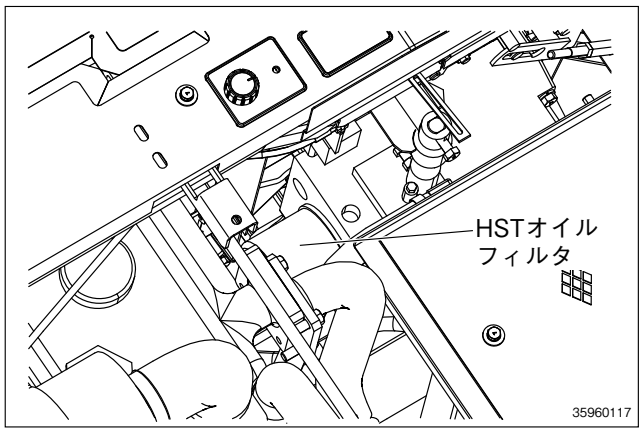
⑵ 油圧オイルフィルタは，運転席の左下側にあります。



❺ HSTオイルフィルタの取外し要領

⑴ HSTオイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑵ HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装着してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除して，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除して，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ オイルタンクの給油口より，タンク右側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

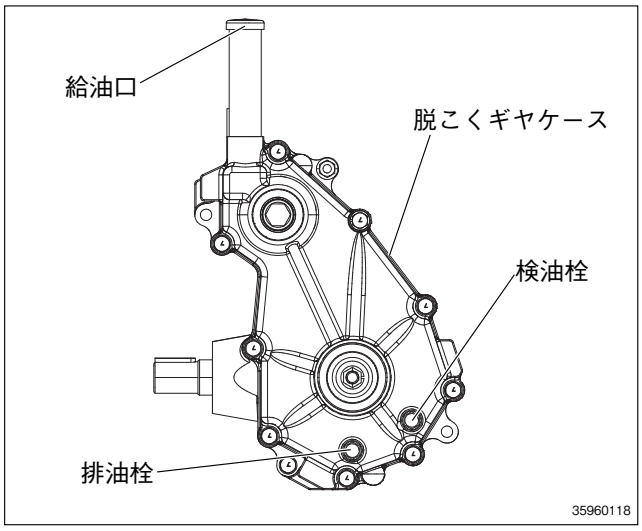
6. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換

オイルの点検・交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

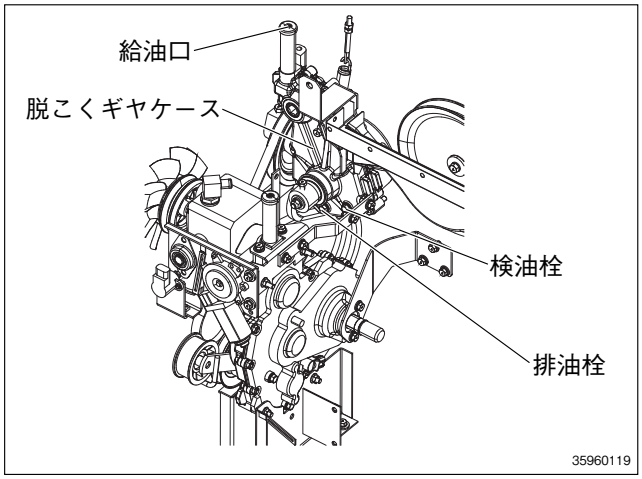
❶ 点検

・脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。



・脱こく入口板を外して給油口より補給します。



❷ 交換

・排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・ギヤオイル…API・GL5以上，SAE・140

・オイル量…0.25 L

7. 搬送HSTギヤケースのオイルの点検・交換

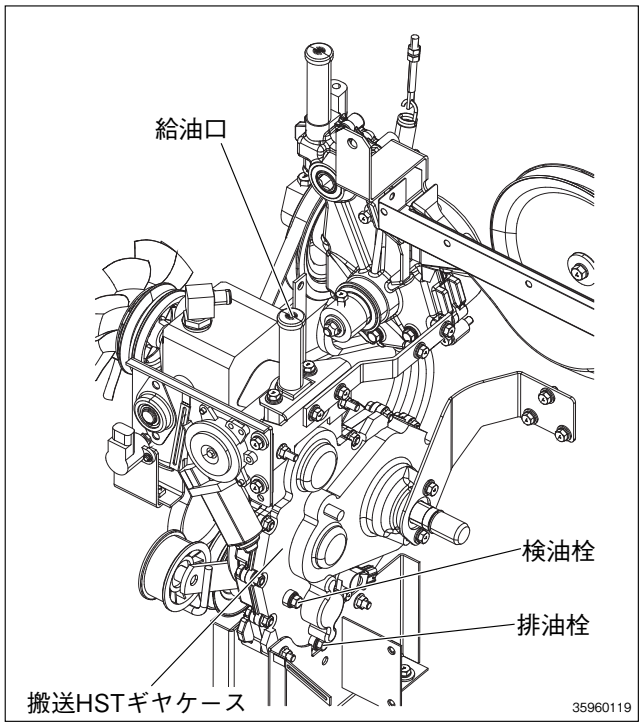
オイルの交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

❶ 点検・補給

・搬送HSTギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

・汚れがひどいときは交換します。



❷ 交換

・排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

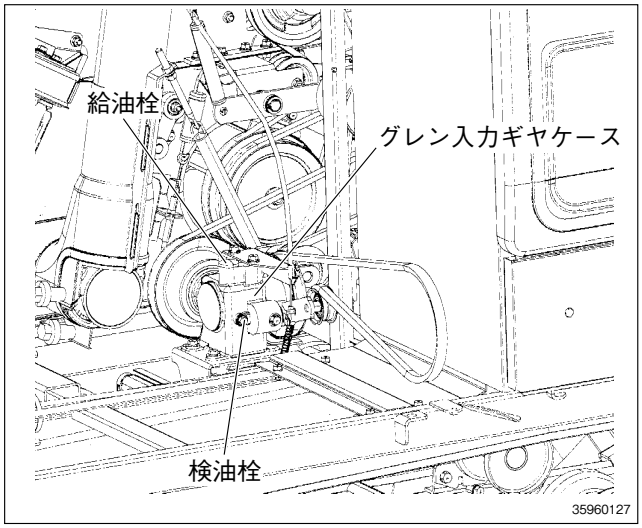
・ギヤオイル…API・GL5，SAE・90

・オイル量…0.55 L

8. グレン入力ギヤケース［グレンタンク仕様］

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。グレンタンクを回動します。(97～98ページ参照)





・検油栓を外し給油栓を外して注油します。検油栓部からオイルが出てきたら適量です。

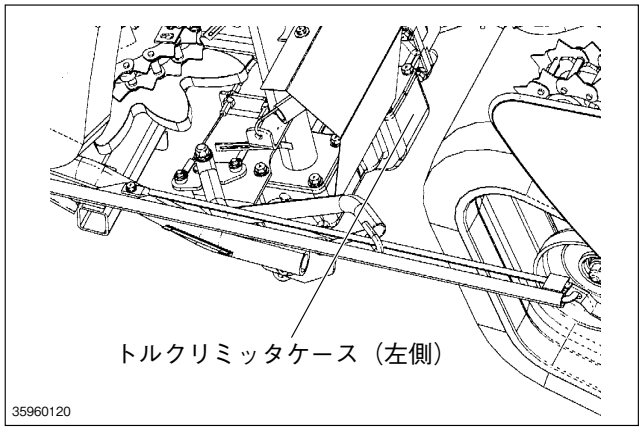
・**ギヤオイル…API・GL－5級以上，SAE・140**

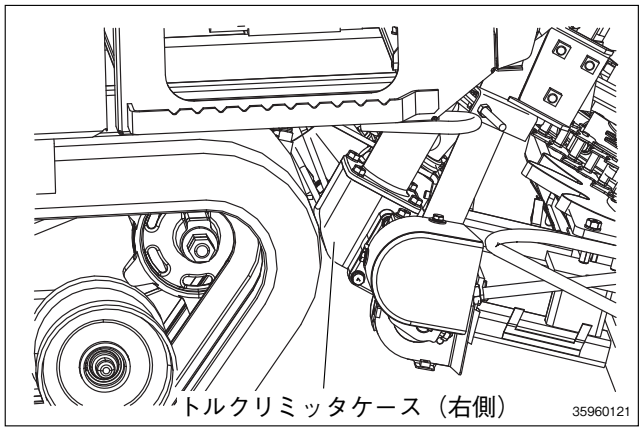
・**オイル量……0.3 L**

・グレンタンクを収納します。

9. トルクリミッタケース［3条型］

・オイル交換は，「**お買いあげ先**」で行います。





・刈取部左右にあるトルクリミッタケースの給油栓を外し給油口より給油します。

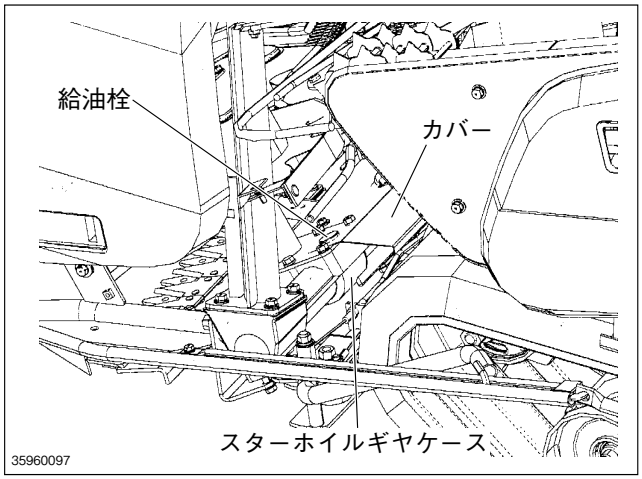
・**ギヤオイル…API・GL－5級以上，SAE・140**

・**オイル量……右側　1.0 L**

左側　1.0 L

10. スターホイルギヤケース［2条型］

・オイル交換は，「**お買いあげ先**」で行います。



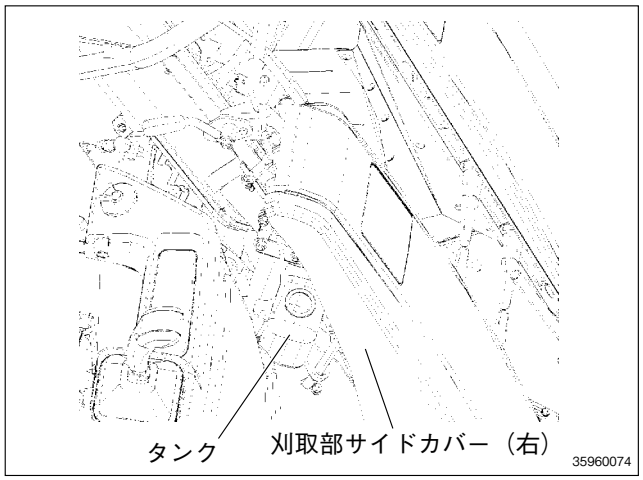
⑴ 刈取部左側のスターホイル下部にあるカバーを外しスターホイルギヤケースの給油栓を外して給油口より給油します。

・**ギヤオイル…API・GL－5級以上，SAE・140**

・**オイル量……0.25 L**

⑵ 作業後カバーを元の位置に取付けます。

11. 集中注油タンク



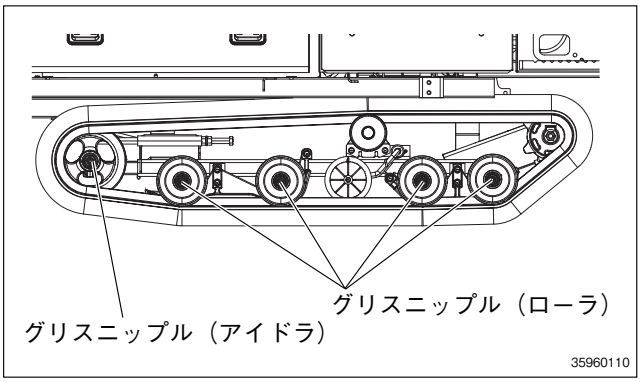
⑴ 刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。

・**エンジンオイル**を使用します。

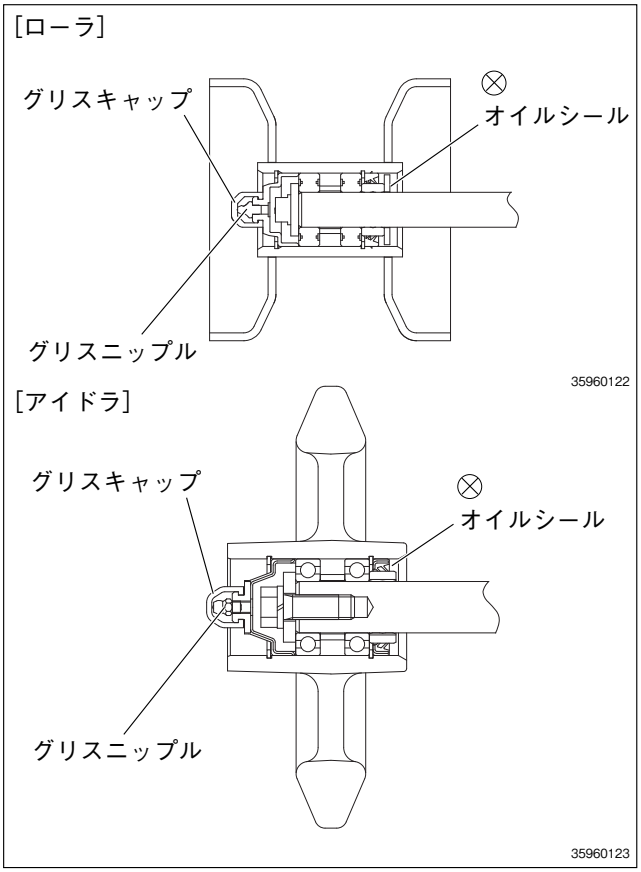
・**オイル量……0.7 L**

⑵ 作業後刈取部サイドカバー（右）を取付けます。

12. ローラ，アイドラのグリスアップ



・各部のグリスアップは50ａ（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ箇所は，［**ローラ**］８箇所と［**アイドラ**］２箇所です。



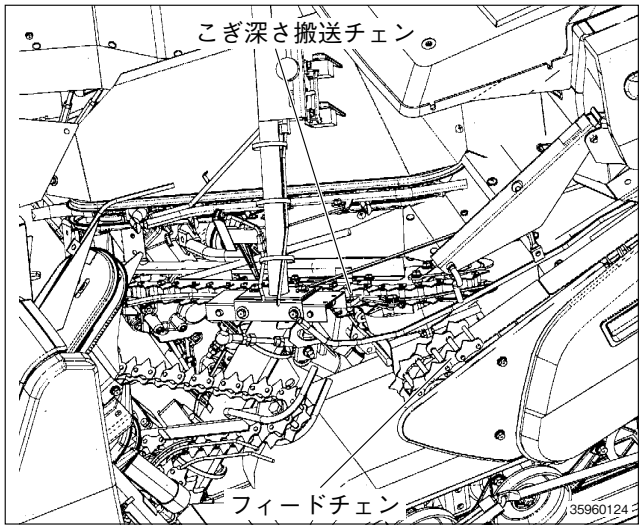
・グリスアップ箇所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

13. こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンの注油

始業前および20ａ（アール）刈取毎に「**油さし**」で行います。［**３条型**］は集中注油機能を使って注油します。（82ページ参照）

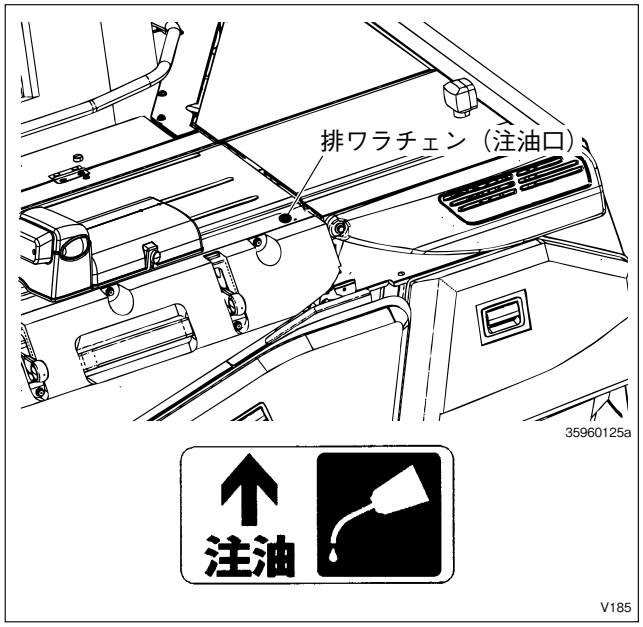
❶ こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンに注油します。

❷ エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にして，フィードチェン全体にオイルを行き渡らせます。

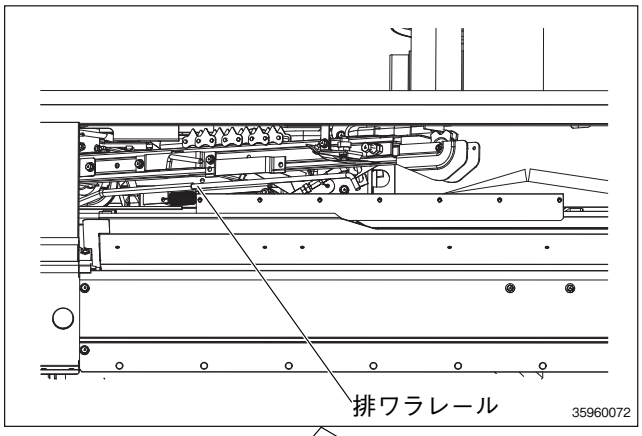


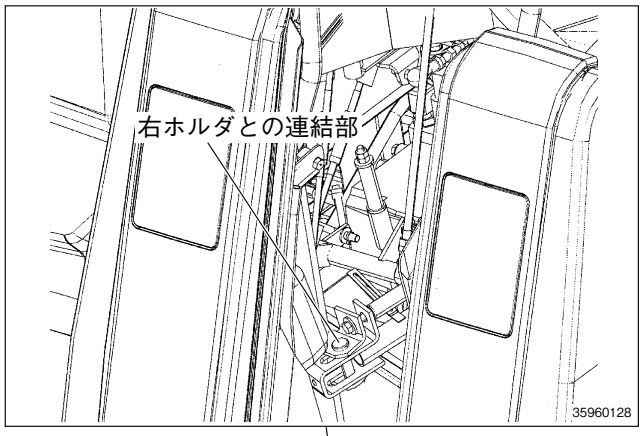
14. 排ワラチェンの注油

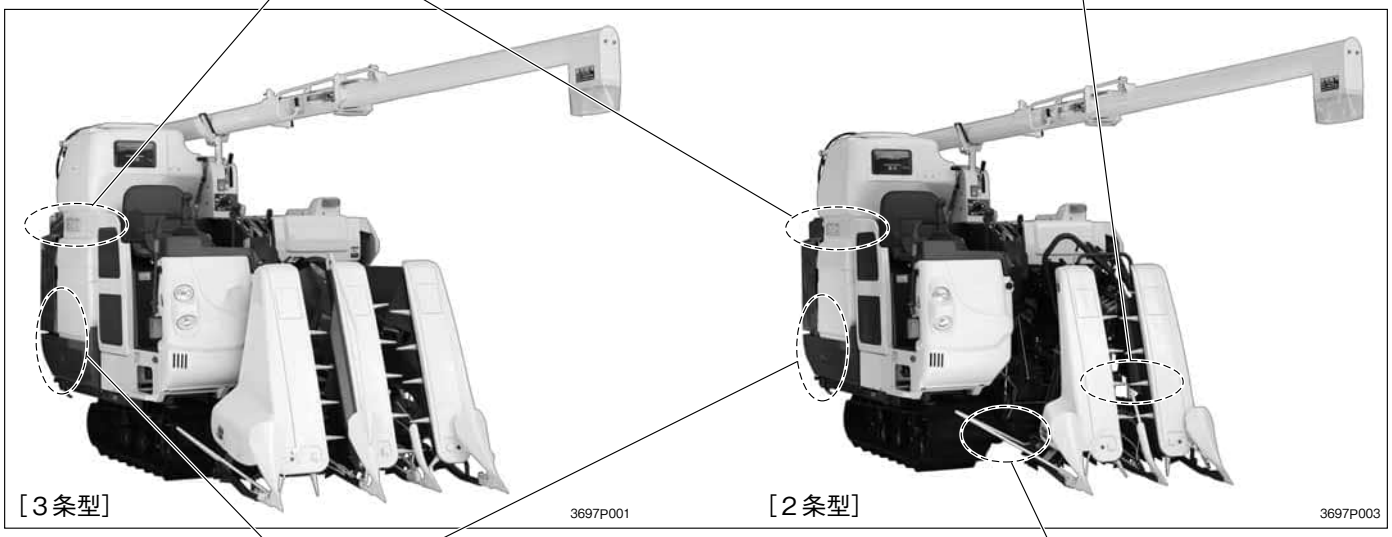
始業前および20ａ（アール）刈取毎に「**油さし**」で注油口へ注油します。［**３条型**］は集中注油機能を使って注油します。（82ページ参照）

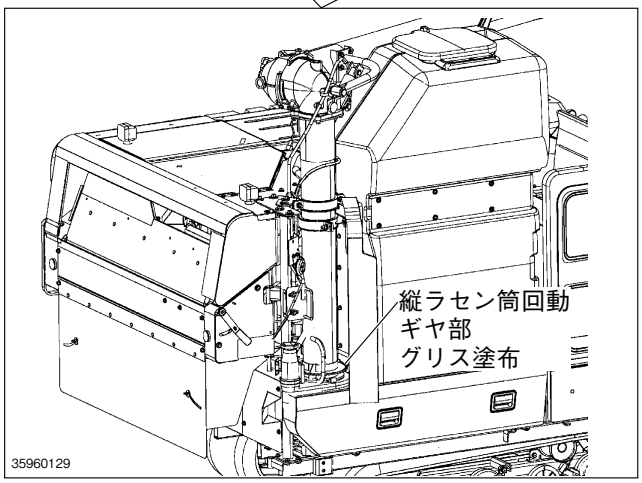


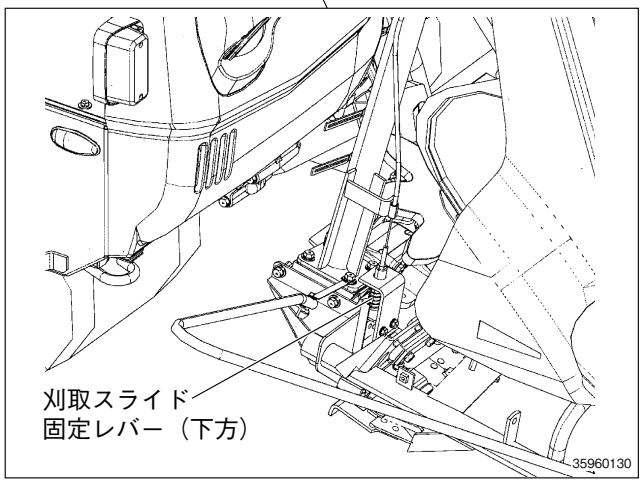
15. その他の注油箇所











その他の注油箇所は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。縦ラセン筒回動ギヤ部以外の注油は「**油差し**」で注油します。

16. 集中注油の使いかた

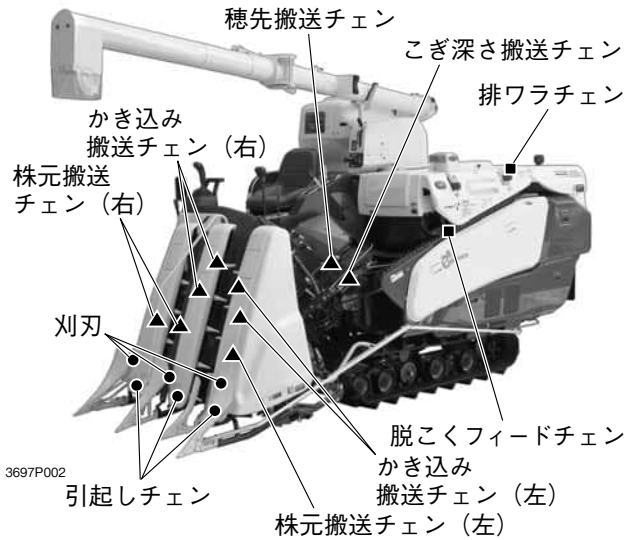
⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに車止めをかけてください。
◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

［3条型］

集中注油は切替バルブダイヤルで，(①刈取部の刈刃部，引起しチェン部の計6箇所の注油ノズル，②穂先搬送チェン部，こぎ深さ搬送チェン部，かき込み搬送チェン部，株元搬送チェン部の計9箇所の注油ノズル，③排ワラチェン，脱こくフィードチェンの計2箇所の注油ノズル）注油箇所を選び，集中注油レバーを操作するだけで注油します。

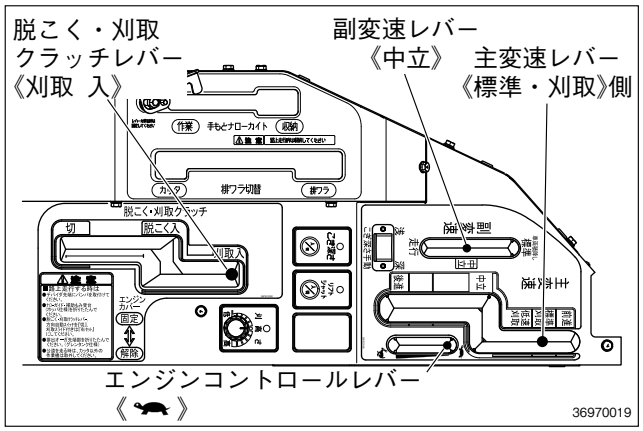
「注油ノズル位置」



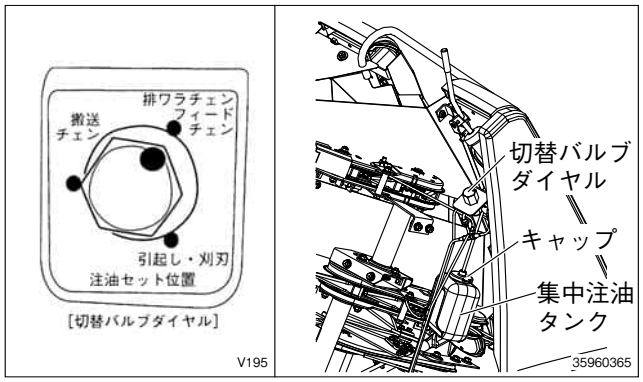
※●部は切替バルブレバー《引起し・刈刃》位置のときに注油される箇所を示す。
※▲部は切替バルブレバー《搬送チェン》位置のときに注油される箇所を示す。
※■部は切替バルブレバー《排ワラチェン，フィードチェン》位置のときに注油される箇所を示す。

「注油操作手順」

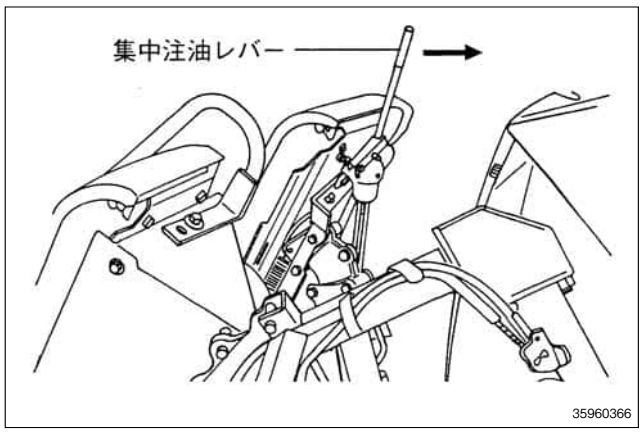
(1) エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。
(2) エンジン回転を低回転にします。
(3) 副変速レバーを《**中立**》にします。
(4) 脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置にし，刈取部を運転します。
(5) 主変速レバーを《**標準刈取**》にセットします。



(6) 切替バルブダイヤルのマークを注油したい位置に合わせ切替えます。

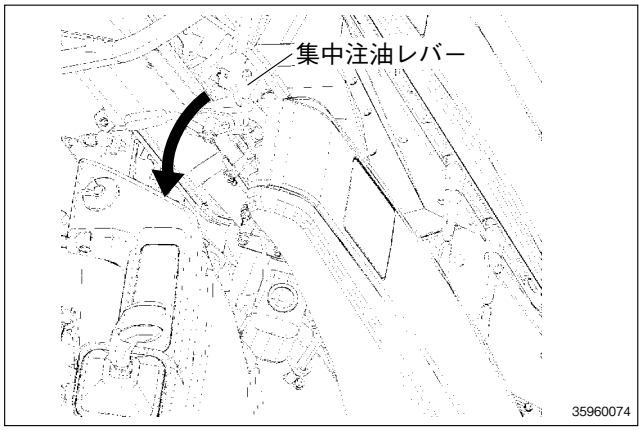


(7) 集中注油レバーを数回右側（矢印の方向）に引いて注油します。



［２条型］

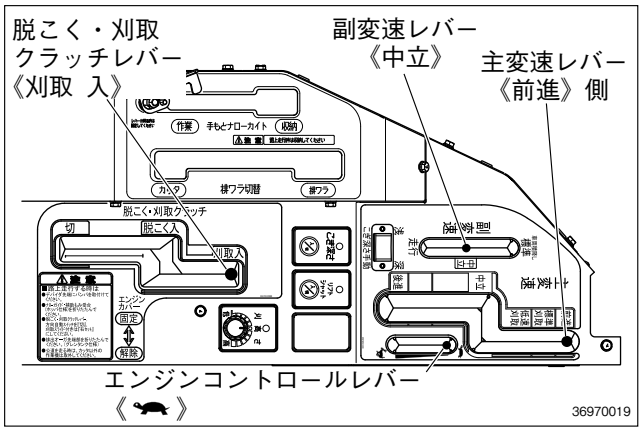
集中注油は注油レバーを操作するだけで，刈取部の刈刃，引起しチェン，搬送チェン部の注油ノズルからオイルが吐出し，注油ができます。



「注油操作手順」

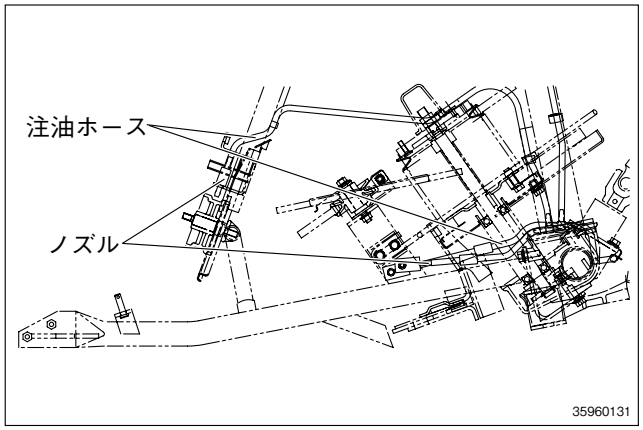
⑴ エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。

⑵ 副変速レバーは《**中立**》にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》にし，エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）主変速レバーを《**前進**》にして刈取部を運転します。



⑶ 注油レバーを「**数回押して**」注油します。

⑷ 注油後，さらに刈取部を３分間程度運転し，注油がゆきとどいたことを確認します。



取扱いのポイント

- **注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。**
- **送油ホースの継ぎ部などからオイルが漏れないか，点検確認してください。**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースをカマなどで損傷しないようにしてください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また，エンジンは停止してください。**

3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

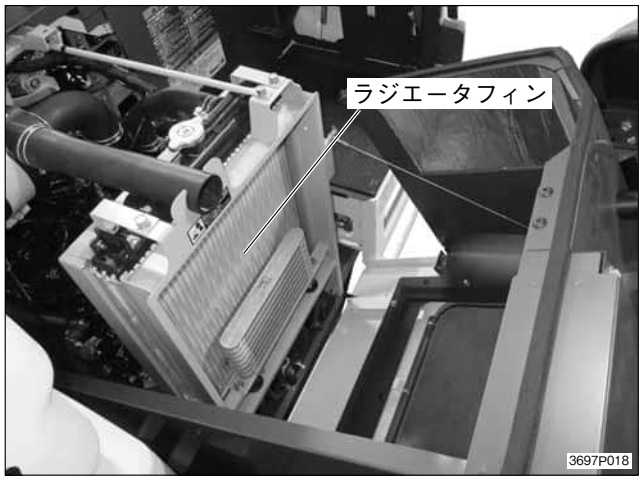
エンジンカバー，ラジエータフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。



❶　エンジンカバーを開き内側を掃除します。

❷　エンジンカバーのゴミを，やわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹き付けてゴミを取除きます。

・ラジエータフィン部に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てるとフィンが変形するおそれがあります。



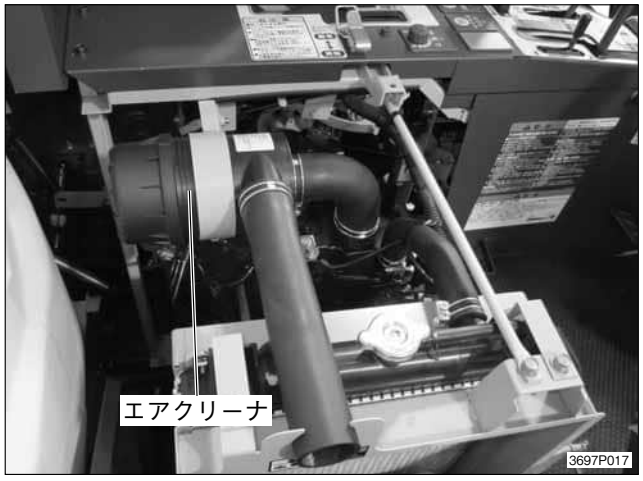
❸　エンジンカバーを元どおり閉じます。

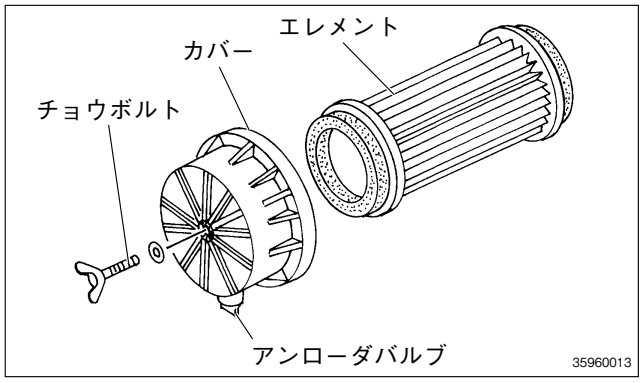
2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶　エンジンカバーを開け，エアクリーナカバーのチョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❷　エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付け，エアクリーナ室カバー（右）を閉じます。

❹ エンジンカバーを元どおり閉めます。

取扱いのポイント

●**コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「686kPa（7kgf/㎠）以下」で行ってください。**

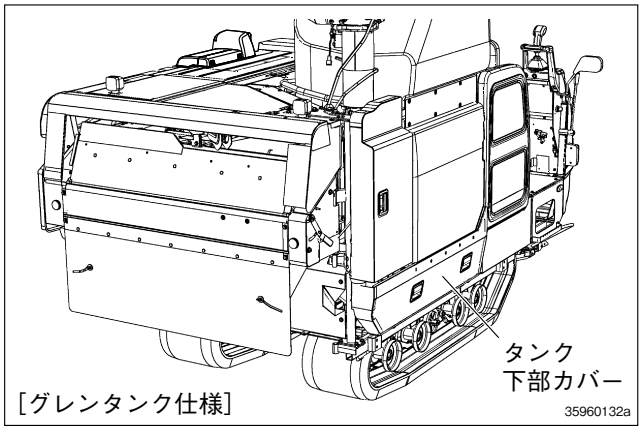
3. 燃料フィルタの掃除・交換

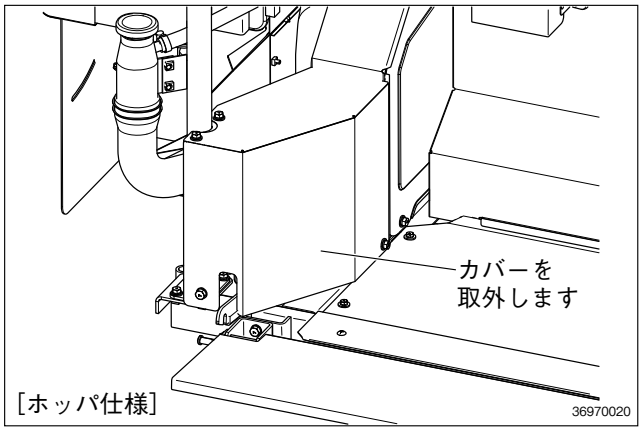
⚠警告 火災防止のために

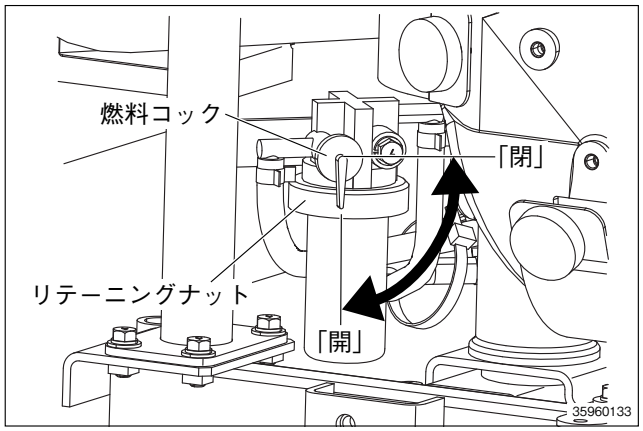
◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合，火災の原因となることがありますので交換してください。

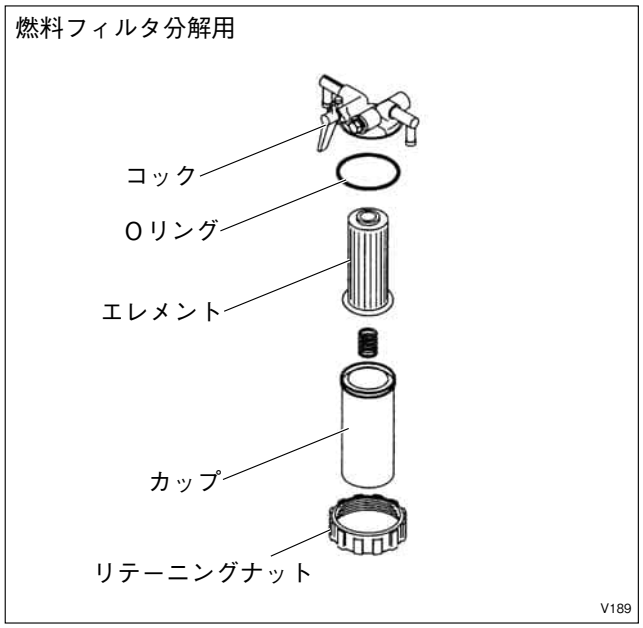
燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行い，交換は250時間毎にエレメントとOリングを「**お買いあげ先**」で交換します。









❶ ［**グレンタンク仕様**］は，タンク下部カバーを外します。

❷ 燃料給油口下部にある燃料コックを「**閉**」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❸ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❹ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❺ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❻ 燃料コックを「**開**」の位置にしてエア抜き要領に従ってエア抜きを行います。(86ページ参照)

❼ ［**グレンタンク仕様**］は，タンク下部カバーを元どおり取付けます。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **フィルタのゴミを掃除するときはコンプレッサの空気圧を「686kPa（7 kgf/㎠）以下」にしてください。**

4. 燃料のエア抜きのしかた

運転中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

手順は次ページをご参照ください。

❹ 燃料フィルタのエア抜き用ボルト部から気泡のまじらない燃料が出てきたらボルトを締めます。

❺ エンジンコントロールレバーを《🐇》(高速)位置にして，スタータスイッチを《始動》にしてエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❷項からの操作を行います。

❻ 作業後はカバー類を閉じてください。

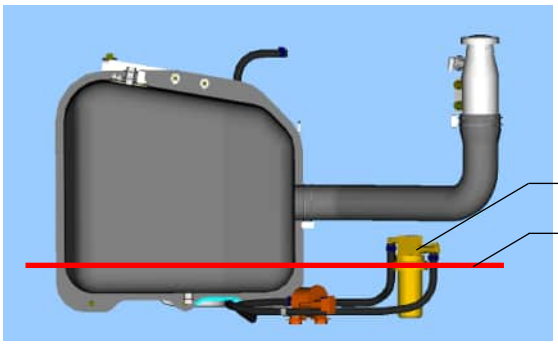
燃料のエア抜き方法（V220・321・323）VM218/219/21/VS321/323も同様

燃料のエア抜き方法

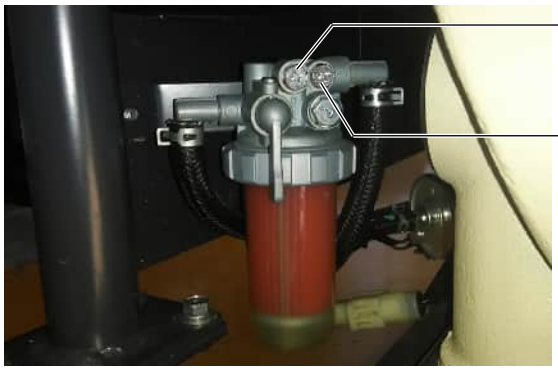
○運転中での燃料切れなどでエア抜きが必要な場合、従来のエア抜き方法では燃料フィルタ内の空気が完全に抜けないことがありますので、以下のエア抜き方法をお確かめ下さい。

エア抜き方法

①エア抜きをする際は、燃料満タンの状態で行います。
→燃料フィルタの位置が燃料タンク底面より約2割の位置に取付けされているので、燃料が少ないと空気が混入する可能性があります。



②燃料フィルタ上部の2つのスクリューの左側（燃料タンク~燃料フィルタまで）を緩めて、キー【OFF】で燃料フィルタ内に燃料が満たされるまで待ちます。



※コンバインの場合、燃料タンク→燃料フィルタ→燃料ポンプのためキーOFFでスクリュー左を緩めるだけでエア抜き出来ます。

③燃料フィルタ内に燃料が満たされたらスクリューを締めて終了です。

以上

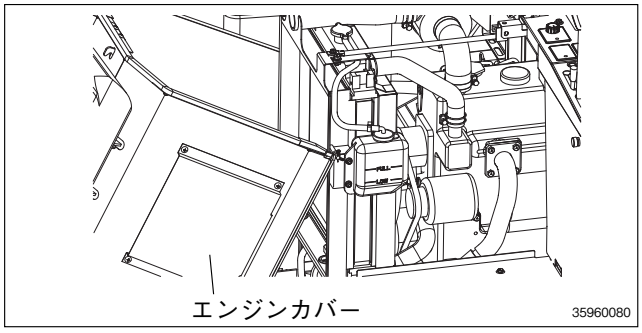
5. ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因となります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします。

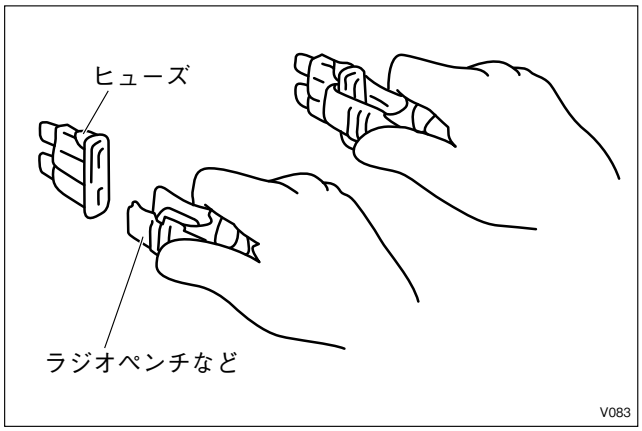


ヒューズボックス・予熱ランプヒューズおよびメインヒューズの点検交換が終わったら，エンジンカバーを閉じます。

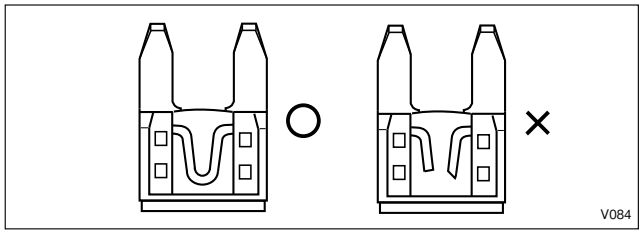
❶ ヒューズボックスの交換

(1) スタータスイッチを《**切**》位置にします。

(2) ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しまたは，ラジオペンチなどを使って，ヒューズを引抜きます。



(3) ヒューズが下図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換してください。



(4) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら，運転席左下カバーを取付けてください。

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❷ 大電流用ヒューズの交換

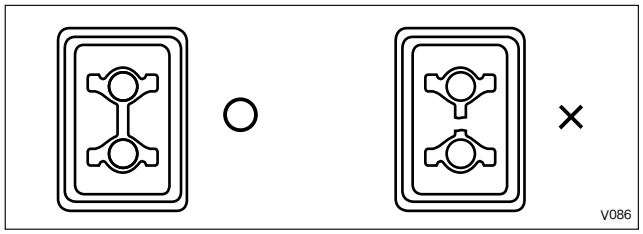
⚠警告 火傷や火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行なってください。

(1) バッテリ（−）端子を外します。

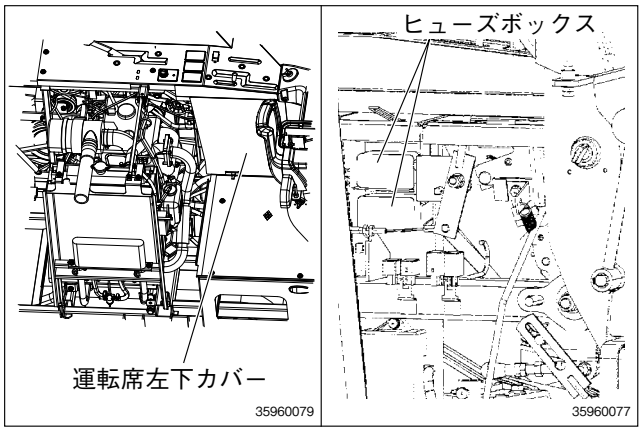
(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。

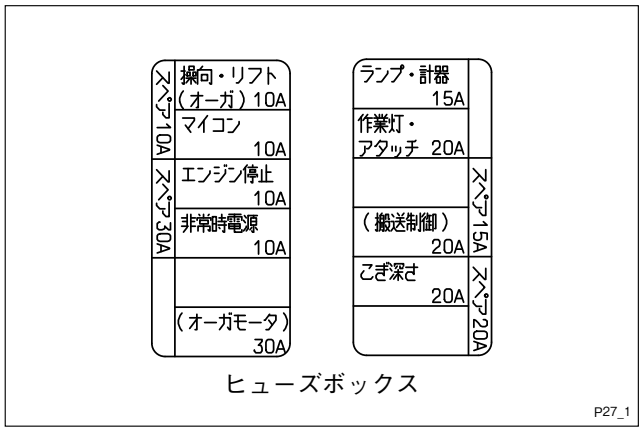


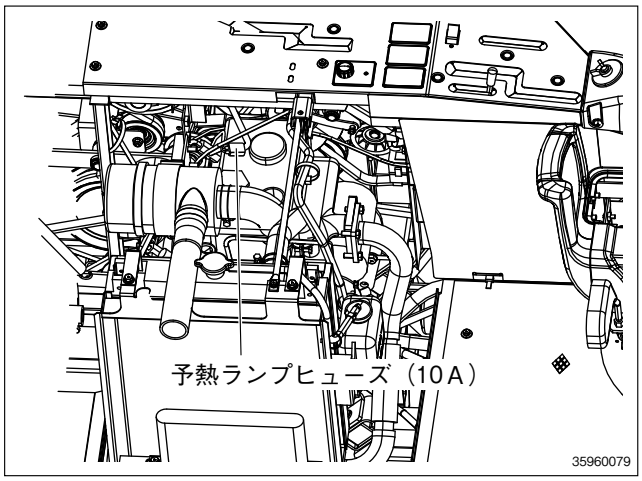
取扱いのポイント

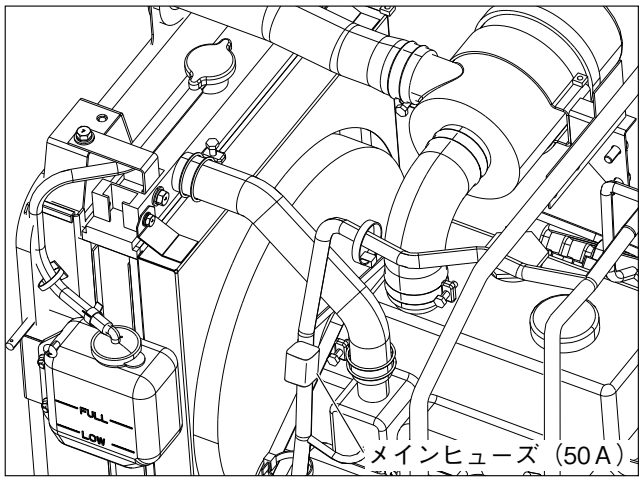
●大電流用ヒューズが切れたときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❸ ヒューズボックス位置









・ヒューズが溶断した場合，つぎの機能が作動不能になります。　　×：作動不能

ヒューズの種類＼影響の出る機能	エンジン始動	予熱ランプ	計器類のモニタランプ	前照灯	作業灯	ホーン・バックブザー	燃料計	方向指示器	マルチステアリング	ジャストディレクタ	こぎ深さ手動	こぎ深さ自動	刈取部上下	方向自動	搬送制御	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	エンジン停止	エンジン停止スイッチ	エンジン回転負荷モニタ
非常用電源（10A）	×																			
エンジン停止（10A）	×																			
ランプ・計器（15A）			×	×		×	×	×												
作業灯・アタッチ（20A）					×															
こぎ深さ（20A）											×	×								
操向・リフト・オーガ（10A）									×	×			×				×			
オーガモータ（30A）																×				
搬送制御（20A）															×					
マイコン（10A）			×			×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
予熱ランプヒューズ（10A）		×																		
メイン（50A）	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

6. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子から外してください。
◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

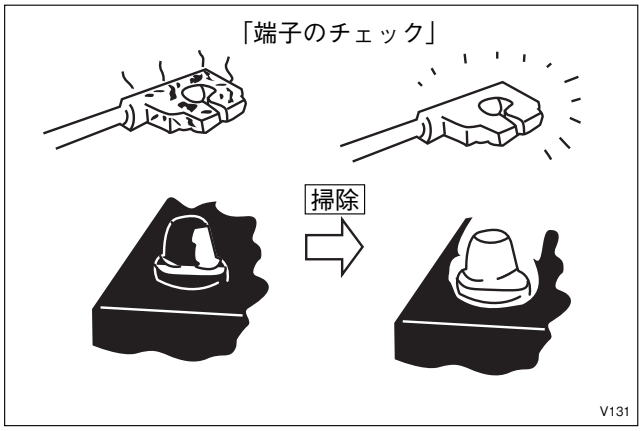
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食を，サンドペーパやブラシで取除きます。
腐食防止のために，グリースを塗ります。



7. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

指定バッテリ…55B24R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，つぎにバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

❶ バッテリ取付金具の点検

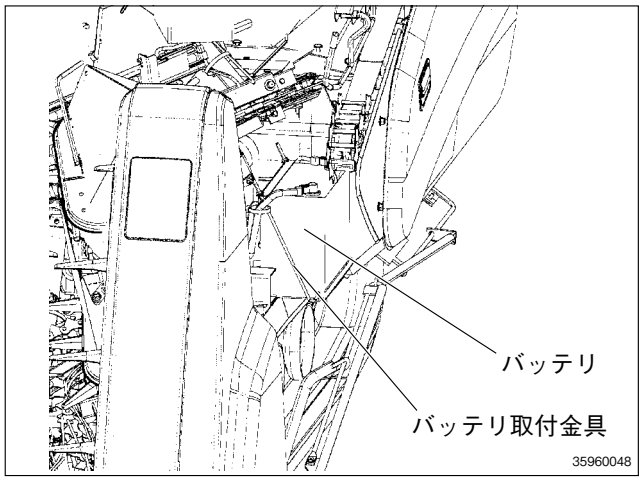
バッテリの取付けがゆるいと，上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐食していれば修理または取替えます。

バッテリは脱こく入口部下部に装備しています。

❷ バッテリの取外しかた



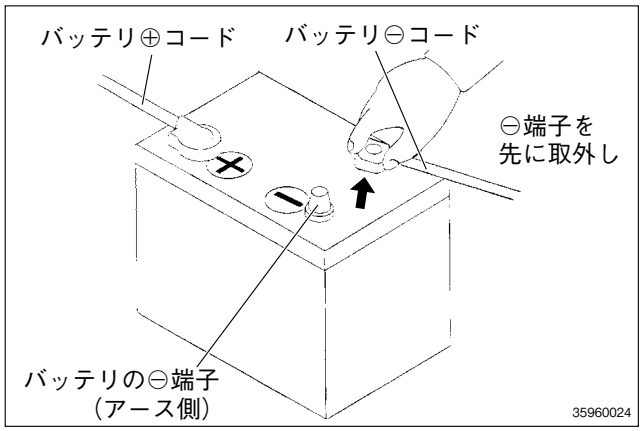
ゴムプレートをめくり，バッテリ取付金具を外し，⊖端子，⊕端子を取外します。

バッテリを機械左側に引出します。

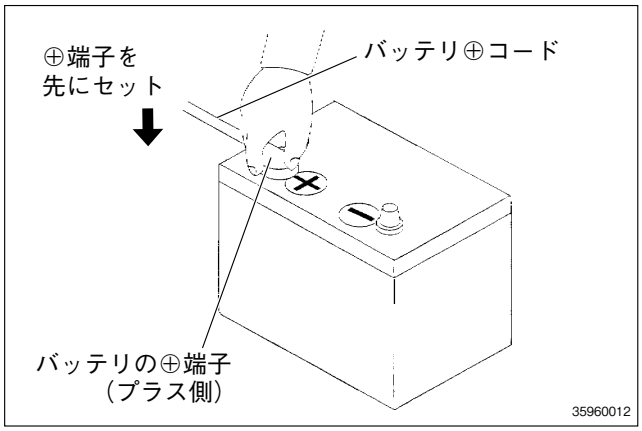
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



⑷ バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

❹ 補充電・交換

⚠危険 死亡事故防止のために

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）の漏れにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機械に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機械損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−)端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋)端子側を最初に接続する。

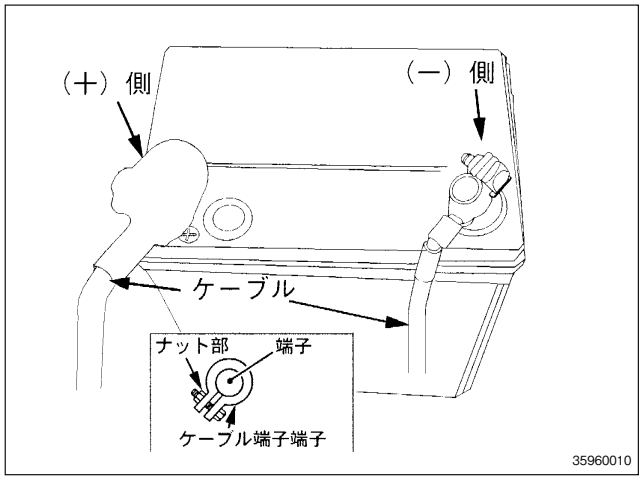
◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電ランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

つぎのような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・エンジンコントロールの加減で，前照灯の明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機械から取外します。
⑴ ナットをゆるめてフックを外します。
⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ形式：55B24R
- **バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液漏れの原因となります。**

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

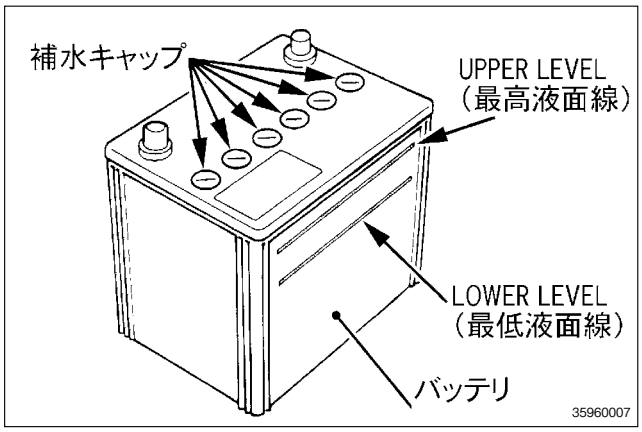
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



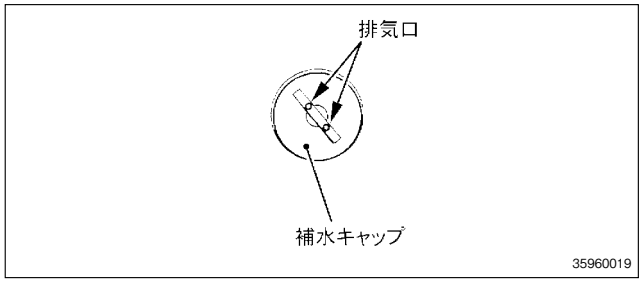
取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液漏れして機械を傷めるおそれがあります。**

2．補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- **排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスよりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。**



❻ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

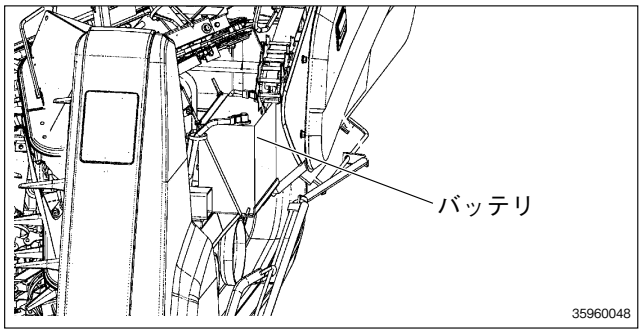
●急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。

2．補充電が終わると補水キャップを全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

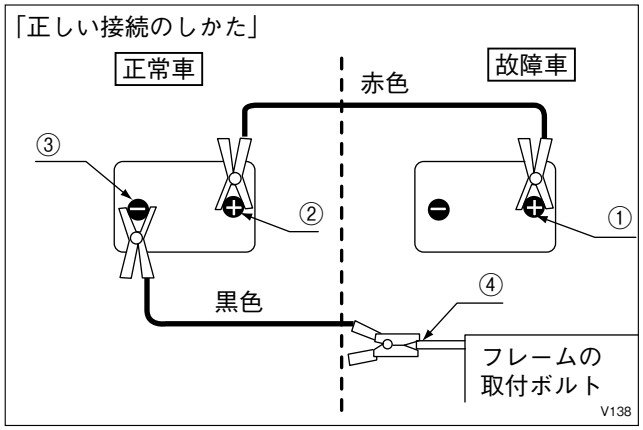
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

このときは，つぎの手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①〜④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

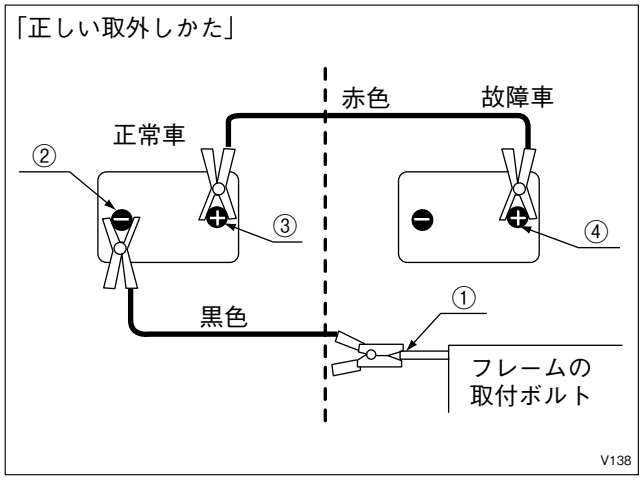


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ,補水が必要なバッテリ)

⑴ 充電作業に取かかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機械からバッテリを取外します。

⑶ 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡）**」による電気火花が発生しないようにします。

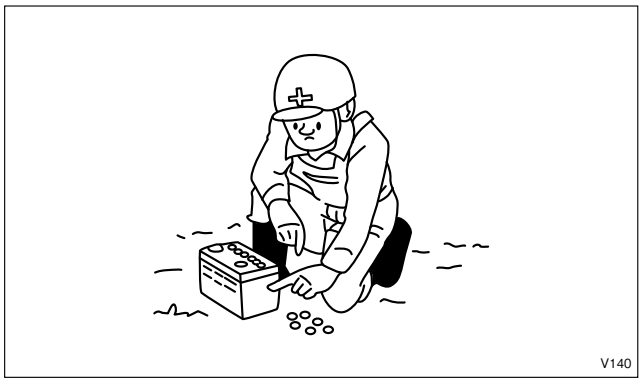
⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

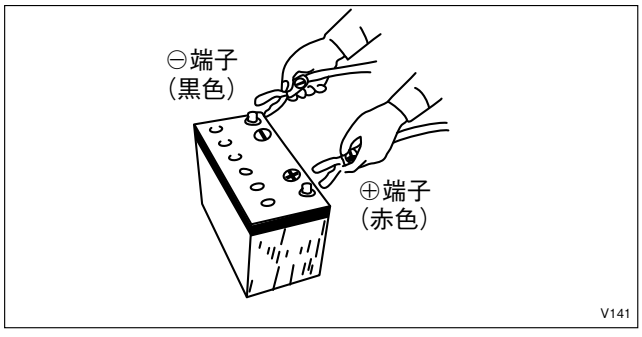
⑴ 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に「**液口栓**」をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などをふき取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分をふき取ってください。**

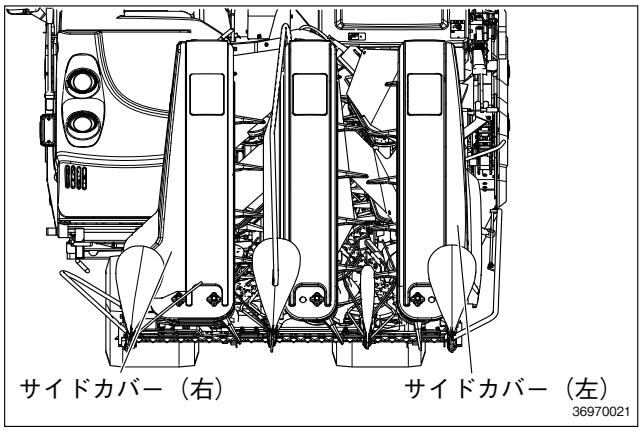
8. 刈取部サイドカバー右・左の外しかた

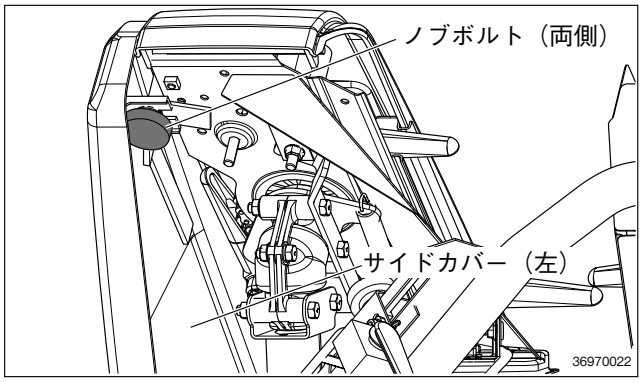
刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

❶ 刈取部サイドカバーのノブボルトをゆるめてサイドカバーを取外します。





❷ 掃除などの作業後，刈取部サイドカバーを取付けノブボルトで締付けてください。

取扱いのポイント

●刈取部サイドカバーを取付けるとき，爪がカバーに食い込まないようにしてください。

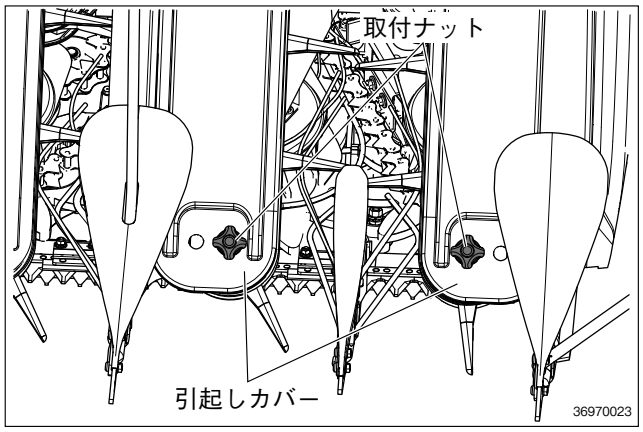
9. 引起しカバーの外しかた

刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

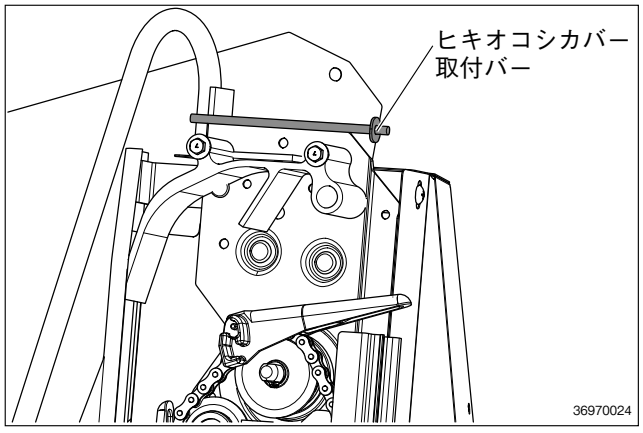
❶ 引起しカバー下側の取付ナットを外します。引起しカバーを少し持上げて取外します。



❷ 掃除などの作業後，引起しカバーを取付けて取付ナットで締付けます。

取扱いのポイント

●引起しカバーを取付けるとき，上部の取付バーに引っかけてください。



●取付ナットが引起しカバーに密着していることを確認してください。

10. グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。

◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

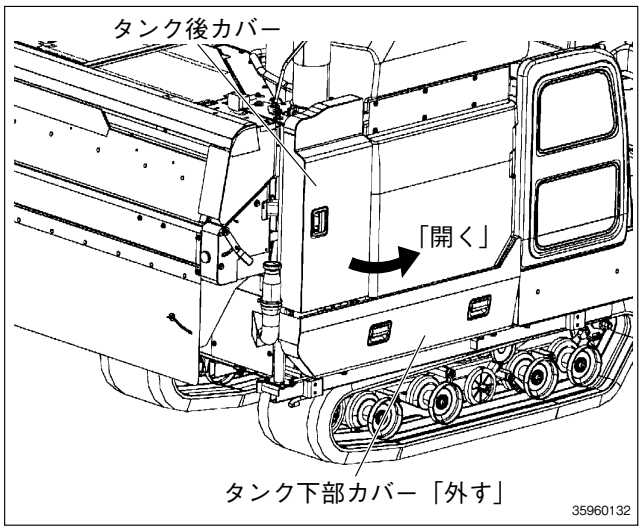
◆取外したカバーは作業後取付けてください。

取扱いのポイント

●グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

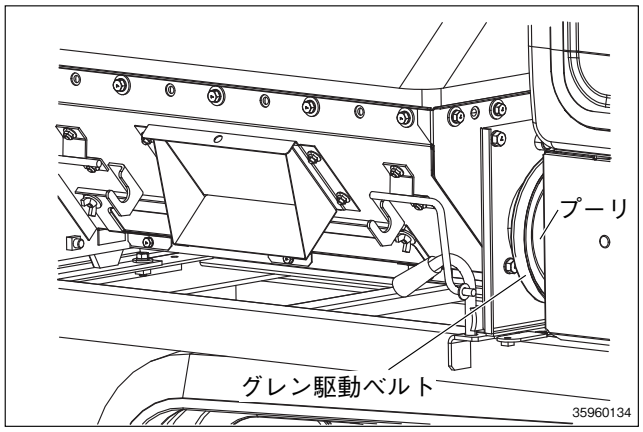
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して行います。

❶ タンク後カバーを開きます。

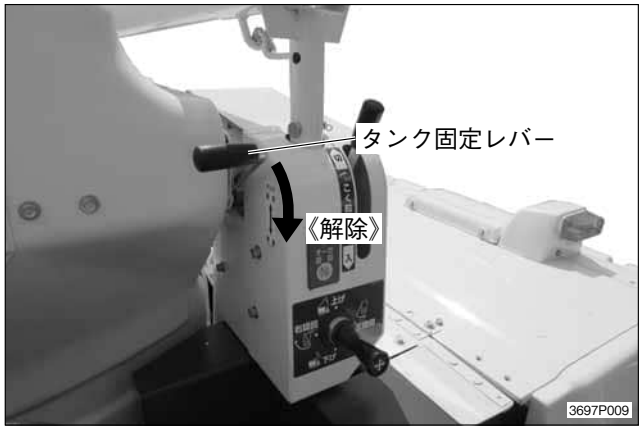


❷ タンク下部カバーを取外します。

❸ グレン駆動ベルトをプーリより外します。



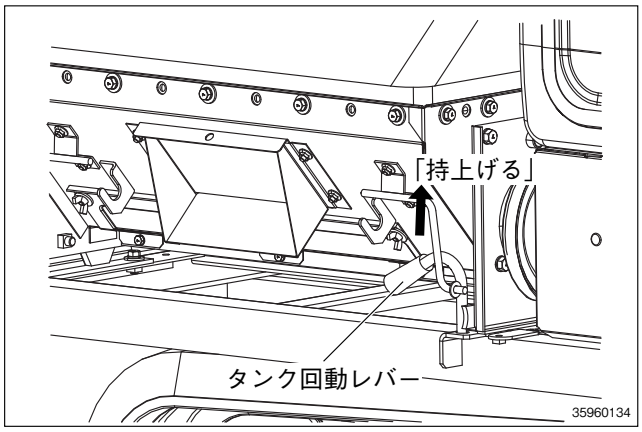
❹ タンク固定レバーを下方に回動してタンクの固定を《**解除**》します。



取扱いのポイント

●グレンタンクを回動するときは，取説の順序通りに行ってください。順序通り行わないとタンク後カバーが，破損，変形するおそれがあります。

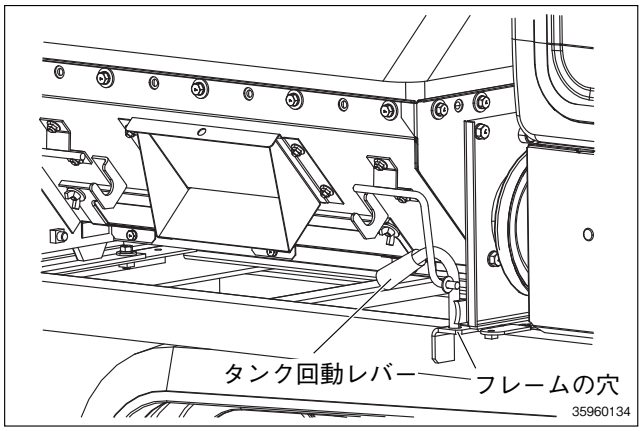
❺　タンク回動レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。





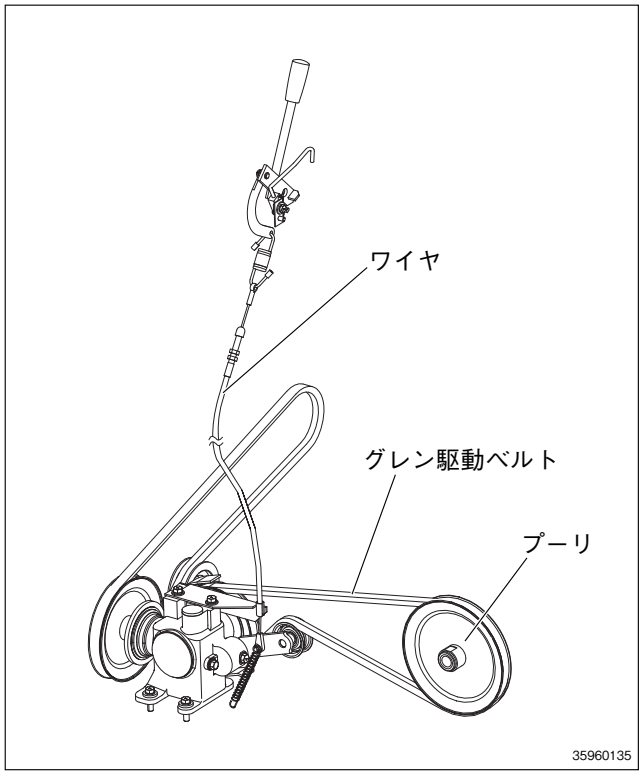
❻　収納は逆の手順で行います。

❼　タンク収納は，タンクを戻すと途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押込みます。



取扱いのポイント

●タンクの収納後はベルトのかけかたが間違っていないか，再度確認してください。



11．こぎ胴部の開閉のしかた

「コンポアップ操作」

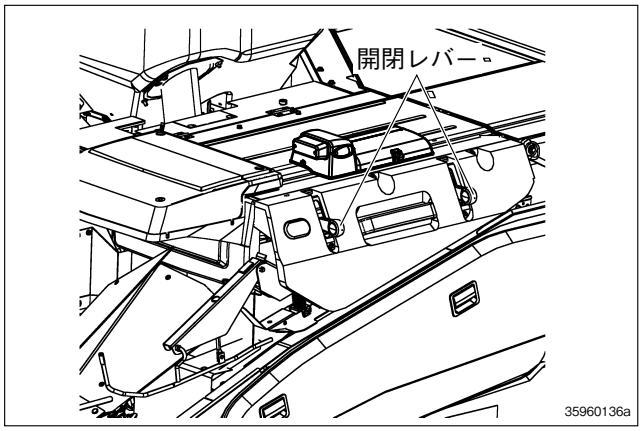
⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

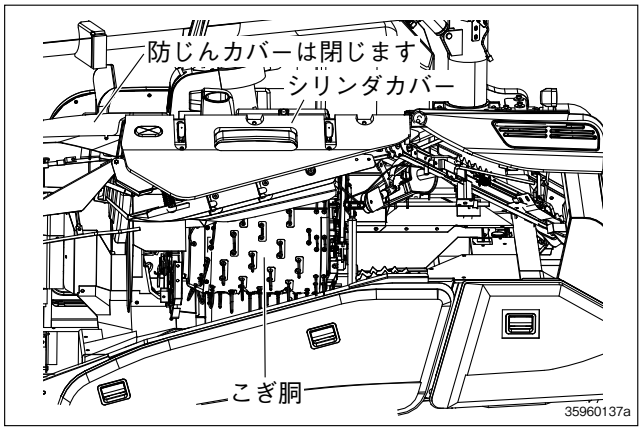
◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。

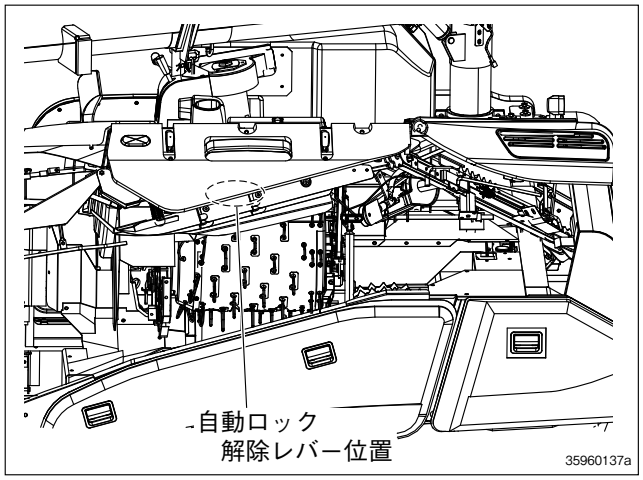
❶ ２本の開閉レバーを持上げ「**固定**」を解除します。

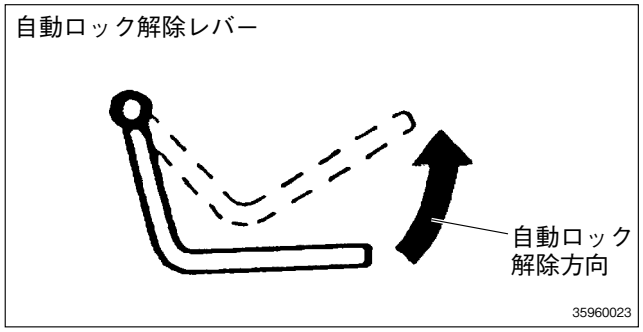


❷ シリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持上げ，「**カチッ**」という音を確認してゆっくり手を離します。(こぎ胴部は自動的にロックされます)



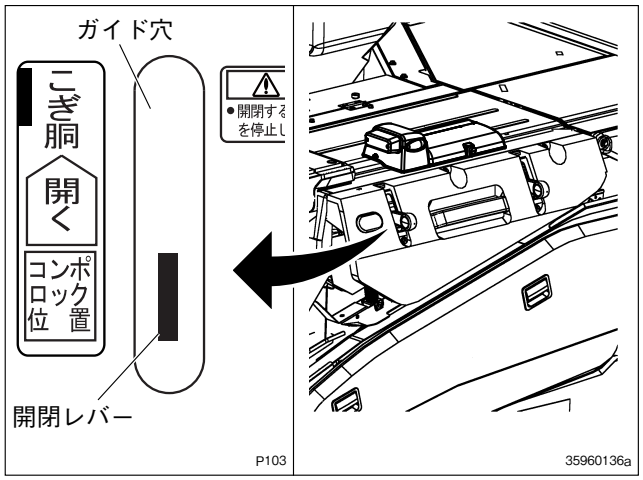
❸ こぎ胴部を閉めるときは，シリンダカバー端部を持って，こぎ胴をいっぱいに持上げ，自動ロック解除レバーを矢印の方向に回動させてロックを解除してから，こぎ胴部をゆっくり下げます。





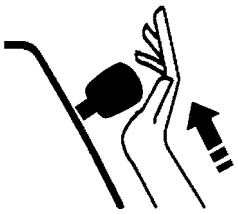
❹ こぎ胴部を，自動固定します。(開閉レバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください)

こぎ胴を閉めたときは，開閉レバー（２箇所）を必ず下に下げて《**コンポロック位置**》にあることを確認します。



取扱いのポイント

- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損するおそれがありますので防じんカバーを閉じてください。[ディーラーオプション]
- レバーを開く方向に操作するときはレバーをにぎらず，手のひらで押上げてください。



35960034

12. カッタ部の開閉のしかた

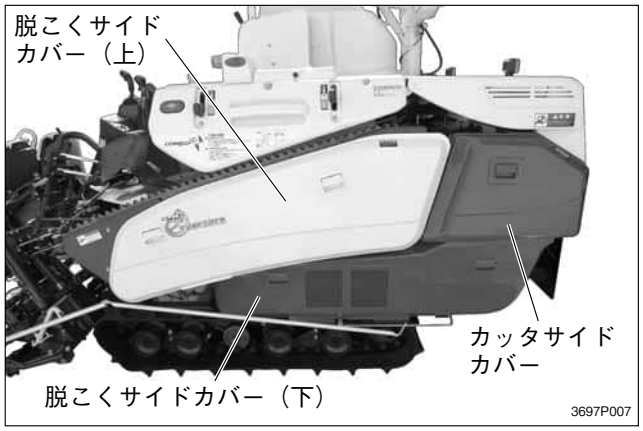
⚠注意 傷害事故防止のために

◆カッタを開閉するときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。

◆カッタを開いて点検作業などをするときは，ストッパをかけ，スナップピンで固定してください。ストッパを固定状態にしないと，カッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

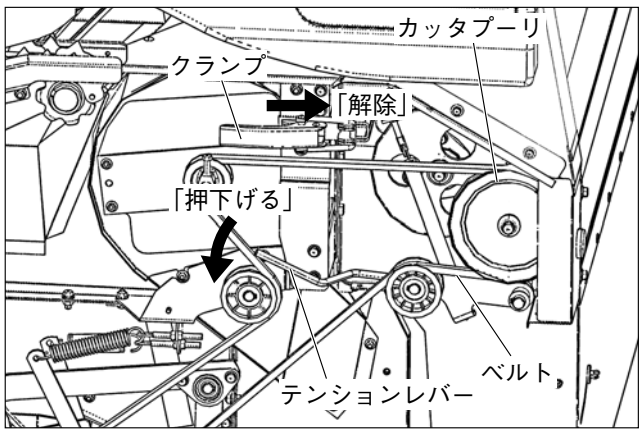
◆カッタを開いたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



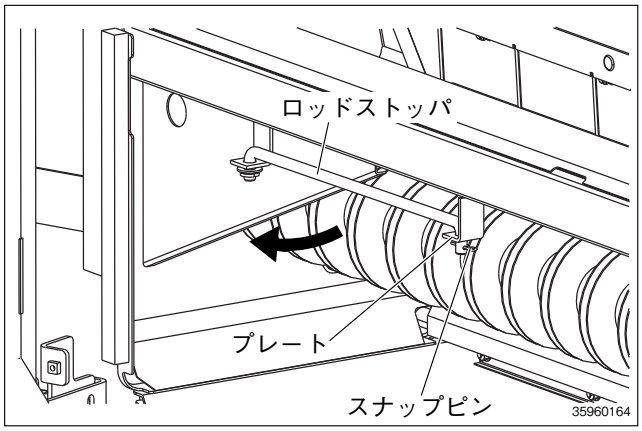
❷ テンションレバーを下方に押下げカッタベルトをゆるめ，カッタベルトをプーリより取外します。

❸ クランプを解除します。

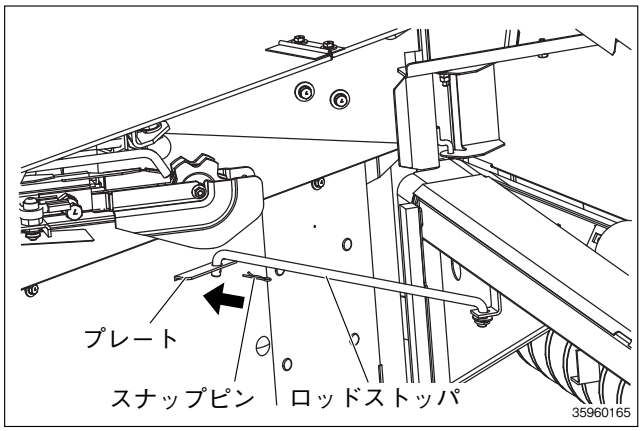


❹　カッタを少し上方へ持上げながら，後方へ開きます。

❺　カッタについているロッドストッパのスナップピンを抜き，ロッドストッパを上方へ持上げ矢印の方向に回動させます。



❻　ロッドストッパをプレートの穴に入れ，スナップピンを差込み固定状態にします。



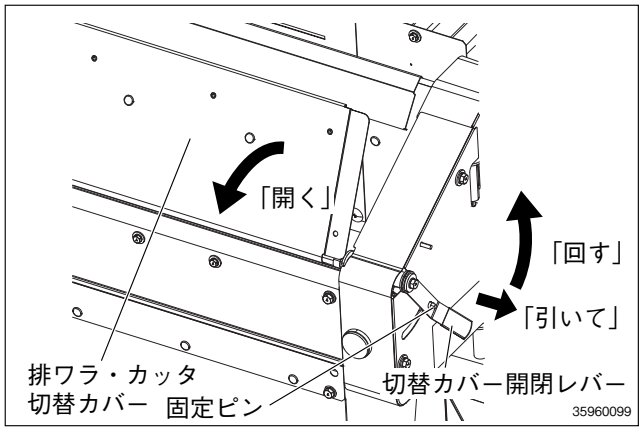
❼　カッタを閉じるときは，逆の手順で行います。

13．切替カバーの開閉のしかた

⚠危険　傷害事故防止のために

◆切替カバー開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

切替カバー開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替カバーを倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認します。



・確認後は逆の手順で元どおりにします。

取扱いのポイント

●切替カバーが開いていると，排ワラランプが点灯しています。エンジンは始動できますが，脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にするとエンジンが停止しますので，必ず切替カバーは作業後に閉じてください。

14. 脱こく部の掃除のしかた

脱こく部を掃除するときは，ワラクズや残粒を落すために上から下へと作業を行なうことをお奨めします。

1．グレンタンク部の掃除
2．脱こくこぎ室の掃除
3．こぎ胴ギヤケース部の掃除
4．ワラ切カマの掃除
5．脱こく受網の掃除
6．第２こぎ室の掃除
7．排じん室の掃除
8．揺動流板の掃除
9．揚こくラセン部の掃除
10．２番ラセン部の掃除
11．１番ラセン底板・２番ラセン底板の掃除

15. 脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆各カバー，蓋を開き，脱こく部内部を掃除するときは，平坦な場所でエンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは，互いに声をかけ合い，安全を確認してから行ってください。
◆こぎ胴部は自動ロック位置まで確実に持上げてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆マフラカバーに触れないでください。
◆作業後は，取外したカバー類を取付けてください。

品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

取扱いのポイント

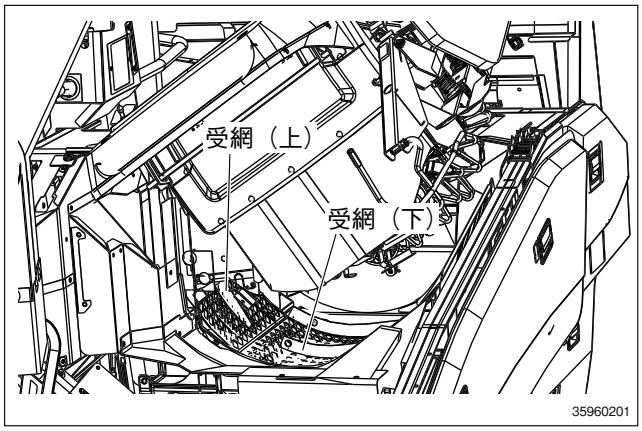
●脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

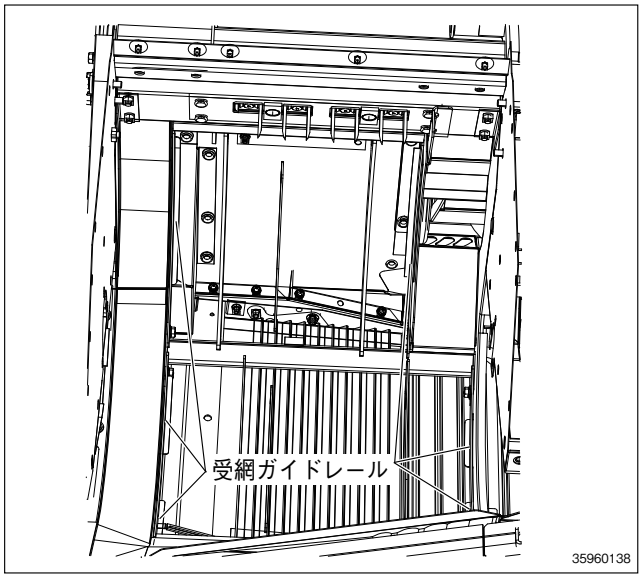
⑴ こぎ胴部をいっぱい持上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。

⑵ 受網（上）を外します。

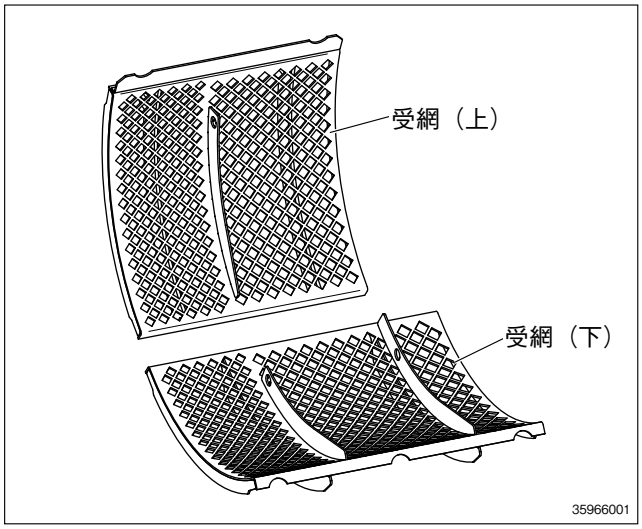
⑶ 受網（下）を外します。



⑷ 受網（上）・（下）を取付ける前に受網ガイドレール（６箇所）のクズを取除きます。



⑸ 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。



⑹ こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

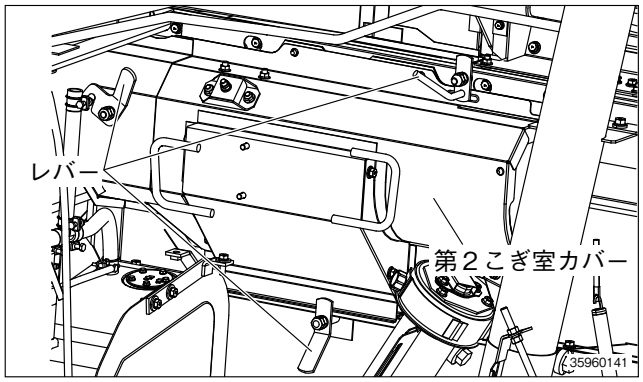
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（６箇所）にこく粒やワラクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。**

❷ 第２こぎ室の掃除

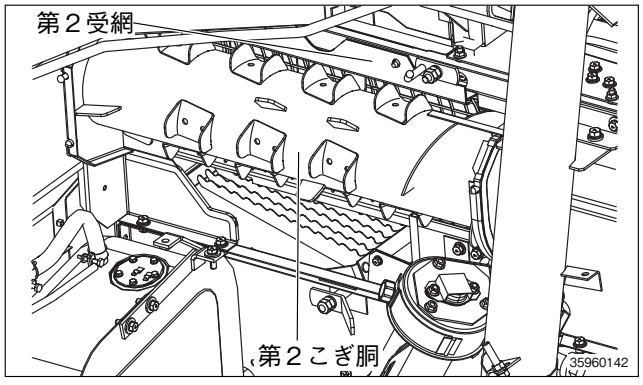
⑴ ・［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを回動してください。（97～98ページ参照）
・［**ホッパ仕様**］はハンガを外してください。

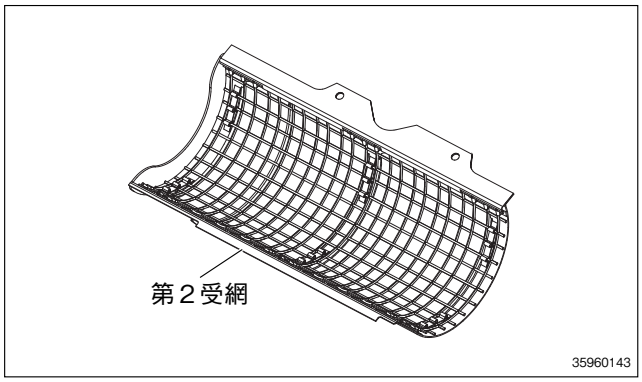
⑵ ３箇所のレバーを回し，第２こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



⑶ 第２受網は，受網の上側から第２こぎ胴を回すようにして，取外します。

⑷ 第２受網取付けは，逆の手順で取付けます。





⑸ 第２こぎ胴カバーを取付けます。

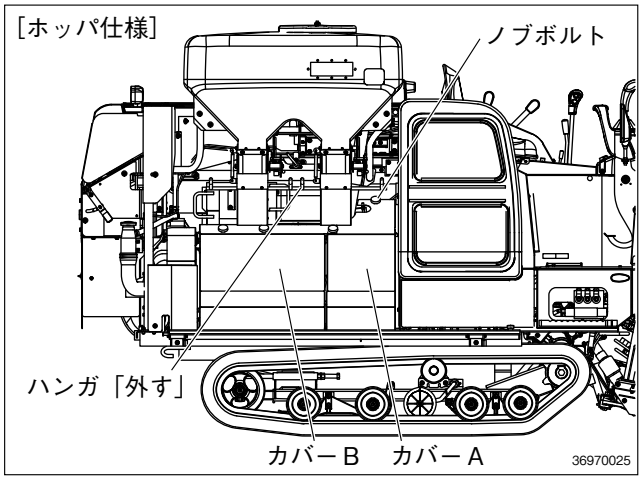
⑹ ・［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを閉じます。(97～98ページ参照)
・［**ホッパ仕様**］はハンガを取付けます。

取扱いのポイント

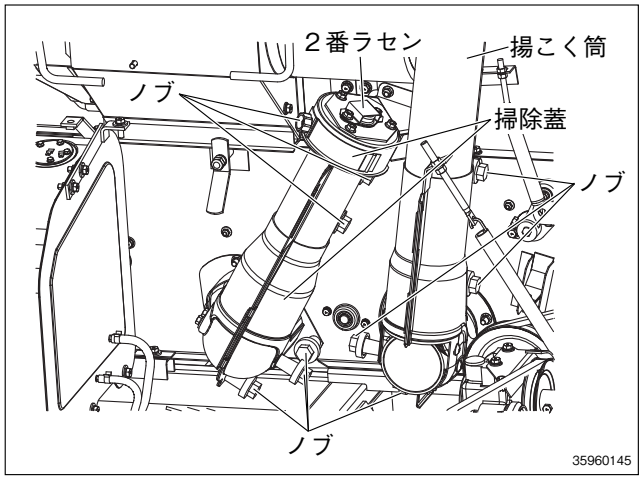
●長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。

❸ 揚こくラセン部・２番ラセン部の掃除

⑴ ・［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを回動してください。(97～98ページ参照)
・［**ホッパ仕様**］はハンガを上に引上げて外してください。つぎにノブボルトをゆるめて外し，カバーA，カバーBを外します。



⑵ ノブを外し，掃除蓋を取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除し，掃除蓋をノブで取付けます。



⑶ ・［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを閉じます。(97～98ページ参照)
・［**ホッパ仕様**］はカバーAをノブで取付けてハンガを取付けます。

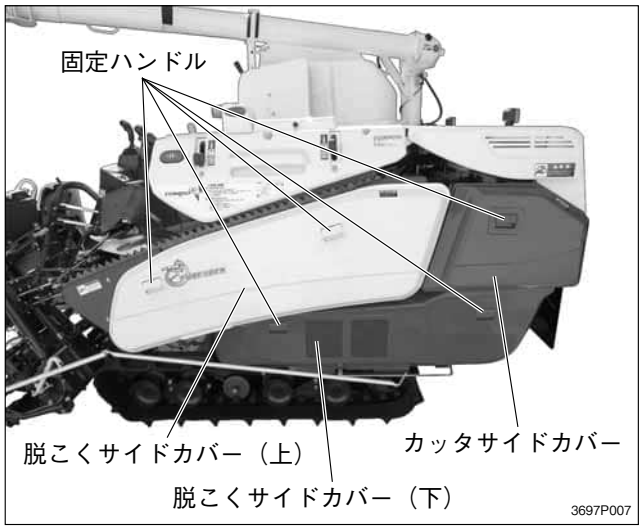
取扱いのポイント

●ノブの頭が六角になっていますので取外すときはスパナを使用してください。

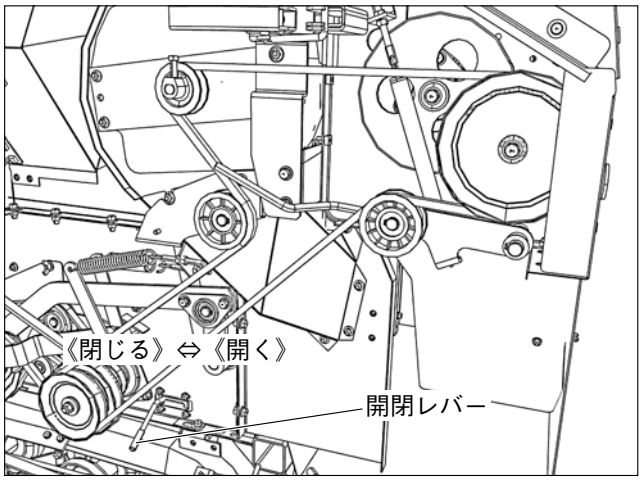
●取付け時にノブをスパナで強く締付けると破損の原因となりますので手で締付けてください。

❹ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。



⑵ 開閉レバーを《**開く**》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



⑶ 掃除後は開閉レバーを《**閉じる**》位置に戻します。

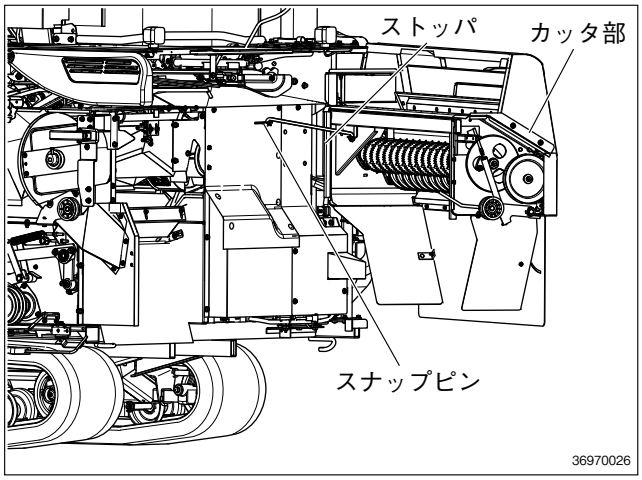
⑷ 脱こくサイドカバー（上）（下）カッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

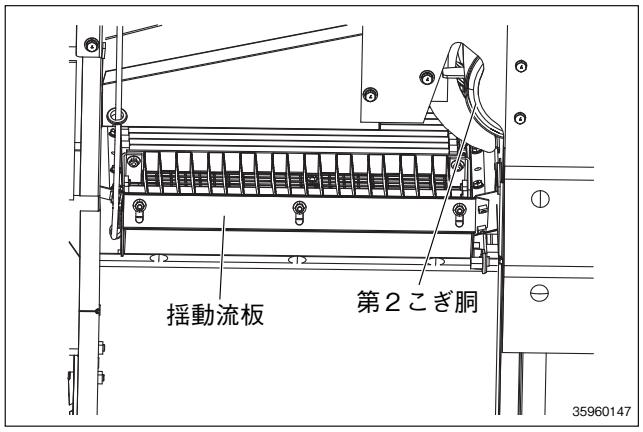
●掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。

❺ 排じん室の掃除

⑴ カッタ部をいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（100ページ参照）



⑵ 排じん室のワラクズなどを掃除します。



⑶ 作業後，カッタを閉じカッタサイドカバーを取付けます。（100ページ参照）

❻ ワラ切カマの掃除

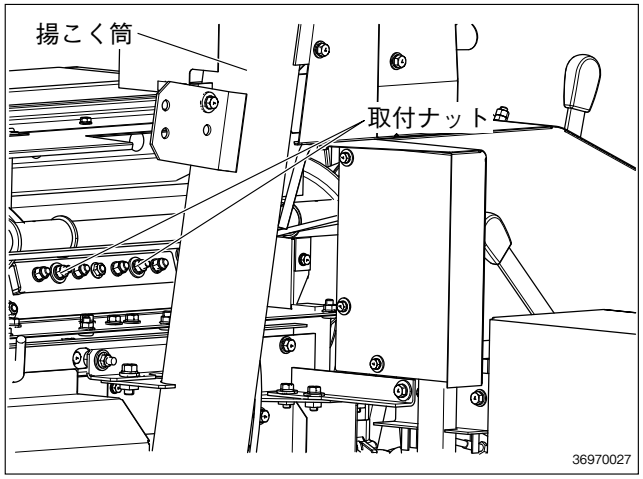
⚠警告 傷害事故防止のために

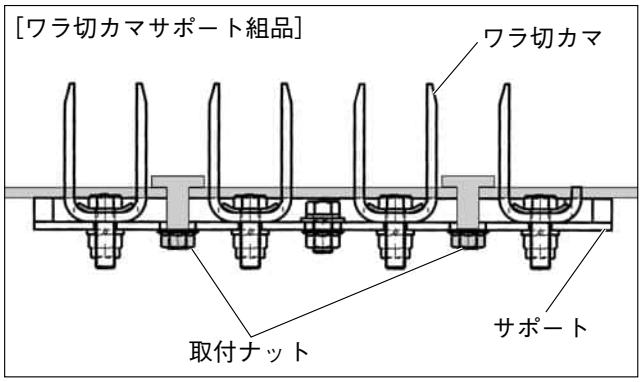
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行ってください。

◆刃部に手をかけないでください。

３箇所のワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズなどを掃除します。（ワラ切カマの取外しは122～124ページを参照）

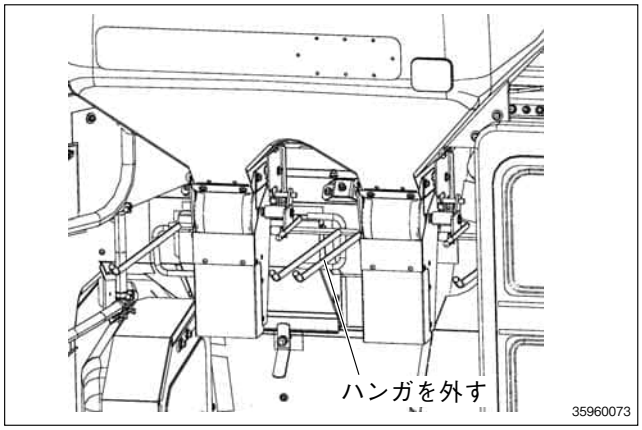
⑴ １箇所は脱こく右側のこぎ胴部と揚こく筒の間にあります。



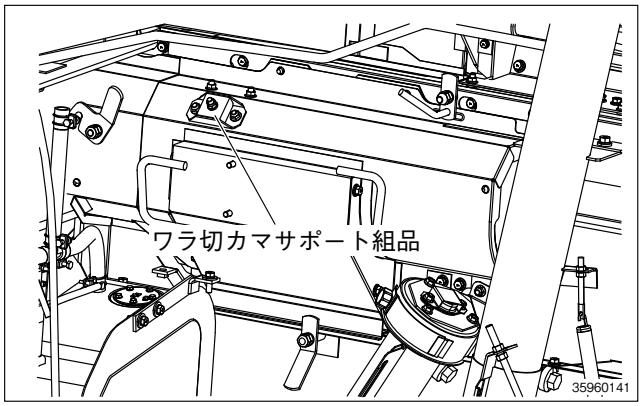


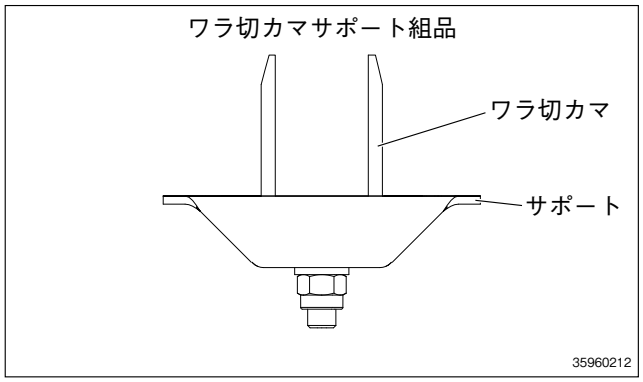
(2) [**グレンタンク仕様**] はグレンタンクを回動し，[**ホッパ仕様**] はエンジンカバーを開き作業を行います。



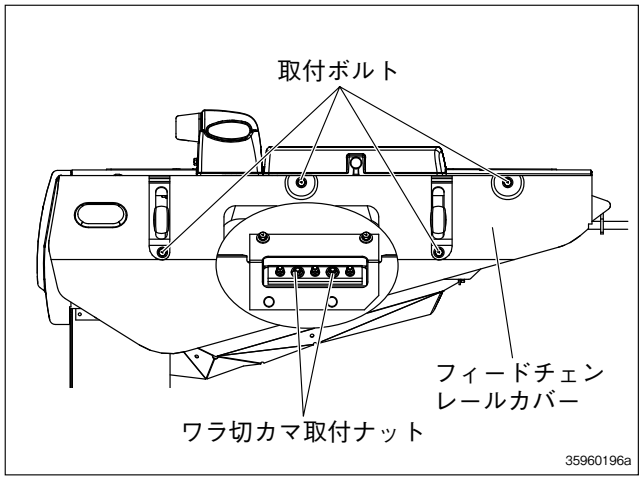


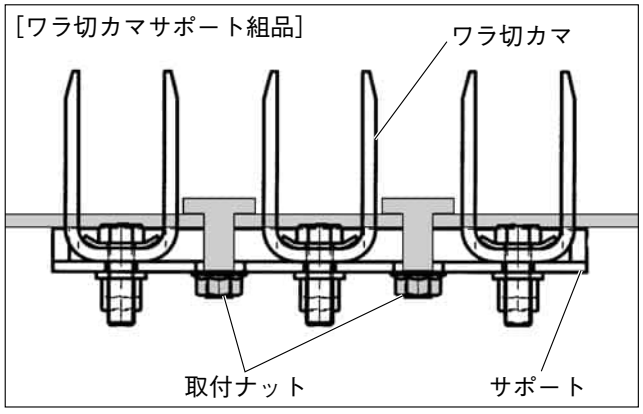
(3) 2箇所目は第2こぎ室カバーにあります。





(4) 3箇所目は脱こく左側フィードチェンレールカバーの取付ボルト（4箇所）を外してカバーを外すと見ることができます。





16. 揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

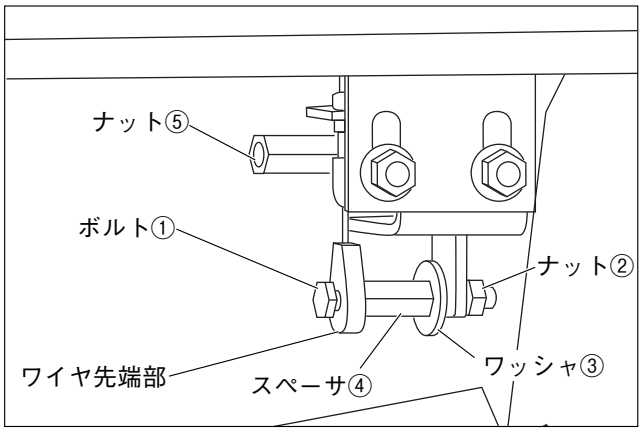
◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図をかけ合って行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

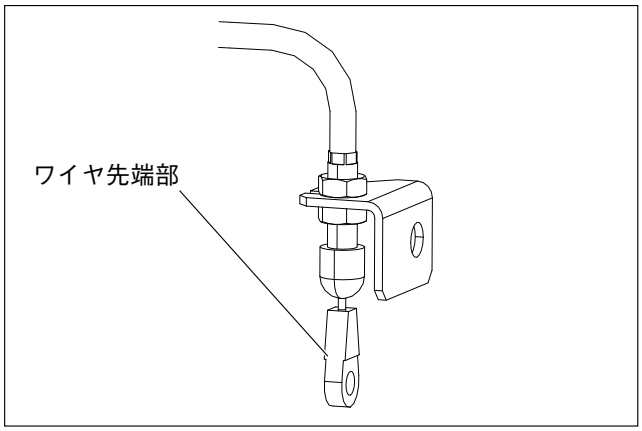
⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。（100ページ参照）

⑵ カッタ部をいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(100～101ページ参照)

⑶ ワイヤ固定部よりボルト①とナット②を外して，ワッシャ③，スペーサ④を外した後ナット⑤を外し，ワイヤ先端部を取外します。

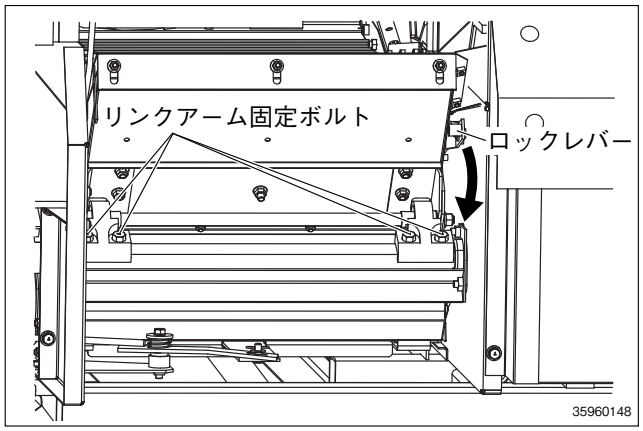


⑷ ワイヤを取外します。



⑸ 揺動流板を取外します。

① 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外します。



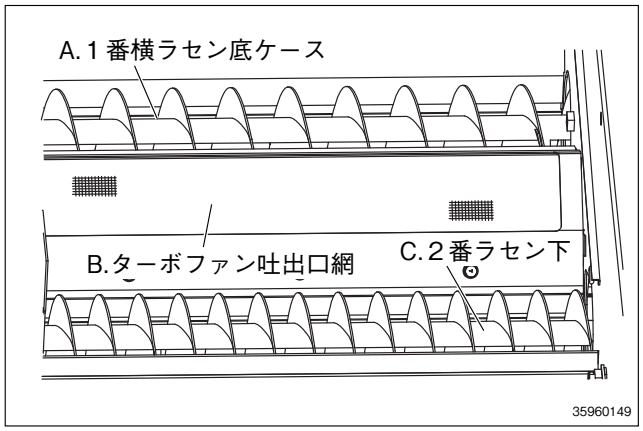
② 揺動流板後部右側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

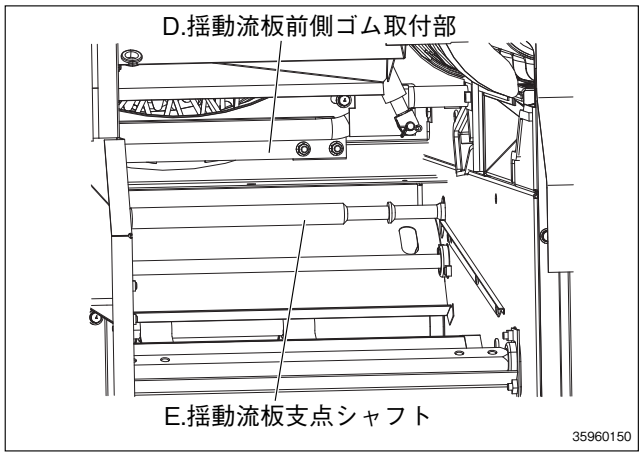
③ 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。

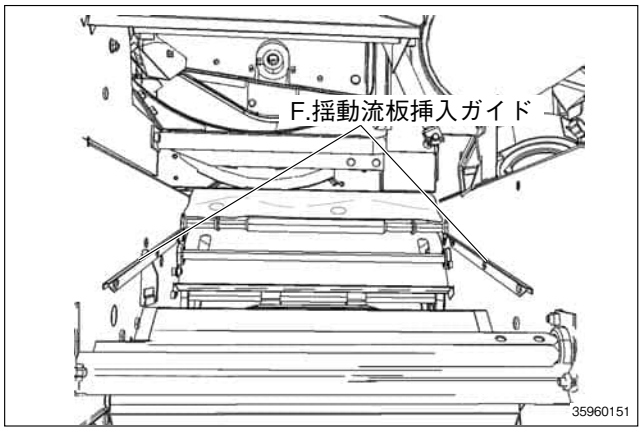
④ 揺動流板前側を持上げられるように，受網（上），（下）を外しておきます。

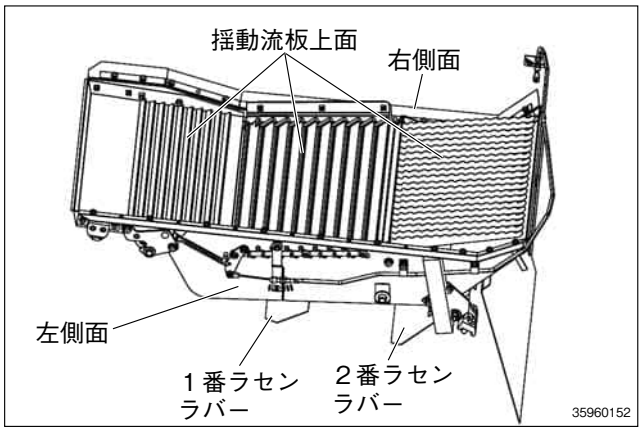
❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を取外した後の脱こく内部A ～ Fと揺動流板上面および左右側面を掃除します。



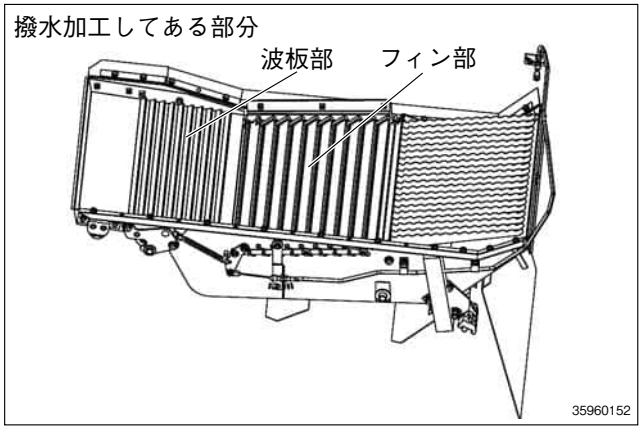






取扱いのポイント

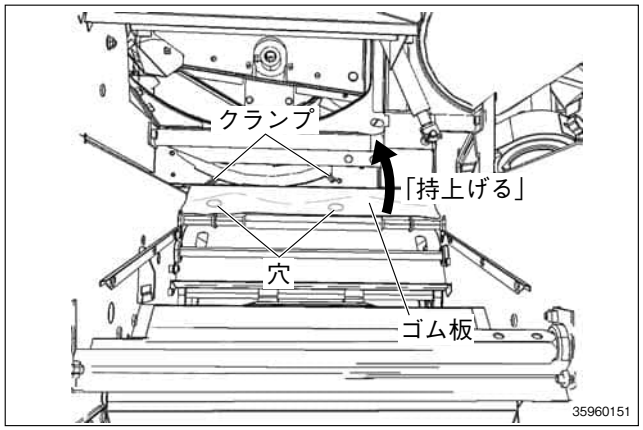
- **使用条件により部分的に撥水塗料が剥れる場合がありますが，極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。**
- **尚，撥水塗料が全体的に剥がれた場合が交換の目安となります。**

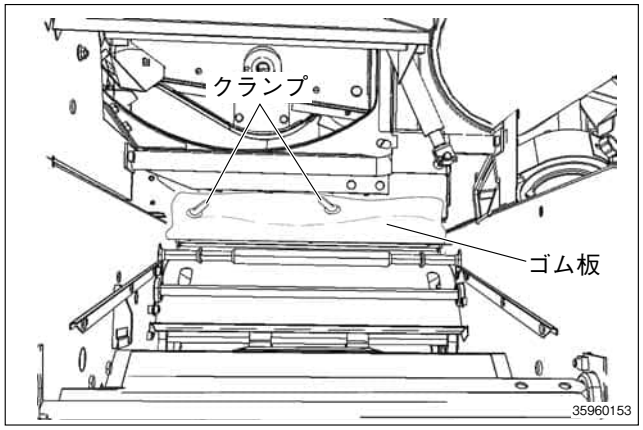


- **揺動流板の波板部とフィン部には，撥水塗装が施されています。こまめに掃除することで撥水効果を持続することができます。鋭利なものなどで掃除すると撥水塗装が剥離します。毛先のやわらかいブラシなどで掃除します。**

❸ 揺動流板の取付けかた（２人作業）

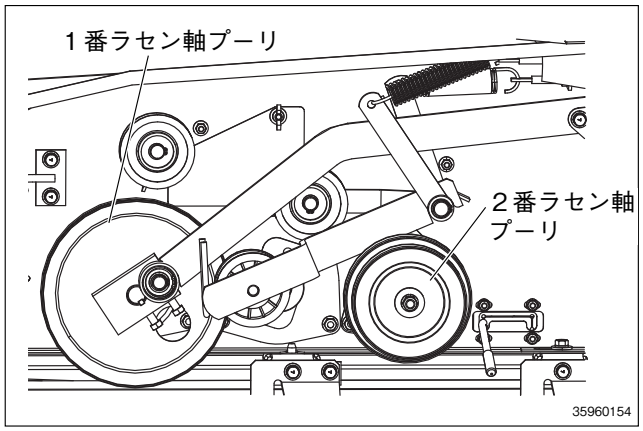
⑴ 揺動流板前方のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。（揺動流板の噛込みを防ぐため）





⑵ 揺動流板を組付けます。

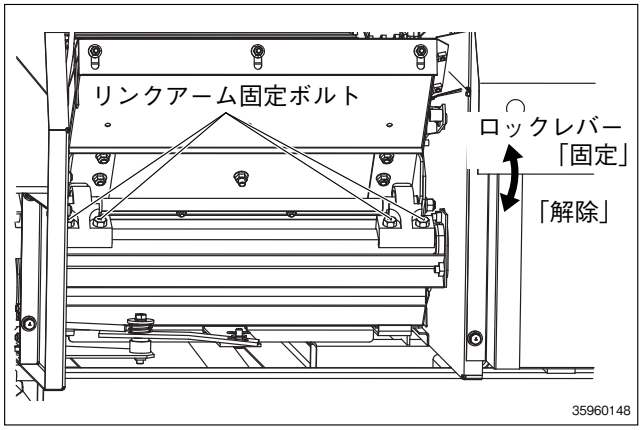
① 揺動流板後方右側のロックレバーを**「解除」**位置にし，１番ラセン軸（１番軸）のプーリを下図の位置になるように回します。



② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。

取扱いのポイント

●揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください)



③　１番ラセン軸のプーリを回し揺動流板を奥（セット位置）まで送ります。

④　リンクアーム固定ボルトをはめ込みます。

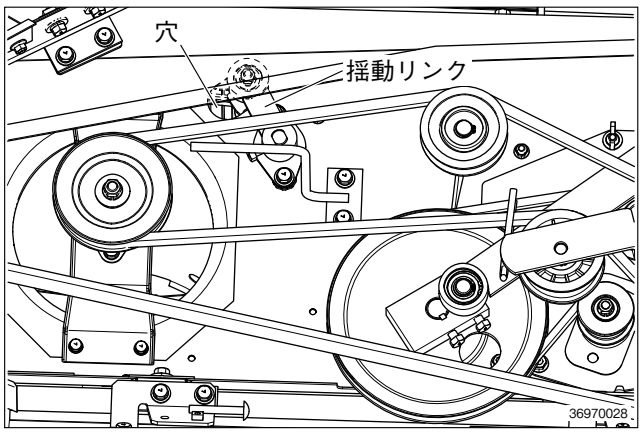
⑤　ロックレバーを**「固定」**位置にします。

取扱いのポイント

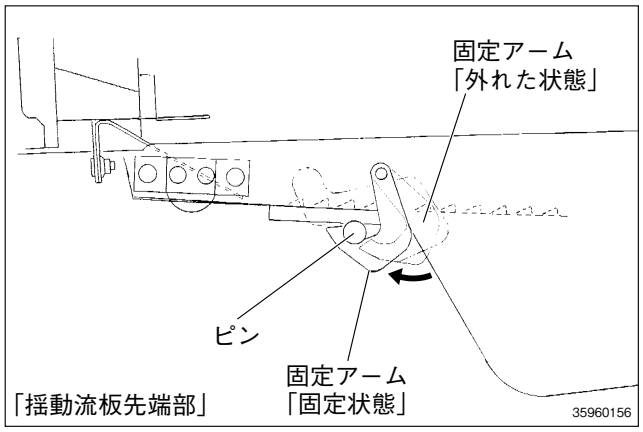
●揺動流板がセット（固定）されていないときは，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがありロック（固定）しません。

●この状態のときは再度セットし直してください。(①から)

⑥　揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
（揺動流板の固定アームが見えます）



⑦　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。



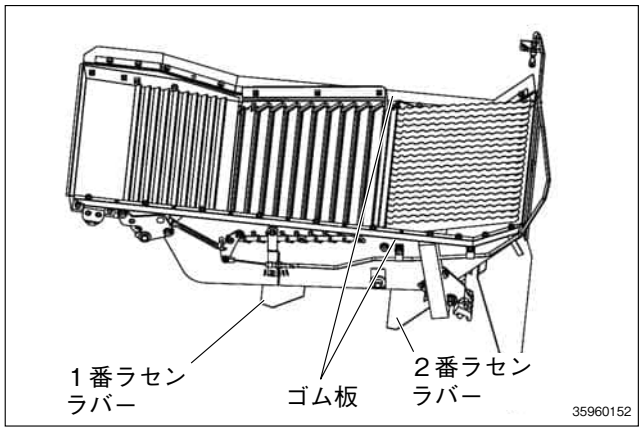
⑧　右側も同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。（**[グレンタンク仕様]**はタンクオープンし，**[ホッパ仕様]**は揚こく筒前側のカバーを取外して確認します）

取扱いのポイント

●固定アームがピンから外れている場合は再度セットし直してください。(①から)

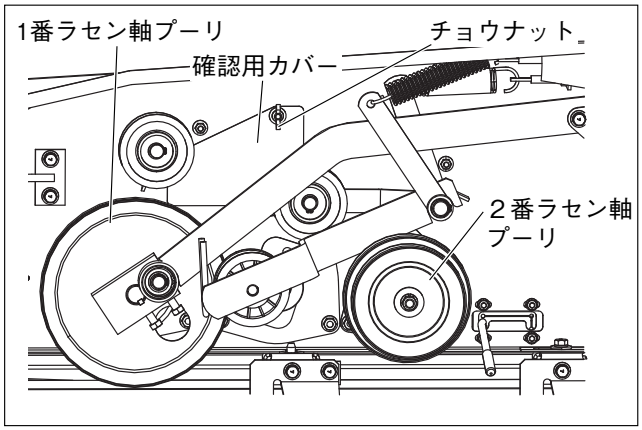
●揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。

⑨　揺動粒板両面のゴム板がかみ込んで折曲がっていないことを確認します。



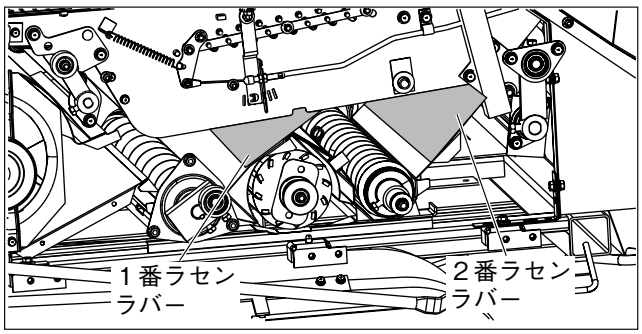
⑩　揺動流板下部の１番ラセンラバーが折曲がっていないことを確認します。

1）チョウナットを外し，確認用のカバーを外します。



2）目視でラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていた場合は，ドライバなどを使用し曲がりを直します。
（１番ラセンの斜面部に収まっているか確認する。）

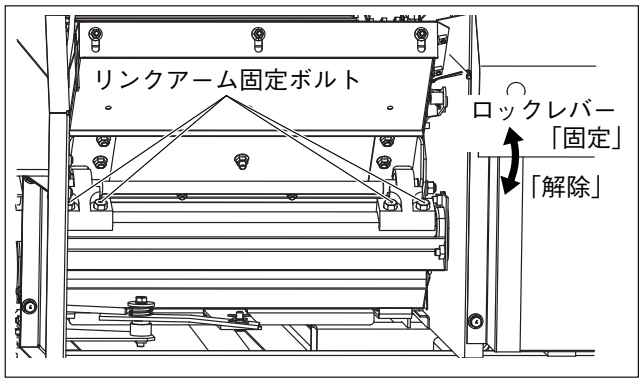
3）揺動流板後部からみて２番ラセンラバーが２番ラセンの斜面部に収まっているか確認し，収まっていない場合は，手で押込んでください。



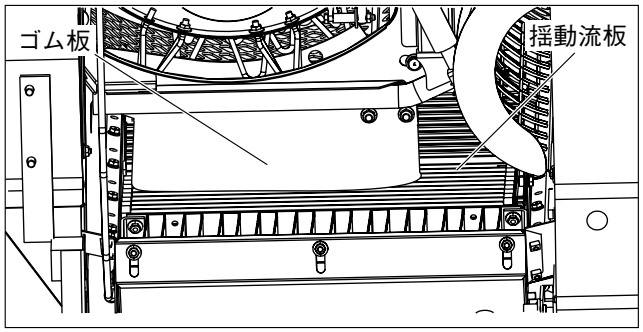
取扱いのポイント

●ゴム板，ラバーは正常に組まないとこく粒の漏れ原因となります。

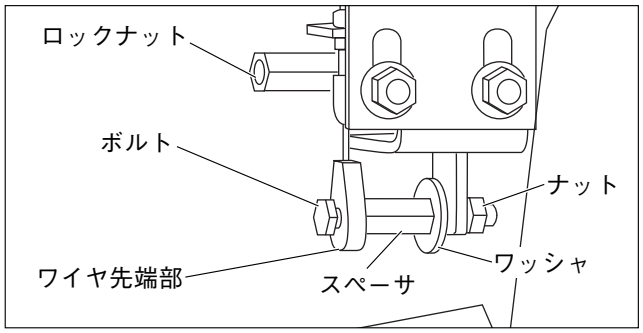
⑪　揺動後部のリンク部の固定ボルト左右各２個を締付けます。



⑫　(2)で固定したゴム板をクランプから外し揺動流板の上にのせます。



⑬　ワイヤ固定部を取付けます。



⑭　カッタ部，こぎ胴部を元どおり閉じて，取外していたカバー類を取付けます。

17．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

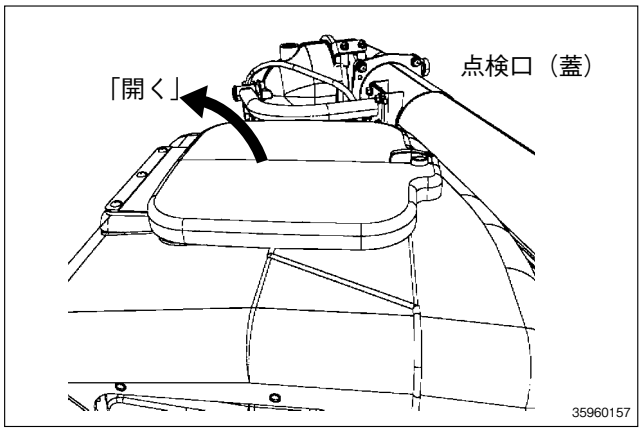
◆グレンタンクの掃除をするときは，平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行ってください。

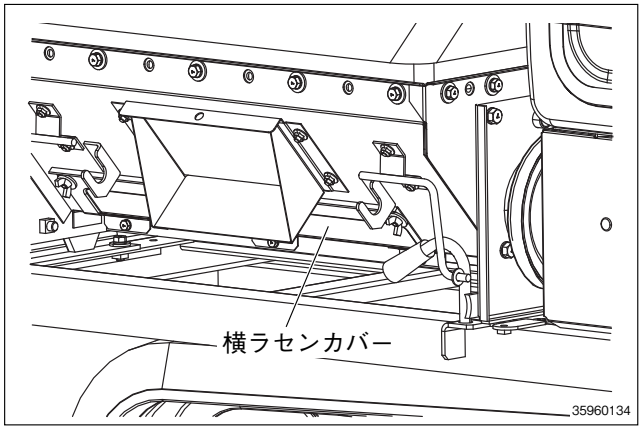
⚠注意　傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

❶　グレンタンク内の掃除

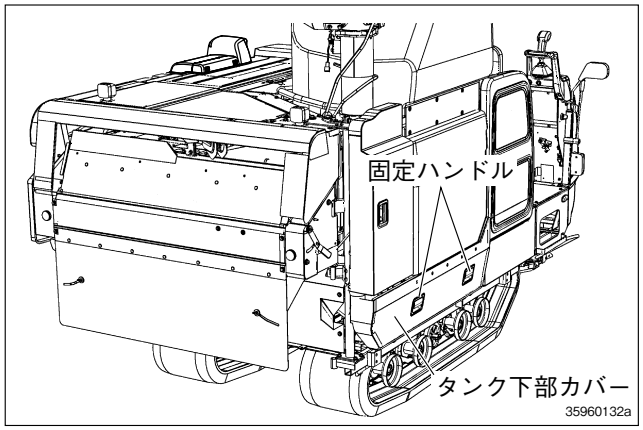
グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキなどでホコリを払い，取出しは横ラセンカバーを開いて行います。



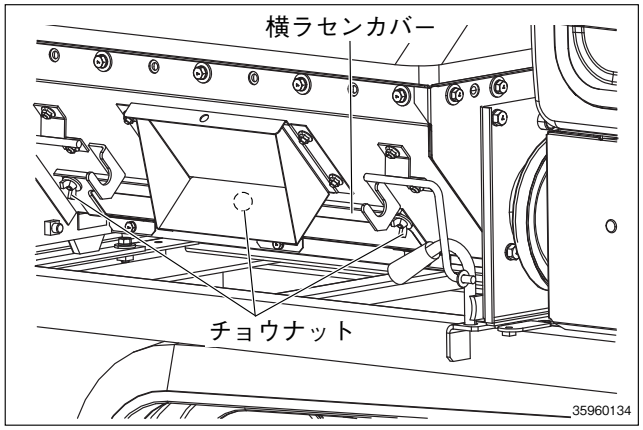


❷　横ラセン部の掃除

⑴　グレンタンクの下部カバーの固定ハンドルを引きカバーを取外します。



⑵　チョウナット（３箇所）をゆるめて外し，横ラセンカバーを開いて掃除します。

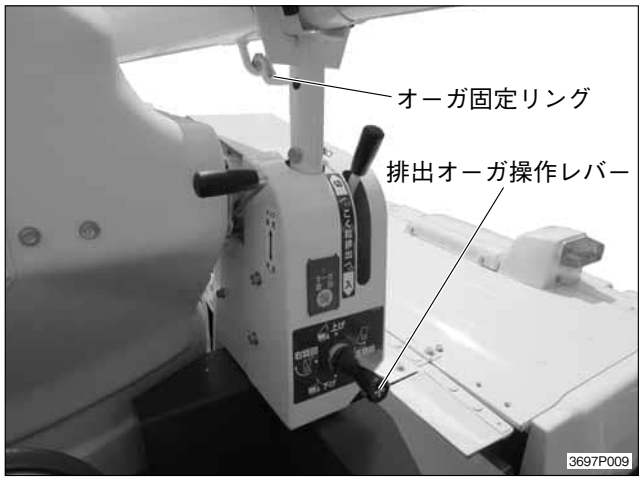


⑶　掃除後は，横ラセンカバーを閉めグレンタンク下部カバーを取付けます。

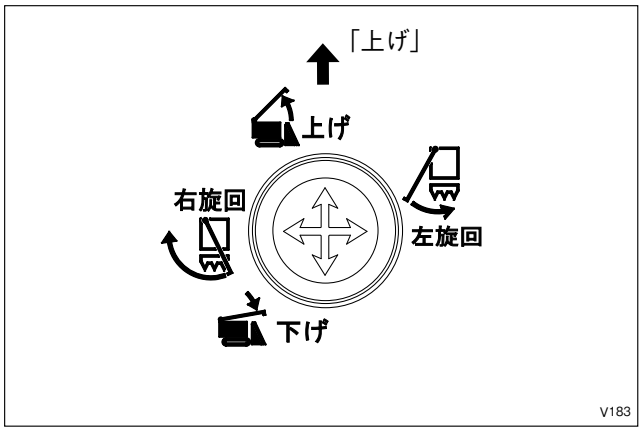
❸　縦ラセン筒上部の掃除

⑴　エンジンを始動します。

⑵　オーガ固定リングを外します。



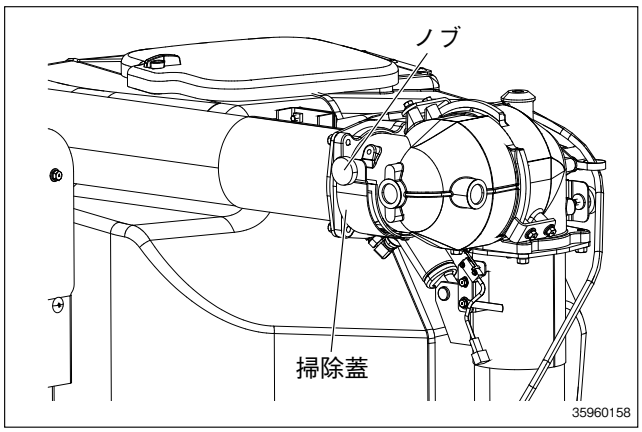
(3) 排出オーガ操作レバーでオーガを上げます。

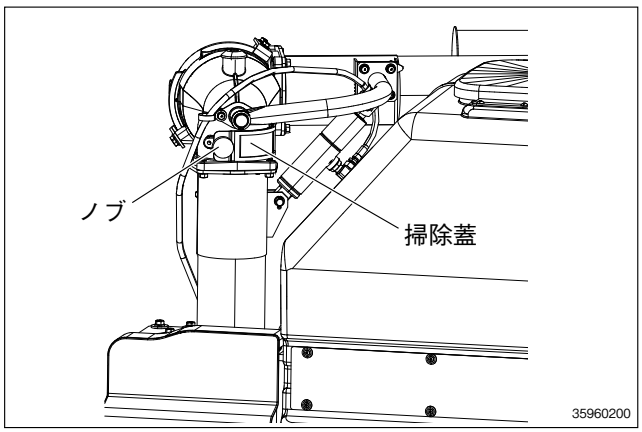


(4) エンジンを停止します。

(5) 上部ラセン掃除蓋（２箇所）のノブをゆるめて蓋を開きます。

(6) 内部を掃除します。



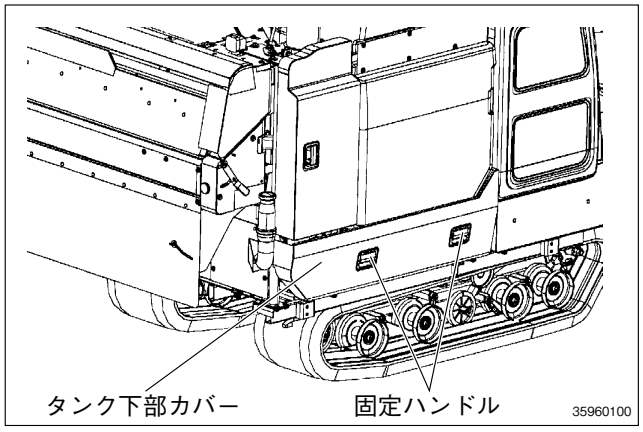


(7) 掃除を終わったら掃除蓋を閉めエンジンを始動し，オーガを収納します。

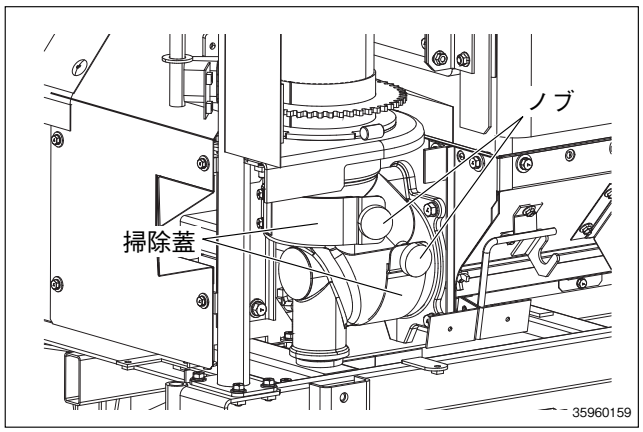
(8) オーガ固定リングをかけます。

❹ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) 固定ハンドルを引上げ，グレンタンクの下部カバーを取外します。



(2) ノブ（２箇所）をゆるめ縦ラセン下部の掃除蓋（２箇所）を開いて，掃除します。



(3) 掃除後は，掃除蓋を閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

取扱いのポイント

●各掃除蓋（カバー）に，こく粒などのかみ込みなどによるスキマがないことを確認して，確実に閉めてください。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

・各部の点検および部品交換は「**お買いあげ先**」で行ってください。

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

◆カッタを開いてカッタ刃組品を取外し，分解をするときはエンジンを停止し，平坦な場所に機械を置いてください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用して２人作業で合図をし合って行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

❶ カッタ刃組品の取外し

カッタ刃組品の取外しを行う場合にはⒶとⒷの２とおりの方法があります。

Ⓐ「カッタ部を開きカッタ前面より行う方法」

・ノッタなど，カッタ部後方に作業機が装着されている場合

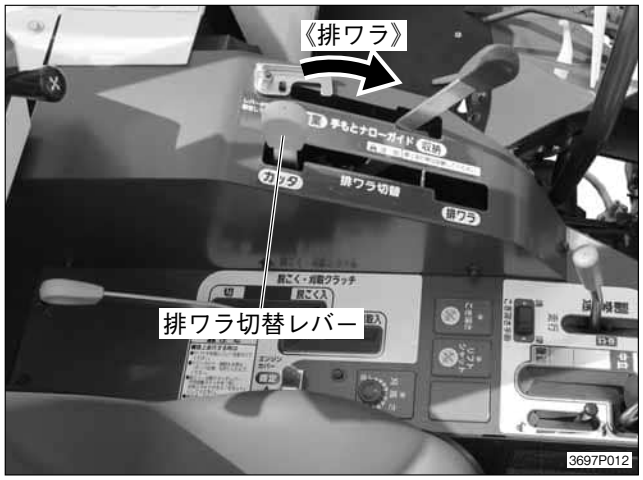
Ⓑ「カッタ部後方より行う方法」

・カッタ後部方に作業機が装着されていない場合

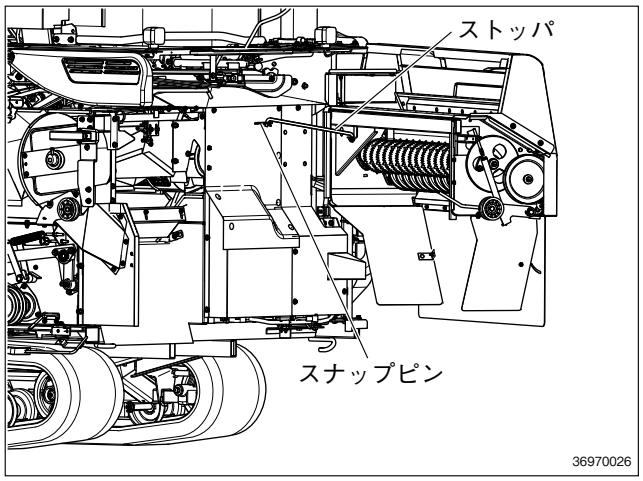
Ⓐ「カッタ部を開きカッタ前面より行う方法」の場合

ノコ刃軸の交換のしかた

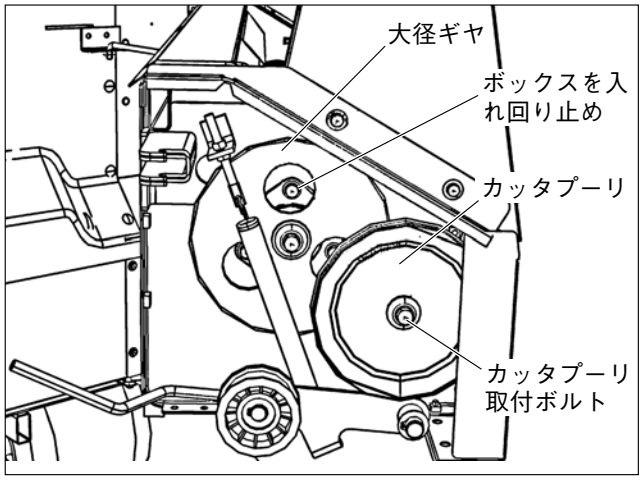
⑴ カッタ・排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



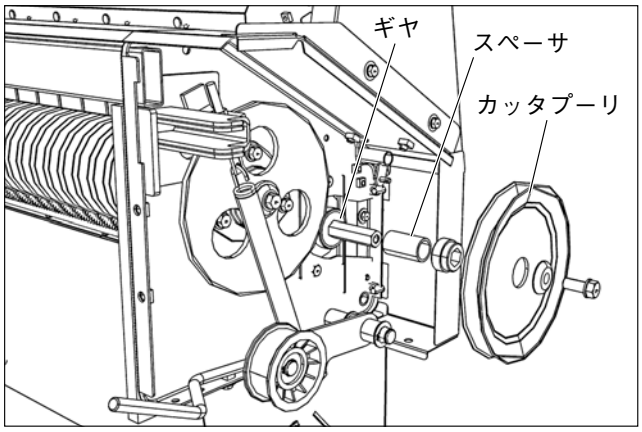
⑵ カッタを開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。



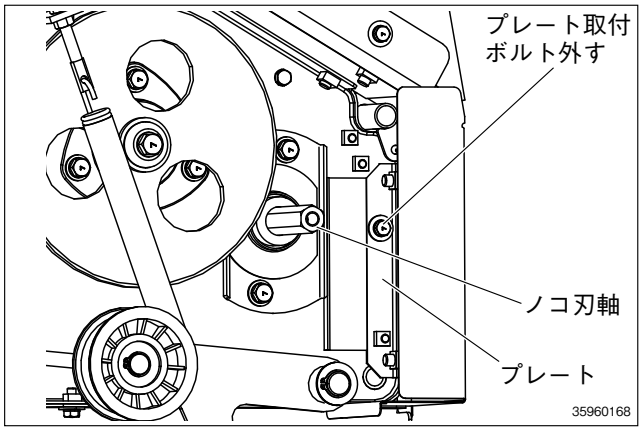
⑶ 大径ギヤの穴にＭ８用ボックスを入れ，軸を固定し，カッタプーリ取付ボルトをゆるめます。



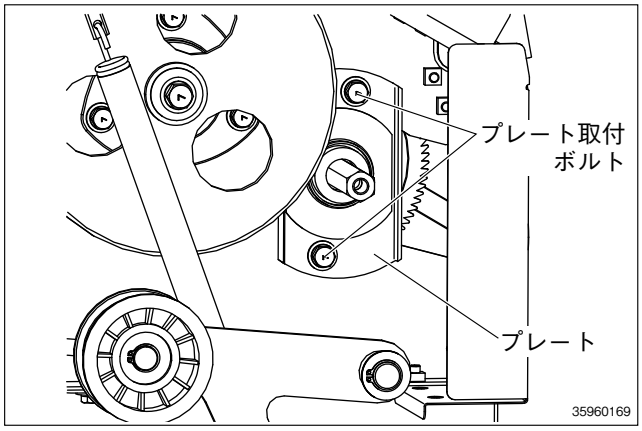
(4) カッタプーリ，スペーサとギヤを外します。



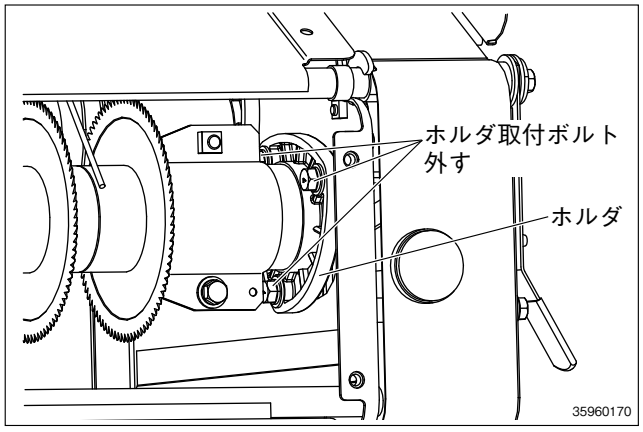
(5) ノコ刃軸後方のプレートを外します。



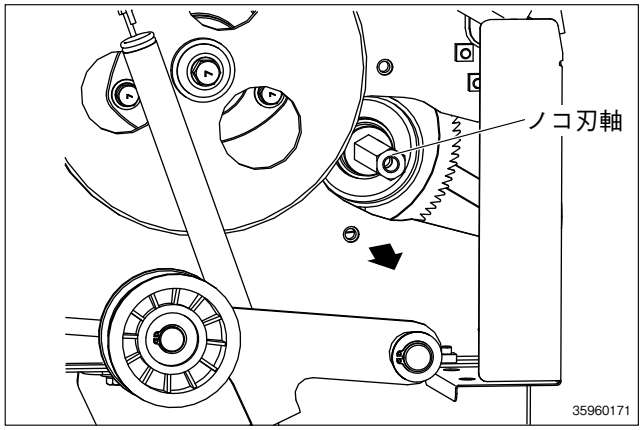
(6) ノコ刃軸支持部のプレートを外します。



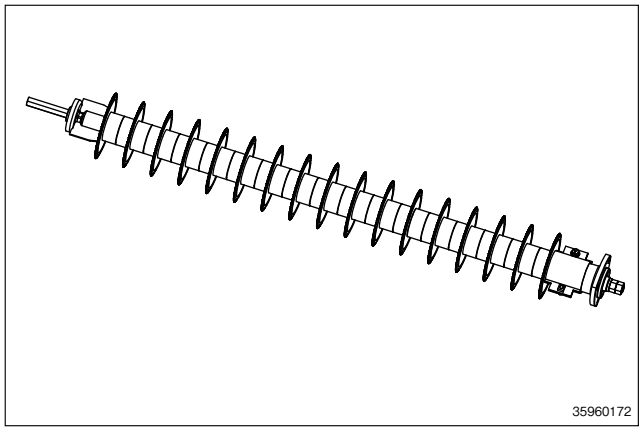
(7) カッタ右側のノコ刃軸支持部のホルダを外します。(イラストは，背面カバーを外した状態です。)



(8) ノコ刃軸を左方向にいったん引出し，下方から抜出します。

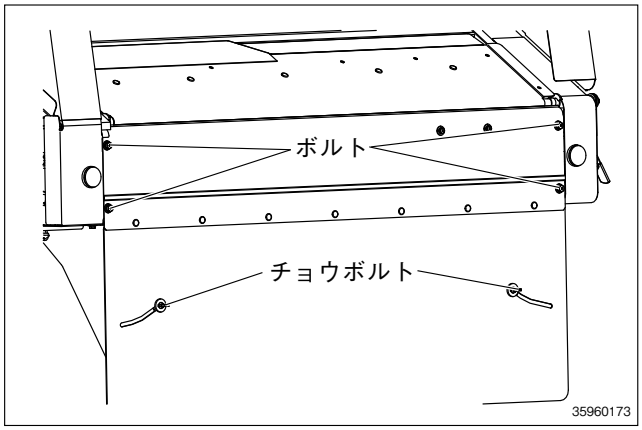


・外したノコ刃軸組立品

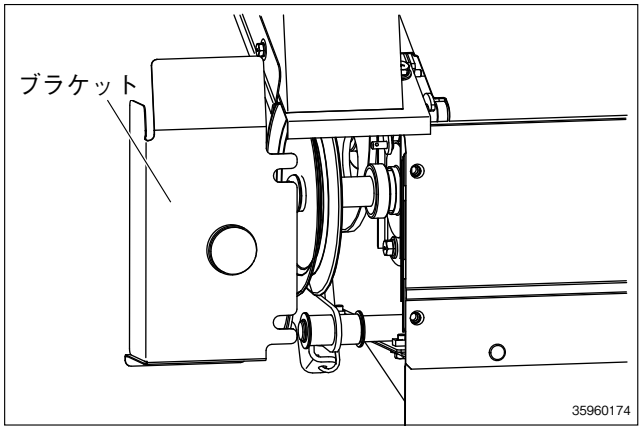


Ⓑ「カッタ部後方より行う方法」場合

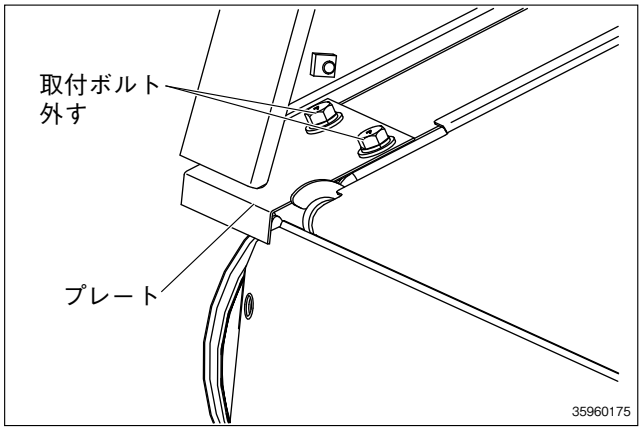
(1) カッタ背面のボルト４個，チョウボルト２個を外します。



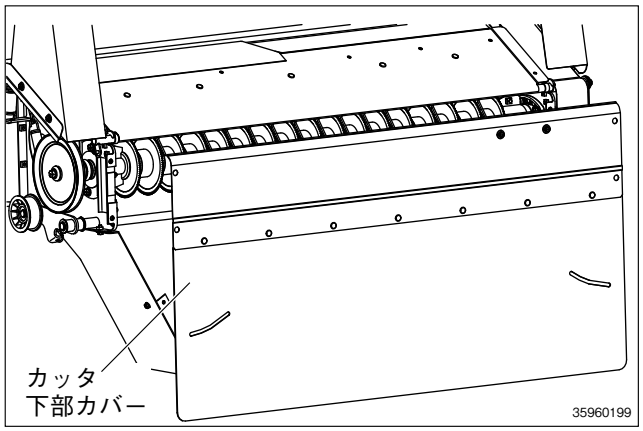
(2) カッタ左下のブラケットを外します。



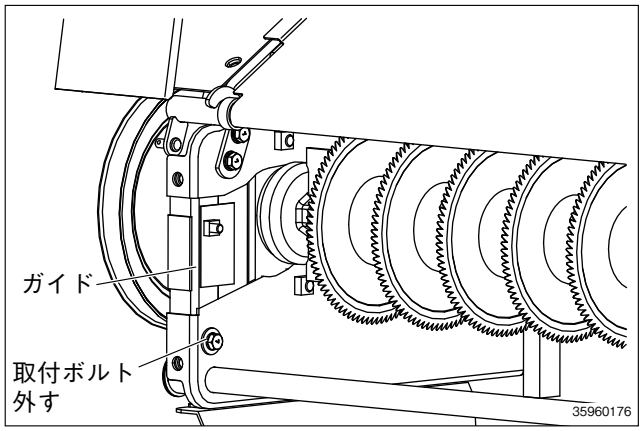
(3) カッタ左上のプレートを外します。

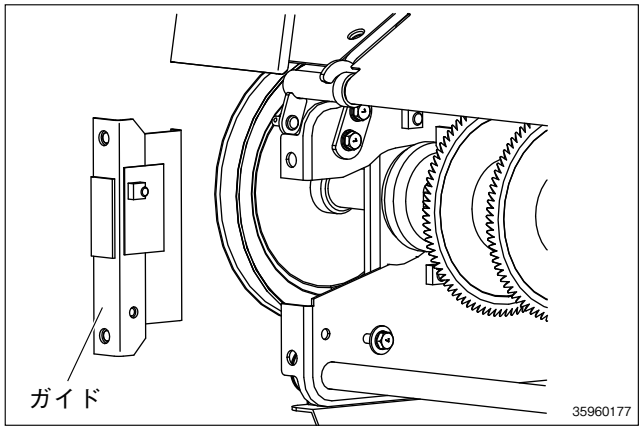


(4) カッタ下部カバーを持上げるようにして，取外します。

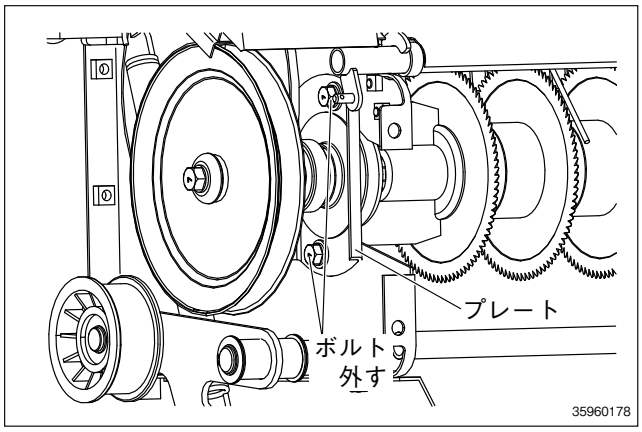


(5) カッタ左のガイドを外します。

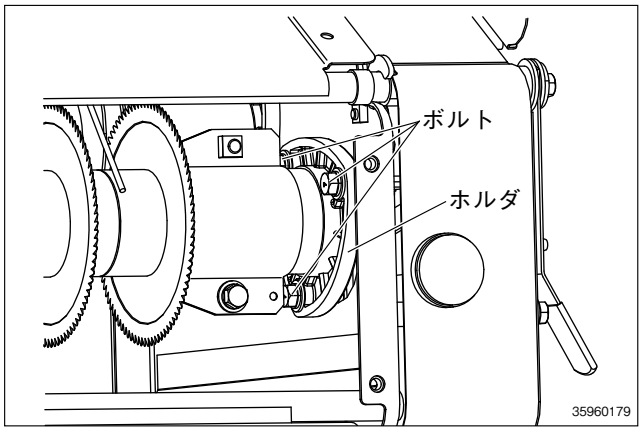




(6) ノコ刃支持部のプレートのボルトを外します。

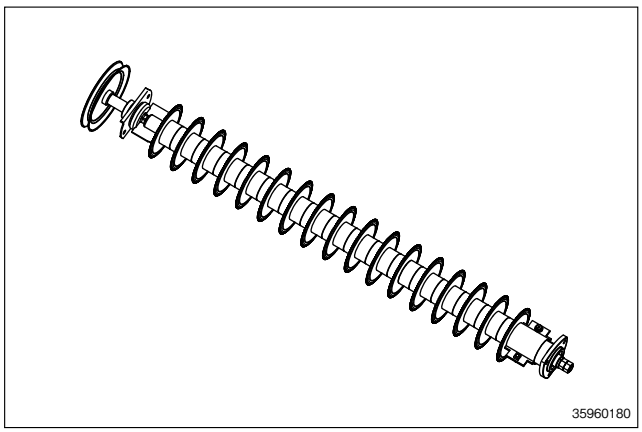


(7) ノコ刃軸右側を固定しているホルダのボルトを外します。(3個)



(8) ノコ刃を左側から後方に引出します。

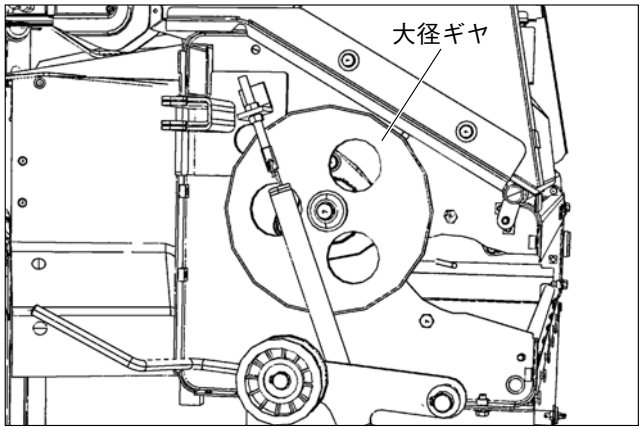
・ノコ刃軸組立品



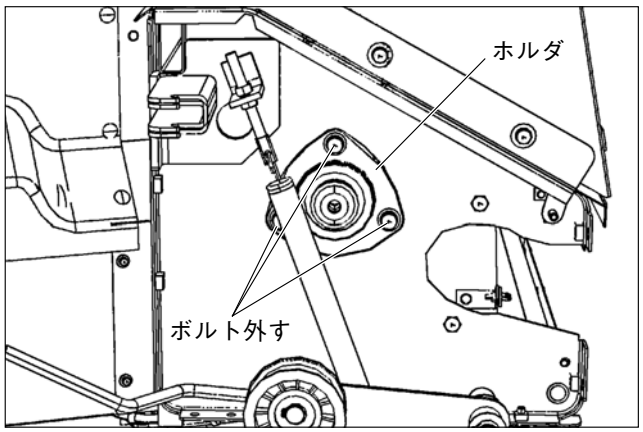
❷ カキコミ軸の交換のしかた

ⒶおよびⒷの方法でノコ刃軸を外した後,

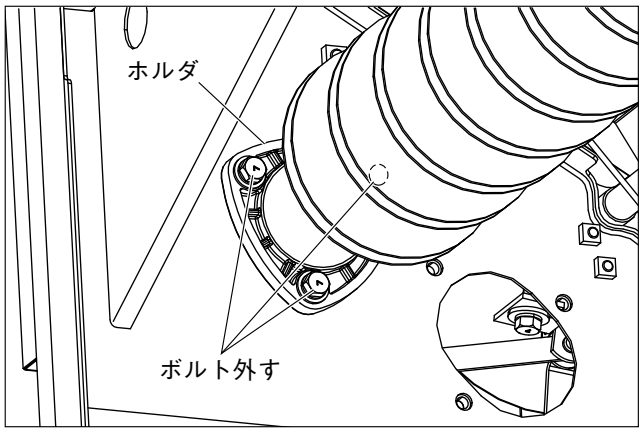
(1) 大径ギヤを外します。



(2) カキコミ軸左側ホルダのボルトを外し左側ホルダを抜きます。

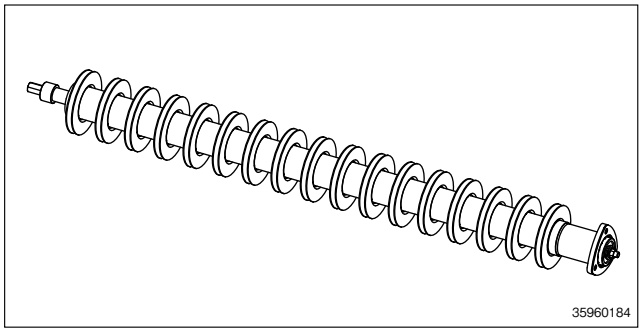


(3) カキコミ軸右側ホルダのボルトを外します。



(4) カキコミ軸を持って，左側に移動しながら抜出します。

・カキコミ軸組立品



取扱いのポイント

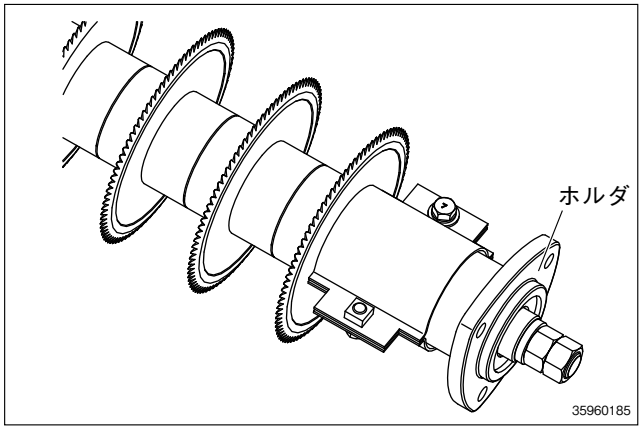
●ノコ刃軸組品およびカキコミ軸組品を組付けるときは取外しの逆の手順で行ってください。

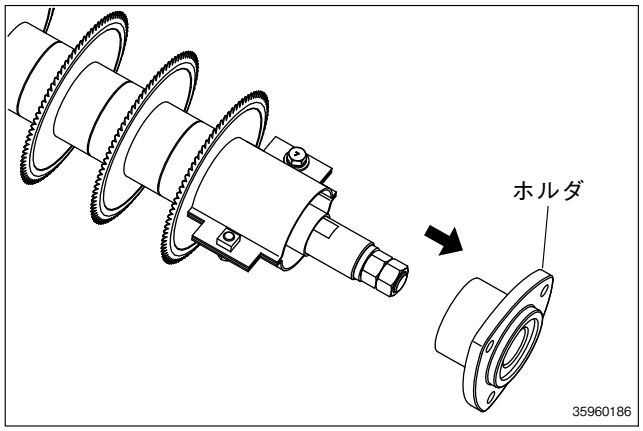
❸ 刃の交換のしかた

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆刃の交換作業は2人作業で行ってください。
> ◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

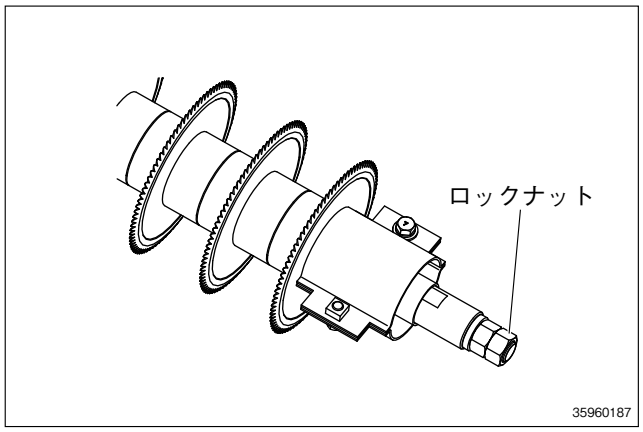
(1) 刃先を傷付けないよう板または布を下に敷いてください。

(2) ホルダを抜出します。

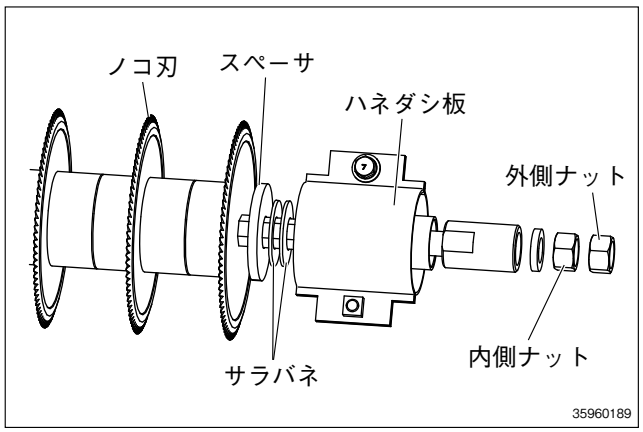




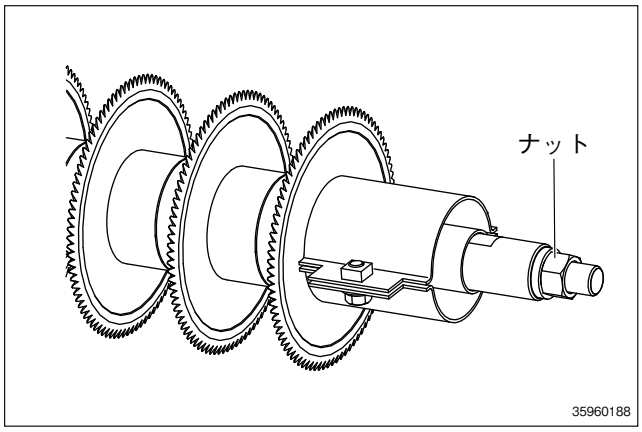
(3) ロックナットをゆるめて外します。



(4) ノコ刃軸を分解する場合は，スパナ2本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



(5) ナットを外し順番に抜出してください。



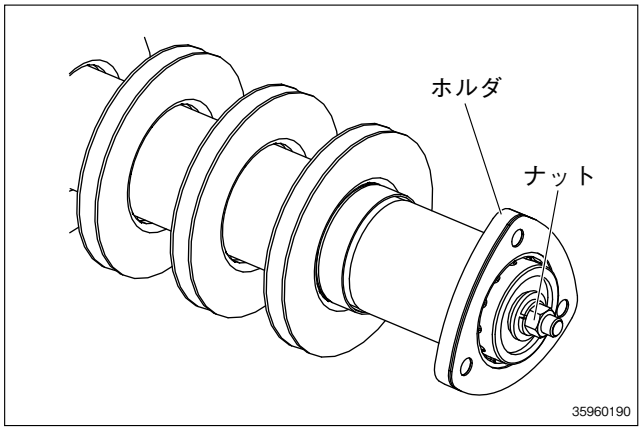
(6) ノコ刃，カキコバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

❹ カキコミバンの交換のしかた

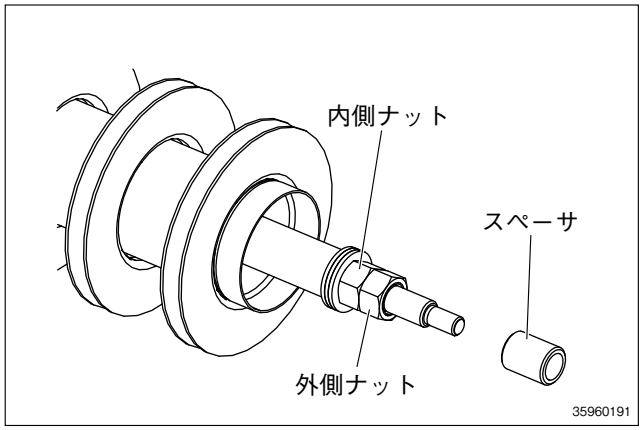
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は2人作業で行ってください。
◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

(1) カキコミバンはナットを外しホルダ，スペーサを抜きます。



(2) カキコミ軸を分解する場合は，スパナ2本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



(3) 軸にそって部品を抜取ります。

(4) カキコミバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照)

取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，カキコミバン・オサエバンとノコ刃の接触がないことを確かめてください。刃がほぼ中央にあるのが最適です。**
- **ノコ刃，カキコミバンの取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**

❺ 組立詳細図

D323-17 組付要領図

（部品表）

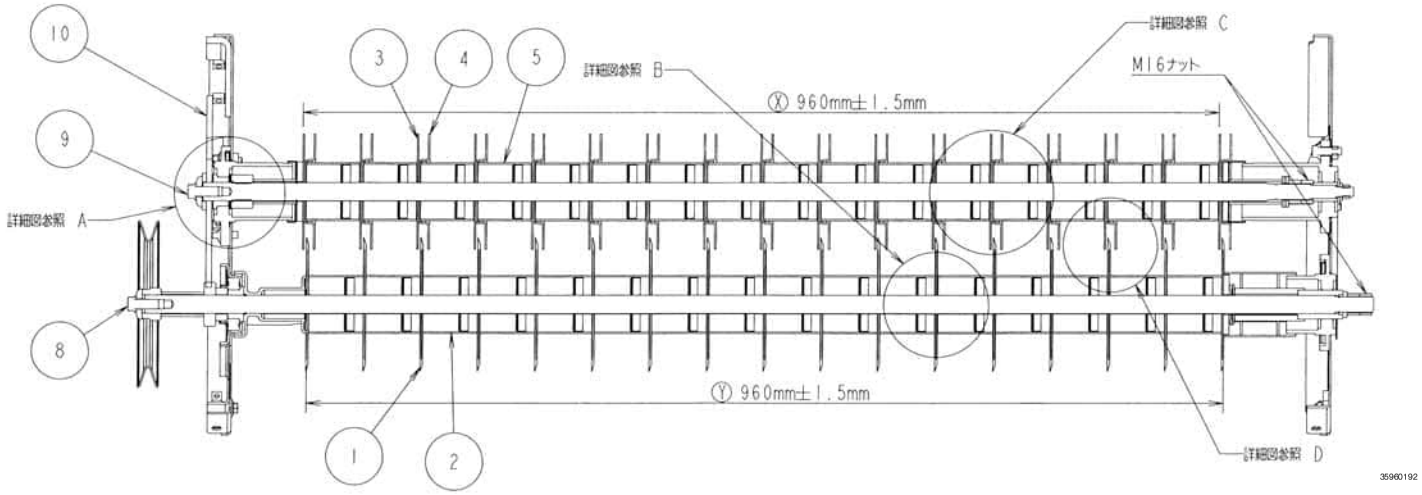
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3578 8817 000	17
2	パイプA	3572 8818 000	16
3	カキコミバン	3572 8834 000	17
4	オサエバン	3572 8836 000	17
5	パイプB　アッシ	3572 8838 000	16
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

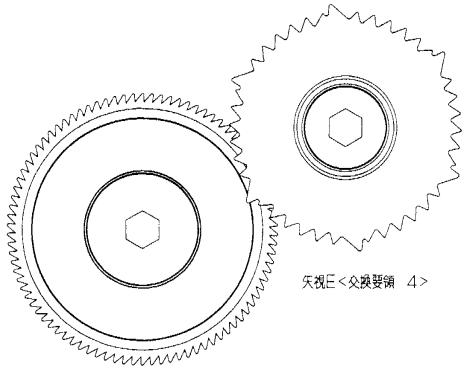
＜交換要領＞

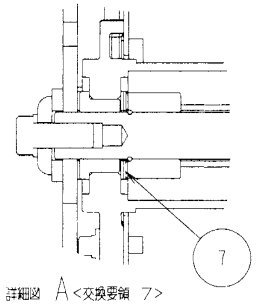
1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2．ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3．ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4．(3)カキコミバンは(4)オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5．ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6．(6)ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7．(1)ノコ刃と(3)カキコミバン，(4)オサエバンのスキマが２～５㎜（ほぼ中央）になるように，(7)ライナを使用して調整します。
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理し，M16ナットでロックしてください。
9．(8)ボルト，(9)ボルトの締め付けは，(10)ギヤ65の穴にボックスなどを入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理してください。
10．組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

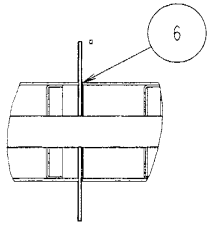
＜交換要領＞

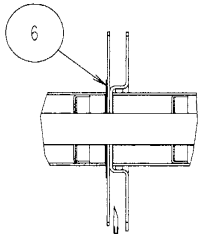
1．ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。
（交換要領参照）

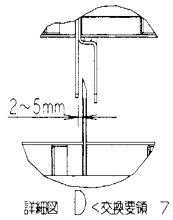












35960300

D323-33 組付要領図

（部品表）

番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3578 8817 000	33
2	パイプC　アッシ	3572 8819 000	32
3	カキコミバン	3596 8834 000	28
4	オサエバン	3572 8836 000	33
5	パイプD　アッシ	3572 8839 001	32
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用
8	カキコミバン	3572 8834 000	5

＜交換要領＞

1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。

2．ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。

3．ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。

4．(3)，(8)カキコミバンは(4)オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。

5．ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。

6．(6)ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。

7．(1)ノコ刃と(3)カキコミバン，(4)オサエバンのスキマが２～５㎜（ほぼ中央）になるように，(7)ライナを使用して調整します。

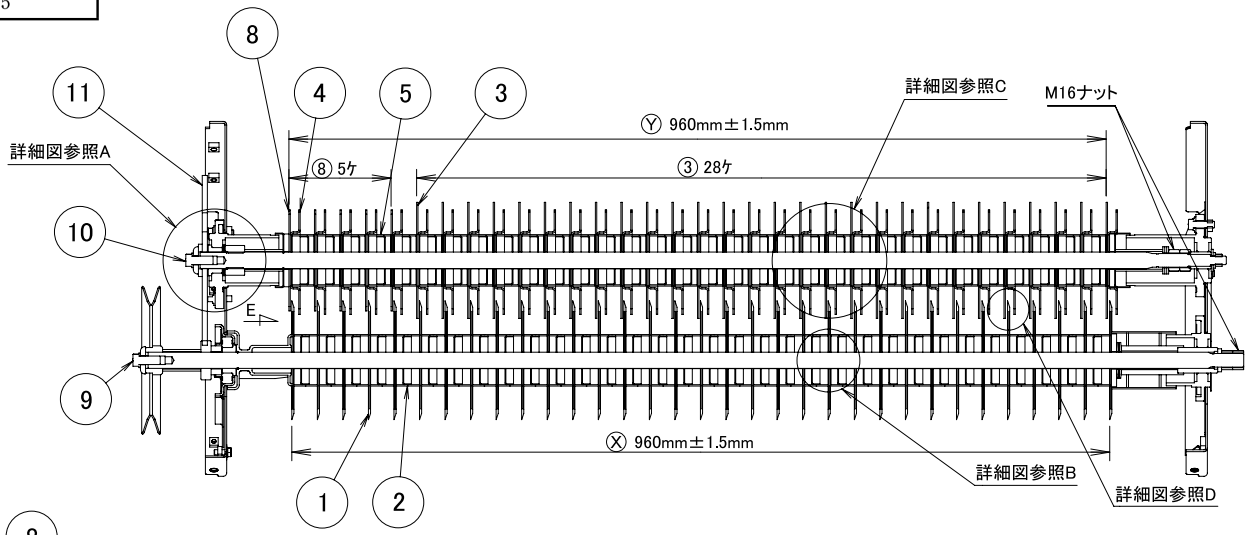
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/㎝｝に管理し，M16ナットでロックしてください。

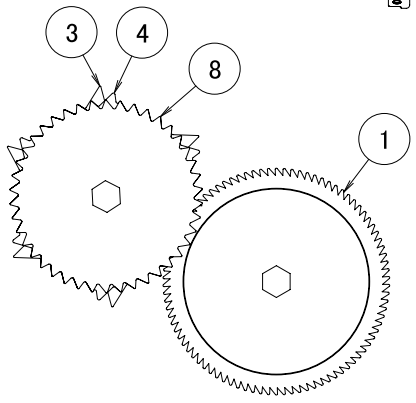
9．(8)ボルト，(9)ボルトの締め付けは，(10)ギヤ65の穴にボックスなどを入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/㎝｝に管理してください。

10．組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

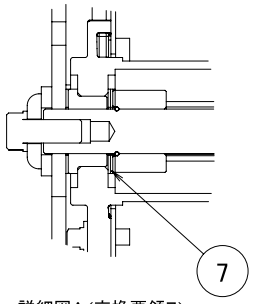
＜交換要領＞

1．ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。
（交換要領参照）

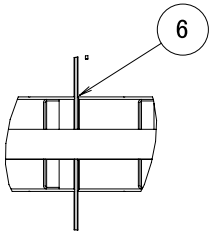




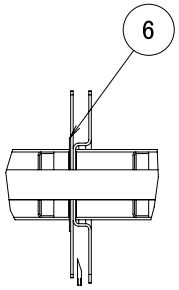
矢視E<交換要領4>



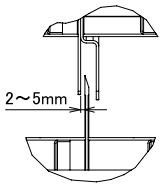
詳細図A<交換要領7>



詳細図B<交換要領6>



詳細図C<交換要領6>



詳細図D<交換要領7>

35960401

2．爪の交換のしかた

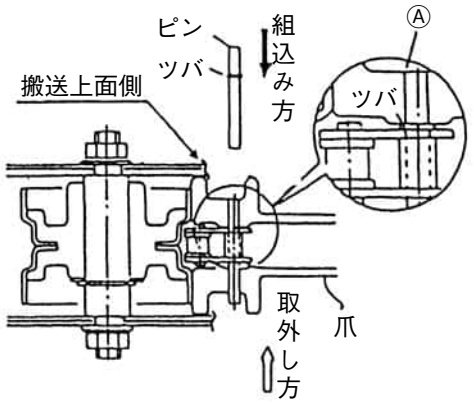
引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪

❶　爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。（ピンは強く叩かなくても抜けます）

❷　爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ａ部参照）



3．ホース類の点検と交換

⚠警告　火傷や火災防止，傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

◆油圧ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），保護材の外れおよび継ぎ部よりオイルが漏れていないか確認し，損傷したり漏れている場合は走行停止，刈取部の落下など事故の原因となりますので交換してください。

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなどの燃料漏れ，水漏れ，油漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドやホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

漏れ，ゆるみ，損傷のある場合は交換が必要ですので「**お買いあげ先**」に依頼してください。

取扱いのポイント

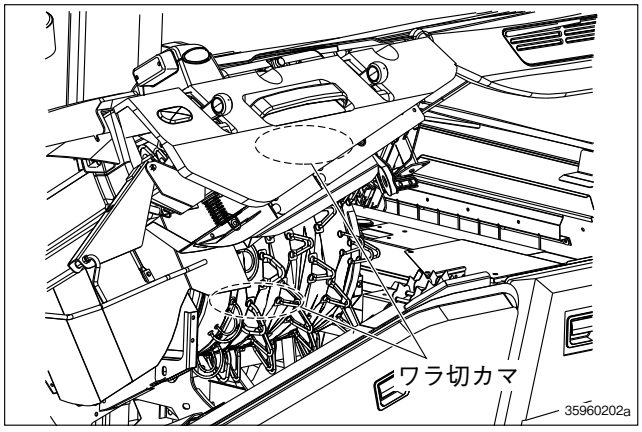
- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，２年毎に交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（86ページ参照）**
- **油圧ホースは定期交換部品ですので２年毎または，300時間の早い方で交換してください。**

4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

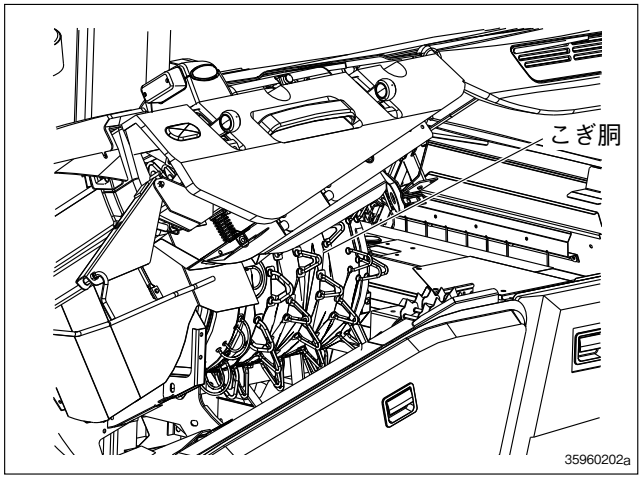
◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行ってください。
◆刃部に手をかけないでください。

ワラ切カマは受網（上）の上部とフィードチェンレールカバーの裏部および第２こぎ室部の３箇所にあります。



❶ ワラ切カマの取外し

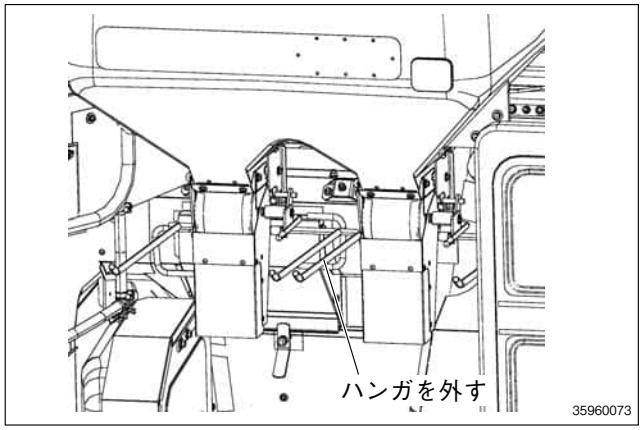
(1) こぎ胴部を開きます。



(2) ・［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを開きます。

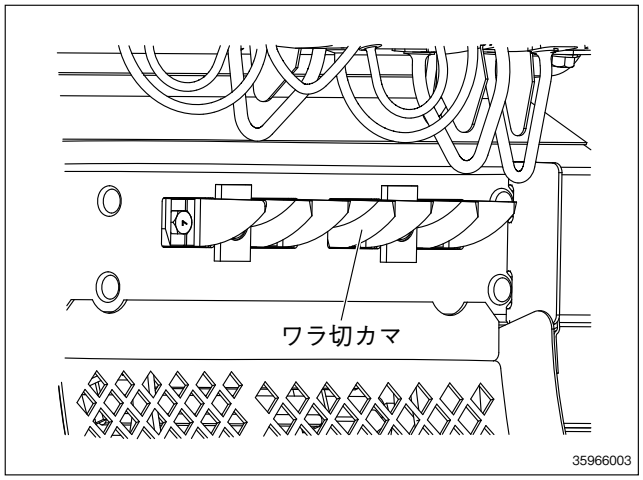


・［**ホッパ仕様**］はハンガを外します。

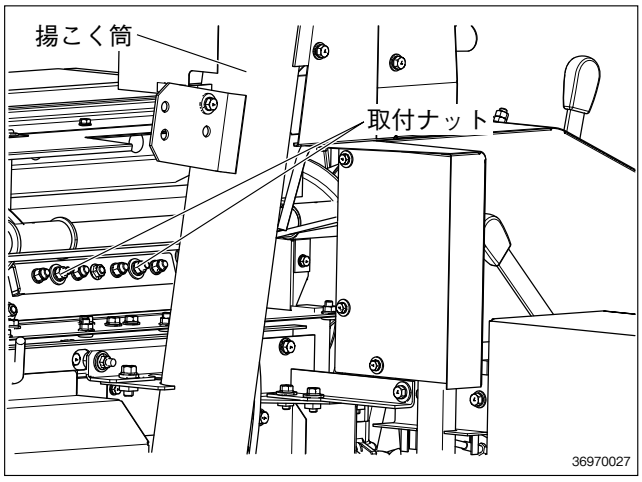


(3) ワラ切カマサポート組品を取外します。

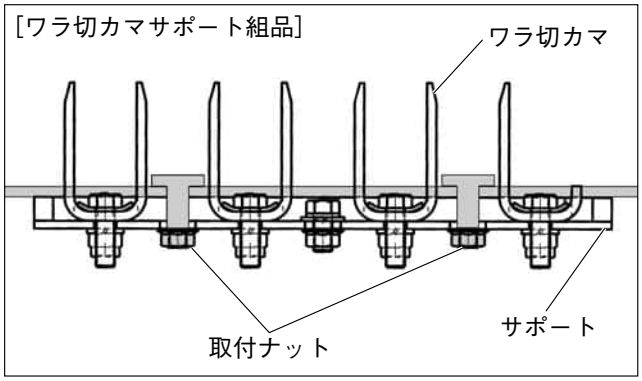
１．受網（上）の上部にあるワラ切カマの場合



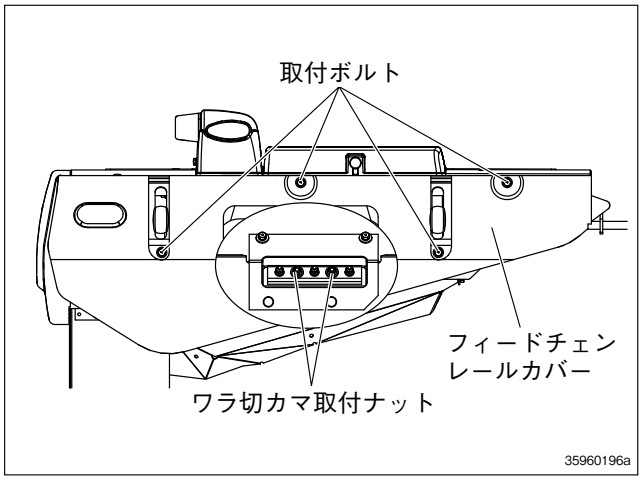
① グレンタンクおよびホッパ側から揚こく筒の奥にあるナット（２個）をゆるめて外します。



② こぎ胴側からワラ切カマサポート組立を外します。



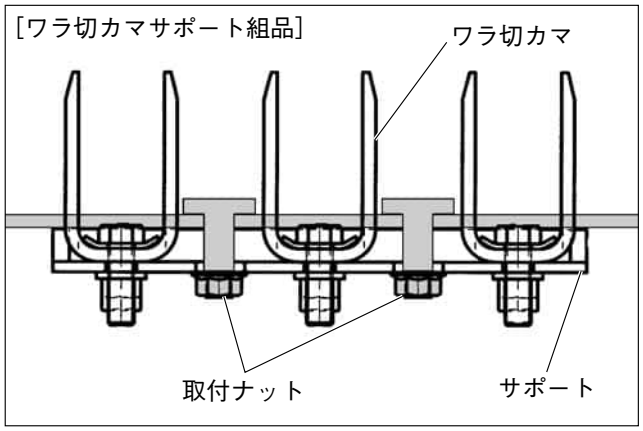
２．フィードチェンレールカバー裏部にあるワラ切カマの場合



① 取付ボルト（４本）を外してフィードチェンレールカバーを外します。

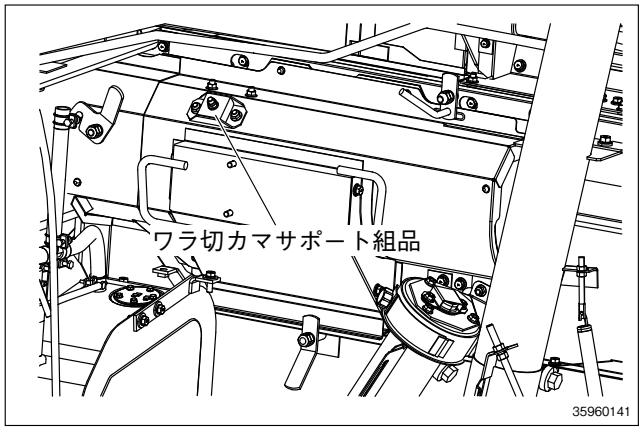
② ワラ切カマサポート組立の取付ナット（２個）を外してサポート組品を取外します。

③ サポートとワラ切カマを分離します。

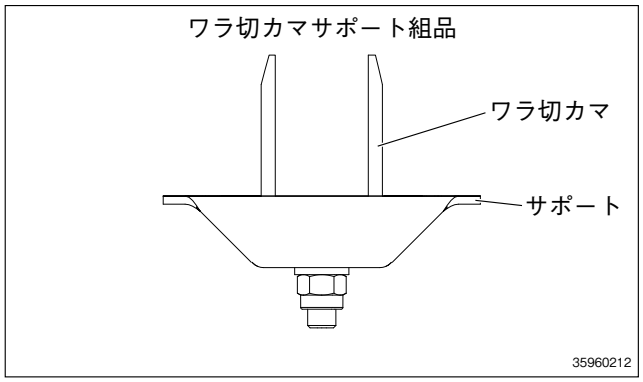


３．第２こぎ室部にあるワラ切カマの場合

① ワラ切カマサポート組品を取外します。

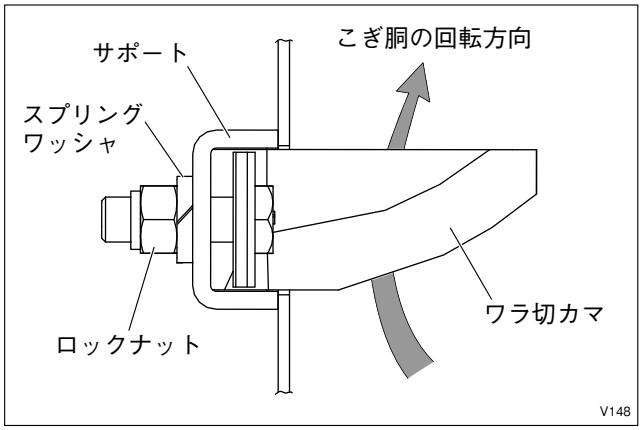


② ワラ切カマをサポートから取外します。



❷ ワラ切カマの取付け

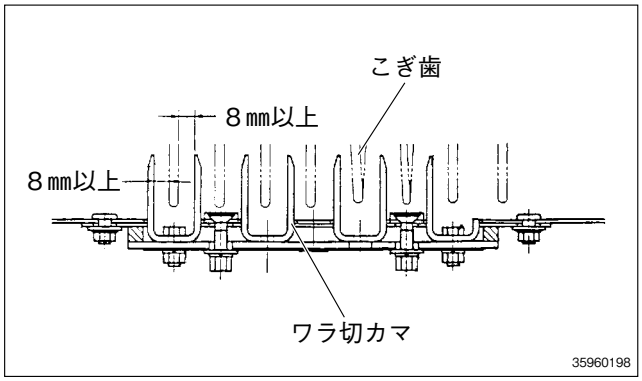
⑴ ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐ締付けます。



⑵ 取外しと逆の手順で取付けます。外したカバー類は元どおり取付けてください。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下しまた，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。**
- **こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。**
- **組付けるときは，こぎ歯とワラ切カマのスキマを８㎜以上空けてください。**



5．こぎ歯の点検と交換

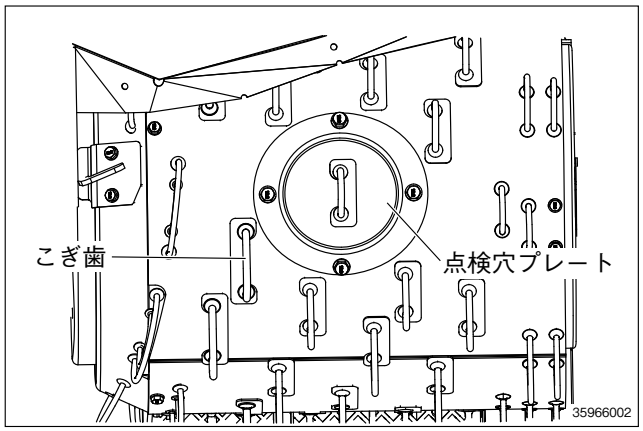
⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆こぎ胴部を開くときは自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体をいれないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けがゆるんでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

❸ 作業後は，点検プレートを取付け，脱こくこぎ胴部を閉めます。

取扱いのポイント

- **こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めたら，交換してください。**

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

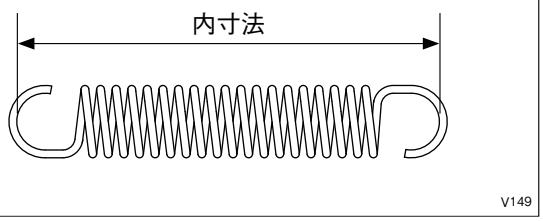
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

●スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。



「レバー・ペダルの点検・調整」

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

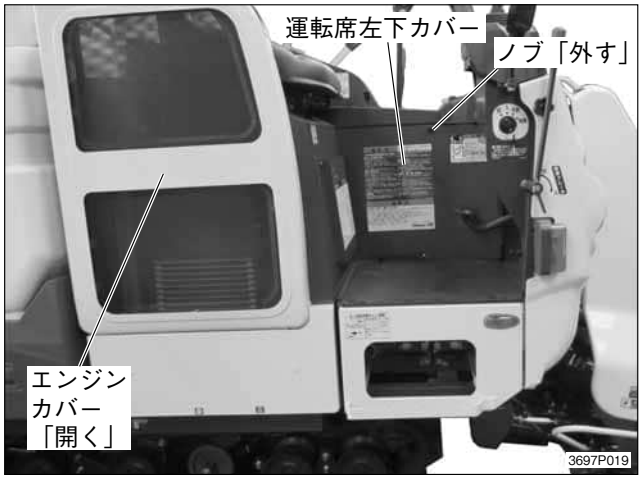
⑴ 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 60～61㎜ ですか。

⑵ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態でⒻ長さが 55～56㎜ ですか。

⑶ 坂道で駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開いて，運転席左下カバーを外します。



⑵ ブレーキロッドをロックナット部で調整します。

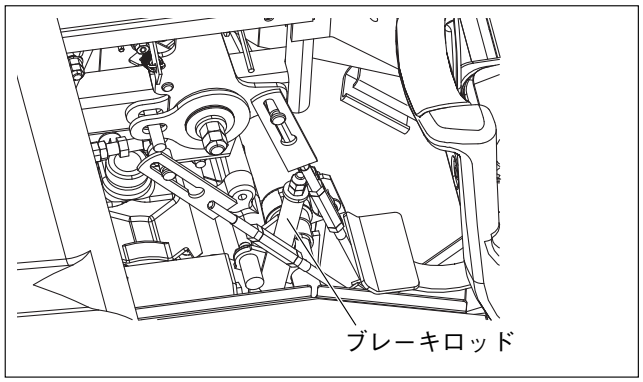
1) 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを 60～61㎜ にロックナットAで調整します。

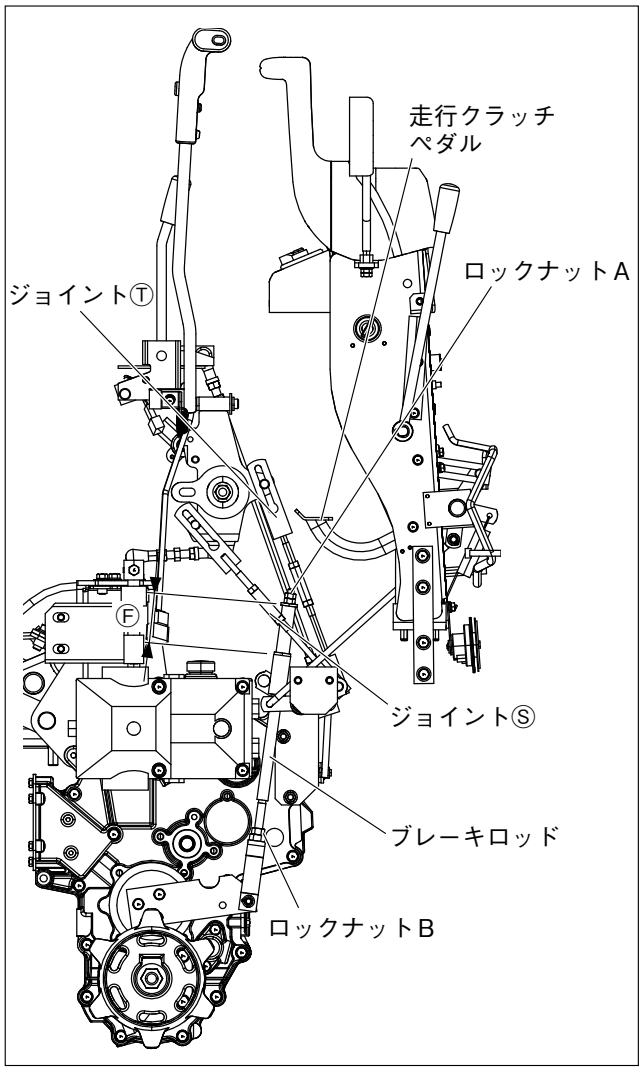
2) つぎに，駐車ブレーキをかけた状態でⒻ長さを 55～56㎜ にブレーキロッドのロックナットBをゆるめて調整します。

3) 調整後，ロックナットA，Bを締付けます。

4) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようジョイントⓈ（前進から戻す）とジョイントⓉ（後進から戻す）を調整してナットを締付けます。

5) 運転席左下カバーを取付けエンジンカバーを閉じます。





2. 脱こく・刈取クラッチレバー

❶ 点検

「脱こくクラッチ」

刈取部をいっぱい下げた状態で，脱こく・刈取クラッチレバーが《**脱こく 入**》のとき，スプリングAの㊀寸法が 122～124㎜ になっていますか。

「刈取クラッチ」

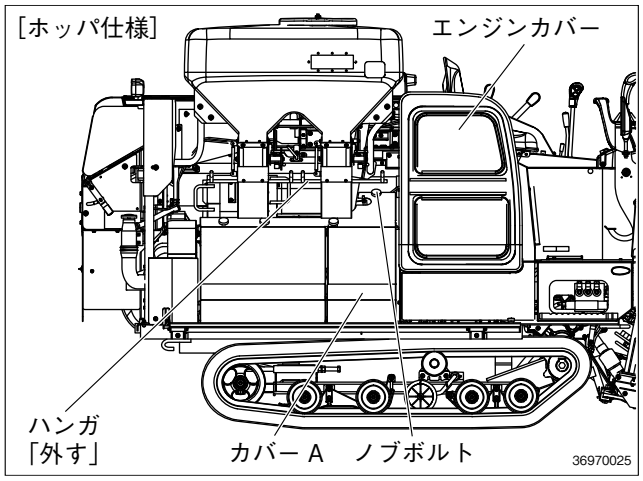
脱こく刈取クラッチレバー《**刈取 入**》のとき，スプリングBの㊁寸法が 113～117㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。

⑵ ［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを回動してください。(97～98ページ参照)

⑶ ［**ホッパ仕様**］はハンガを上に引上げ外してください。つぎにノブボルトをゆるめて外し，カバーA，カバーBを外します。



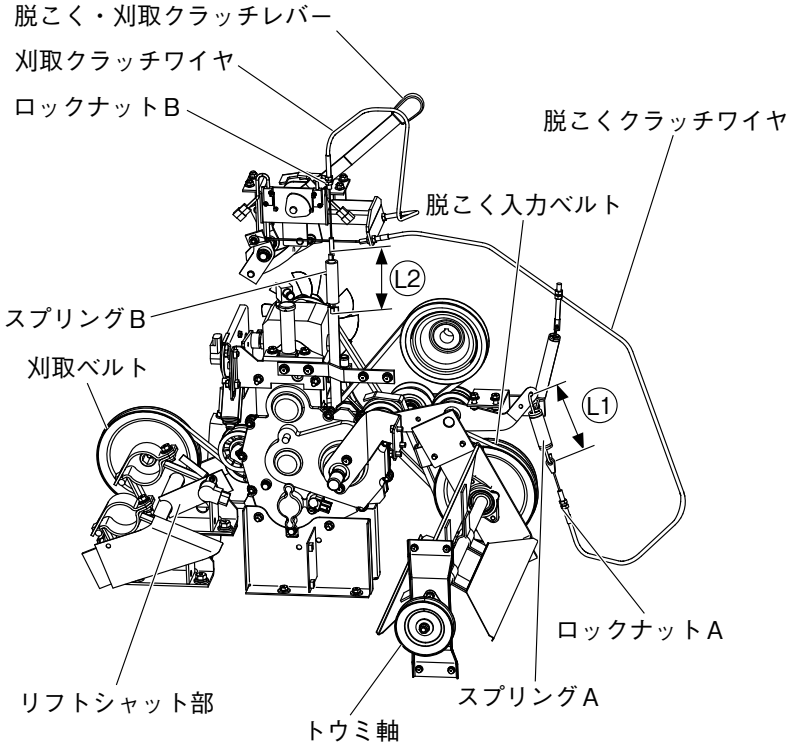
「脱こくクラッチ」

⑷ ロックナットAをゆるめて脱こくクラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「刈取クラッチ」

⑸ ロックナットBをゆるめて，刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

⑹ 調整後は，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じ，［**グレンタンク仕様**］はグレンタンクを元どおり閉じ，［**ホッパ仕様**］はハンガ，カバー Aを取付けます。



3. こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

❶ 点検

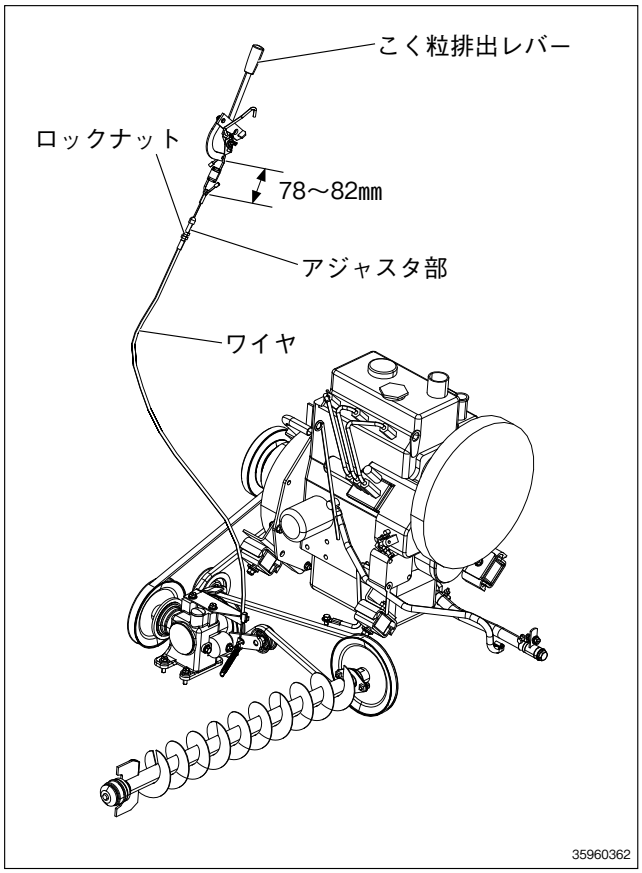
こく粒排出レバー《**入**》のとき，スプリングの長さが 78～82㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(97～98ページ参照)



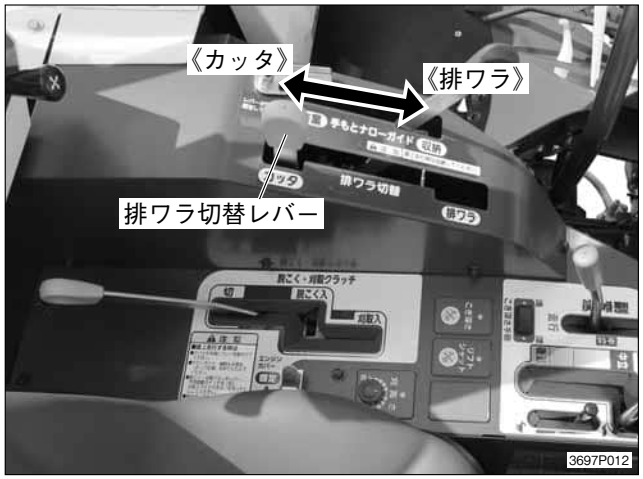
(2) ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



(3) 調整後はグレンタンクを元どおり閉じます。

4. 排ワラ切替レバー

切替レバーが《**排ワラ**》位置にします。



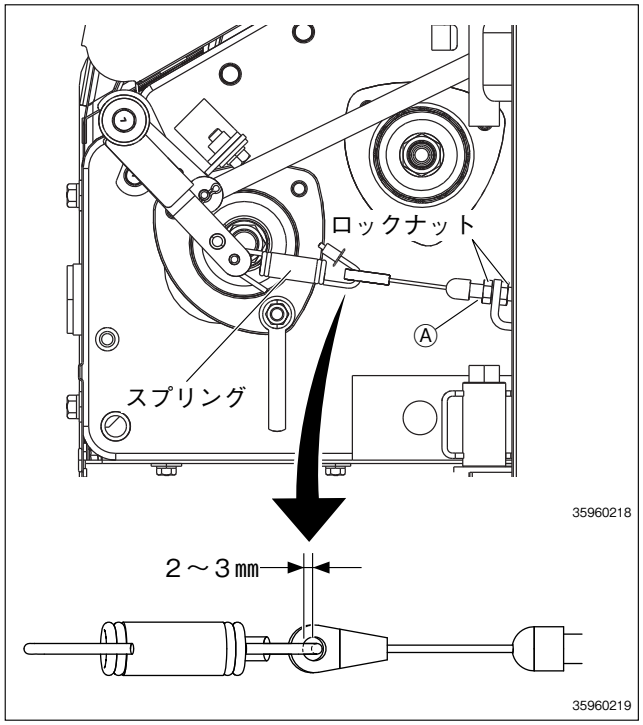
「カッタ部の点検・調整」

❶ 点検

カッタ切替カバーの先端が浮いていませんか。

❷ 調整

ワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタ部Ⓐでスプリングの遊びを 2㎜～3㎜ もたせます。



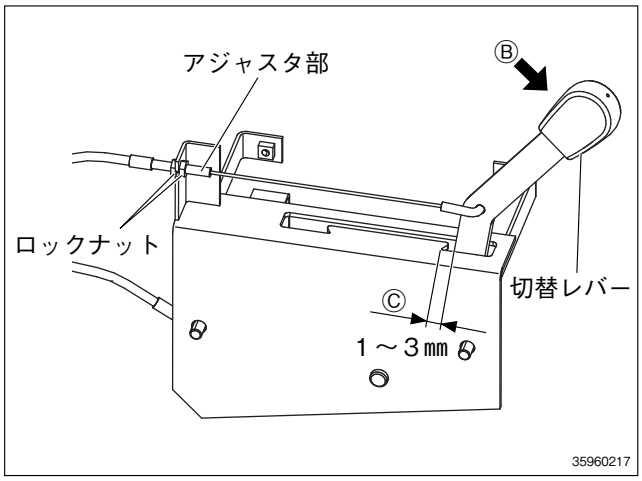
「レバー部の点検・調整」

❶ 点検

切替レバーをⒷ方向にいっぱい倒したときガイドと切替レバーのスキマⒸが広くなっていませんか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめて，アジャスタ部でスキマⒸを 1㎜～3㎜ に調整してください。



「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

5. エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

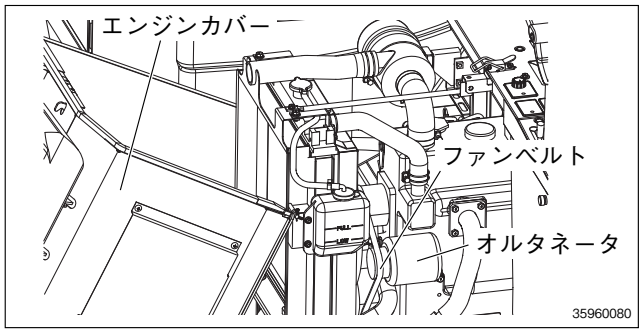
◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

ファンベルト長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13㎜ となっていますか。

❷ 調整

(1) エンジンカバーを開きます。

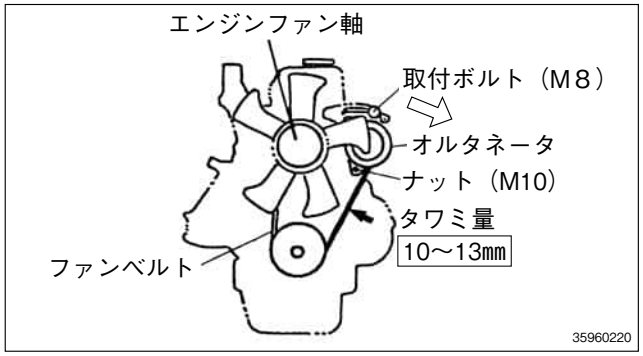


(2) オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを矢印（⇨）側に倒すとベルトが張れます。

(3) 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

(4) エンジンカバーを閉じます。



6．走行ベルト

走行ベルトの点検・調整は，**「お買いあげ先」**にて行います。

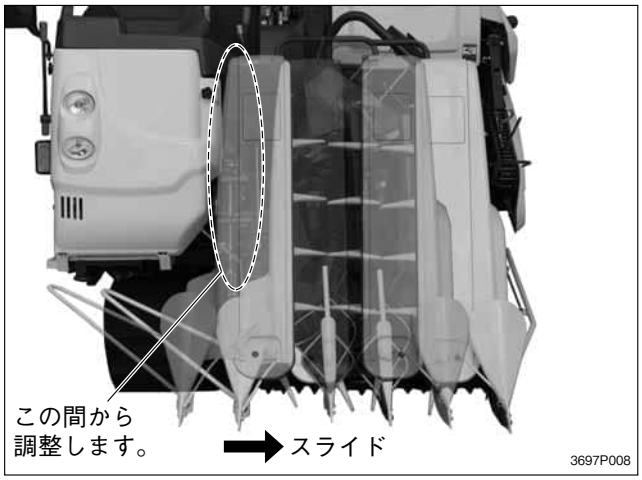
❶ 点検

スプリング長さが 207～211㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ **［2条型］**は刈取スライドを左側へスライドさせます。

⑵ 刈取部とコンバイン本機の間にスキマができます。そのスキマから調整できます。

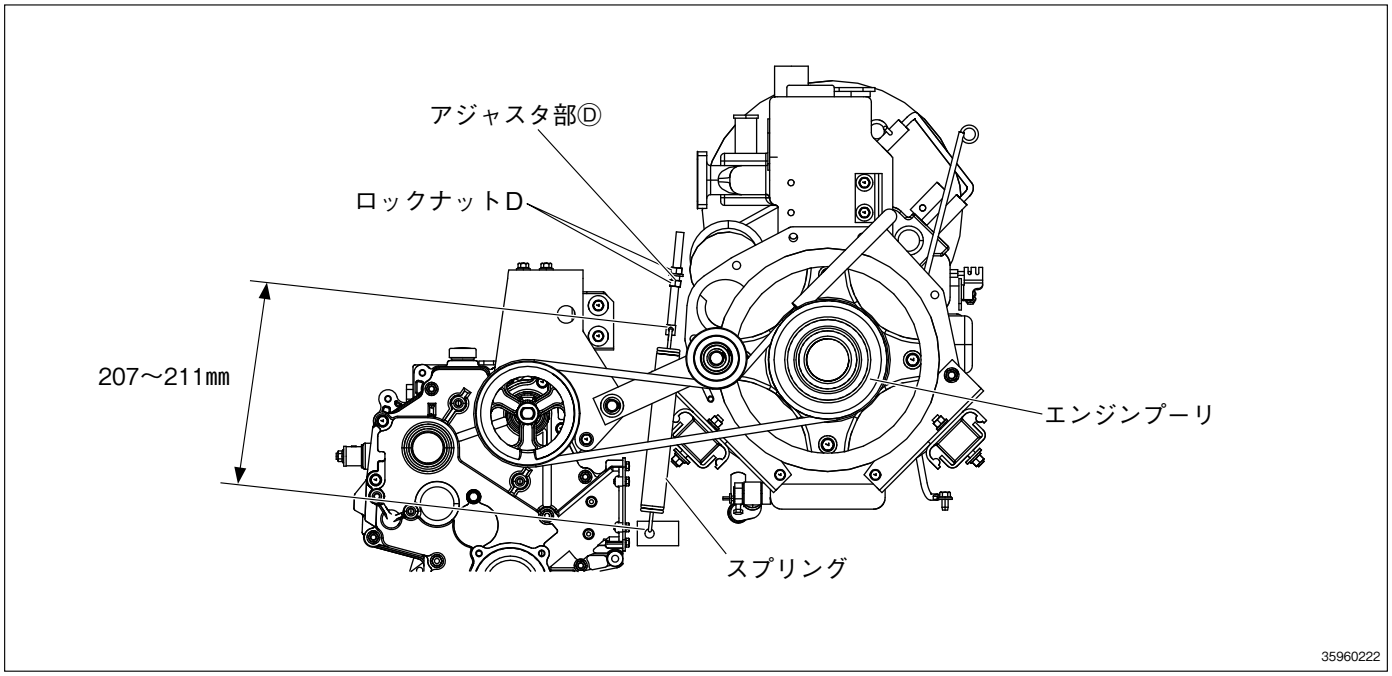


⑶ **［3条型］**は，エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。



⑷ アジャスタDのロックナットDをゆるめてスプリング長さを調整します。

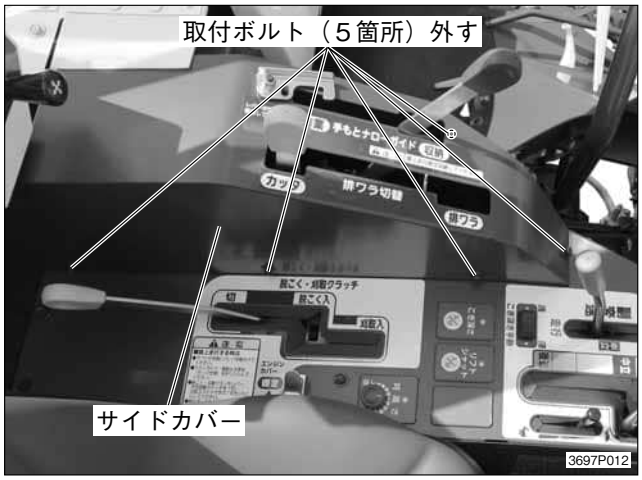
⑸ 調整後，**［3条型］**は運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。**［2条型］**は必要に応じて刈取スライドを移動させます。



7. こぎ胴ベルト

❶ 点検

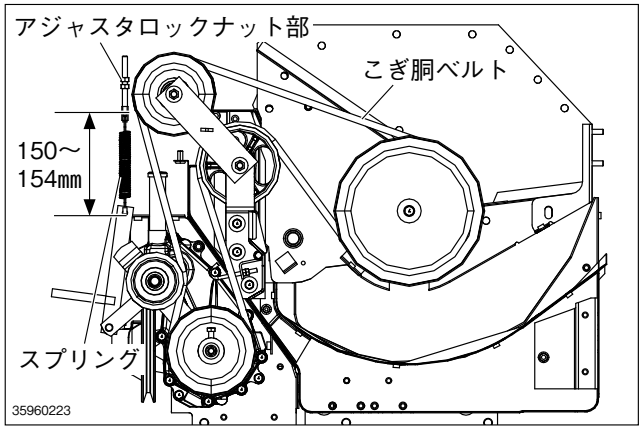
スプリングのセット寸法が 150～154㎜ になっていますか。



❷ 調整

(1) サイドカバーを外します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



(3) 調整後サイドカバーを取付けます。

8. １番ラセン駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 122～126㎜ になっていますか。

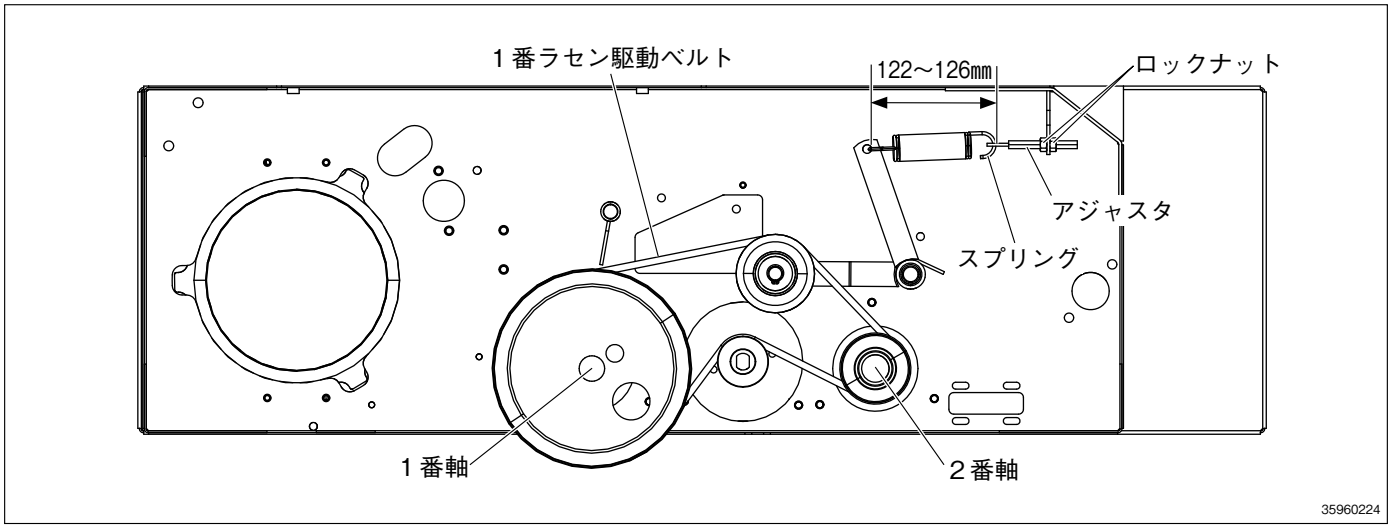
❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。





9. カッタベルト

❶ 点検

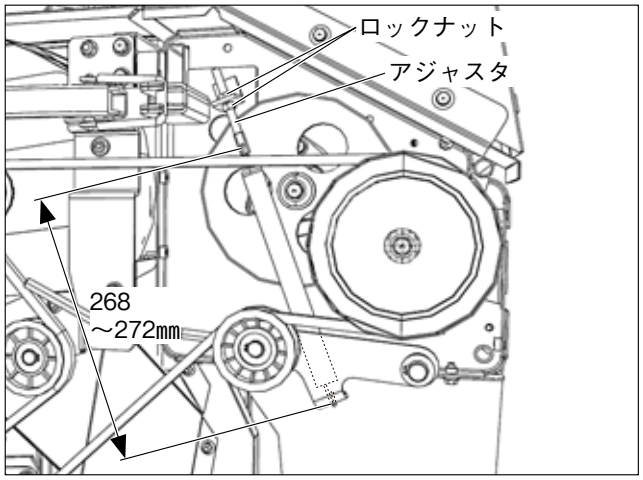
カッタベルトをセットしたとき，スプリングの寸法が 268～272㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを外します。



(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタで調整します。



(3) 調整後，カッタサイドカバーを取付けます。

10. 選別ベルト

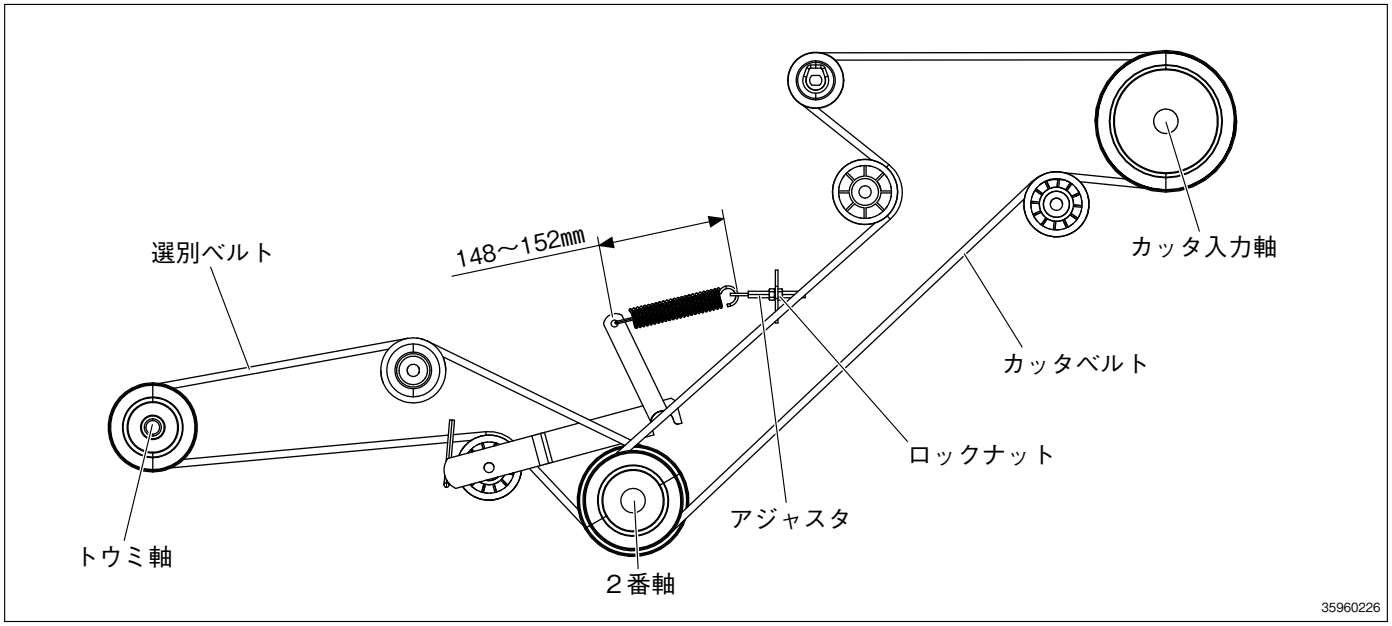
❶ 点検

スプリング長さが 148～152㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

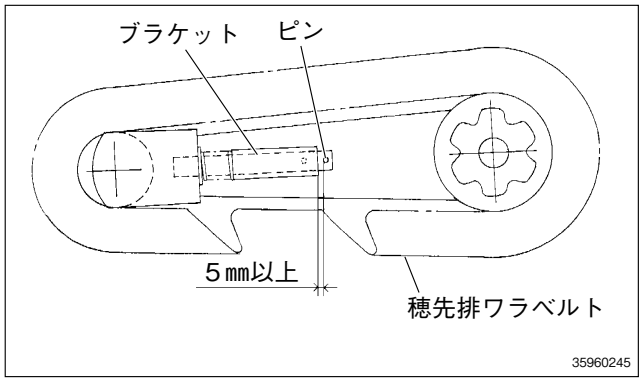
(2) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



11. 穂先排ワラベルト

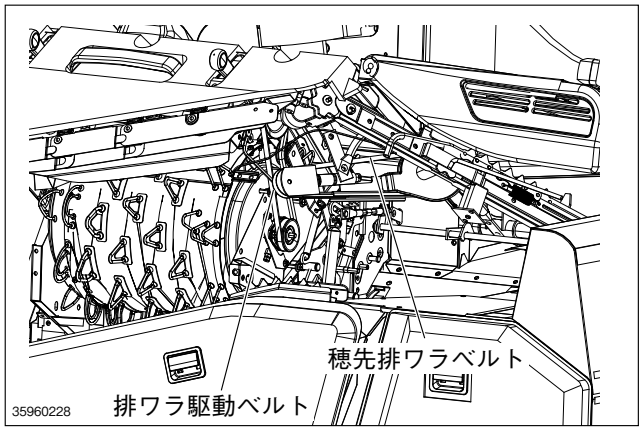
❶ 点検

ブラケットとピンのスキマが **5㎜以上** になっていますか。



❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。



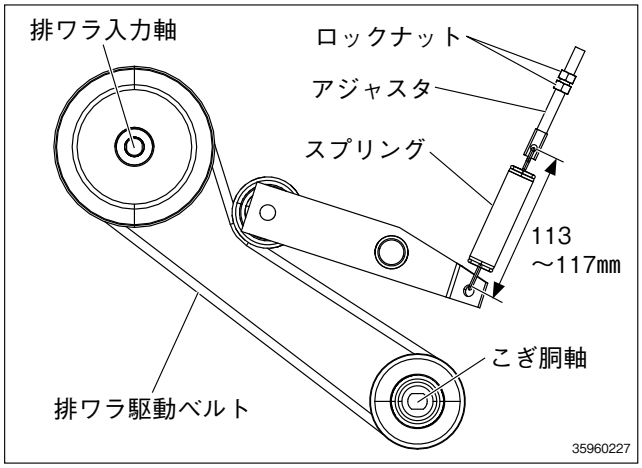
(2) **5㎜以下** になっていたら排ワラベルトを交換します。

(3) こぎ胴部を閉じます。

12. 排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが **113～117㎜** になっていますか。



❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。

13. グレン入力ベルト［グレンタンク仕様］

❶ 点検

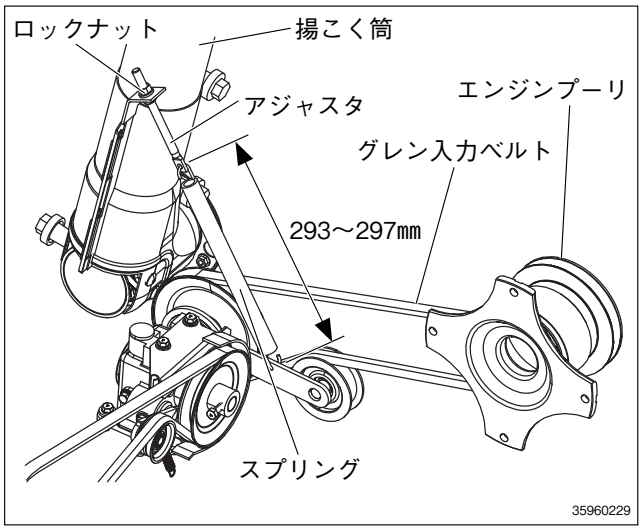
スプリングの長さが 293～297㎜ になっていますか。

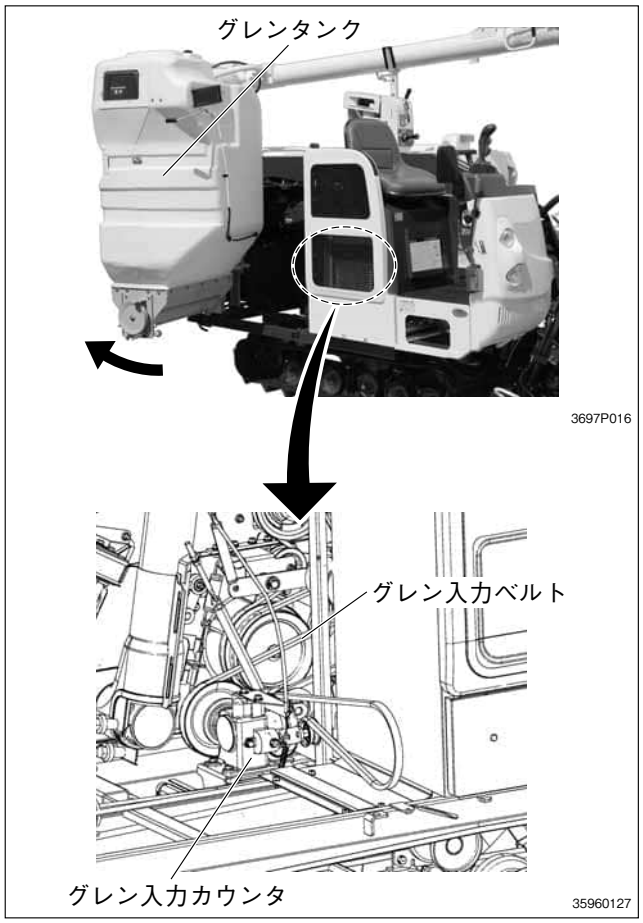
❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，グレンタンクを元どおり閉じます。





14. 搬送HST入力ベルト

❶ 点検

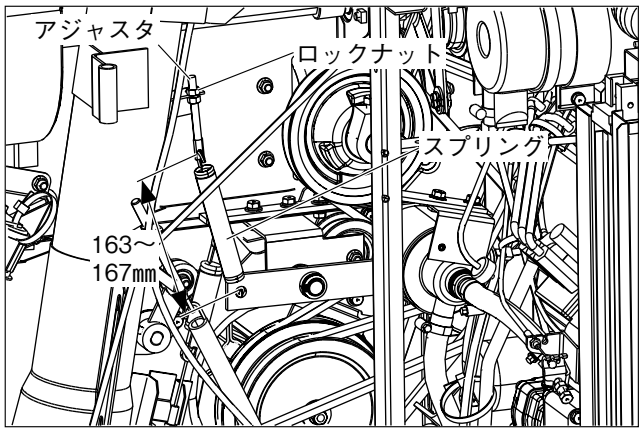
スプリングの長さが 163～167㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(97～98ページ参照)
：［グレンタンク仕様］
ハンガを外しカバーAを外します。
：［ホッパ仕様］

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，グレンタンク［グレンタンク仕様］を元どおり閉じ，ハンガ，カバーA［ホッパ仕様］を取付けます。



15. かき込みベルト（刈取部）

［3条型］

❶ 点検

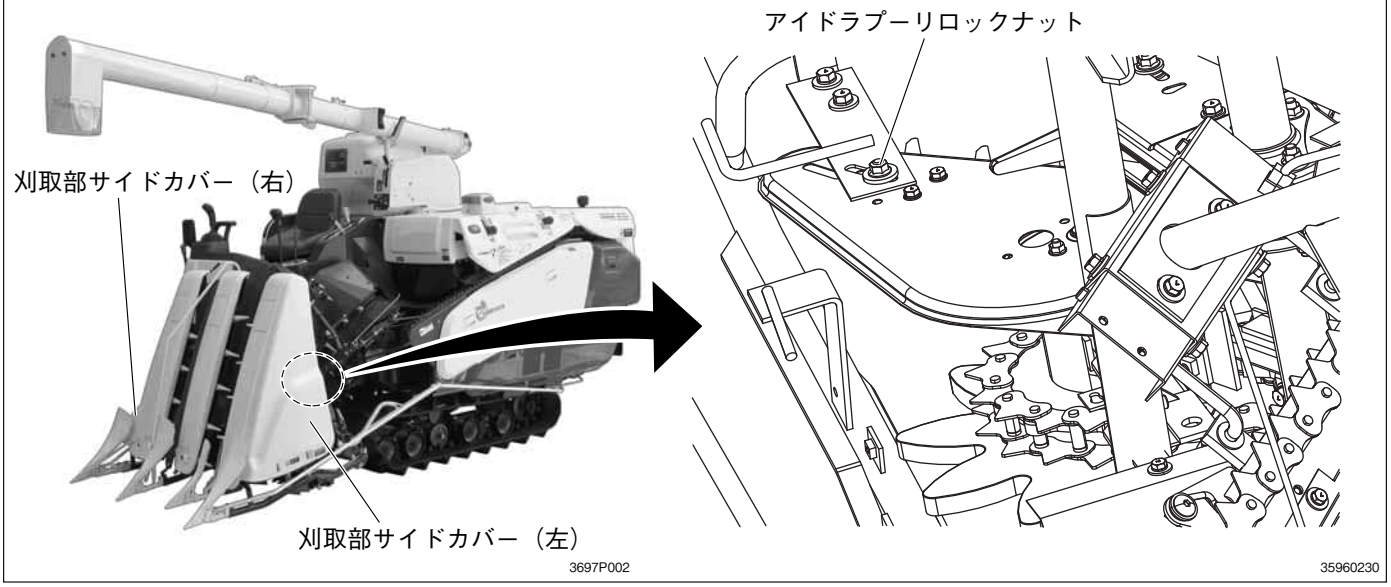
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。(右，中，左)

❷ 調整

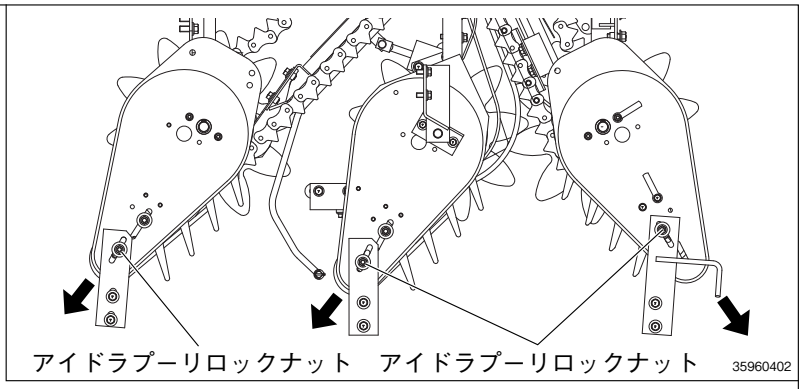
(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

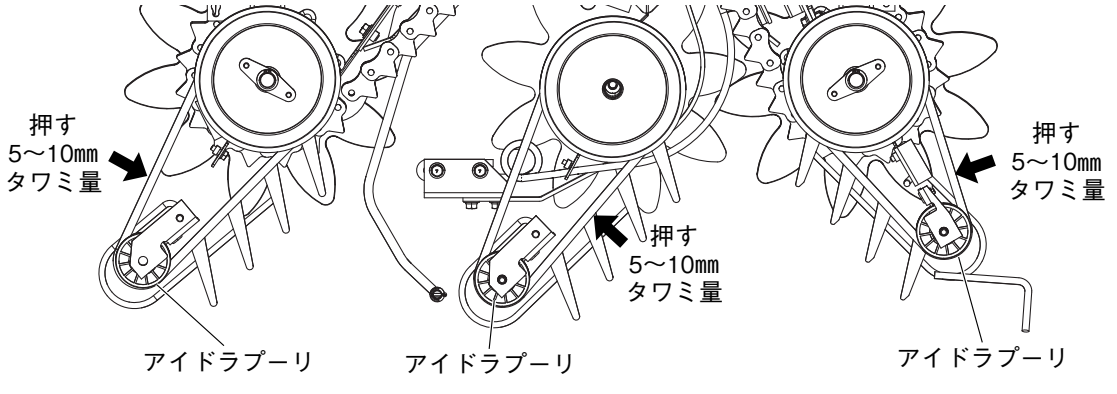
(2) アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。

(3) 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。



ベルトタワミ量が10㎜以上ある場合，アイドラプーリロックナットをゆるめ矢印の方向にアイドラプーリを引っ張りながらロックしてください。





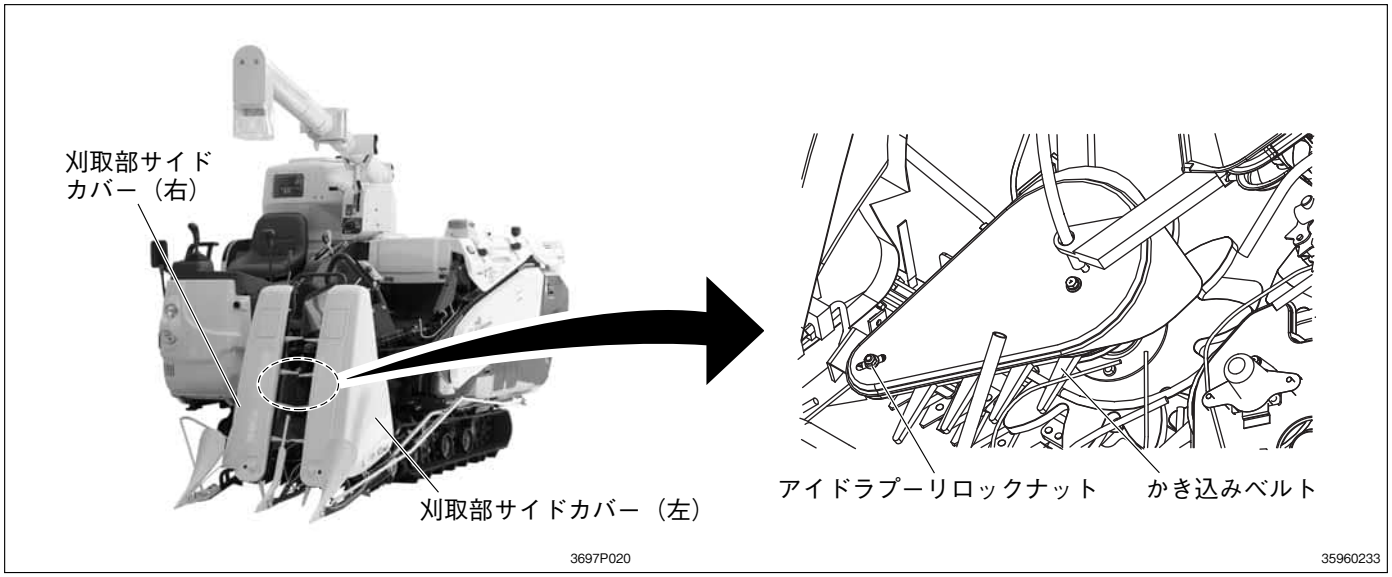
［2条型］

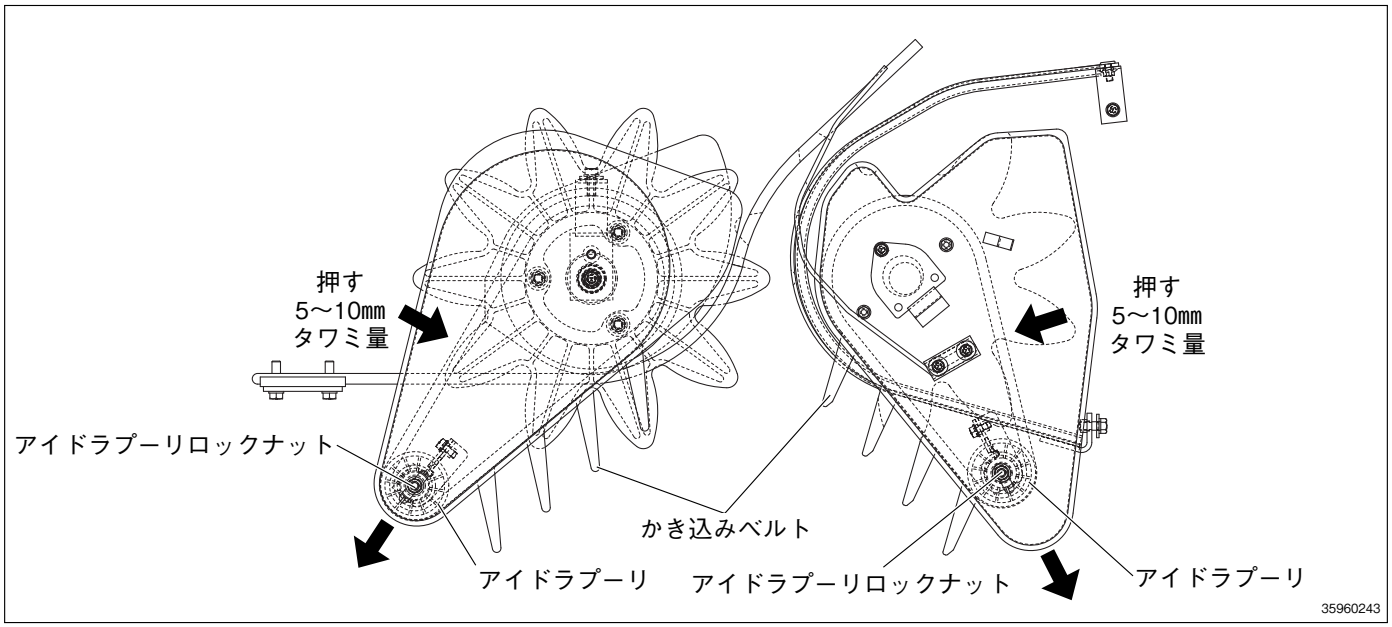
❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。
（右，中，左）

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。
(2) アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。
(3) 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

16. 株元搬送チェン

［3条型］

株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリングA長さが 177～183㎜ になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリングAの長さを調整します。

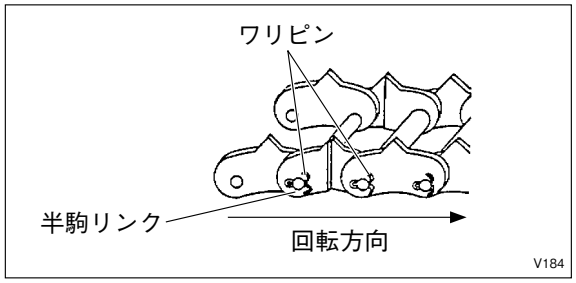
株元搬送チェン（左）

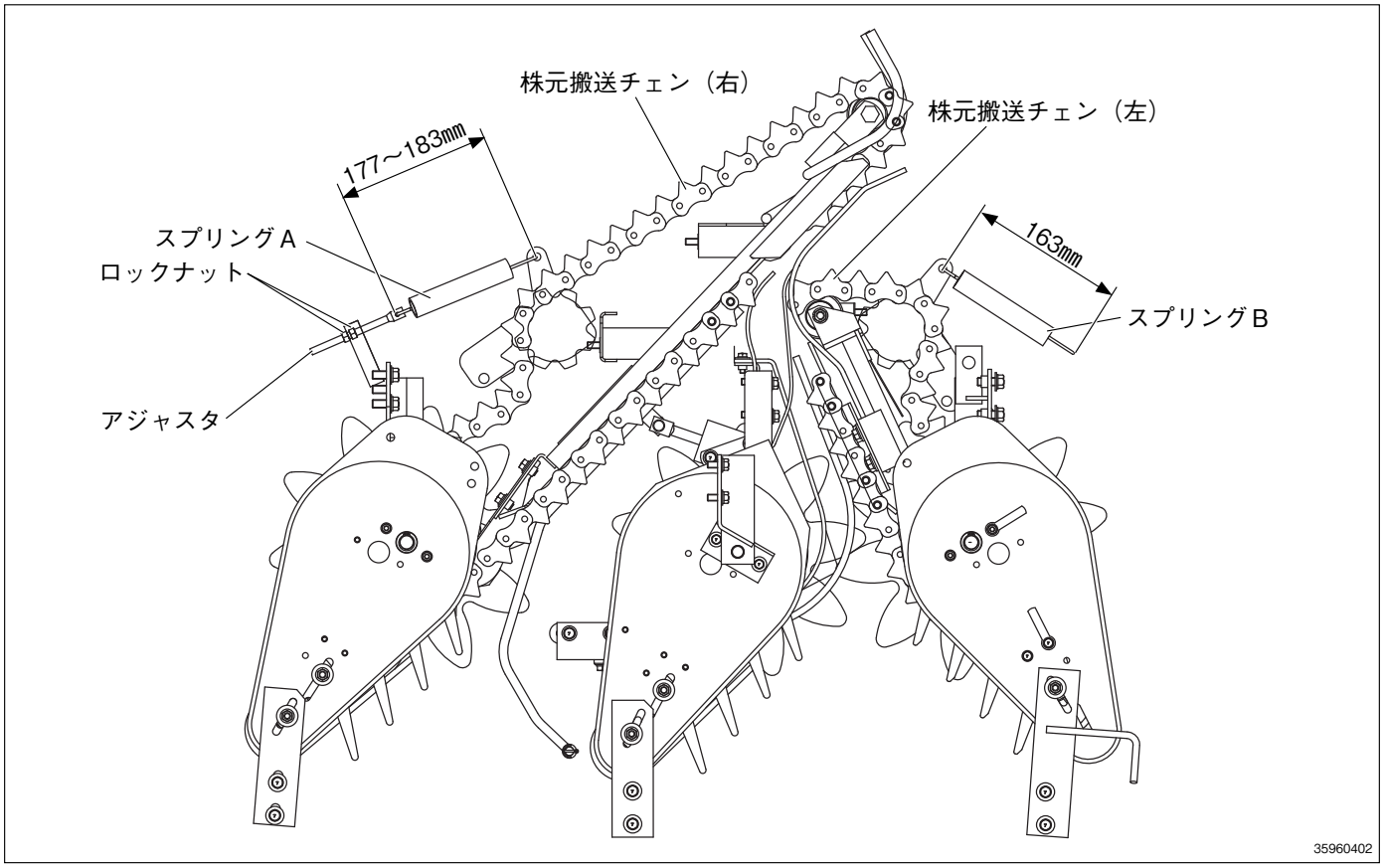
❶ 点検

スプリングBの長さが 163㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





17. こぎ深さ搬送チェン

［3条型］

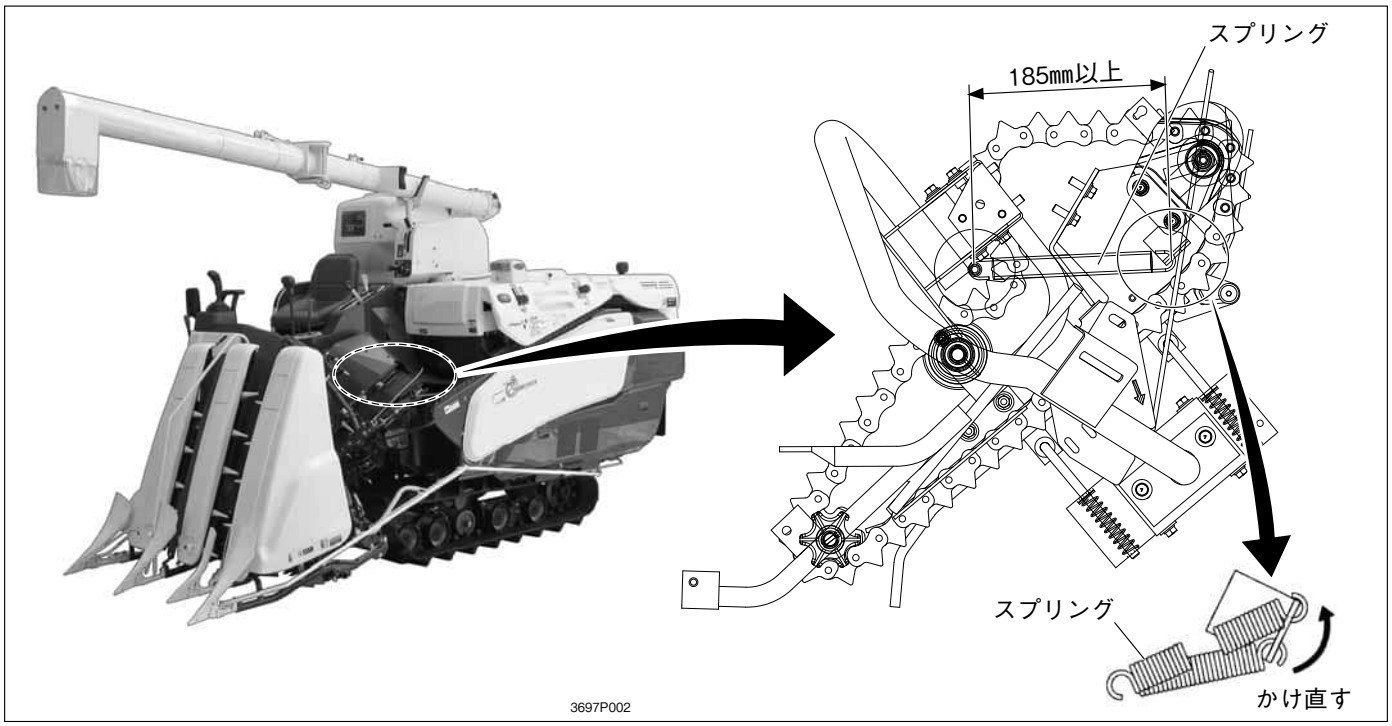
❶ 点検

スプリング長さが 185㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

⑴ 刈取部は下げた状態でこぎ深さ搬送部をいっぱいあげます。（浅こぎ側）

⑵ スプリング長さが 185㎜以下 のときは，スプリングをかけ直します。それでもスプリングが185㎜以下のときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



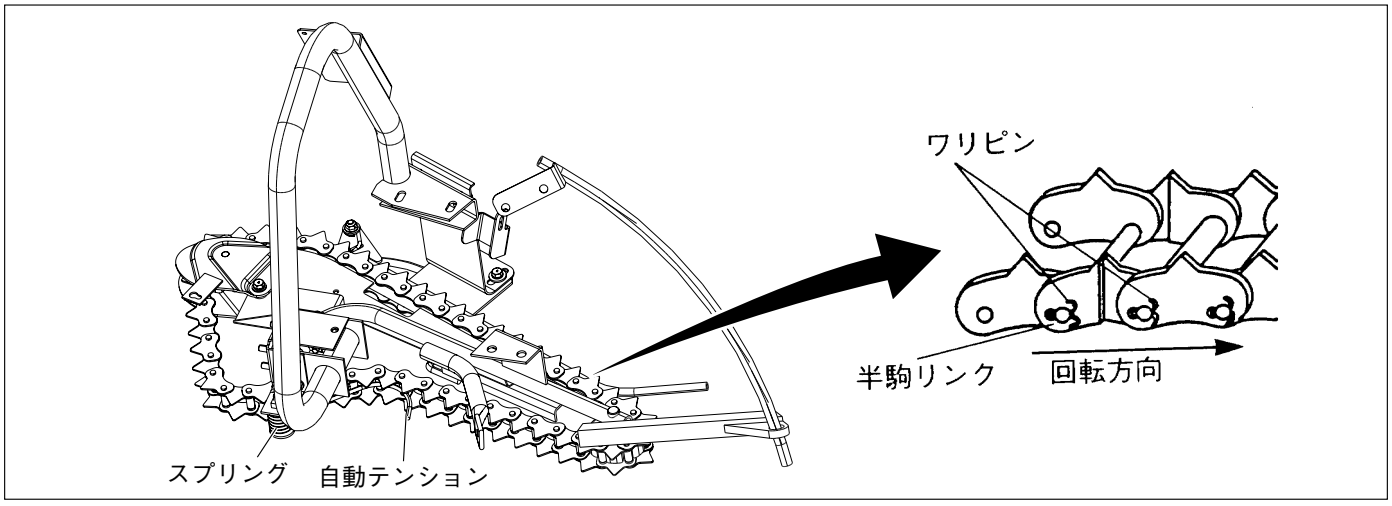
［2条型］

❶ 点検

・自動テンションが効いていない状態になり，チェーンがゆるんでガタつきがありませんか。

❷ 調整

・スプリングの「半こまリンク」を外して，チェーンをつなぎ直します。



18. 穂先搬送チェン

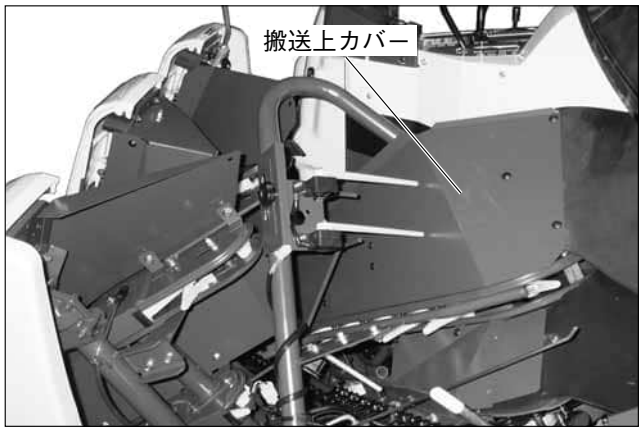
［3条型］

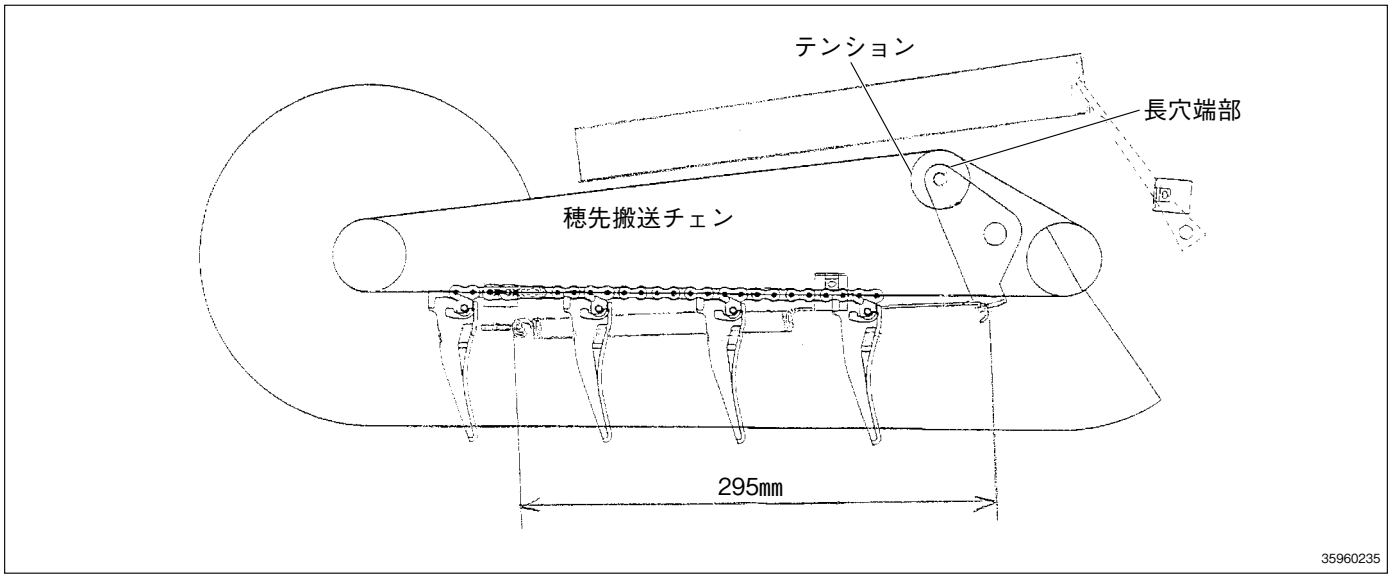
❶ **点検**

スプリング長さが 295㎜以上 になっていますか。

❷ **調整**

搬送上カバーを外し，チェンを交換します。交換後は，搬送上カバーを取付けます。





［2条型］

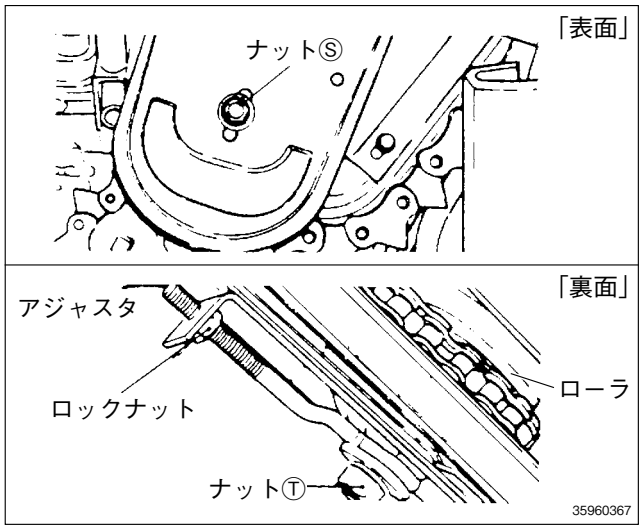
穂先チェンの張りを点検します。

❶ **点検**……搬送側でない側の中央部を軽く引き，タワミ量が 5㎜ 位になっていますか。

❷ **調整**……連動側ローラを固定しているナットⓈ・Ⓣをゆるめ，アジャスタで張ります。

取扱いのポイント

●ローラの軸が倒れないように調整してください。



19．かき込み搬送チェン（右，左）

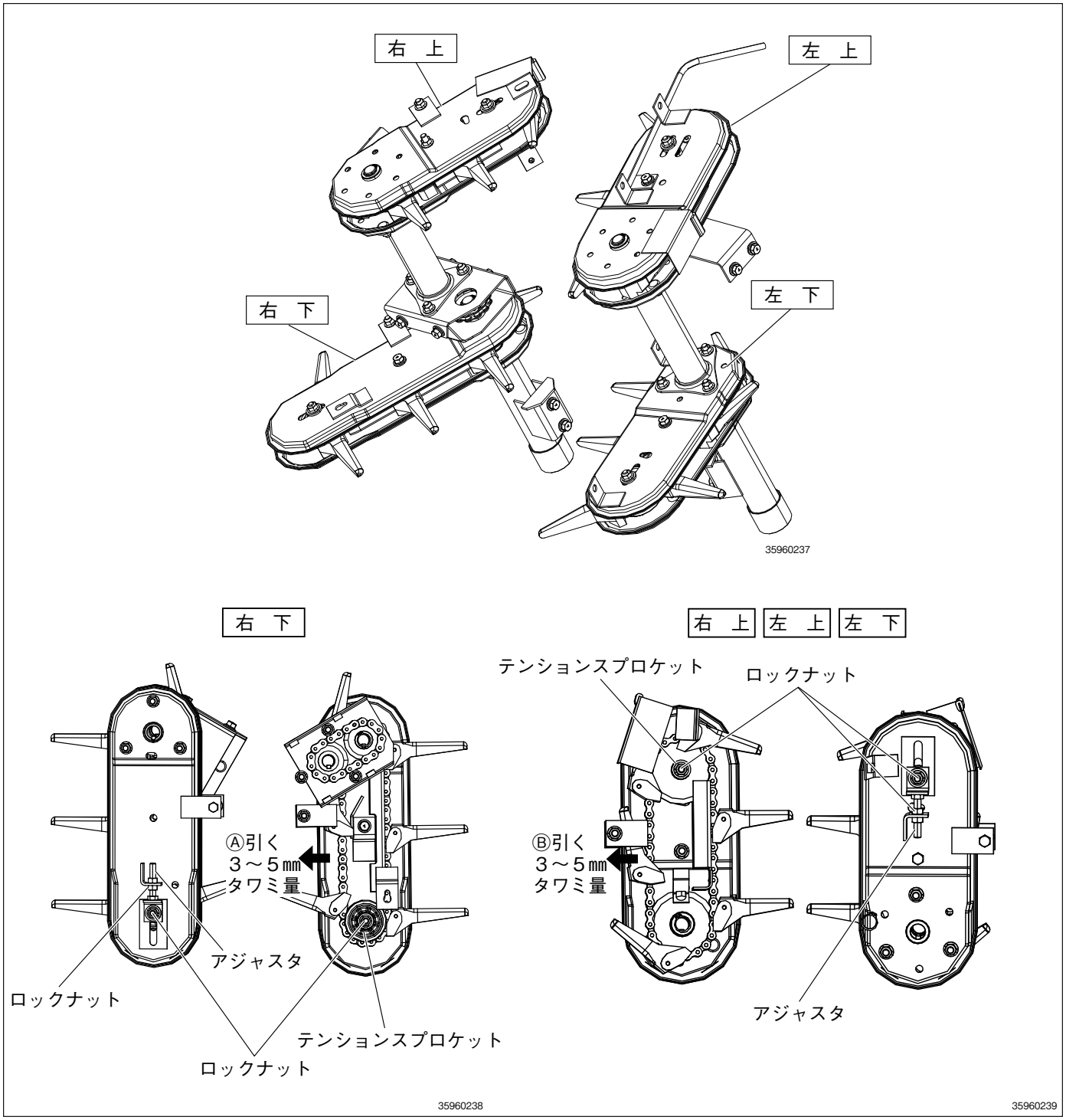
［3条型］

❶ 点検

かき込み搬送チェン（右上，右下，左上，左下）各々のⒶ，Ⓑ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

❷ 調整

テンションスプロケットのロックナット（表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。



20. 脱こくフィードチェン

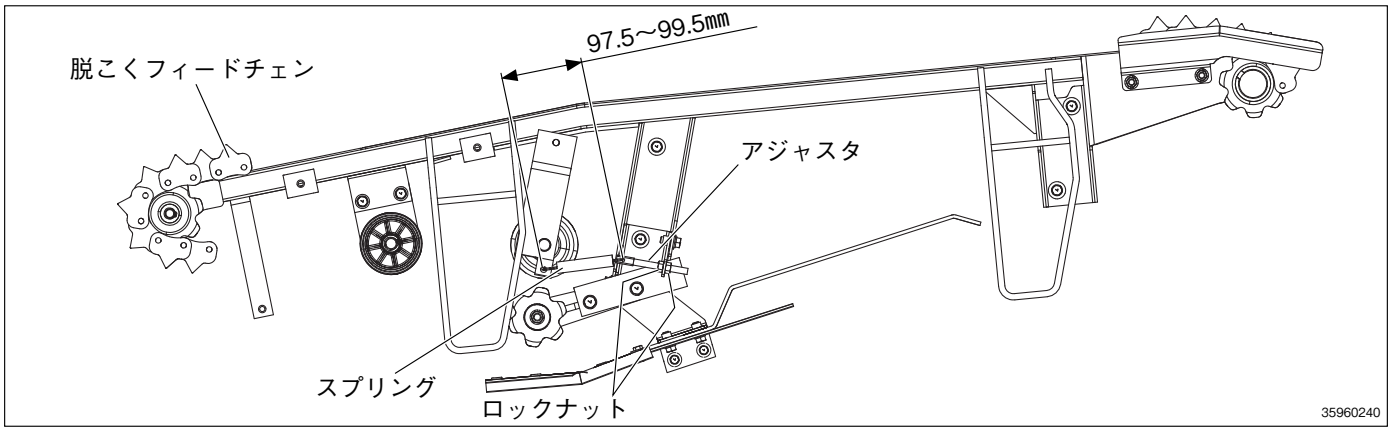
❶ 点検

スプリングの長さが 97.5〜99.5㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

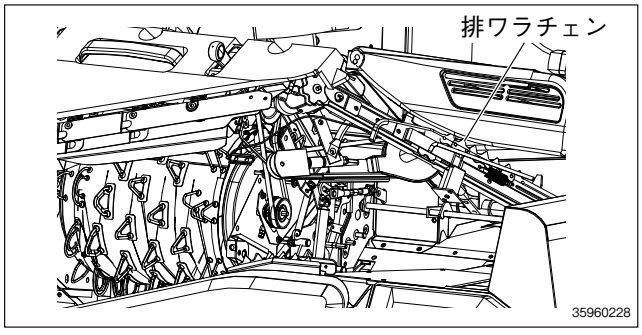
(2) 調整後は脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



21. 排ワラチェン

❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10〜15㎜ になっていますか。



❷ 調整

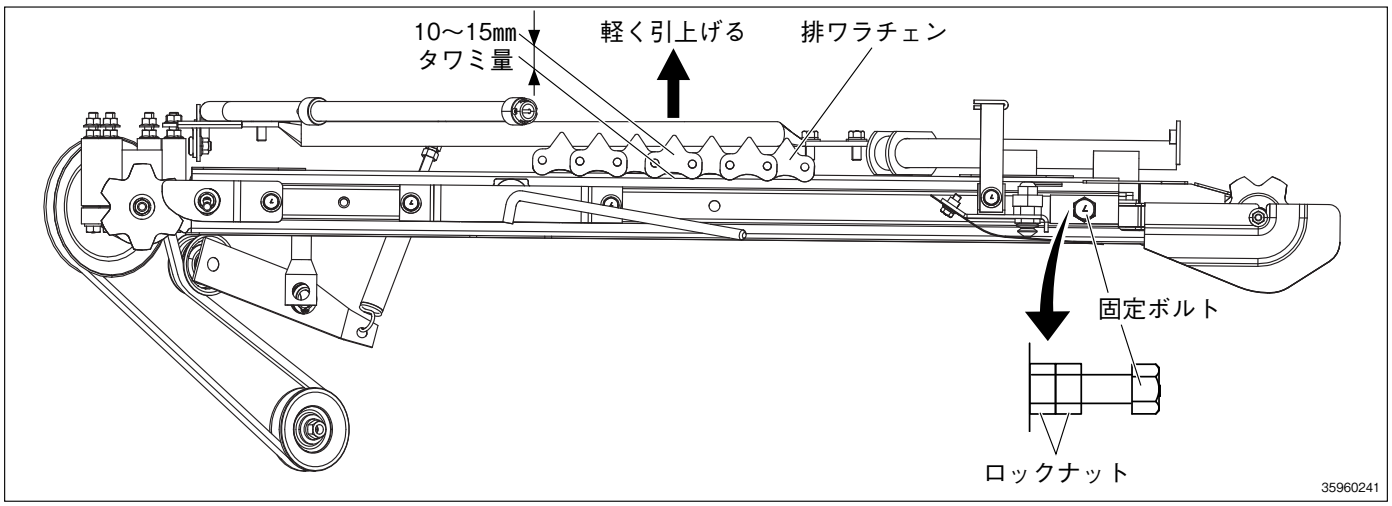
(1) こぎ胴部を開けます。

(2) ロックナット固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。

調整後固定ボルトがゆるまないようロックナットで締付けます。

なお，調整できなくなったときは，**「お買いあげ先」**でチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。



「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行ってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機械のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

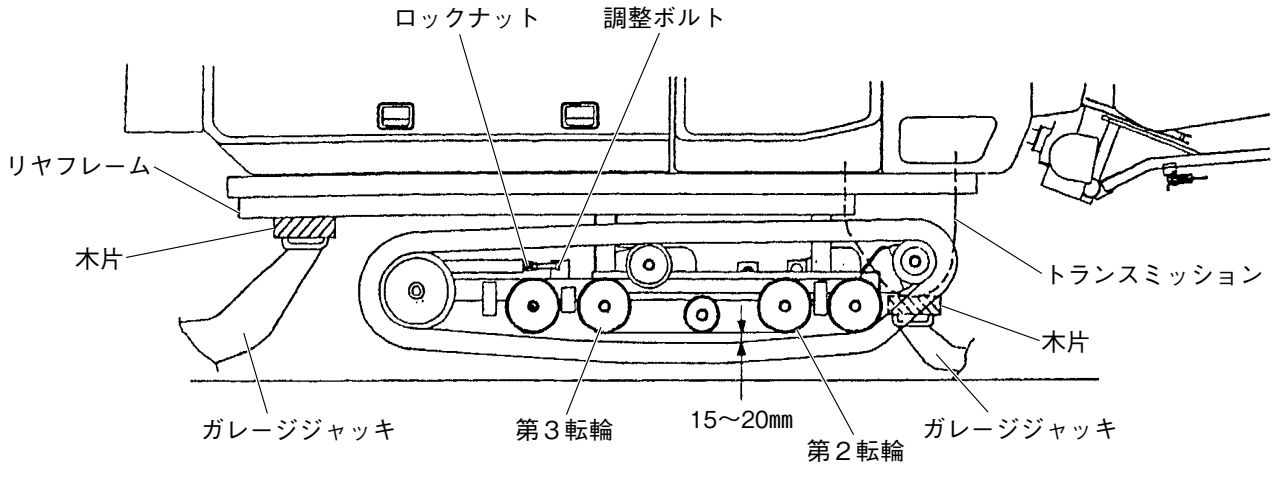
22. クローラ

❶ 点検

フレームをジャッキアップした状態で第３転輪とクローラのスキマが 15～20㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 図示のようにトランスミッションとリヤフレームの右または左に木片を介しガレージジャッキでジャッキアップします。
⑵ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで張ります。



取扱いのポイント

- クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキをかける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキをかけると，ケースが破損するおそれがありますので，木片を噛ませて行ってください。

「刈刃の調節」

23. 刈　　刃

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから，外側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてケガをすることがあります。

◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，２人作業で合図をかけ合って行ってください。

［３条型］

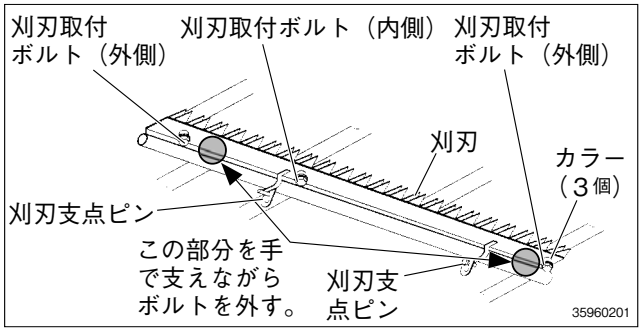
❶ 刈刃の回動

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，回動します。

⑴ エンジンを始動し，マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

⑵ エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

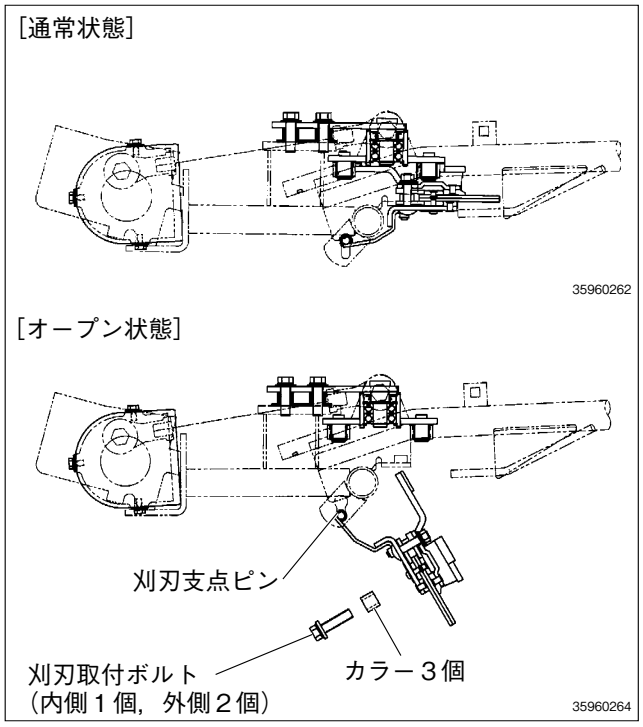
⑶ 刈取部の下方から刈取部を見ると，下図のような取付け状態になっています。



⑷ 内側の刈刃取付ボルト（１個）を取外します。

⑸ 刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルト（２個）を取外します。（２人作業）

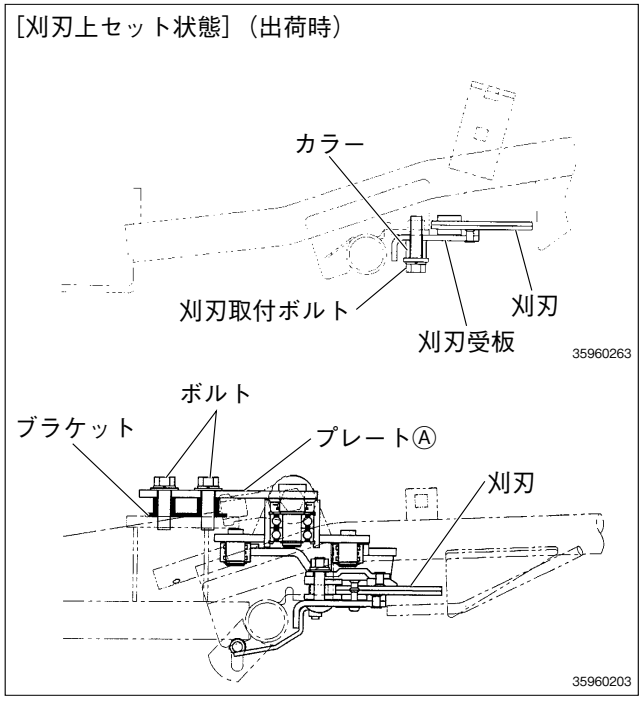
※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。



⑹ 刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃を回動します。

❷ 刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は「**上セット**」になっています。

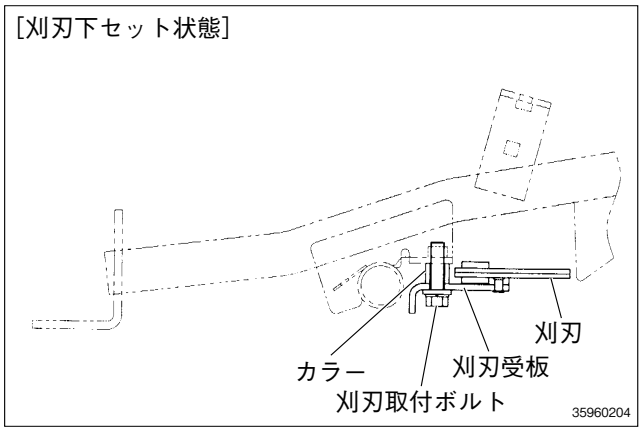


裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にします。

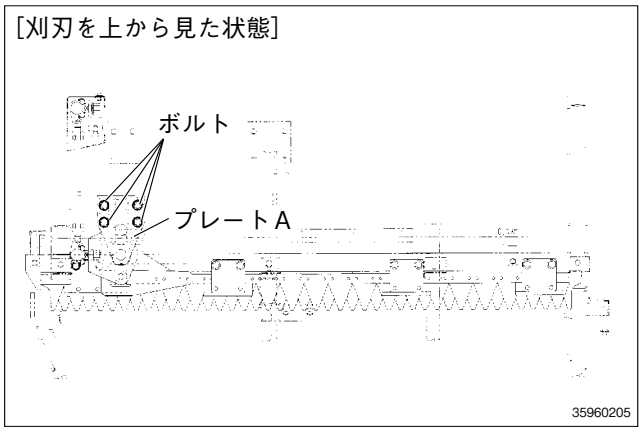
「**下セット**」にする場合，カラー・ブラケットの２箇所の組替えを行います。

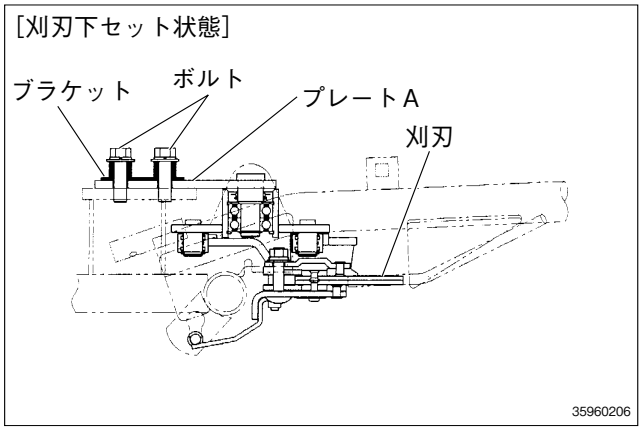
⑴ 刈刃を回動します。

⑵ 刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の「**下側**」から「**上側**」に入替えて，ボルトを締付けます。（３箇所）



⑶ ボルト４本を外し，ブラケットをプレートＡの下方から上方へ入替えて，ボルトを締付けます。



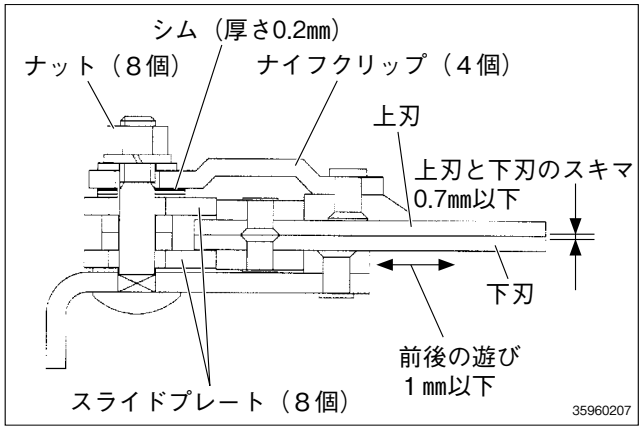


❸ 刈刃の調整

調整は「**お買いあげ先**」にて行います。

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナット（８個）をゆるめ，ナイフクリップ（４個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で，上刃と下刃のスキマが0.7㎜以下になるように調整します。



⑶ 上刃と下刃の前後の遊びが１㎜以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（15kg程度）に作動することを確認します。

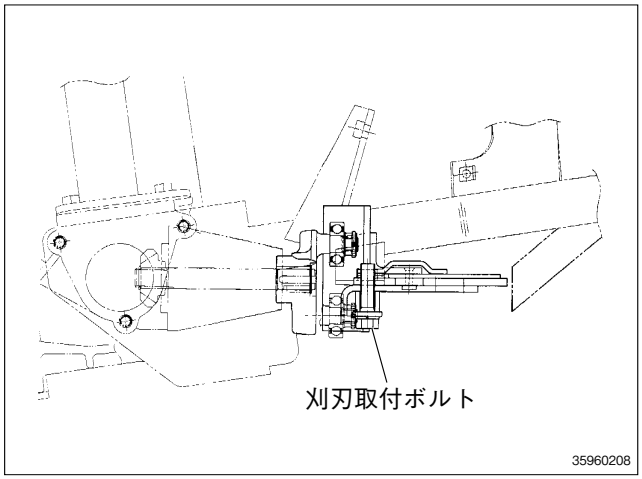
取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

［２条型］

❶ **刈刃の取外し**

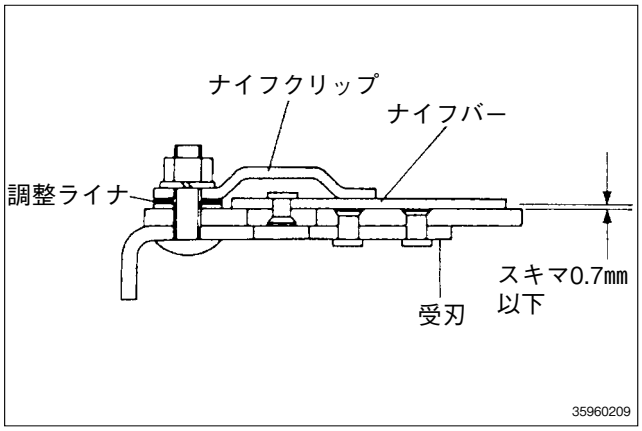
刈刃取付ボルト２箇所を外します。



❷ **刈刃の調整**

⑴ 0.2㎜の調整ライナでスキマを0.7㎜以下に調整します。

⑵ 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



❸ **刈刃の取付け**

刈刃取付ボルト２個にて取付けます。

取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈刃の欠けおよび磨耗などの異常がない状態で刈跡が揃わなくなった場合は上刃と下刃のスキマを調整し刈刃に注油をしてください。**

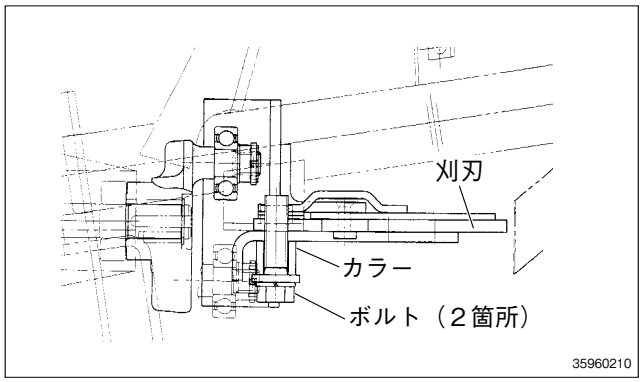
❹ **刈刃の上下調節**

⑴ 出荷のときは「**上セット**」になっています。裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にすることができます。

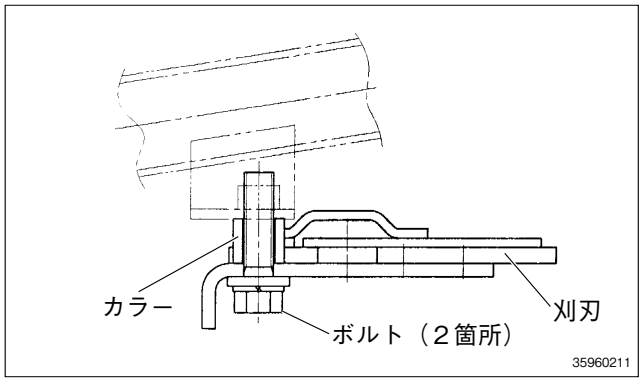
⑵ 刈刃取付ボルト（２箇所）をゆるめて，刈刃を手でささえながら，ボルトを外しカラーを入替します。

⑶ ボルトをゆるめます。

「上セット（出荷状態）」



「下セット」



⑷ カラーを刈刃上から下に入替えて，ボルトを締付けます。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，つぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホース，油圧ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびホッパ，グレンタンクのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。

（102～106ページ脱こく内部の掃除の項を参照）
（107～110ページ揺動流板の掃除の項を参照）
（111～112ページグレンタンク部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆びないようにします。

❸ 塗装が剥げた箇所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にします。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておきます。

❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（73～74ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。

（66～67ページ参照）

⚠注意 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引起こすおそれがあります。

2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

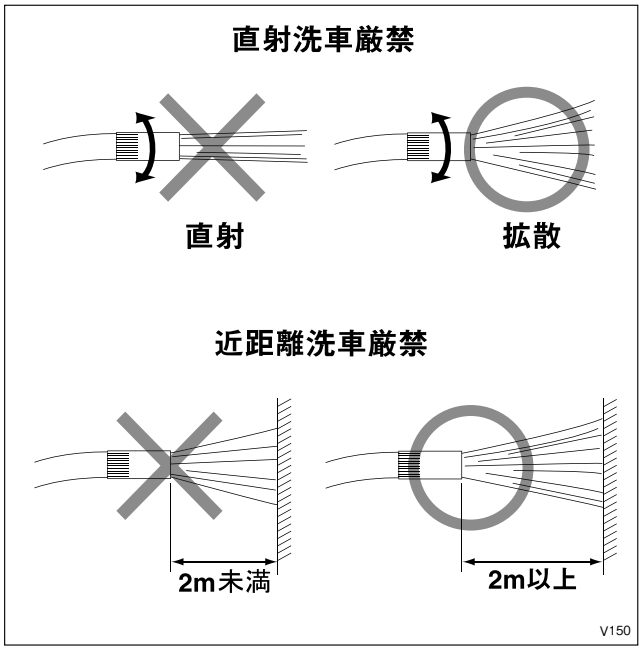
- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。誤って水がかかり濡れた場合は，ただちに水分を除去してください。**
- **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**

例）(1) シール・ラベルの剥がれ

(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内などへの侵入による故障

(3) クローラ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類，ガラスなどの破損

(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5. 格　納

機械の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**中立**》の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」，「**排出オーガ**」（**グレンタンク仕様**），「**補助モミ受台**」（**ホッパ仕様**）を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

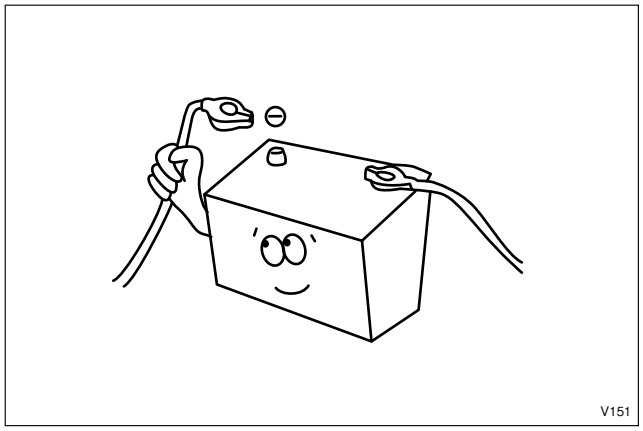
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキレバーを「**入**」にします。



❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，⊖側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリーターミナルなど保管するときに処置した項目を復元してください。**

6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを始動する前に，バッテリーターミナルなど保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ 始動点検，注油を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

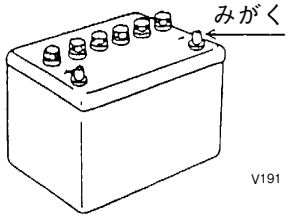
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行ってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行ってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

1．エンジン部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが《**入**》になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。	19
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。 V190	17
	❸ こく粒排出レバーが《**入**》になっている。[**グレンタンク仕様**]	●こく粒排出レバーを《**切**》にします。［**グレンタンク仕様**］	21
	❹ バッテリーターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。 V191	89
	❺ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，メインヒューズを交換します。	87～88
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	89～95
	❼ 《**予熱ランプ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	87～88

不調時の処理

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶ 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをします。 （燃料タンク容量……25L）	70，86
	❷ ・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	86
	❸ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	87～88
エンジンの出力が出ない，または自然に止まる	❶ 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	85
	❷ エアクリーナーの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナーエレメントを交換します。	84～85
	❸ ラジエータ防じん金網の目詰まり。	●防じん金網を掃除します。	84
	❹ エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	71～73
	❺ 冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	73～74
	❻ エンジンファンベルトのゆるみ	●ファンベルトを調整します。	129
	❼ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	87～88

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速（無段変速）レバーを操作しても走行しない	❶ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	75～76
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 油圧固定レバーが**《油圧固定》**位置になっている。	●油圧固定レバーを**《解除》**にし，油圧固定スイッチを**《作業時》**にします。	13

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	87～88
	❷ ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	―
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯または作動しない	❶ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	87～88
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶ **《こぎ深さ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 **《こぎ深さ》**ヒューズ……20A **《マイコン》**ヒューズ……10A	87～88
	❷ 刈取部のこぎ深さセンサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	―
方向自動制御（ジャストディレクタ）が作動しない［ディーラーオプション］	❶ **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている	●ヒューズを交換します。 **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズ…10A **《マイコン》**ヒューズ……10A	87～88
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	―
刈高さポジションコントロールが作動しない	**《操向・リフト・オーガ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている	●ヒューズを交換します。 **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズ…10A **《マイコン》**ヒューズ……10A	87～88

4. 刈取部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処理します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ② エンジンを停止します。 ③ 刈取搬送部の詰まり箇所を取除きます。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》にして確認します。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	―
刈取部が動かない	❶ 刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	127
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	82～83
	❷ 刈刃の調整不良。（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	143～145
	❸ 刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	143～145
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは急激な操作はさけます。	18
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶ 搬送通路に雑草・ワラクズ・泥などが溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥などを除きます。	―
	❷ 「**深こぎ**」または「**浅こぎ**」となっている。	●適正こぎ深さで作業します。	60～61
刈取スライドが重い，作動しない［２条型］	❶ スライド部の注油不足。	●刈取スライド固定レバー摺動部に注油します。	81
	❷ こぎ深さが深くなっている	●こぎ深さ手動スイッチの《**浅こぎ**》側を押してこぎ深さを最も浅い状態にします。	11

5. 脱こく部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。（排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動 ❷ 脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動。（脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動	●つぎの手順により処理します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ② 排ワラ関係の詰まり箇所を取除きます。 ③ 排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく 入**》にして確認します。	ー
ホッパおよびグレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合った回転計の値になっているか確認し回転計を見て《**作業**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	40
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴ベルトを張ります。 ●搬送HST入力ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	127 131 134 132 132
	❸ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	60～61
	❹ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除。	102，103
	❺ 刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	16
	❻ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	19～20
	❼ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	104～105
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	102，103
	❷ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	60～61
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て《**作業**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	40
	❹ 刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低側に下げます。	40，41
	❺ 送じんがスムーズでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節します。（必要に応じてガイドを固定します。）	64～65
	❻ ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	122～124
	❼ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	19～20

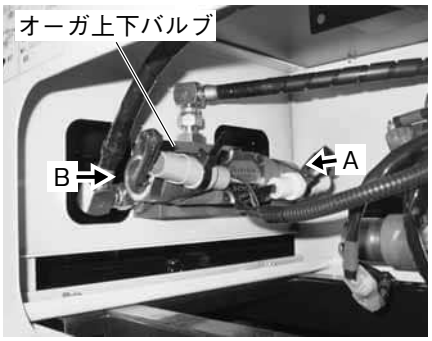
不調時の処理

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	60〜61
	❷　能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	40，41
	❸　作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	102，103
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	40，41
	❺　揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	19〜20
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	60〜61
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	40
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	ー

6．ワラ処理部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶　カッタ刃の磨耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	113～120
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	40，41 60～61
	❸　ワラが濡れているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生しています。	●エンジンを停止し，巻付いたワラ草を除去します。	－
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェン・ベルトの張り不良。	●チェン・ベルトを張ります。	133，141
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	60～61
	❸　刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	40，41

7．グレンタンク部［グレンタンク仕様］

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作スイッチを操作しても，動かない	❶　**《操向・リフト・オーガ》《オーガモータ》《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズ…10A **《オーガモータ》**ヒューズ……30A **《マイコン》**ヒューズ……10A	87～88
	❷　オーガ上下バルブのゴミかみ。  左方←　　→右方 ［オーガ上下バルブを前方から見た図］	●エンジンを始動しオーガ上下バルブの**「上昇」，「下降」**それぞれの手動ピンを数回押すと正常にもどる事があります。 （オーガ上下バルブは運転席足元のステップを外すと，下方にあります。） 機能確認／チェック方法 上　げ／Aを押す 下　げ／Bを押す **取扱いのポイント** **●水，またはスチームでの洗浄は厳禁。**	－
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	128
	❷　タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）。	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	－

付　　表

1．主要諸元

［3条型］

名称				三菱V321	三菱V323
型式名				三菱VS321	三菱VS323
区分				GC	GC
車両型式名				三菱VC23B	
機械寸法（格納時）	全長		(mm)	3,370	
	全幅		(mm)	1,680	
	全高		(mm)	1,980	
機体質量（重量）			(kg)	1,450	
エンジン	型式			S773L－D－1602	S773L－D－1603
	種類			水冷４サイクル３気筒ディーゼル	
	総排気量		(L{cc})	1.131 {1,131}	
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	15.4 {21.0} /2800	16.9 {23.0} /2800
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	使用タンク容量		(L)	25	
	始動方式			セルスタータ	
	バッテリ		(V・Ah)	12・36	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	330×1,215	
		中心距離	(mm)	805	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	17.7 {0.181}	
	変速方式			油圧モータ式（HST）	
	変速段数		(段)	前進無段，後進無段（副変速２段）	
	走行速度	前進	(m/s)	中速：０～0.87，高速：０～1.75	中速：０～0.95，高速：０～1.90
		後進	(m/s)	中速：０～0.87，高速：０～1.75	中速：０～0.95，高速：０～1.90
刈取部	刈取り条数		(条)	3	
	デバイダ先端間隔		(mm)	1,150～1,200	
	刈刃装置形式			往復動刃式	
	刃幅		(mm)	1,150	
	変速段数		(段)	無段変速（車速同調式）	
	刈高さ範囲		(mm)	40～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動，手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			複胴下扱軸流式	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	410×450	
		回転速度	(rpm)	530	
	処理胴	径×幅	(mm)	140×680	
		回転速度	(rpm)	1,710	
	揺動板	幅×長	(mm)	500×960	
こく粒処理部	こく粒処理方式			グレンタンク式	
	タンク容量		(L)	600	
排ワラ処理装置				ディスクカッタ（切断長60mm）	
適応作物全長			(mm)	550～1,200	
倒伏適応性			(度)	追刈：85°　向刈：70°　以下	
作業能率			(分/10a)	23～67	21～67
運転免許				小型特殊免許	

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

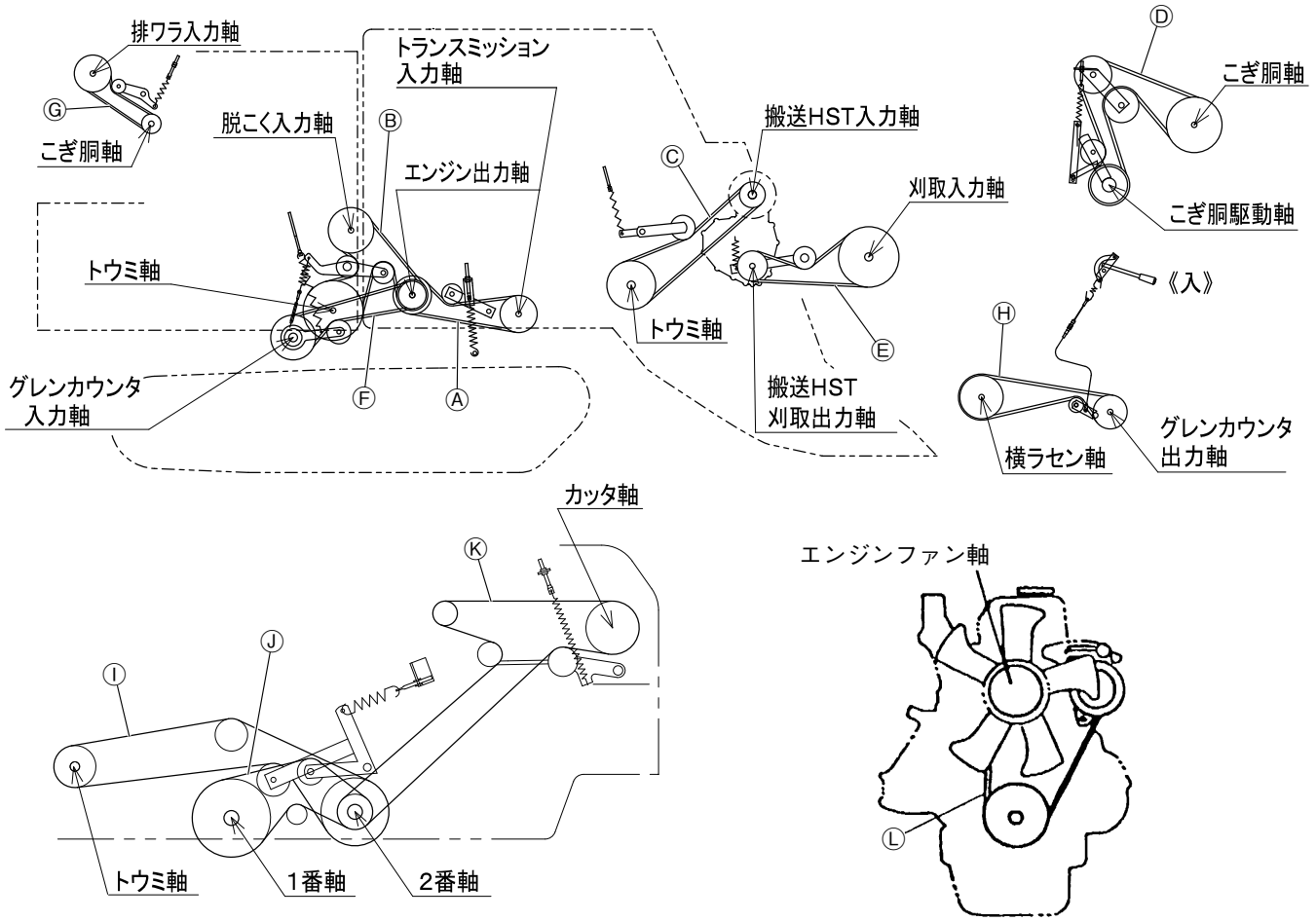
［2条型］

名称				三菱V220	三菱V220G
型式名				三菱VM221	三菱VM221G
区分				C	GC
車両型式名				三菱VC23B	
機械寸法（格納時）	全長		(mm)	3,180	
	全幅		(mm)	1,680	
	全高		(mm)	1,760	1,980
機体質量（重量）			(kg)	1,280	1,350
エンジン	型式			S773L－D－1602	
	種類			水冷４サイクル３気筒ディーゼル	
	総排気量		(L{cc})	1.131 {1,131}	
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	15.4 {21.0} /2800	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	使用タンク容量		(L)	25	
	始動方式			セルスタータ	
	バッテリ		(V・Ah)	12・36	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	330×1,200	
		中心距離	(mm)	805	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	15.9 {0.162}	16.8 {0.171}
	変速方式			油圧モータ式（HST）	
	変速段数		(段)	前進無段，後進無段（副変速２段）	
	走行速度	前進	(m/s)	中速：０～1.05，高速：０～2.10	
		後進	(m/s)	中速：０～1.05，高速：０～2.10	
刈取部	刈取り条数		(条)	2	
	デバイダ先端間隔		(mm)	800～850	
	刈刃装置形式			往復動刃式	
	刃幅		(mm)	800	
	変速段数		(段)	無段変速（車速同調式）	
	刈高さ範囲		(mm)	40～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動，手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			複胴下扱軸流式	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	410×450	
		回転速度	(rpm)	530	
	処理胴	径×幅	(mm)	140×680	
		回転速度	(rpm)	1,710	
	揺動板	幅×長	(mm)	500×960	
こく粒処理部	こく粒処理方式			ホッパ袋詰	グレンタンク
	タンク容量		(L)	100×２口	600
排ワラ処理装置				ディスクカッタ（切断長60mm）	
適応作物全長			(mm)	600～1,200	
倒伏適応性			(度)	追刈：85° 向刈：70° 以下	
作業能率			(分/10a)	27～96	
運転免許				小型特殊免許	

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

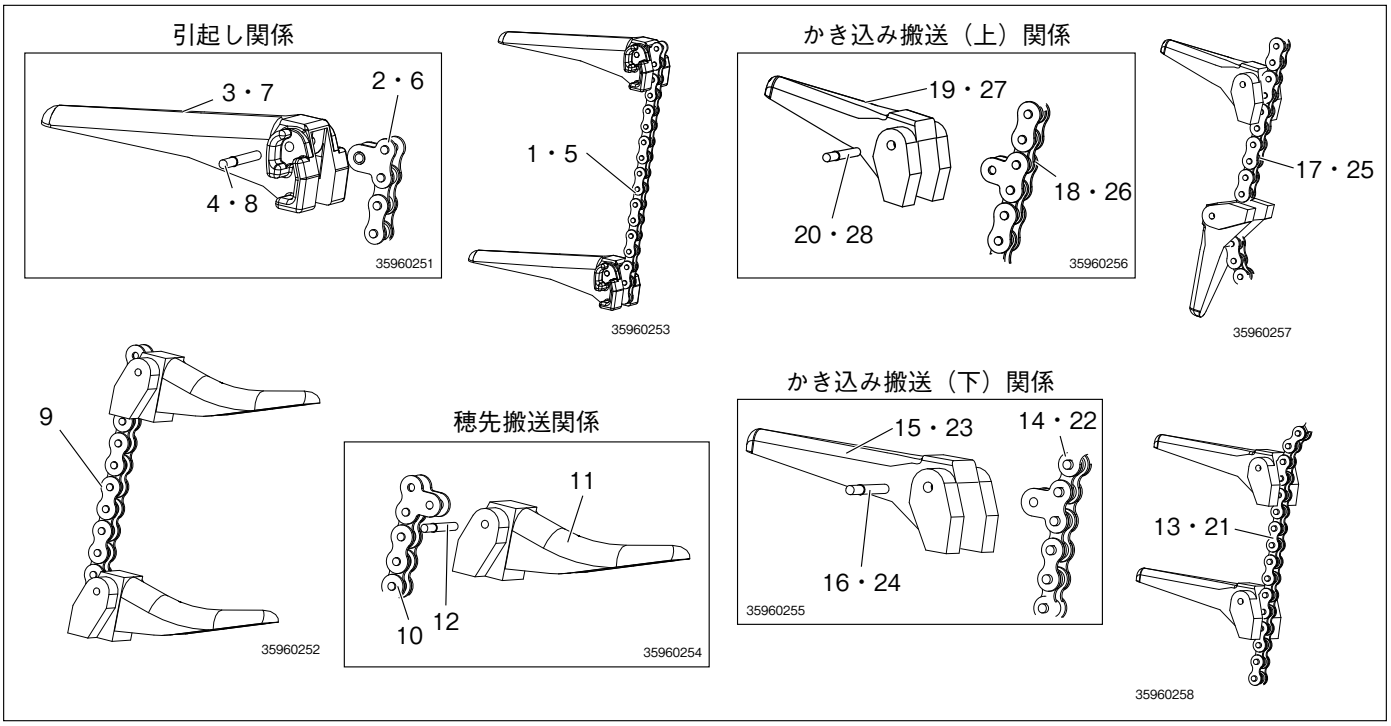
記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	1	3576 0054 000	LB50	走行ベルト［220型］
		1	3555 0054 000	LB49	走行ベルト［321型］
		1	3576 0054 000	LB50	走行ベルト［323型］
B	エンジン出力軸～トウミ軸	1	3572 6145 000	SB70	脱こく入力ベルト
C	トウミ軸～搬送HST入力軸	1	3596 6232 000	SB53	搬送HST駆動ベルト
D	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	1	3555 6148 000	LC89	こぎ胴ベルト
E	搬送HST刈取出力軸～刈取入力軸	1	0852 1500 041	SB41	刈取ベルト［220型］
		1	3597 4012 000	SB39	刈取ベルト［321/323型］
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 052	LB52	グレン入力ベルト［グレン仕様］
G	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 035	LA35	排ワラ駆動ベルト
H	グレンカウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1500 053	SB53	横ラセン駆動ベルト［グレン仕様］
I	トウミ軸～２番軸	1	0852 1500 064	SB64	選別ベルト
J	２番軸～１番軸	1	0851 1500 043	SA43	１番ラセン駆動ベルト
K	２番軸～カッタ軸	1	0852 1500 094	SB94	カッタベルト
L	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	31S94－03800	775㎜	ファンベルト



3. 主な消耗部品

1. 爪関係

［3条型］

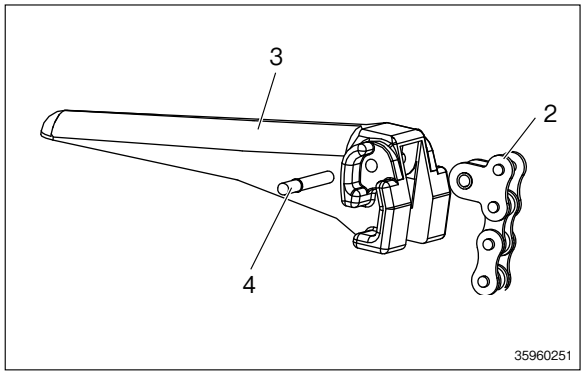


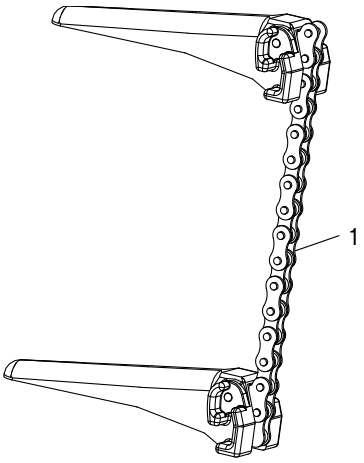
No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4445 000	引起し搬送（中）
2	チェン　（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ　（20本）	3555 4428 002	
4	ピン　（20本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4478 001	引起し搬送（右）
6	チェン　（1本）	3597 4478 100	
7	ツメ　（11本）	3555 4428 002	
8	ピン　（11本）	3523 4428 000	
9	チェンアセンブリ　（1組）	3597 5211 000	穂先搬送
10	チェン96　（1本）	3597 5212 000	
11	ツメ　（12本）	3501 5247 000	
12	ピン　（12本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4719 002	かき込み搬送（左下）
14	チェン44　（1本）	3597 4722 002	
15	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
16	ピン　（6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4732 000	かき込み搬送（左上）
18	チェン48　（1本）	3597 4733 000	
19	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
20	ピン　（6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（右下）
22	チェン54　（1本）	3523 4716 001	
23	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
24	ピン　（6本）	3523 4428 000	
25	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4779 000	かき込み搬送（右上）
26	チェン46　（1本）	3597 4779 500	
27	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
28	ピン　（6本）	3523 4428 000	

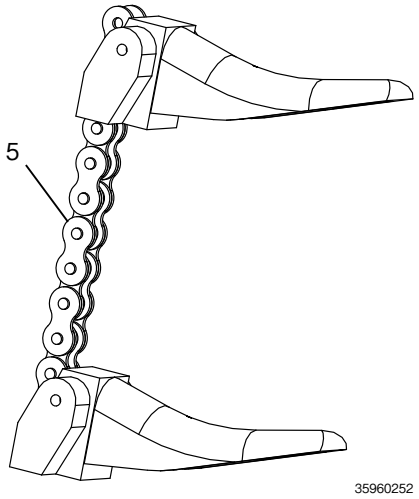
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

［2条型］

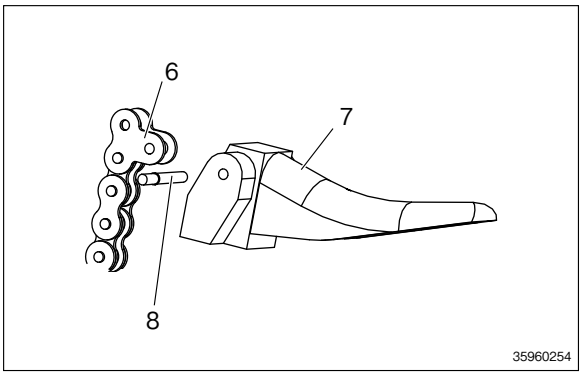
引起し搬送関係







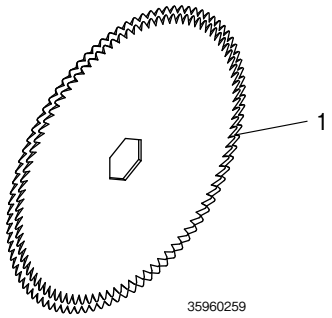
穂先搬送関係



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4445 000	引起し搬送（右）
2	チェン　（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ　(20本)	3555 4428 002	
4	ピン　(20本)	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（1組）	3556 5221 000	穂先搬送
6	チェン89　（1本）	3556 5222 000	
7	ツメ　（9本）	3501 5247 000	
8	ピン　（9本）	3523 4428 000	

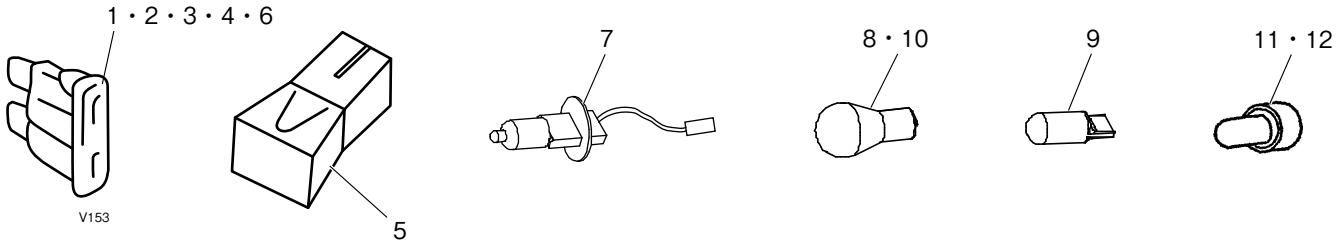
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



No.	部　品　名　称	部品番号	個数（1セット分）	
			D323－17	D323－33
1	ノ　コ　刃	3578 8817 000	17	33

3. ヒューズ・ランプバルブ

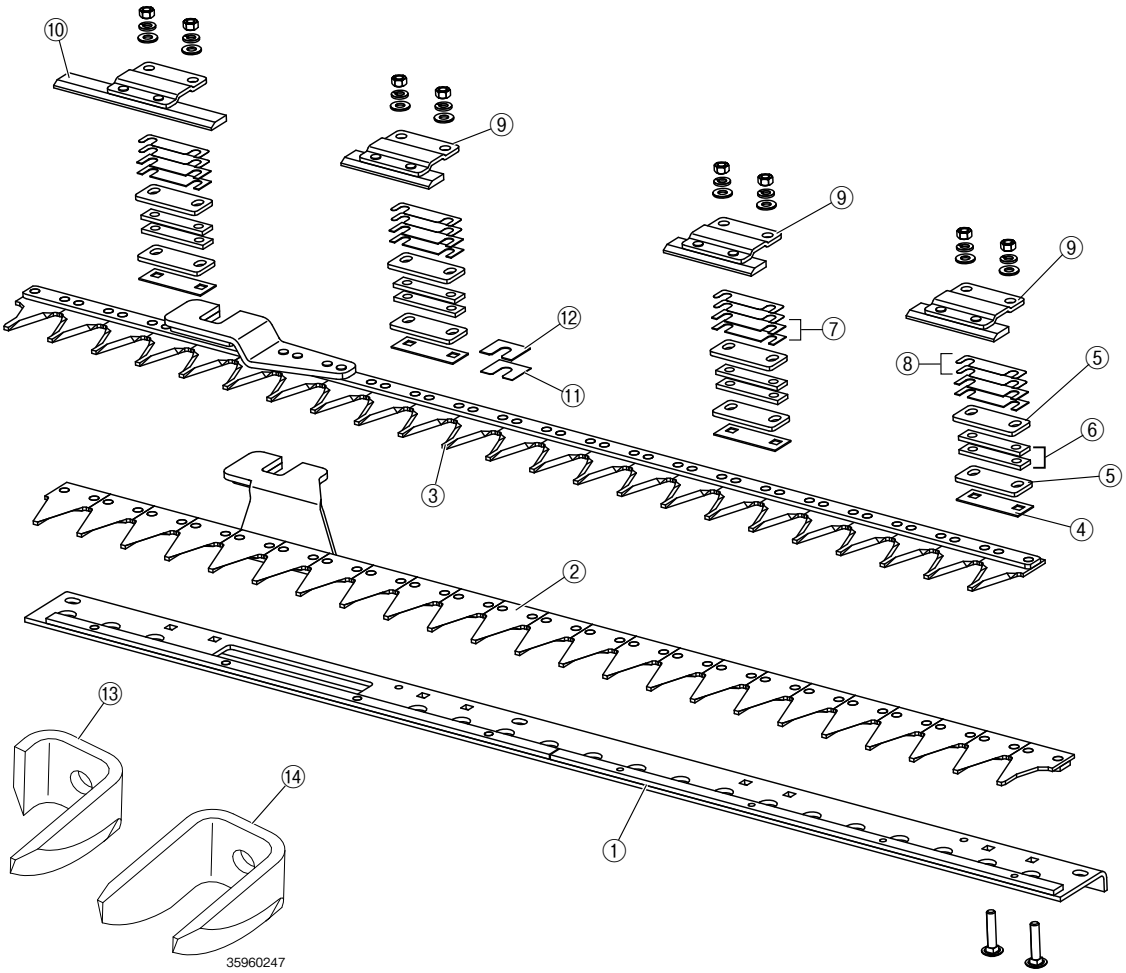


No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1003 006	30A
2	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1002 006	20A
3	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 506	15A
4	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 006	10A
5	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5581 200	50A（メイン）
6	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 005	10A（予熱ランプ）
7	ランプバルブ	3596 3035 200	12V26W(H３)　前照灯・作業灯
8	ランプバルブ	0980 8122 104	12V21W(S25)　方向指示器（前左右）
9	ランプバルブ	0980 8120 508	12V５W(T10)　方向指示器（側方左右）
10	ランプバルブ	0980 8121 501	12V15W(G18)　方向指示器（後左右）
11	ランプバルブ	3594 0823 600	12V３W(T6.5)　回転計（照明）
12	ランプバルブ	3594 0823 500	14V1.7W(T6.5)　回転計（機能）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係

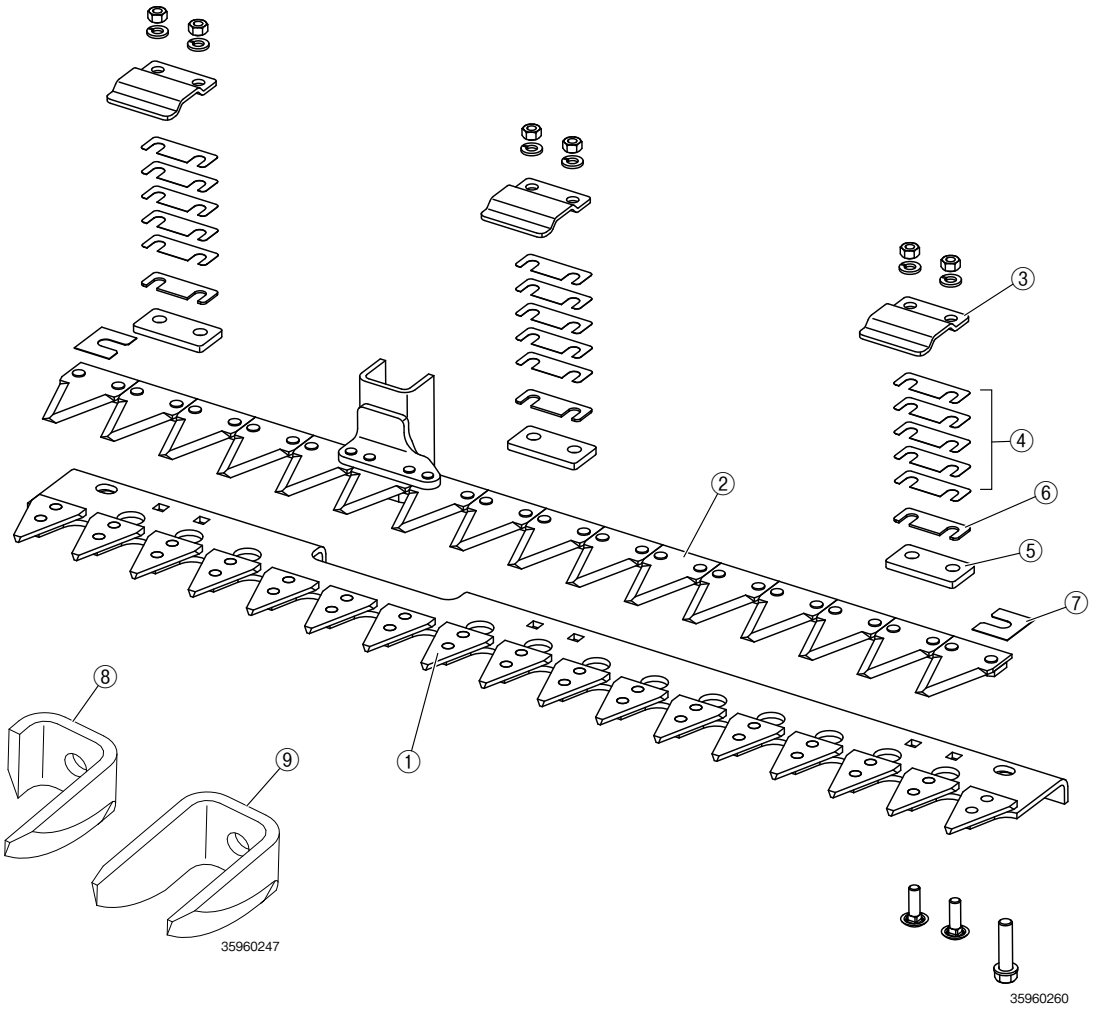
［3条型］



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1~12	カリハクミタテ	3578 4351 000	
1	ウケハダイアッシ	3578 4352 000	
2	シタハアッシ	3578 4354 000	
3	ウエハアッシ	3578 4358 000	
4	スペーサ　（4個）	3555 4366 000	t =1.2㎜
5	スライドシート　（8個）	3532 4365 200	t =4.0㎜
6	ライナ　（8個）	3532 4365 300	t =4.0㎜
7	シム　（8個）	3532 4365 400	t =0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t =0.2㎜（必要に応じて使用）
9	ナイフクリップ　（3個）	3532 4364 001	
10	ナイフクリップB　（1個）	3578 4359 000	
11	ライナ	3690 4406 000	t =0.5㎜（必要に応じて使用）
12	ライナ	3690 4407 000	t =1.0㎜（必要に応じて使用）
13	ワラキリカマ　（1個）	3544 7223 000	
14	ワラキリカマ　（7個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは,「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

［2条型］



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1～7	カリハクミタテ	3594 4352 000	
1	ウケハアッシ	3594 4353 000	
2	カリハアッシ	3594 4355 000	
3	カリハオサエ　（3個）	3690 4911 000	
4	シム	3690 4912 000	t =0.2㎜（必要に応じて使用）
5	マサツバン　（3個）	3690 4914 000	
6	ハオサエライナC　（3個）	3518 4357 000	
7	ライナ	3690 4406 000	t =0.5㎜（必要に応じて使用）
8	ワラキリカマ　（1個）	3544 7223 000	
9	ワラキリカマ　（7個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. アタッチメント（別売り）

・つぎのアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　名	備　考
基本作業機・部品	KN－S323	ノッタ	株元・穂先結束両用
	S－MS20D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	SP－S323W［3条型］	スーパーデバイダ	２連
	SP－S323TQ［3条型］	スーパーデバイダ	３連キット
	SP－MS20MA［2条型］	スーパーデバイダ	
	R－KSMS20	スタンドノッタ	
	BW－VM13	バランスウェイト	［220型］
	VM219G－VS323G	オーガソウサキット	電動クラッチ方式
	（3596 9910 000）	オーガサギョウキトウ	オーガ先端部作業灯
	（3596 9930 000）	テコギサギョウキトウ	脱こく入口部作業灯
	（3596 9950 000）	ホッパサギョウキトウ	ホッパシャッタ部作業灯［ホッパ仕様］
	DC－V219Y433	防じんカバーキット	

5. 付属品一覧表

No.	部　品　名	個　数	備　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	品質保証書	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	チョウナット	2	
7	ワッシャ	2	

6. 潤滑油について

オイルは，三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	JA－OILディーゼルCF　10W－30（SAE・10W－30，CF）
JXエネルギー	HDS－3 ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，GL－４）
全農	JA－OILディーゼルCF　10W－30（SAE・10W－30，CF）
JXエネルギー	スーパーハイランド46

をお使いください。

3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90）
全農	JA－OILギヤマルチ　GL－５　80W－90（SAE・80W－90，GL－５）
JXエネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－５） スーパーハイポイドギヤ（SAE140，GL－５）

をお使いください。

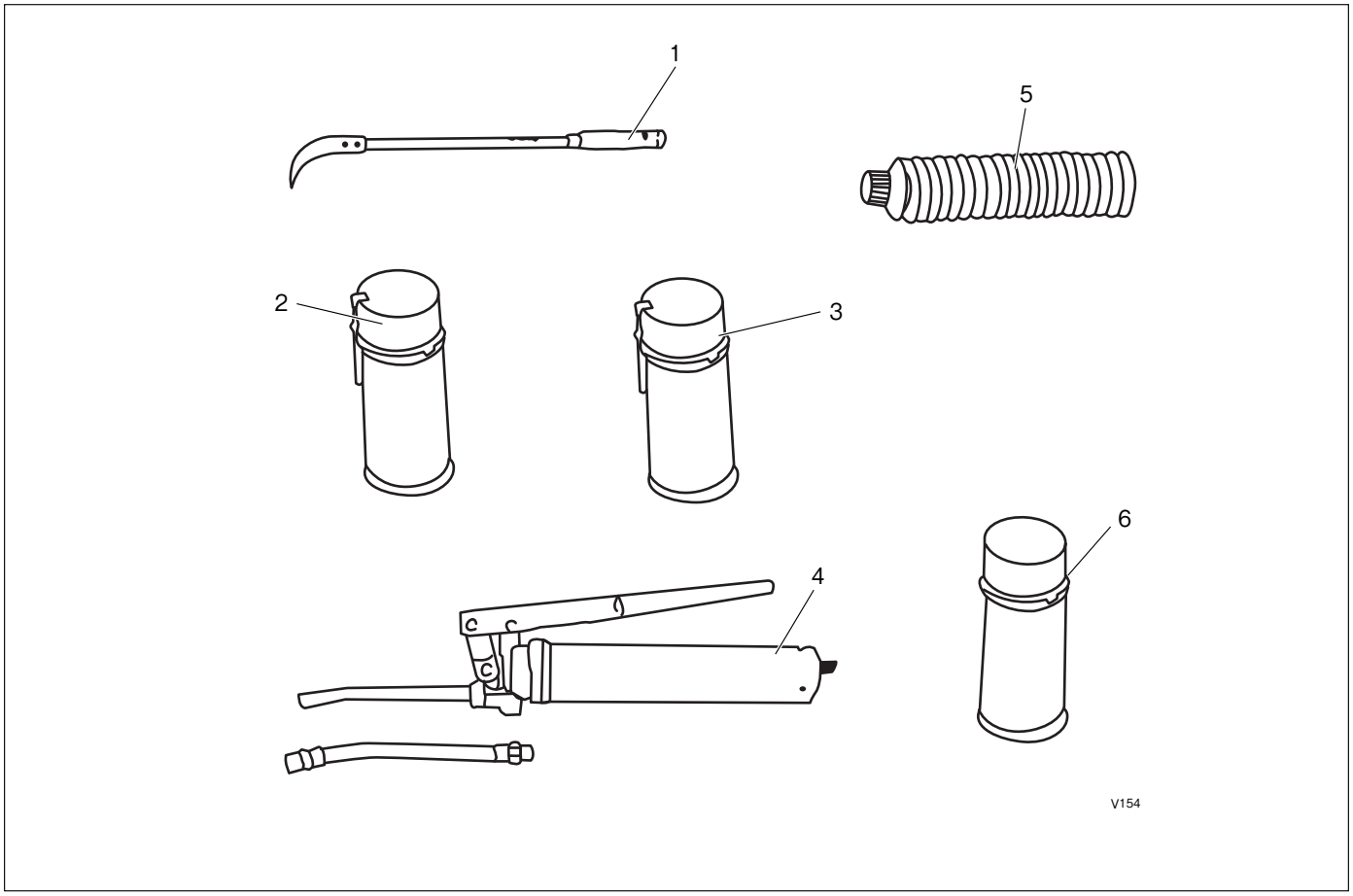
取扱いのポイント

●トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL−5，SAE・90を使用してください。

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商品名	商品番号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	カラースプレー（ダークグレー） カラースプレー（白） カラースプレー（黒） カラースプレー（赤）	0975 0000 691 0975 0000 651 0975 0000 471 0975 0000 741	補修用塗装



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

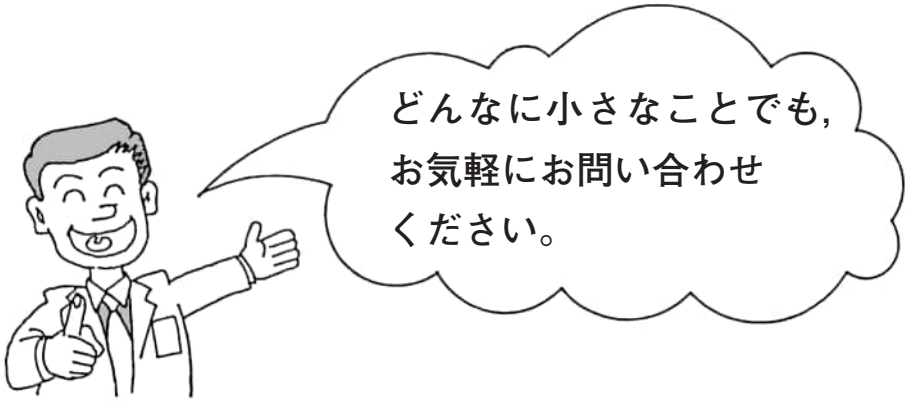
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）